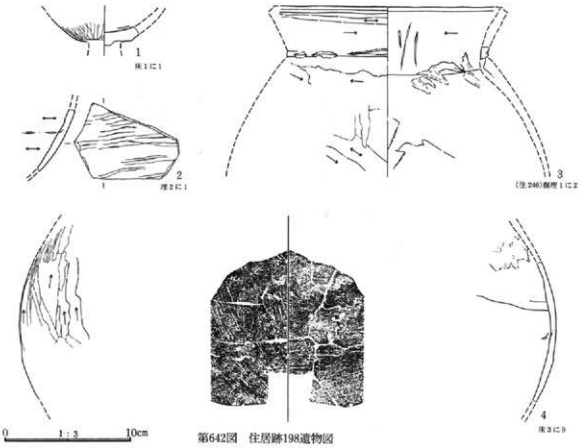


第642図　住居跡198遺物図

在し、掘方調査を行なえなかった。そのため不明瞭。遺物は微弱であったのと、住居跡191関連が多く不明瞭。住居形態からすれば9世紀代の住居跡か。

住居跡193　(第630・631図、写真図版108・109・214)

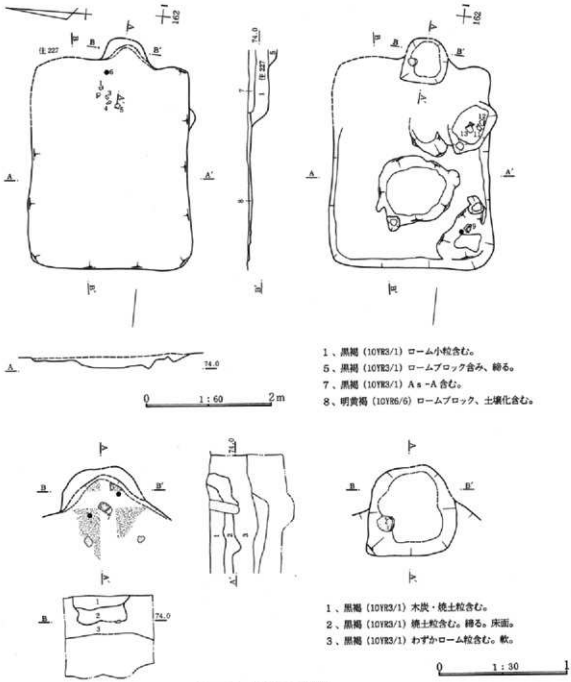
位置は、R大区ｋｌ163にあり、調査面はローム層上面標高74.2mにあるが、重複多い一角にあり、面下げを行う過程で認めた。重複は住居跡190、坑386などに切られるが重複過多のため新古の推奨はできない。規模は南北で450＋αcm、東西253＋αcm、方向は東壁を基にN18°Wを測る。施設に竈があり、貯蔵穴は南東隅部がわずか凹む程度であった。遺物は全体的には9世紀中頃で、住居機能もその頃である。

住居跡194－1　(第632・633図、写真図版109・214・215)

位置は、R大区ｈｉ193・194にあり、調査面はローム層上面標高74.2mにある。重複は住居跡210より後出し、溝跡133より先行してある。規模は南北290cm、東西294cm、方向は中軸でN5°15'Wを測る。施設に東壁に竈が、南東隅に貯蔵穴が、掘方に床下土坑がある。遺物は第633図のとおり、トレンチ出土の同2を除くと9世紀末前後の同1・4が直結遺物であり、住居機能も同期。住居跡194－2は489頁にあり。

住居跡195　(第634・635・636・637図、写真図版109・110・215・216)

位置は、R大区ｌ163・164にあり、調査面はローム層上面標高74.2mにある。重複は住居跡190・243より後出し、住居跡197、坑386・387より先行するが重複過多のため推奨できない。規模は南北404cm、東西375cm、方向はN13°45'Wを測る。施設として東壁に竈が、南東隅に貯蔵穴（深さ73.42）があり、掘方で別住居跡の

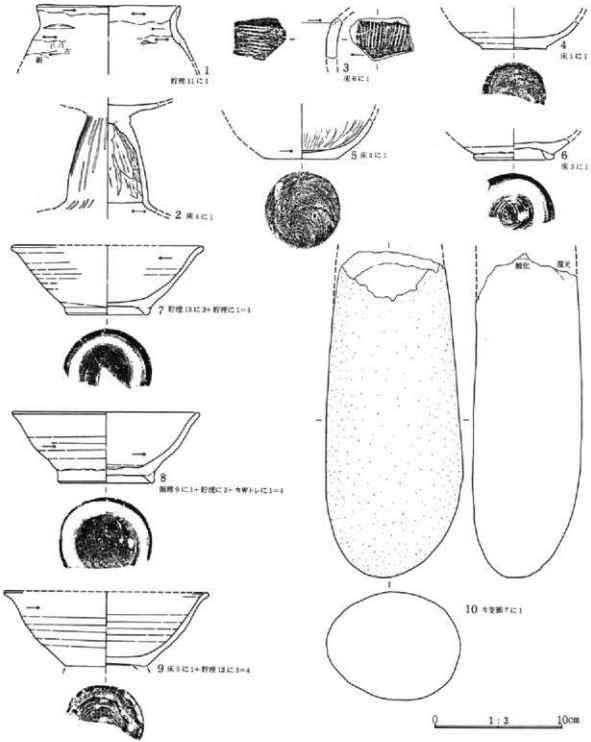


第643図　住居跡199遺構図

貯蔵穴らしき小穴が南東隅貯蔵穴に接して存在していた。遺物は重複のため混在要素大であるが貯蔵穴出土の第635図1や、竈出土の同図2を捉えると9世紀後半と考えられた。同10・15など工的な遺物もあり、機能は同期か。

住居跡196・197　（第638・639・640図、写真図版110・216・217）

位置はR大区1m163・164に、調査面はローム層上面74.25m。重複は坑386・387・388に切られ、住居跡195に後出し、住居跡229との関係不明瞭。規模は南北333cm＋α、東西521cm、方向は北壁を基にN0°15′Wを測る。施設として東壁に竈、南東隅側に深さ標高73.73mの貯蔵穴、掘方に床下坑2つが確認された。遺物は、

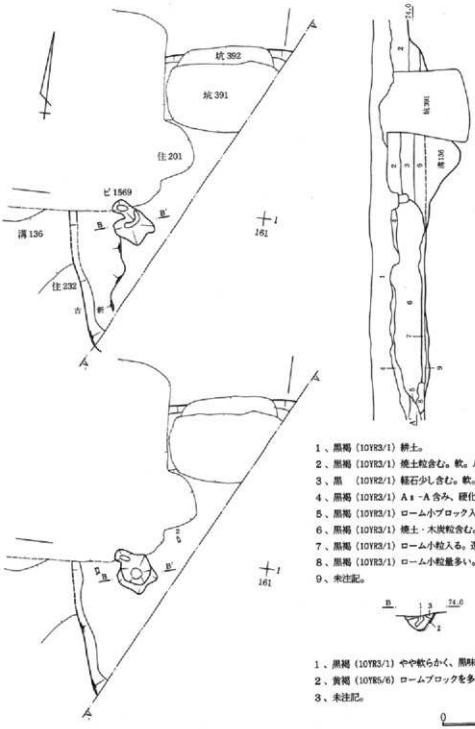


第644図　住居跡199遺物図

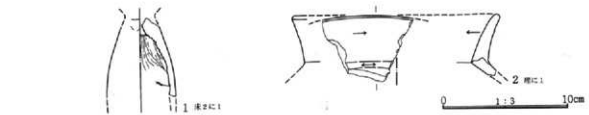
掘方調査直前まで2棟を考えていたため取上名称は2棟分となるが、周辺に住居密の状態があり遺物も混在様相にある。時期に関し、第649図9の貯蔵穴上の個体を捉えれば10世紀前半頃となり、機能もその頃か。

住居跡198　(第641・642図、写真図版110・217)

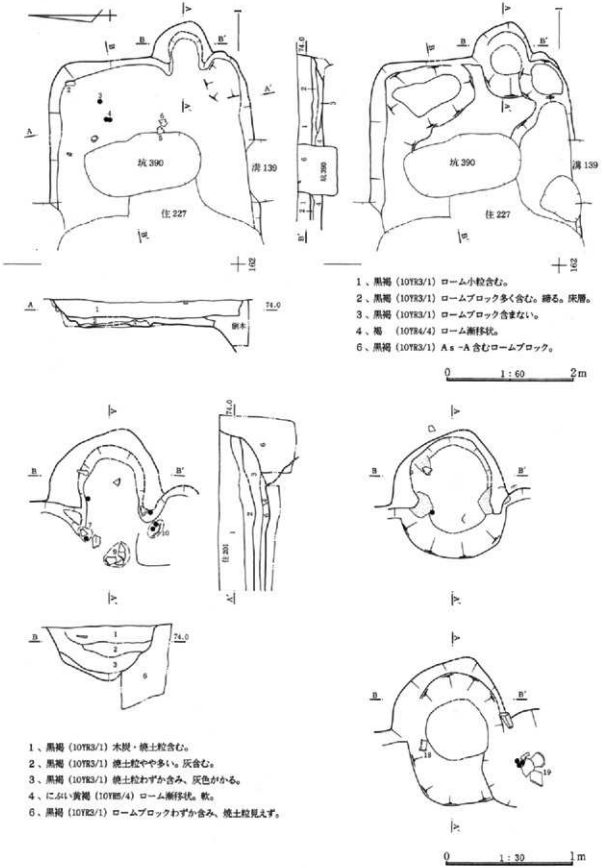
位置はR大区1m162・163に、調査面は標高74.2m。重複は住居跡195・196・197・229、坑386・387・388



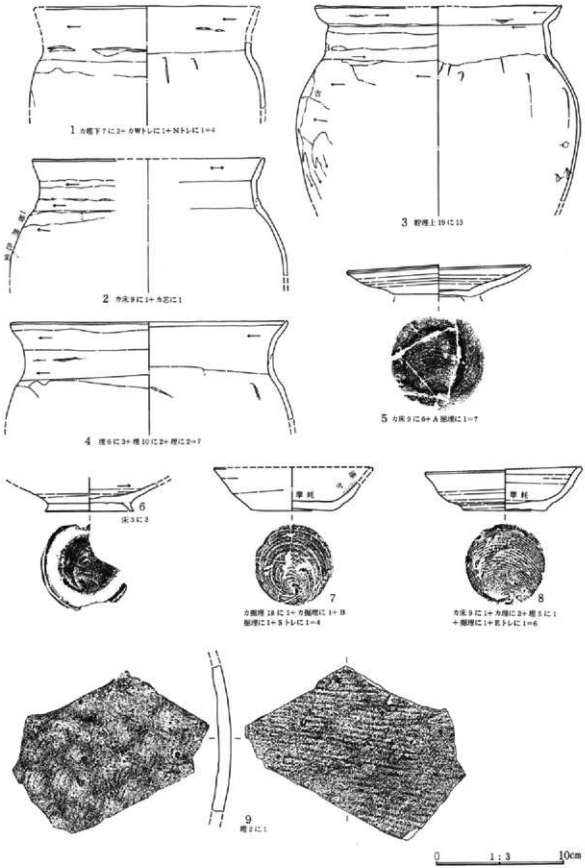
第645図　住居跡200遺構図



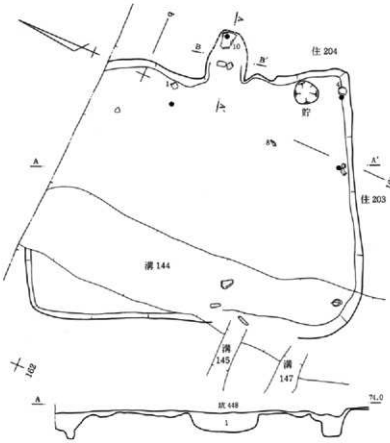
第646図　住居跡200遺物図

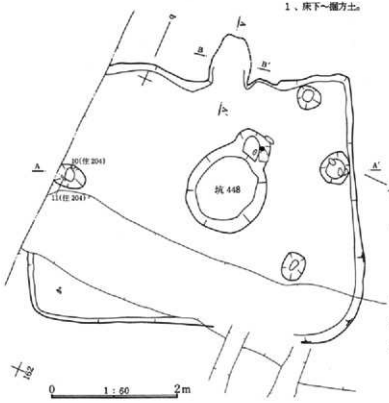


第647図　住居跡201遺構図

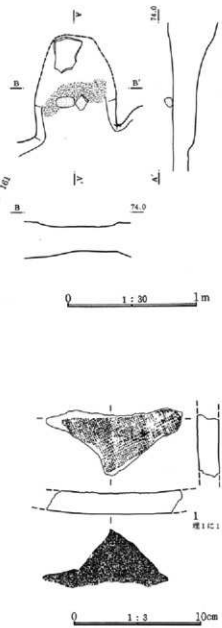


第648図　住居跡201遺物図





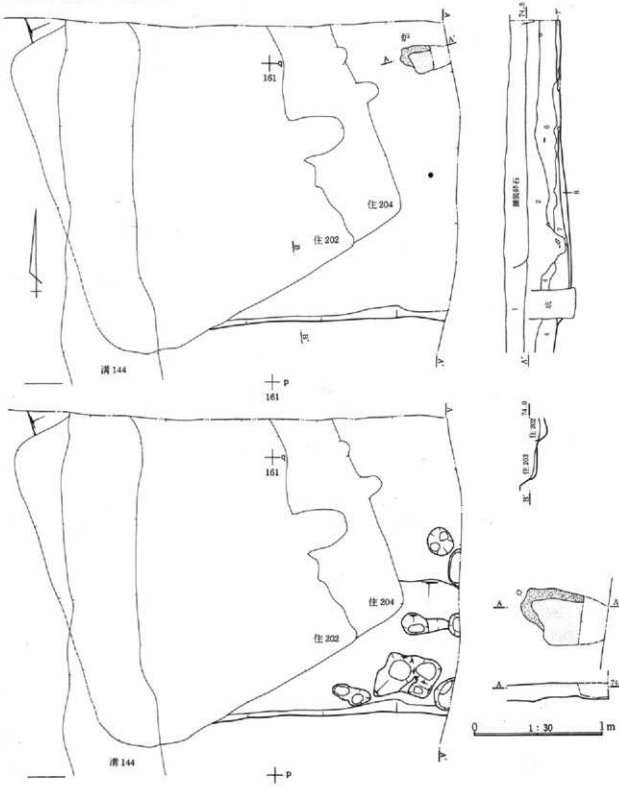
第649図　住居跡202遺構図



第650図　住居跡202遺物図

に切られる。規模は南北465cm、457＋αcm、方向は東壁を基にN22°15′Wを測る。施設として炉跡・小土坑・ピットがあり、ピット2穴は、北東で底面73.65、南東で73.89を測るが柱穴としては不揃いである。遺物は第642図のとおり古墳時代前期であり、住居機能も同期。

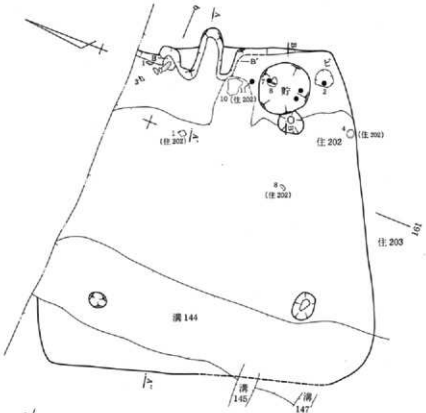
住居跡199　（第643・644図、写真図版110・111・217）

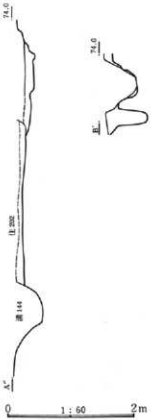


1、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ａ含む。旧道跡。左側が現道。締り硬化。
2、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ａ含む。旧耕土。
4、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ｂ入り、黒味おびる。底少し締る。
6、黒褐（10YR3/1）焼土粒まじえる。Ａｓ－Ｂ含む？締る。
7、黒褐（10YR3/1）焼土粒まじえる。Ａｓ－Ｂ含まない。7′は締る。住居床下層。
8、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土塊化主体。

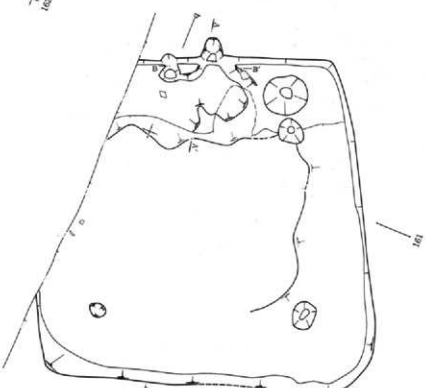
0　1:60　2m

第651図　住居跡203遺構図





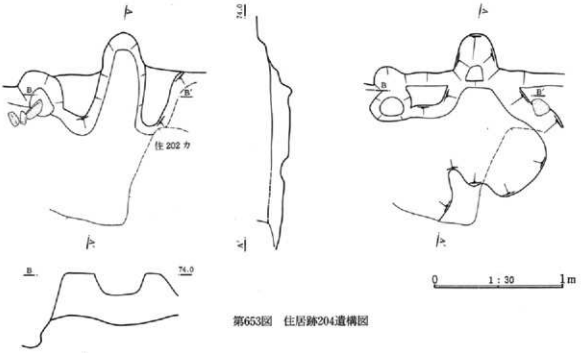
位置はR大区k 1 162にあり、調査面はローム層上面74.2m。重複は住277を切り、坑458に切られる。規模は南北262cm、東西333cm、方向は東西中軸を基にN5°Wを測る。施設は東壁に竈、掘方に床下坑がある。貯蔵穴は、下方に住227があるため調査困難であった。遺物は、第644図のとおり9世紀末前後の一群で、住居機能も同期である。



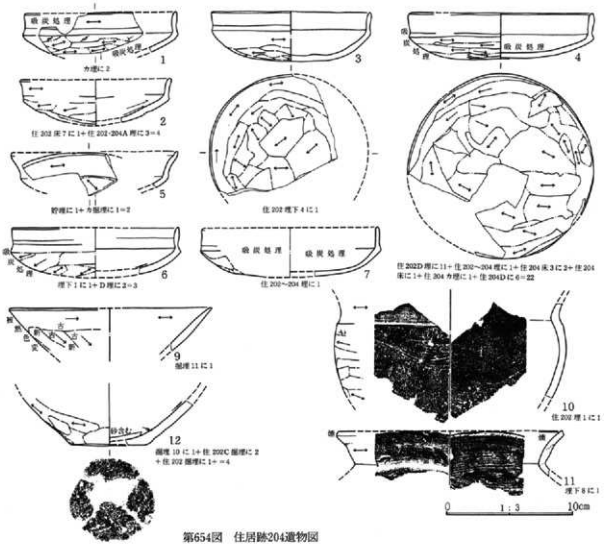
第652図　住居跡204遺構図

住居跡200　（第645・646図、写真図版111・217）

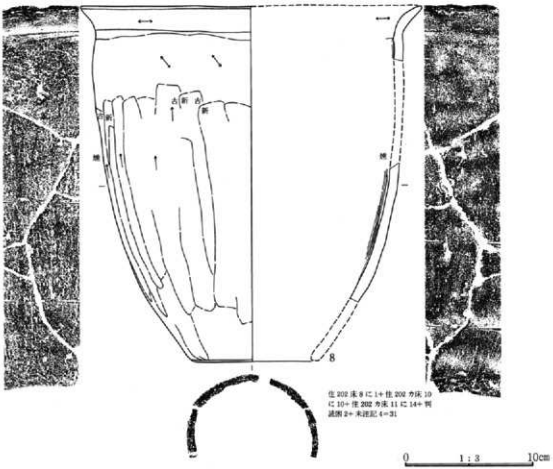
位置はR大区k 1 161にあり、調査面はローム層上面74.2m。重複は住居跡232、溝136を切り、住居跡201、坑391・392に切られる。規模は南北470cm、東西365＋αcm、方向はN11°30′Wを測る。施設としてB断面のかかるピットと西壁下の浅い凹みが掘方で見い出された。遺物は微弱であるが古墳時代



第653図　住居跡204遺構図



第654図　住居跡204遺物図



第655図　住居跡204遺物図

前・中期とみられる個体で、住居機能も同期であろう。

住居跡201　（第647・648図、写真図版111・217）

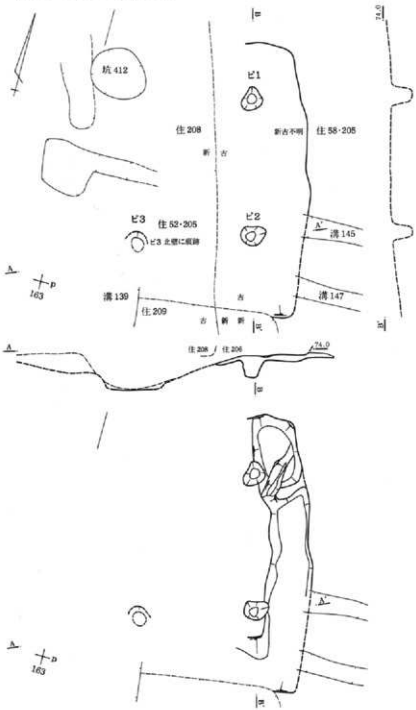
位置はR大区ｌ161に、調査面はローム層上面標高74.2m。重複は倒木、住居跡200・同227、溝136を切り、溝139、坑390に切られる。規模は南北335cm、東西294＋αcm、方向N4°30′Wを測る。施設として東壁に竈、南東隅に底面標高73.71mの貯蔵穴、掘方に土坑様の凹みがある。遺物は第648図のとおり、９世紀中頃の個体で、住居機能も同期。

住居跡202　（第649・650図、写真図版111・218）

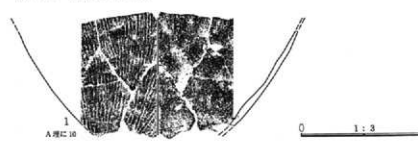
位置はR大区ｐｑ160・161に、調査面はローム層上層標高73.9m。重複は住居跡204を切り、溝144・145・147に切られる。規模は南北537cm、東西412cm、方向は中軸でN19°30′Wを測る。施設として東壁に竈、その南側壁に、底面標高73.26mの貯蔵穴様小穴、掘方に床下坑の坑448がある。遺物は少なく、床下坑の存在は９世紀代を思わせる。

住居跡203　（第651図、写真図版112）

位置はR大区ｐｑ160・161に、調査面はローム層上層標高73.9m。重複は住居跡202・204に切られる。規模は南北470＋αcm、東西398＋αcm、方向は南壁を基にN0°Wを測る。施設として炉と、掘方で壁下を溝状に



第656図　住居跡206遺構図



第657図　住居跡206遺物図

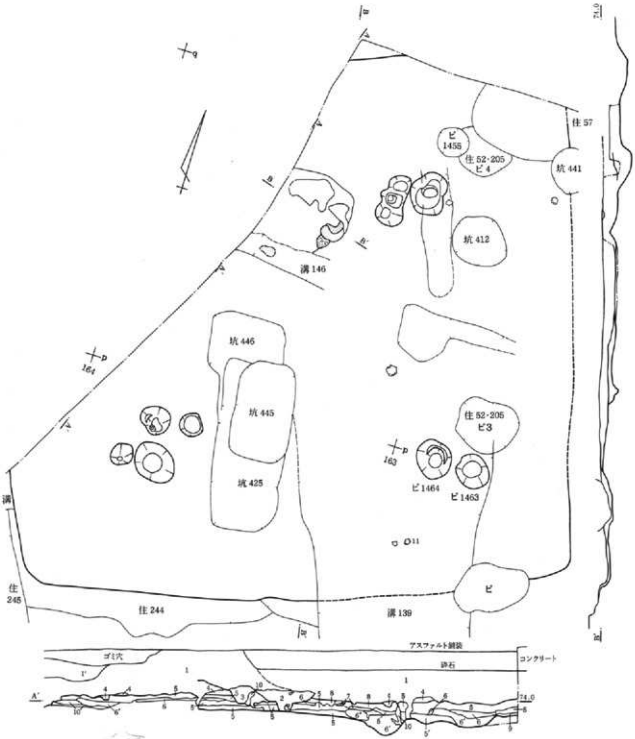
凹めた床下施設を確認した。遺物は微弱であるが炉跡と掘方構造から古墳時代前期の住居機能を考えることができる。

住居跡204　（第652・653・654・655図、写真図版112・218）

位置はＲ大区ＰＱ160・161に、調査面はローム層上層標高73.9m。重複は住居跡202、溝144に切られ、住居跡203を切る。施設として東壁に竈、その南側に底標高73.40mの貯蔵穴、柱穴と目される３小穴がある。小穴は南東側で標高73.26m、南西側で73.45m、北西側で73.50mの底面を測る。遺物は、第204図のとおり６世紀末前後の個体で住居機能も同期である。なお図中の遺構断面は成り断面とその合成断面である。

住居跡206　（第656・657、写真図版116・218）

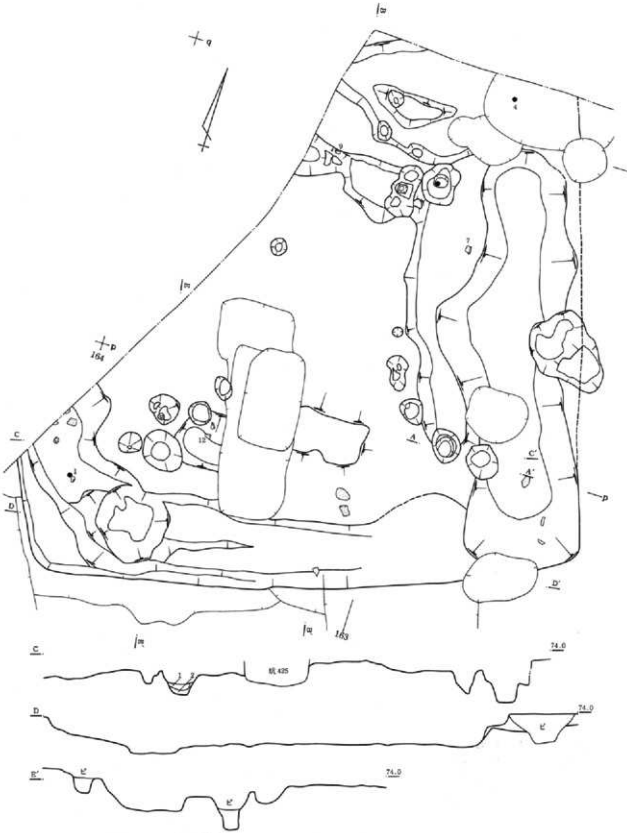
位置はＲ大区162・163に、調査面はローム層上層中74.0m付近である。重複は住居跡208・209、溝139・145・147が切り、住居跡58・205とは不明であった。施設として柱穴らしき小穴と、掘方にて壁下の浅い溝状の凹みがあった。小穴はピ１で標高73.53m、ピ２で73.



1、黒褐（10YR3/1）As-A含む。1′はAs-A軽石多い。
2、黒褐（10YR3/1）As-A含む。明治・大正瓦入る。
3、黒褐（10YR3/1）ローム小粒入る。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小粒入る。少し締る。As-B入る。
5、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム小ブロック多く含み、締る。床層。5′は軟。
6、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック多く含まない。締る。床層。6′は軟らか。6″は軟らかく、ロームブロック量微。
7、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多く含まず。木灰・木炭粒多い。
8、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多く含み、焼土粒・小塊多く、木炭粒含む。
9、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、木炭・木炭粒多い。
10、未注記。

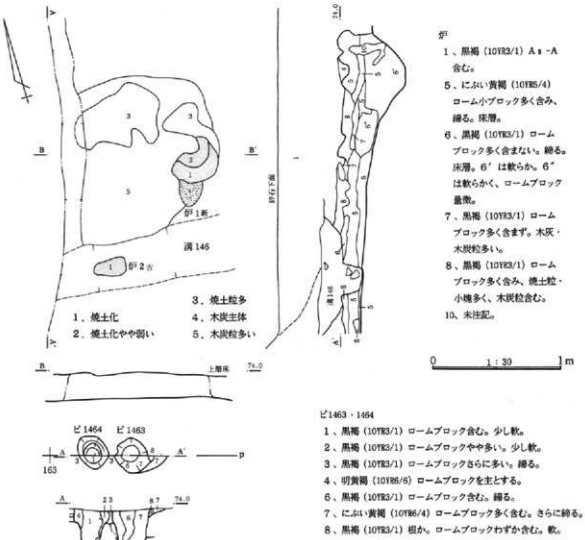
0　1：60　2m

第658図　住居跡208遺構図



１、黒褐（10YR3/1）締る。ロームブロック含む。
２、明黄褐（10YR6/6）１層よりもさらに締る。ロームブロック多い。

第659図　住居跡208遺構図

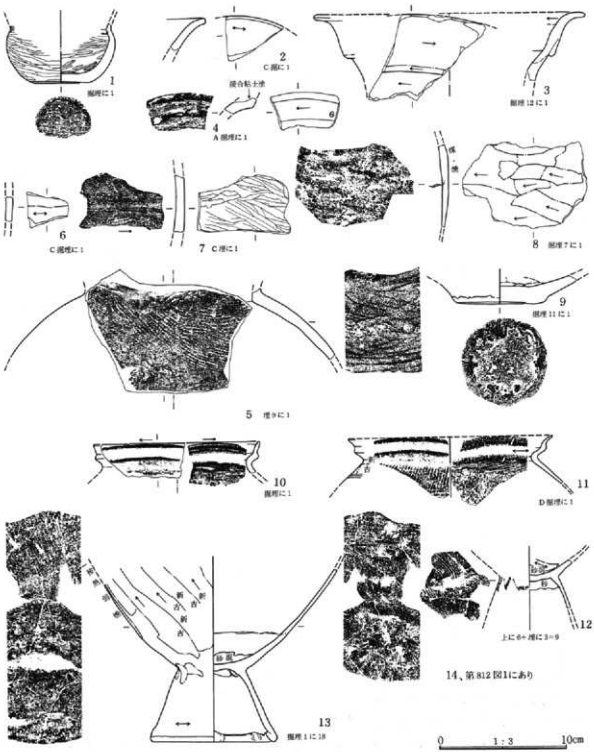


第660図　住居跡208遺構図

54m、ピ3で73.50mを切る。遺物は微弱で、柱穴と壁下溝状の凹みは、古墳時代前期の住居を思わせる。

住居跡208　（第658・659・660・661図、写真図版112・113・218・巻頭カラー）

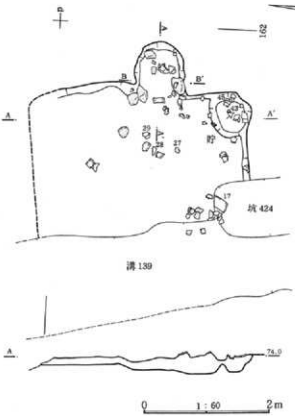
位置は、R大区ｏｐｑ162・163・164に、調査面はローム層上面74.1mである。重複は、ほぼ同期、同規模の住居跡58・205、同206を切り、溝139、坑445など図中の溝、坑に切られる。ただし住居跡224との関係は明確でなかった。施設は炉跡が床面上と約30cm深い掘方底に近いカ所に至る炉1（新）・炉2（古）があり、柱穴も新古の状態があり、確認できたのはピ1463と同1464においてピ1464が平面上新しいと所見を得た。貯蔵穴は南西隅部に100cm強の土坑が存在し、可能性がある。掘方は壁下で溝状の凹みの床下構造を確認している。東側の柱穴間に挟まれたカ所が2段の溝状となるのは、高所側か住居跡206の西壁下の溝状の凹みかもしれない。規模は南北816cm、東西890cm、方向は南壁を基にN18°30′Wを測る。遺物は、第661図に示したが、一部は、先行して重複の住居跡58・205と同206の遺物が混在の可能性があるが出地場所の明確な、同図3・9は古墳時代前期である。取上げ番号No.4の銅製鏃は、掘方埋土中の出土であるが、一坦は掘出してしまったので、写真図版中の位置は厳密な意味の原位置ではない。しかし宝器財の一部である。

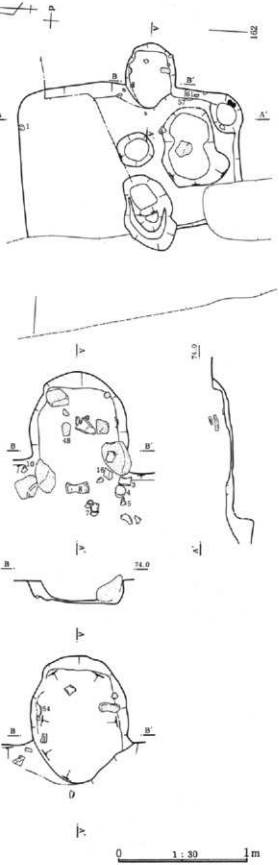


第661図　住居跡208遺物図

住居跡209　（第662・663・664・665図、写真図版113・218・219）

位置はR大区ｏＰ162に、調査面はローム層上層74.0mである。重複は住居跡208を切り、溝139、坑424に切られる。規模は南北345cm、東西247＋αcm、方向は北壁を基にN5°45′Wを測る。施設に東壁に竈、南東隅に貯蔵穴が、掘方に床下坑がある。遺物は10世紀後半で瓦の再利用が目立つほか第663図13・14など前代遺物の存在もある。当住居跡は、近時期の重複はない。住居機能も10世紀後半である。

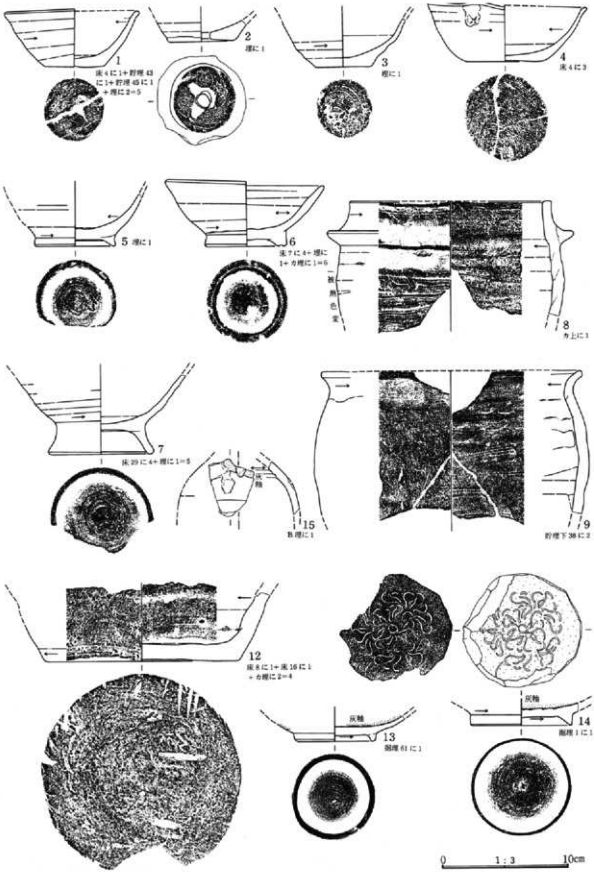




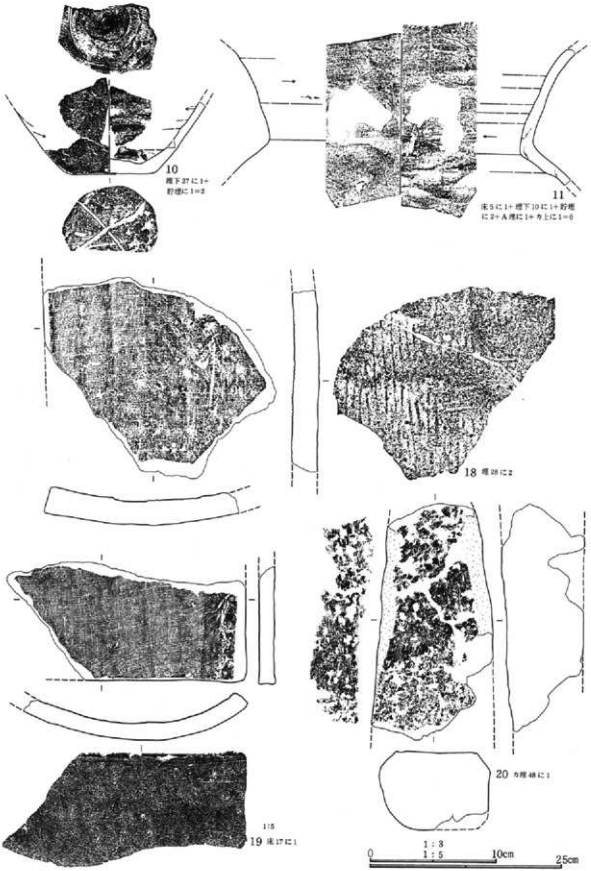
第662図　住居跡209遺構図

住居跡194－2（第663・666・667図、写真図版113・215）

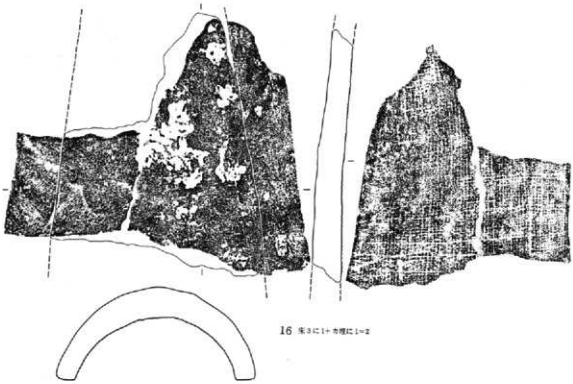
位置はR大区ｈｉ163・164にある。調査面はローム層上面標高74.3mである。重複は、住居跡194、溝跡121・同133に切られるが、住居跡210－1は第666図床面図中の遺物取上番号住194№4が存在する周辺を捉えて住居跡名称をあたえた。本来であれば第632図中に№4を加えるべきところを分離してしまい、図版の組誤まりである。さて、その甕の出土状態は平面上に平らに破損分解していたのではなく、第633図5の遺物取上げ補注のとおり坑底2に3＋坑底4に18＋B埋に1とあり、坑底№4は、第666図中の住194の4であり、坑底№2は同図掘方図中の同位置で現場取り上げは住居跡210の№2の個体の注記どすべきところであり、坑2の中に（住210）の付記にも脱落がある。以上のとおり、同甕は小穴中の出土であり、別住居跡を考える必要性から名称をあたえたものである。しかし現場作業では出土地の周囲は住居跡210の埋土のため小穴の輪郭を捉えることはできなかった。このほか竈跡、貯蔵穴など周囲での確認はできなかったが、住居跡210の埋



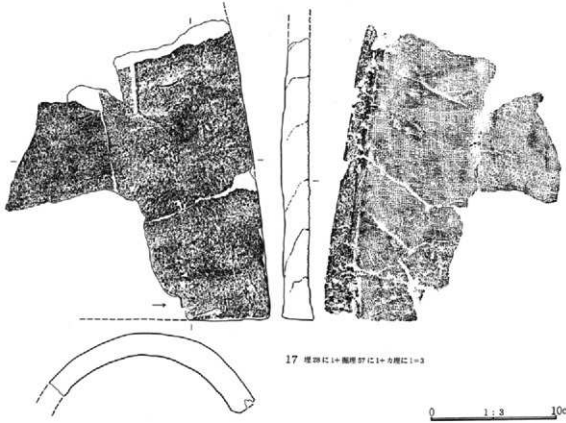
第663図　住居跡209遺物図



第664図　住居跡209遺物図



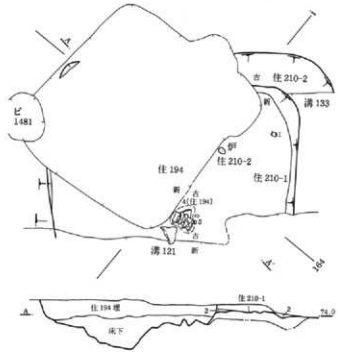
16 朱3に1＋カ埋に1＝2

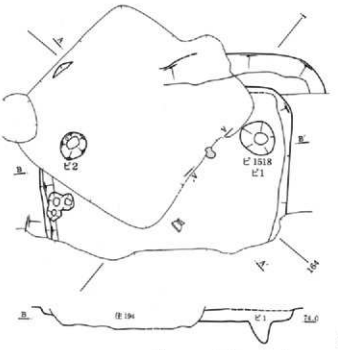


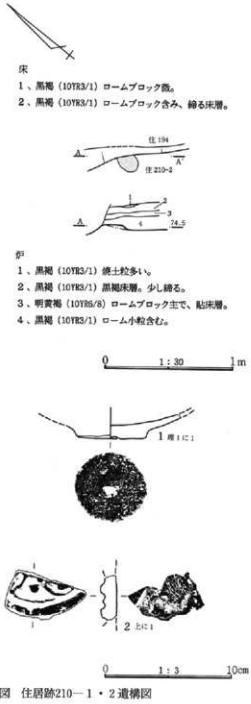
17 埋39に1＋施埋37に1＋カ埋に1＝3

0　1：3　10cm

第665図　住居跡209遺物図







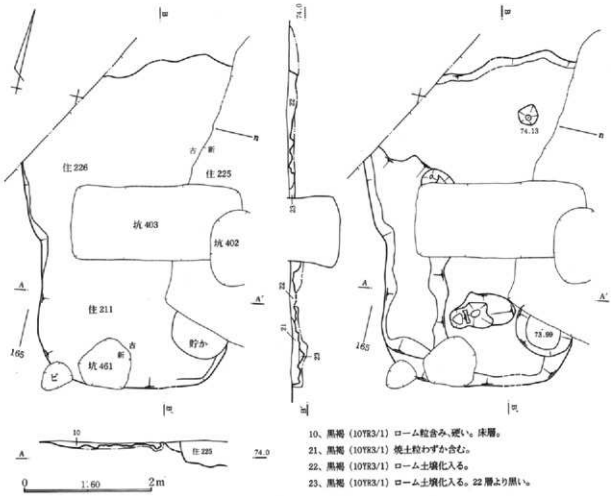
第666図　住居跡210－1・2遺構図

第667図　住居跡210－1・2遺物図

土にも9世紀前半の瓦片が第667図2のように存在していたので面的な広がりがあったようである。第633図5の時期は9世紀末前後の時期を考えておきたい。

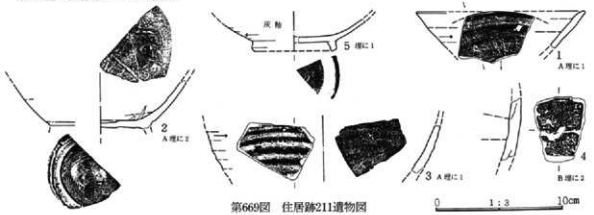
住居跡210－1　（第666・667図、写真図版113・219）

位置はR大区hi163・164にある。調査面はローム層上面標高74.3mである。重複は住居跡194－1と同－2、同210－2が後出する。規模は、南北390cm、東西206＋αcm、方向は南北軸およそN51°Wを測る。施

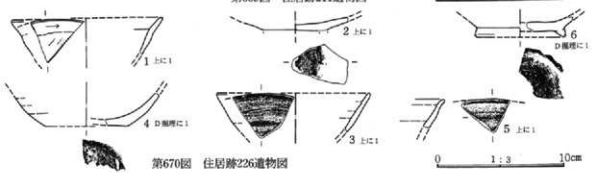


10、黒褐（10YR3/1）ローム粒含み、硬い。床層。
21、黒褐（10YR3/1）焼土粒わずか含む。
22、黒褐（10YR3/1）ローム土壌化入る。
23、黒褐（10YR3/1）ローム土壌化入る。22層より黒い。

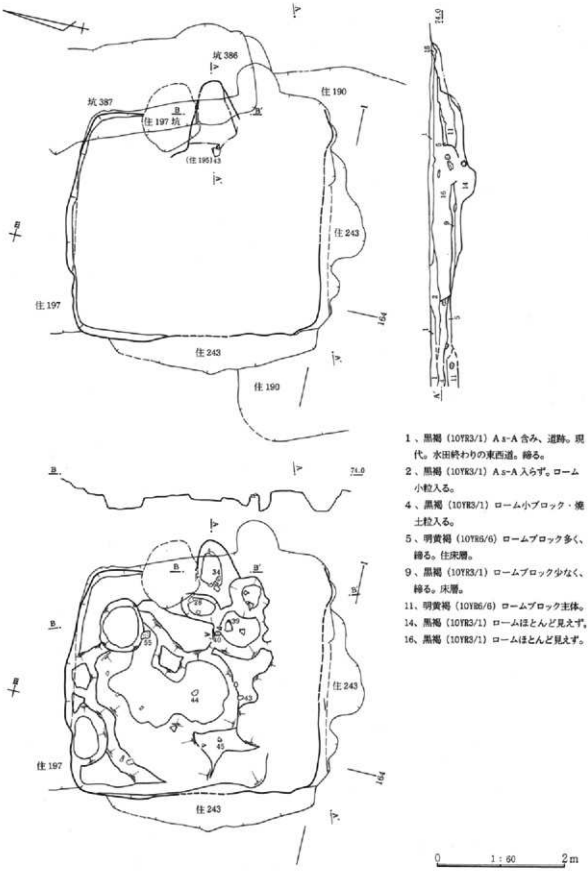
第668図　住居跡211・226遺構図



第669図　住居跡211遺物図

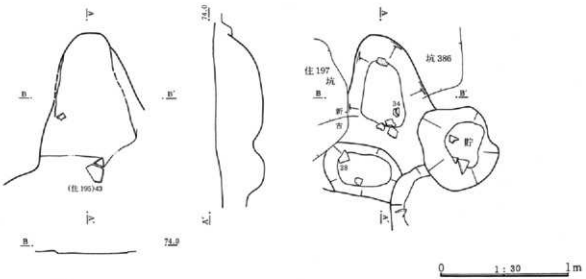


第670図　住居跡226遺物図



1、黒褐（10YR3/1）As-A含み、遺跡。現代。水田終わりの東西溝。縁る。
2、黒褐（10YR3/1）As-A入らず。ローム小粒入る。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・焼土粒入る。
5、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く、縁る。住床層。
9、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、縁る。床層。
11、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック主体。
14、黒褐（10YR3/1）ロームほとんど見えず。
16、黒褐（10YR3/1）ロームほとんど見えず。

第671図　住居跡213遺構図



第672図　住居跡213遺構図

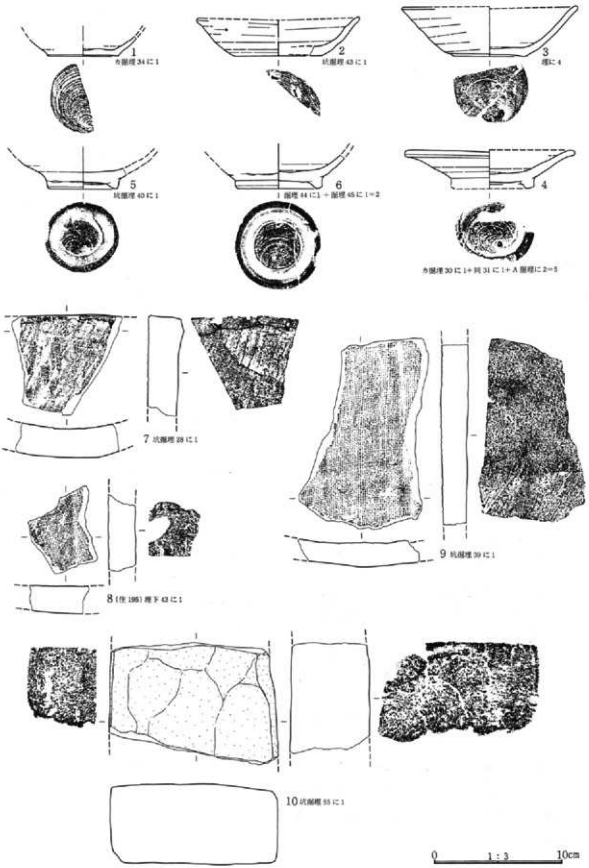
設としては住居跡210－２の炉跡約20cm直下の掘方面上に別の焼土化カ所が見られ、同一住居跡が規模を変えたとも考えられなくもない位置である。柱穴はピ1518とピ２が存在し、ともに掘方での発見であり、ピ1518の底面は標高73.45m、ピ２は標高73.70mを測り、25cm差があるため柱穴ではないかもしれないし、住居跡210－２関連かもしれない。遺物として第667図１が埋土中から得られているがもともとの遺物量は少ない。第667図１は、古墳時代前期の個体であり、住居機能も炉跡の存在も考え併せ。古墳時代前期の住居跡と考えられる。

住居跡210－２　（第666図、写真図版113）

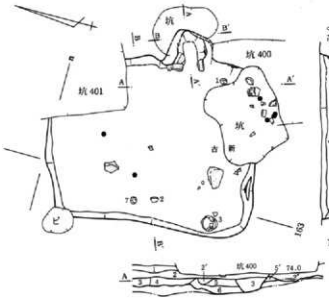
位置はＲ大区ｈｉ163･164にある。調査面はローム層上面標高74.3mである。重複は住居跡194－１、同－２、溝跡121、同133に切られ、住居跡210－１より後出してある。施設として炉跡があり、住居跡210－１とほぼ同じ位置であり、同住居跡とは単に規模の改修に伴なう差異であるのかもしれない。柱穴としてピ1518とピ２があり、住居跡210－１で触れたように柱穴でない可能性や、どちらの住居に伴なうのか明確でない。周壁は北東隅がわずかに住居跡194の北壁側で認められ、これにより一辺規模がほぼ特定された。規模は南北458cm、東西258＋αcm、方向は東壁を基にＮ41°Ｗを測る。遺物の出土は薄弱であり、炉跡の存在から古墳時代前期の住居機能時を考えておきたい。

住居跡211　（第668・669・670図、写真図版113・219）

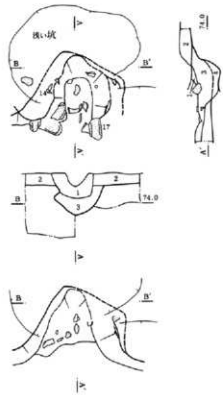
位置はＲ大区ｍｎ164･165にある。調査面はローム層上面標高74.25mである。調査当初は２棟分の住居跡として調査したものの掘方調査において住居跡211の西壁の掘込みが住居跡226内におよぶため１棟分として捉えられると考えた。重複は住居跡225、同231、坑403が後出してある。規模は南北で508cm、東西で325＋αcm、方向は西壁を基にＮ20°Ｗを測る。施設として、調査面で既に上央の床層は失ない、寝跡として床層で西南隅に残存していた。そのため大半が掘方埋土層が上面となっていた。当初から貯蔵穴らしき土坑が南東隅で見い出されていた。掘方底面には凹凸と小ピットが存在していた。竈は住居跡225により削られたらしく未見である。遺物は残存不良のためか混在し、最も新しい個体が関連するとして第669・670図から選べば、第670図１が９世紀末頃の個体である。住居の機能時はその頃か。



第673図　住居跡213遺物図

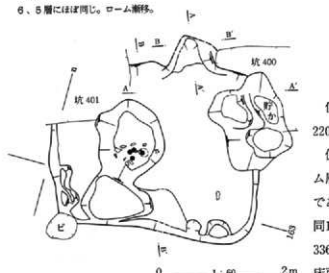


1、黒褐（10YR3/1）ローム小粒含む。
2、黒褐（10YR3/1）ローム小粒・焼土粒含む。2′は締る。2″は焼土粒入らず。2″は2′にほぼ同じ。
3、黒褐（10YR3/1）ローム小粒。ローム土壌化。わずか焼土粒。
4、明黄褐（10YR5/6）ロームブロック主で上面床。締る層。
5、黄褐（10YR5/6）ローム土壌化を主とし、ロームブロック・焼土粒入る。5′はロームブロック多い。焼土粒見えず。5″は5′とほぼ同じ。
6、5層にほぼ同じ。ローム漸移。



1、黒褐（10YR3/1）ローム粒多く含む。木炭粒入る。
2、黒褐（10YR3/1）ローム小粒入る。
3、黒褐（10YR3/1）ローム小粒入らず。
4、にぶい黄褐（10YR5/4）焼土粒見えず。ローム土壌化主体。

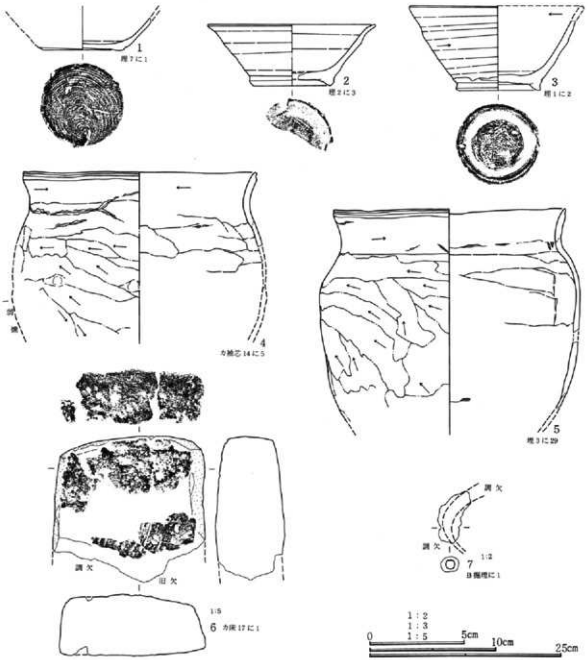
0　1：30　1m



第674図　住居跡214遺構図

住居跡213　（第671・672・673図、写真図版113・220）

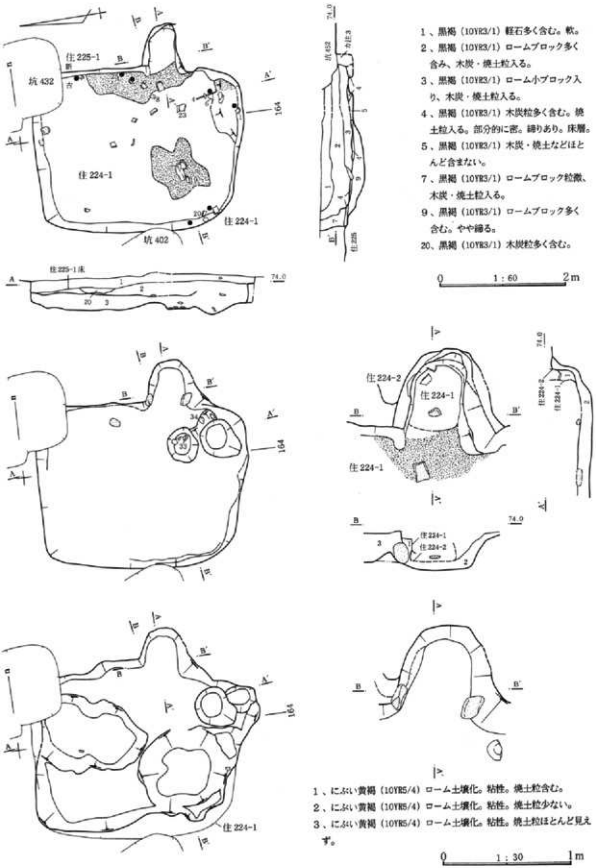
位置はＲ大区ｋ１163・164にある。調査面は、ローム層上面74.2mである。周囲を含め重複過多の一角であり、重複について推奨はできないが住居跡190、同195、同243が先行してあり、住居跡196・197、坑336・338が後出する。住居跡213の範囲は第671図の床面図と掘方図に示した実線の南壁は複数遺構が存在するために生じた誤まりで、第671図下方の掘方図の混雑する南端部を捉えてを南壁とすべきであった。規模は、南北でおよそ310cm、東西で360cm、方向は西壁でN14°Wを測る。施設として東壁に竈が南東隅に標高73.40mを底とする貯蔵穴が、その南側の掘方で73.52mを底とする床下坑が、竈前に焼土、木炭粒を極めて多く含む、竈前のピットが底面標高73.52mをもって、このほか床下坑が見られた。遺物は第673図に示したように９世紀中頃の個体が主を成し、８世紀代の瓦片が同図7・8・9に見られ、土坑内より取上げ番号355の竈同材の軟質凝灰岩製切石も存在していた。住居跡の機能時も同期であろう。



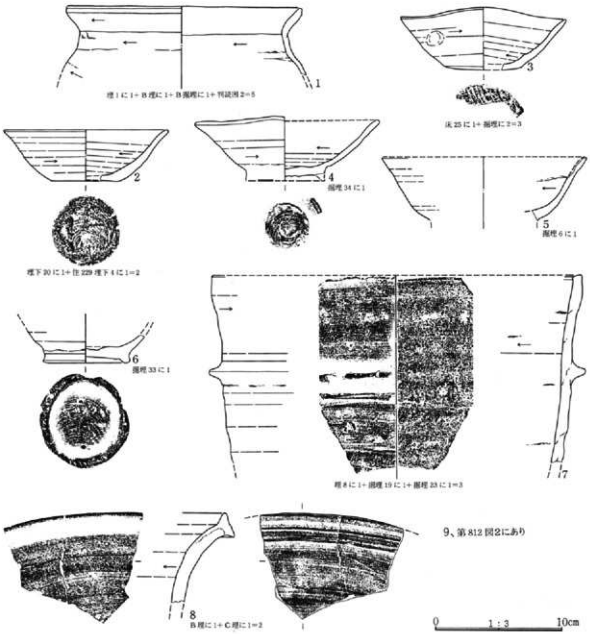
第675図　住居跡214遺物図

住居跡214　（第674・675図、図版114・220）

位置はR大区ｍｎ162･163にある。調査面はローム層上面標高74.25mである。重複は住居跡相互の重複はなく、土坑400、同401と浅い土坑が竈上面に、南壁側に土坑が各々後出して存在していた。規模は南北で335㎝、東西で263㎝を、方向はN9°15′Wを測る。施設として東壁に竈跡が、南壁にかかる土坑下に底面標高73.72mの貯蔵穴らしき小穴、掘方で床下坑が存在した。竈は石組も焚口側に用いており、第675図に右袖材を図示した。同材は旧時欠損の再用材であった。出土遺物は第675図に示したとおり、9世紀末から10世紀初頭前後の個体であり、住居機能も同期である。



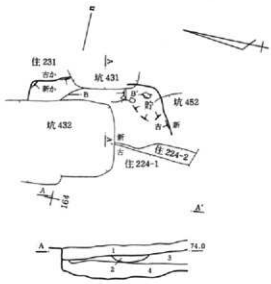
第676図　住居跡224－１・２遺構図

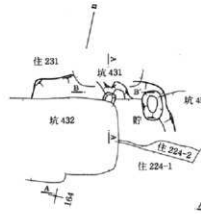


第677図　住居跡224－1・2遺物図

住居跡224－1　(第676・677図、図版114・220)

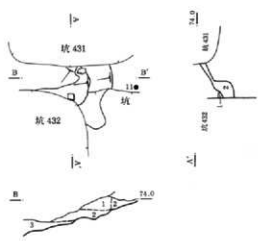
位置は、R大区mn163・164にある。調査面はローム層上面で標高74.1mである。重複過多の一角にあり、住居跡225を切り、坑402、同432に切られる。重複はさらに住224の中で竈跡で新、古の2段階、貯蔵穴が新古の3段階が認められた。周辺の住居跡より住居跡224と同225は掘込みが深いため、それを除く別住居がおよんでいるとは考え難い状態にあった。そのため竈の先行を住居跡244－2とし新出を同－1として捉えた。施設に東壁に竈が、南東隅に貯蔵穴が存在していた。第676図の床面図中に示した貯蔵穴は新出の2穴を捉え、そのうち左側が底面標高73.53mで新しく、右側が同73.42mで古い。さらに掘方図の南東隅部の最古出は底面標高73.62mを測る。床図中の北西隅部の下端線記入が無いのは掘過ぎのためである。規模は南北で338cm、東西で261m、方向はN7Wを測る。遺物は第677図に示したように9世紀後半の一群があり、同図7は甑であ

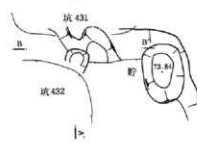




1、黒褐（10YR3/1）軽石多く含む。軟。
2、黒褐（10YR3/1）木炭粒多く含む。床下坑か。上面床面か。
3、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多く含み、木炭・焼土粒入る。
4、黒褐（10YR3/1）ロームブロック入り、木炭・焼土粒入る。上面住224-1床面、下面住224-2掘方。

0　1：60　2m





1、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壊化。粘性。焼土粒多く、上層木炭粒含む。
2、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壊化。粘性。焼土粒少ない。
3、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壊化。粘性。

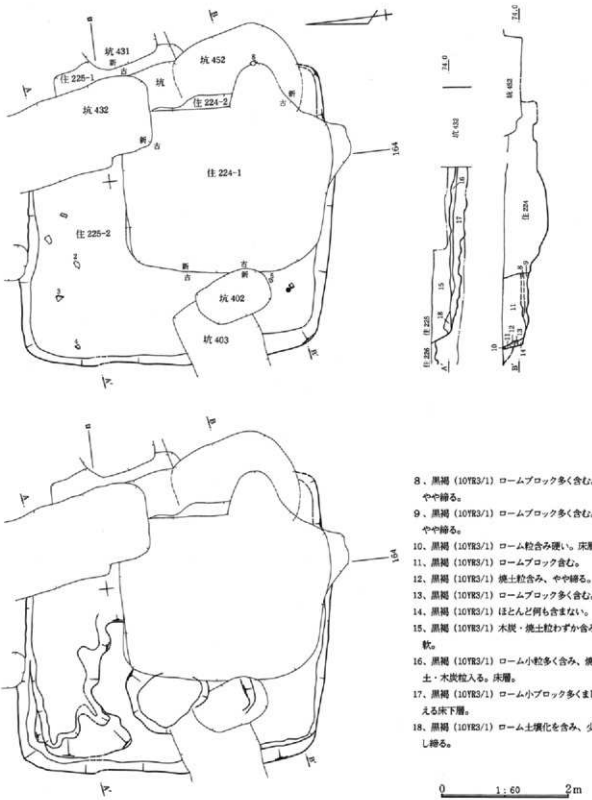
0　1：30　1m

第678図　住居跡225－１遺構図

る。住居の機能時も同期である。

住居跡224－２　（第676・677図、図版114・220）

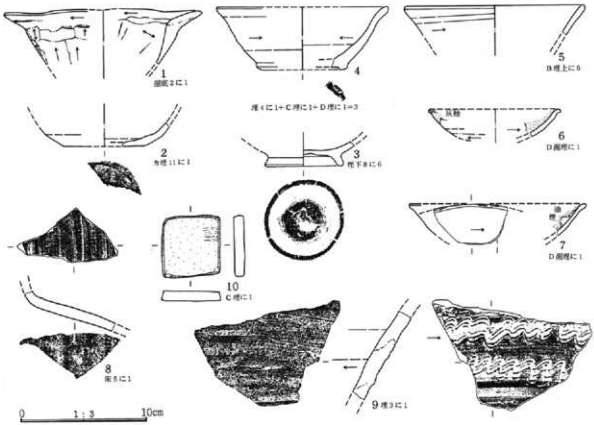
位置はＲ大区ｍｎ163・164にある。調査面はローム層上面標高74.1ｍである。重複は前出のとおり、住居跡225を切り、坑402、同432に切られる。住居跡224－２は、同224－１の改修前代の住居跡調査時点と考えられ、竈位置が同－１より北寄りにあり、貯蔵穴も南東端に標高73.62ｍをもって寄っている。後代の同－１より改変点は、東壁の掘方が大きく東側に喰込む点にある。このほか施設として、掘方上に住居跡224－1・2のいずれに伴なうか不明であるが床下坑として見られる。北寄りのもう一つの土坑は２穴が重きなっての形状のように見えるが明らかでない。竈跡は同－１では加工石材の使用が顕著ではなかったが規模大の同－２では袖状態が左右に残存していた。竈図中掘方右下の坏は取上No.34である。遺物図は、第677図に示してあり、同図4・5・6が各々新旧の住居関連の個体で、5・6が新様な作りである。住居の機能時期に関しては、住居跡224－１・－２を調査時には新旧の改修と考えていたが、遺物相に若干の年代差があるように思える。



第679図　住居跡225－2遺構図

住居跡225－1　（第678・680図、写真図版115・221）

位置はR大区mn163にあり、調査面はローム層上面標高74.0～74.2mである。重複は坑431、同432に切られるが住居跡224－1、同－2との関係は不明。規模は南北233cm、東西86＋αcm、方向は東壁を基にN9°30′W



第680図　住居跡225－1・2遺物図

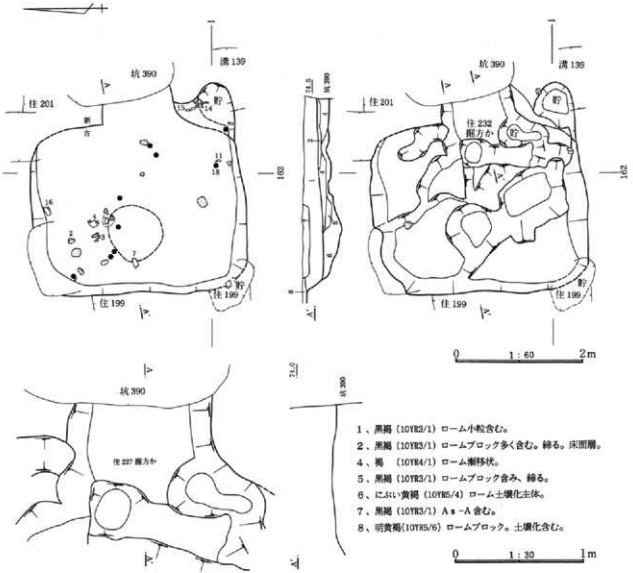
を測る。施設として東壁に竈、その右側に底面標高73.84mの貯蔵穴がある。遺物の出土は微弱であったが、第680図2があり、9世紀代と見られ住居の平面形も9、10世紀頃と考えられる。

住居跡225－2　(第679・680図、写真図版115・221)

位置はR大区mn163・164にあり、調査面はローム層上面標高74.2mである。当初住居跡225－1、同－2とは、周壁が近似状態のため同一住居と考え調査も進めたが、掘方などの結果から別住居跡であることが判明した。重複は住居跡224－1、同－2、坑402、同403、同432、同452が後出してあり、同225－1との関係は不明である。規模は南北480cm、東西330＋αcm、方向は北壁を基にN10°45′Eを測る。施設として竈、貯蔵穴は坑452、住居跡224－1により削られたものと考えられた。掘方において床下坑らしき土坑と溝状の床下施設を認めた。遺物は第680図に示したが、同図1は、作図時に古墳時代の高坏片とも考えたが、立上り部の粘土走行が断面側の総体右上りで通有の高坏と製作法が異なるため、第680図1のように捉えた。同図10は、須恵器片転用の砥石で、片寄り消耗していないので砥石と異なる用途かもしれない。遺物による時期は、時期幅があるため新様を捉えると同図3・6・7が新しく、10世紀後半頃と考えられ、住居機能もその頃か。なお第679図住居平面中南東隅部の実線は無番別住居跡である。

住居跡227　(第681・682図、写真図版115・221)

位置はR大区k1161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.7mである。重複は住居跡119、同201、坑390、溝139が後出し、住居跡232が先行してある。重複上溝139と住居跡201は竈跡、貯蔵穴を削る。規模は南北で332cm、東西300cm、方向は西壁でN2°45′Wを測る。施設として東壁に竈が取り付くが、掘方のみで瘠



第681図　住居跡227遺構図

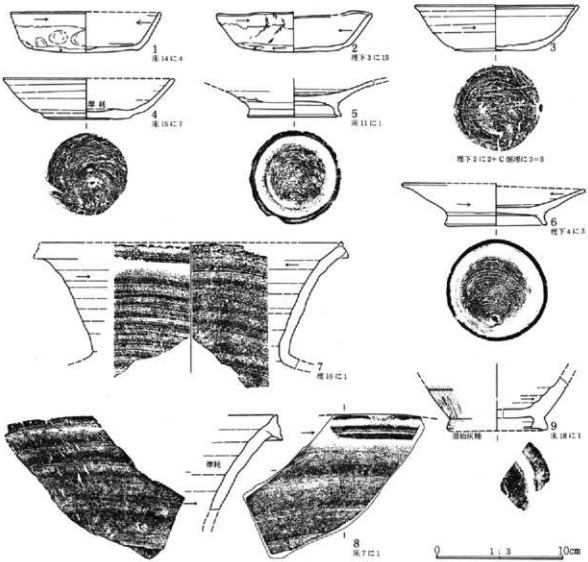
跡状態にあった。貯蔵穴は底面標高73.58mの貯蔵穴が存在していた。掘方は床下坑（図中破線）と穴状の凹部が多い。遺物は第682図の9世紀前半の個体が主を成し、住居機能も同期。

住居跡228　（第683・684図、写真図版115・221）

位置はR大区m161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.7mである。重複は住居跡214、溝139、坑389、同399、同400に切られる。規模は南北で495cm、東西490cmを、方向は東壁でN25°15′Wを測る。施設として柱穴4穴と、ピ1537とピ1557も建物構造を成すうえの小穴と考えられた。南東隅には貯蔵穴が掘方において確認されたが、竈は坑399と東接の穴跡により削られたらしく、認められなかった。遺物は第684図に示した9世紀末から10世紀初頭の小片がある。

住居跡229　（第685・686図、写真図版221）

位置はR大区m163・164にあり、調査面はローム層上面標高74.1mである。重複は住居跡224－1、同－2、

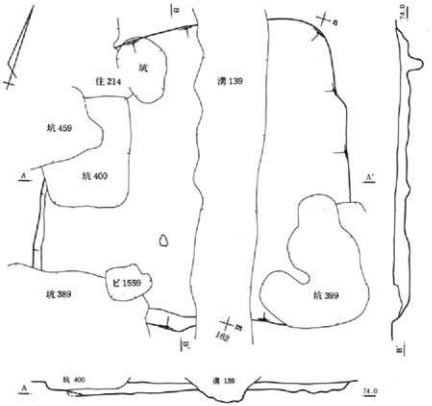


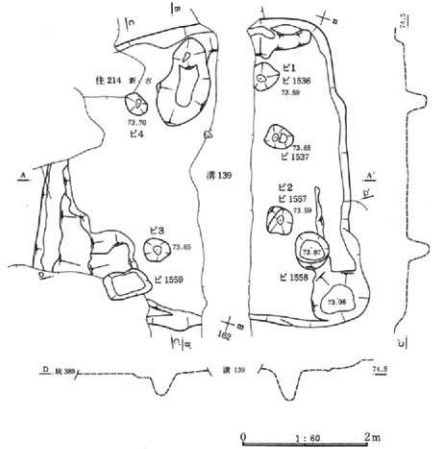
第682図　住居跡227遺物図

坑452が後出してある。規模は南北で71＋αcm、東西400＋αcm、方向は南壁を基にN18°30′Eを測る。遺物は第686図に示したが、同図1・3・4は住居跡229に直結するか不確実で、同図2・5・6の遺物取上げ注記に可能性がある。同図２は10世紀代と考えられるが住居機能時を特定するにはやや困難か。

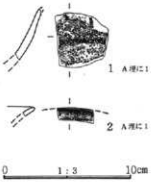
住居跡230　（第687・688図、写真図版116・221）

位置はＲ大区ｍｎ163にある。重複は住居跡231が先行し、後出して坑423・430・431があり、全体的にはやや粗な重複状態である。規模は南北402cm、東西308cmを、方向がN8°Wを測る。施設として東壁中央に竈、南東隅部に底面標高73.33mの貯蔵穴、掘方において床下坑が存在していた。貯蔵穴は廃棄時にはほとんど埋没している。竈は坑430に大半が削られ、北側が残存していた。竈図中のトーンは焼土を示すが、顕著な焼土化であった。遺物は第688図に示したとおり、貯蔵穴出土の同図１、床でNo３の同図３、床下坑埋土No３の同図４、掘方埋土No６の同図２など出土位置上、直結しうる条件が整っており、おおむね全体的に９世紀後半頃の個体で、住居機能も同期。





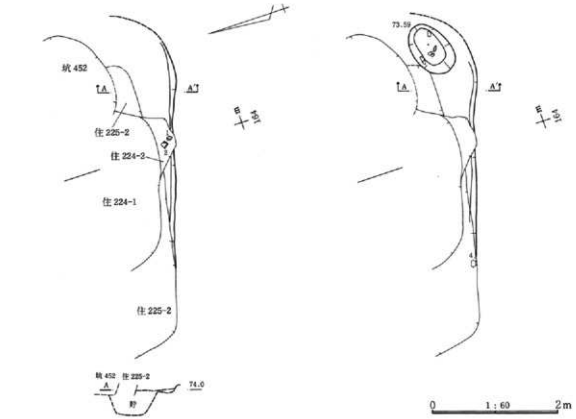
第684図　住居跡228遺物図



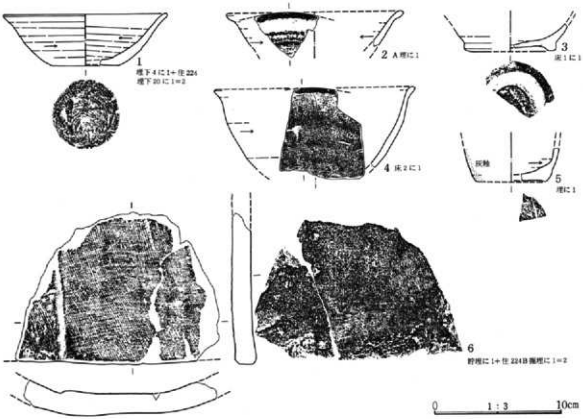
第683図　住居跡228遺構図

住居跡231　(第689・690図、写真図版116・221・222)

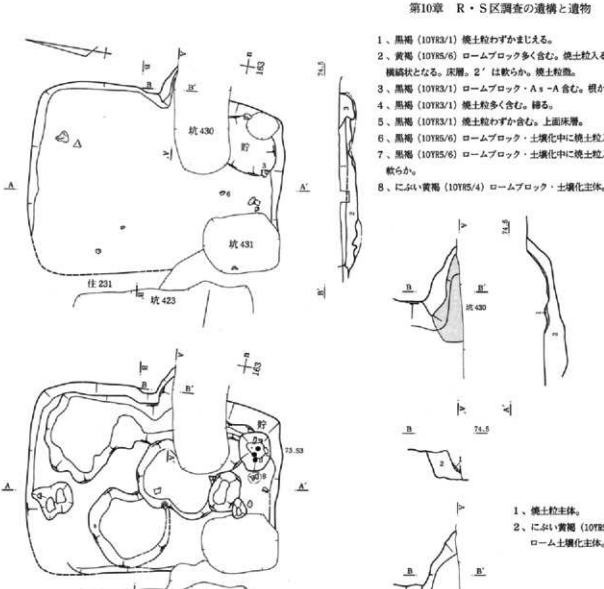
位置はR大区1m164にある。東半を後出の住居跡230に削られているため竈、貯蔵穴は痕跡に近い。調査面はローム層上面標高74.3m。重複は住230・同225、坑423・431・465が後出して切る。規模は南北で422cm、東西で322cmを、方向はN13°15′Wを測る。第689図中、南壁が長く感じるのは竈位置が削平化のため内側に片寄っているためである。掘方図中左上のピットは直接の関連は薄いであろう。施設として東壁に竈が、南東隅に底面標高73.68mの貯蔵穴が存在している。掘方に溝状の床下施設がある。遺物は第690図に示したように同図5・6に器内や底内を何かの目的で磨耗した状態が見受けられ、時に同図3は割れ口をさらにU字状に研磨し、同図5は底部周辺を打ち欠いている。遺



第685図　住居跡229遺構図



第686図　住居跡229遺物図

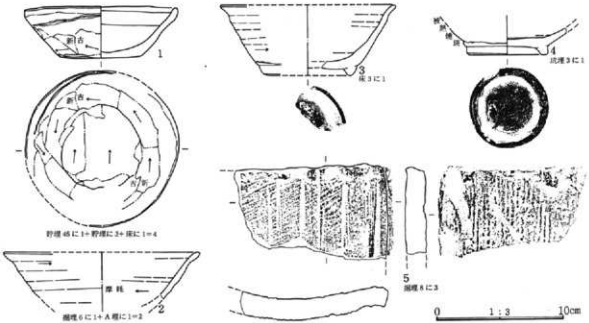


第687図　住居跡230遺構図

物の時期は9世紀後半で、住居機能も同期。

住居跡232　（第691・692・693図、写真図版116・222）

位置はR大区ｋ１161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.2mである。重複は住居跡200、同201、同227、溝136・139、坑390・391・392、ピ1569、倒木が後出してある。規模は南北で673cm、東西で665cm、方向は西壁に基づくとN16°30′Wを測る。施設としては、溝跡139に削られ、痕跡として炉跡が、柱穴として底面標高73.60cmのピ１、同73.73のピ２、同73.61のピ３が存在し、掘方では周壁下を溝状に凹ませた床下施



第688図　住居跡230遺物図

設が存在していた。貯蔵穴は確認できなかった。第693図中成断面図の破線の意味は、現場図化でなく整理時に推定作図したことを示す。そのうちＢ断面中、ピ３が浅いのは、倒木により、整査を充分に行なえなかった点もある。遺物は少量ながら古墳時代前・中期の個体があり、住居機能としては同期。

住居跡233－１　（第694・696図、写真協図版116・222）

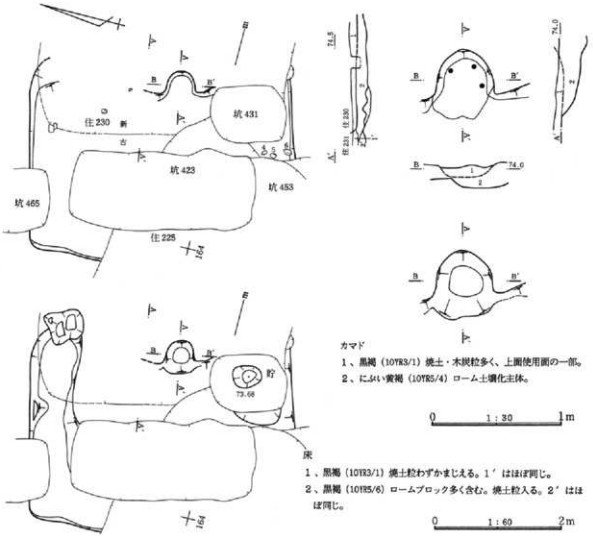
位置はＲ大区ｎｏ160・161にあり、調査面はローム層上面標高74.3ｍである。写真図版中の遺構写真は住居跡234情景中にほぼ同じ重さなりで写されてある。重複は、重複過多の一角にあり推奨できないが、住居跡233－２、同234に後出する。北半は以降の倒木により床層を失なう。規模は南北585cm、東西で511cm、方向は西壁を基にN1°Wを測る。施設として東壁南東壁中に竈が、南東隅に標高73.77ｍを底とする貯蔵穴が存在していた。竈、貯蔵穴形状のうち住居内側の表現がないのは、下方に住居跡233－２が存在し、埋土は黒色土であり面的追求ができなかったことによる。遺物は第696図に示したが同図１と3･4とでは時期差があるように見受けられ、その幅の中では９世紀代が考えられる。

住居跡233－２　（第695・697図、写真図版116・222）

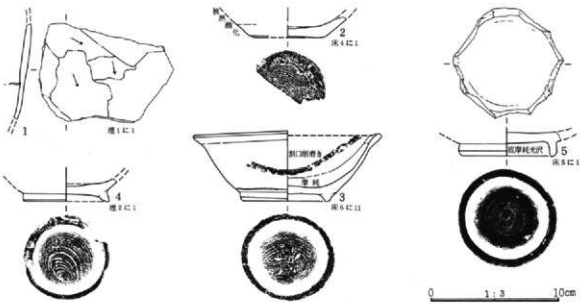
位置はＲ大区１ｎ160・161にあり、調査面はローム層上面標高74.3ｍである。写真図版中の遺構写真は住居跡234に重さなってある。重複は、重複過多の一角にあるが住居跡233－１との関係は、同233－２が先行してあることが明らかとなっている。規模は南北で342cm、東西で420＋αcm、方向は南壁を基にN2°Wを測る。遺物は取上げ番号57が床面から出土し、それによれば９世紀前半代と考えられる。

住居跡234　（第698・699・700・701・702、写真図版116・222・223）

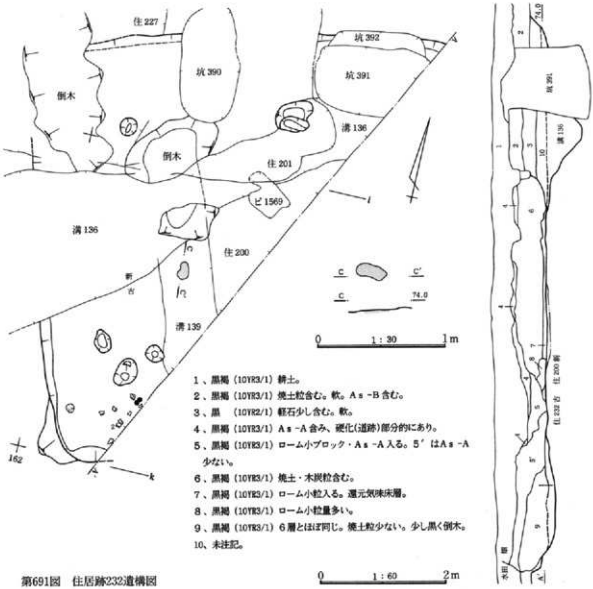
位置はＲ大区ｎｏ160・161にあり、調査面はローム層上面標高74.3である。重複は重複過多の一角にあり推奨できる確認状態ではなかったが、住居跡233－１、同－２より先行したとの結果を得た。規模は南北485cm、東西440cm、方向はN1°15'Wを測る。施設として東壁に竈と南東隅に底面標高73.19ｍの貯蔵穴があり、



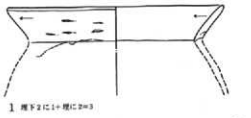
第689図　住居跡231遺構図



第690図　住居跡231遺物図



第691図　住居跡232遺構図

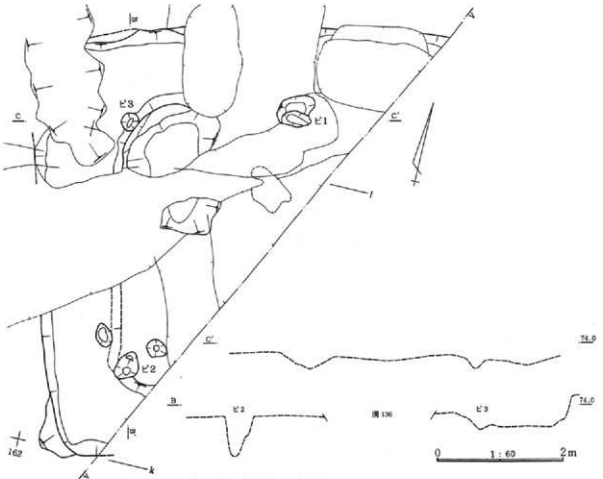


第692図　住居跡232遺物図

掘方に床下坑が見られるが、上方に住居跡233－1、同－2が重さなり、どの住居に伴なうかは不明である。遺物は9世紀後半頃を主としているが混在状態が感じられる。遺物中には分析していないが、白色顔料付着の第700図21があり、第701図29・30に砥石、紡垂車など集落内での工的作業に関連した遺物と、外的に工的作業を行なった遺物とがあり、住居を営んだ人々の性格の一端が反映されている。

住居跡235　（第703・704図、写真図版117・223）

位置はｎｏ159・160にある。調査面はローム層上面標高74.2mである。重複は、重複過多の一角にあり、推奨できないが住居跡242、坑414・467、倒木に切られる。規模は南北320＋αcm、東西327＋αcm、方向はN15°30′Wにある。施設としては掘方に壁下を巡る溝状の床下施設があり、竈、貯蔵穴などは調査地外の場所に



第693図　住居跡232遺構図

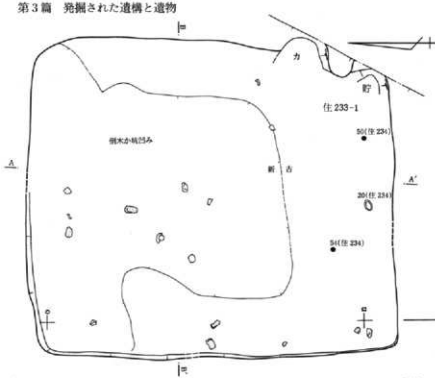
存在する可能性が強い。遺物は第704図1の埴が床から出土し、9世紀後半の個体で、住居機能も同期。なお第703図中断面B中央の凹みは倒木に関連する。

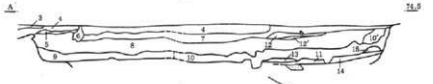
住居跡236　(第705図、写真図版117)

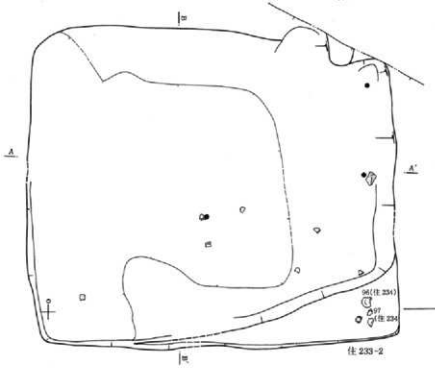
写真図版117中住居跡235、同242の中央左側に写されてある。位置はR大区o161にあり、調査面はローム層上面標高74.3mにある。重複は過多の一角にあり、住居跡235、同236を切るが同234との関係は推奨できない。さらに後出の倒木が中央部にかかって存在し、住居跡242も後出する。規模は、南北で54＋αcm、東西226＋αcm、方向は北壁を基にN7°Wを測る。施設としては小範囲の存在のため顕著な施設は認められなかった。遺物については微弱であった。

住居跡237　(第706・707・708図、写真図版117・223)

位置はR大区n o161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.3mある。第707図の断面A・Bは成断面の合成図で、竈底面と掘方底面である。重複はR大区の中で最も多い一角にあり、重複関係と遺物の関係については推奨できない。調査時と整理で得た所見からは、住居跡233－1、同－2、同234に後出して住居跡237は存在している。竈位置や、貯蔵穴の位置は住居跡233とほぼ同じで、同住居跡の新古の改修に係わって住居跡237は存在する可能性もある。規模は南北で375＋αcm、東西443cm、方向はN1°Wを測る。施設として東壁に竈が、南東隅に貯蔵穴が存在する。貯蔵穴底面は標高73.33mで、中段から上は住居跡233－1の掘方



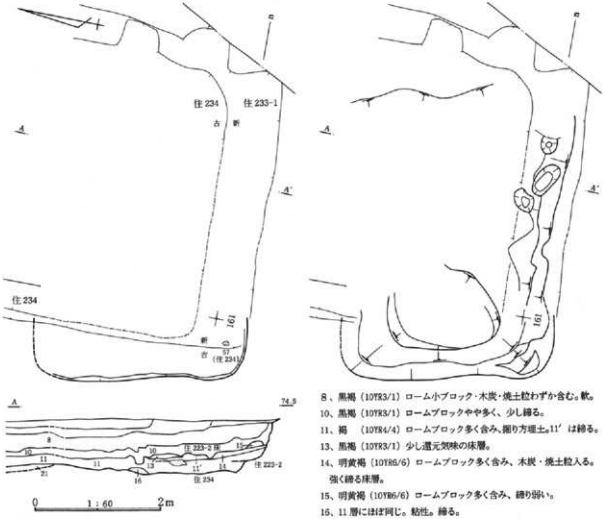




3、灰黄褐（10YR4/2）ローム粒・同ブロック・焼土粒入る。住居の埋土っぽい。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、焼土粒入る。
5、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、やや締る。
6、黒褐（10YR3/1）ロームブロック含み、締る。
7、黒褐（10YR3/1）ローム粒含み、少し締る。
8、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。軟。
9、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。少し締る。
10、黒褐（10YR3/1）ロームブロックやや多く、少し締る。10′は締り弱く、焼土・木炭粒含む。
11、褐　（10YR4/4）ロームブロック多く含み、掘り方埋土。締る。
12、黒褐（10YR3/1）ロームブロック含む。少し締る。12′はロームブロック少し多い。締る。
13、黒褐（10YR3/1）少し還元気味の床層。
14、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、木炭・焼土粒入る。強く締る床層。
15、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、締り弱い。
17、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含む。上面締る。
18、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、木炭・焼土粒入りやや締る。
19、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。倒木土でローム小ブロック入る。

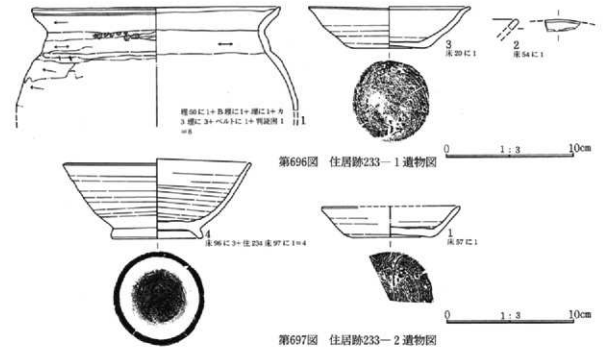
0　1：60　2m

第694図　住居跡233－１遺構図



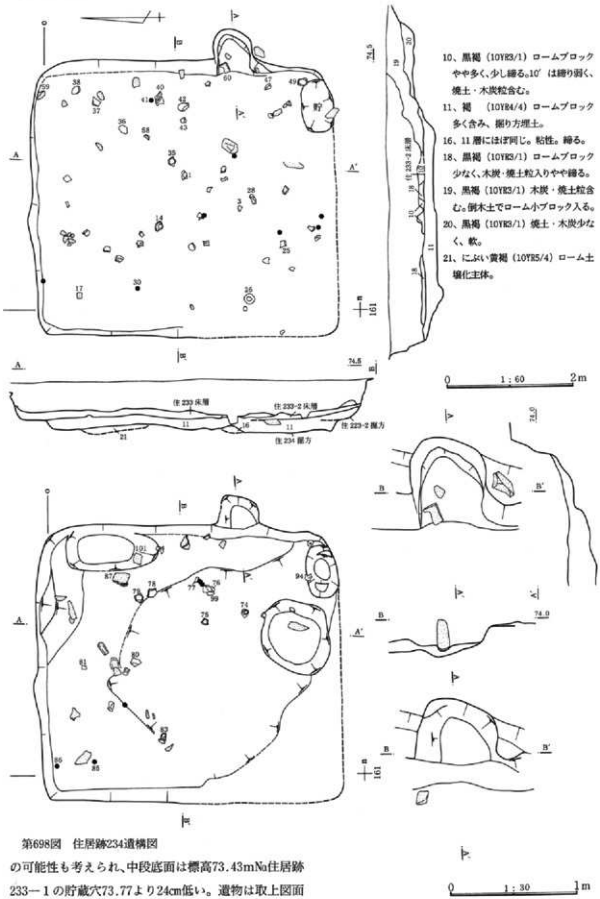
8、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。軟。
10、黒褐（10YR3/1）ロームブロックやや多く、少し締る。
11、褐　（10YR4/4）ロームブロック多く含み、掘り方埋土。11′は締る。
13、黒褐（10YR3/1）少し還元気味の床層。
14、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、木炭・焼土粒入る。強く締る床層。
15、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、締り弱い。
15、11層にほぼ同じ。粘性。締る。
21、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壊化主体。

第695図　住居跡233－2遺構図



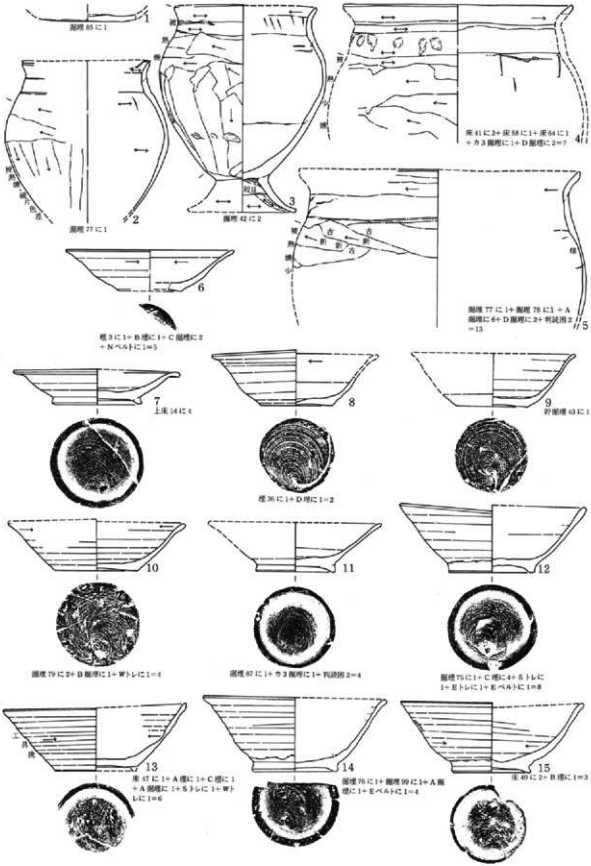
第696図　住居跡233－1遺物図

第697図　住居跡233－2遺物図

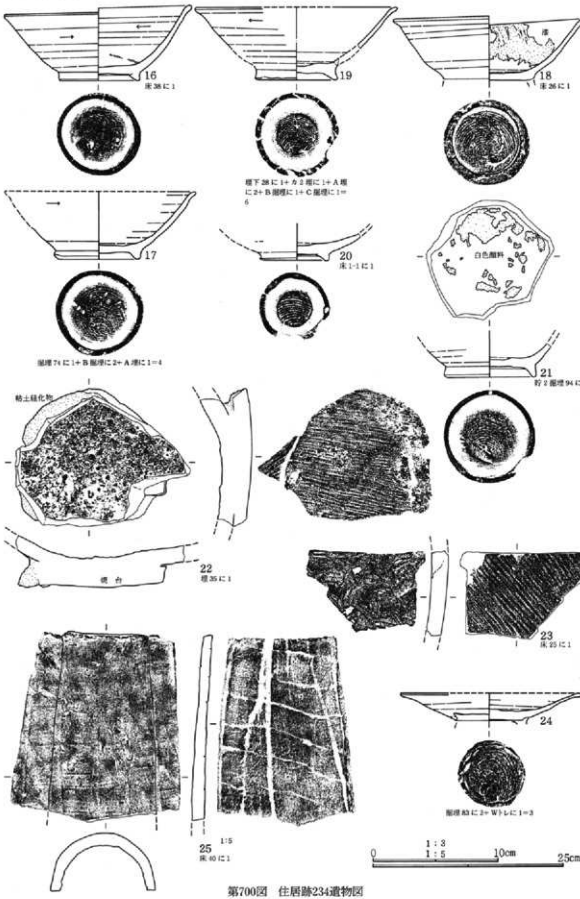


第698図　住居跡234遺構図

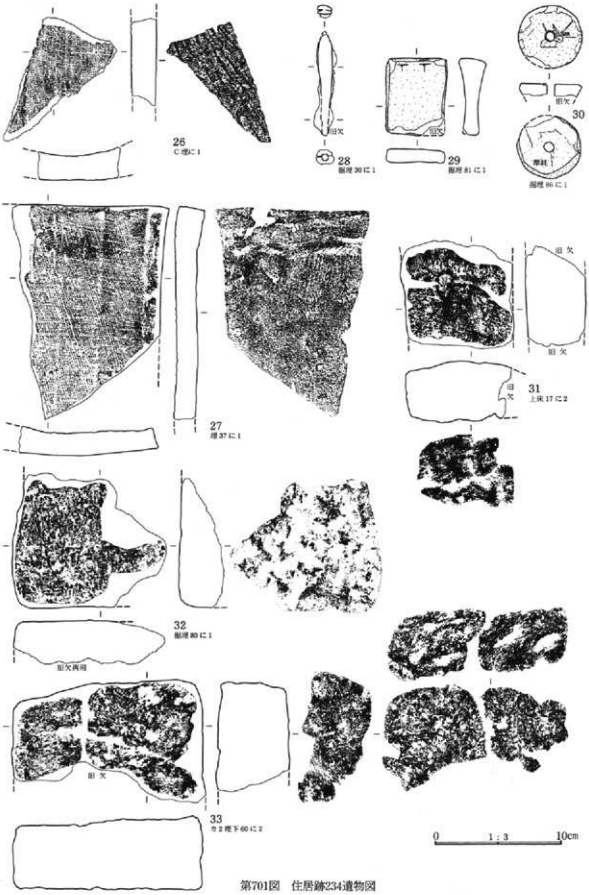
の可能性も考えられ、中段底面は標高73.43mNo住居跡233－１の貯蔵穴73.77より24cm低い。遺物は取上図面



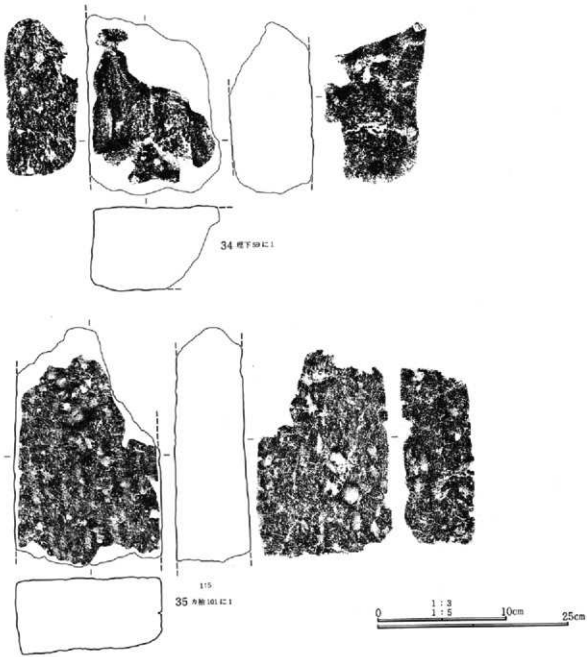
第699図　住居跡234遺物図



第700図　住居跡234遺物図



第701図　住居跡234遺物図

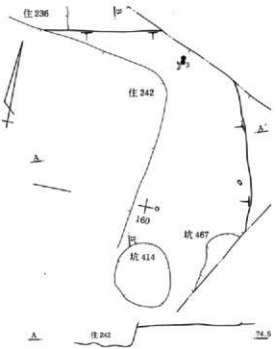


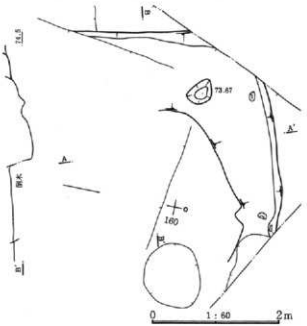
第702図　住居跡234遺物図

中に取上げ記入漏が多くあり、細かい写真照合するいと間はなかった。そのため図中に遺物番号を無記載の個体がある。遺物は第708図に掲げた９世紀代の個体がある。同図２は甕の通常の製作法と異なり、内面に保強のための粘土を貼り込んでいる。それは、その状態で全周していたかは不明ながら割口の左・右に見ることができ部分的ではないようである。当遺跡全個体の中で２例あり、そのうちの１例が同図２である。おそらく量産中の通常行為ではなく、変側的に生じた製作中破損を補なう結果であろう。

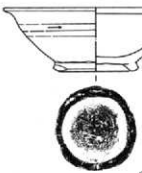
住居跡238　（第709・710図、写真図版117・224）

位置はＲ大区ｎ161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.24mである。第709図断面Ａ、Ｃは床成りと掘方成りの合成図で現場作図である。重複は北接の住居跡239、同240に後出し、坑408、同409、同417、同



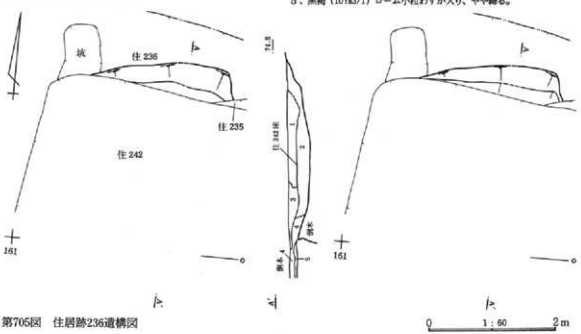


第703図　住居跡235遺構図

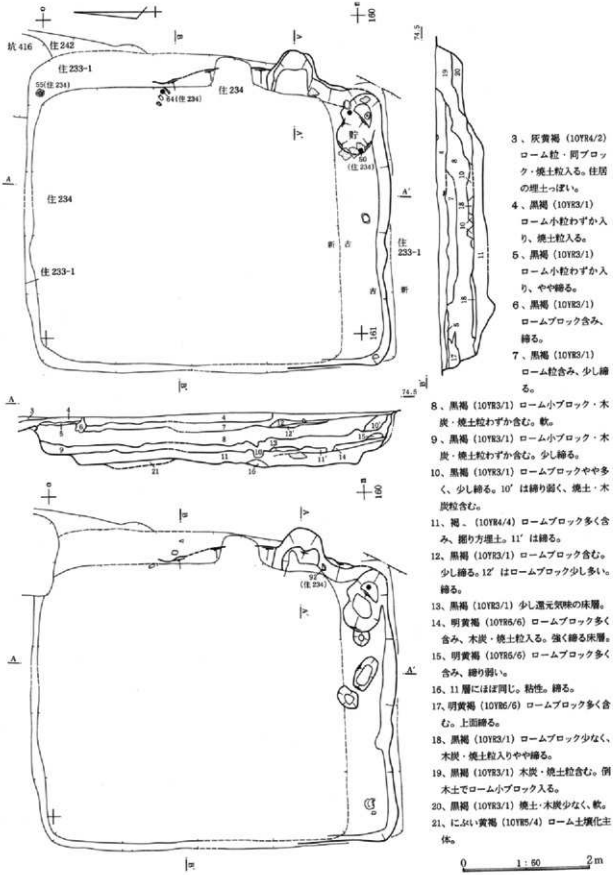


第704図　住居跡235遺物図

1、黒褐（10YR3/1）As－Bを思わせる粗質。
2、黒褐（10YR3/1）As－Bを思わせる粗質。わずかロームブロック入る。
3、灰黄褐（10YR4/2）ローム粒・岡ブロック・焼土粒入る。住居の埋土っぽい。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、焼土粒入る。
5、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、やや締る。

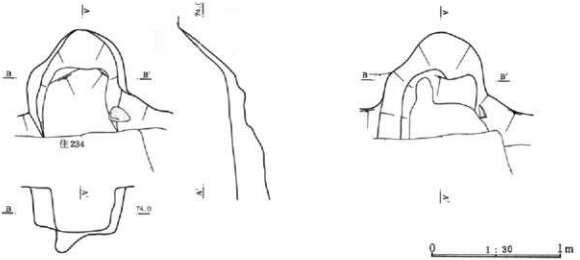


第705図　住居跡236遺構図

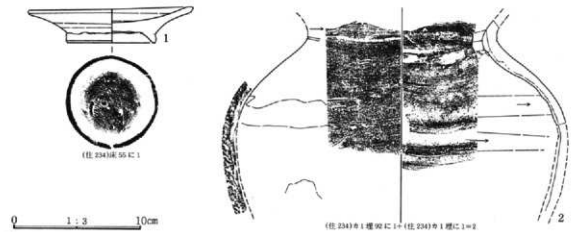


3、灰黄褐（10YR4/2）ローム粒・同ブロック・焼土粒入る。住居の埋土っぽい。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、焼土粒入る。
5、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、やや締る。
6、黒褐（10YR3/1）ロームブロック含み、締る。
7、黒褐（10YR3/1）ローム粒含み、少し締る。
8、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。軟。
9、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。少し締る。
10、黒褐（10YR3/1）ロームブロックやや多く、少し締る。10′は締り弱く、焼土・木炭粒含む。
11、褐、（10YR4/4）ロームブロック多く含み、掘り方埋土。11′は締る。
12、黒褐（10YR3/1）ロームブロック含む。少し締る。12′はロームブロック少し多い。締る。
13、黒褐（10YR3/1）少し還元気味の床層。
14、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、木炭・焼土粒入る。強く締る床層。
15、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含み、締り弱い。
16、11層にほぼ同じ。粘性。締る。
17、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含む。上面締る。
18、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、木炭・焼土粒入りやや締る。
19、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。倒木土でローム小ブロック入る。
20、黒褐（10YR3/1）焼土・木炭少なく、軟。
21、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壌化主体。

第706図　住居跡237遺構図



第707図　住居跡237遺構図

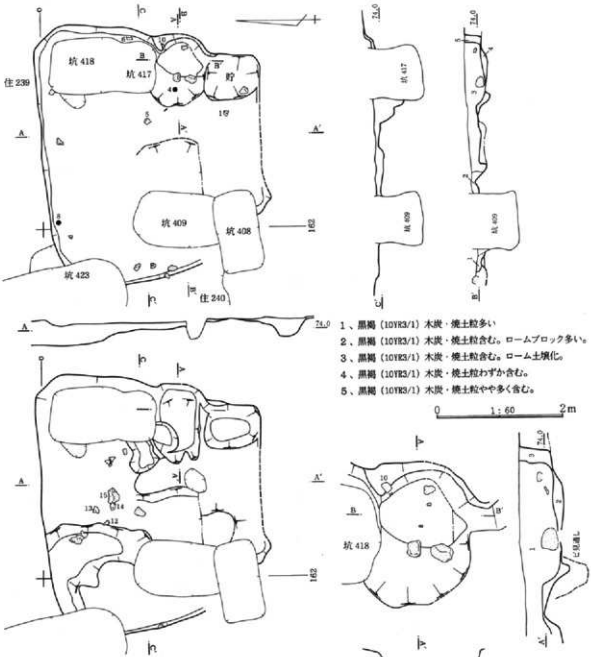


第708図　住居跡237遺物図

418、同423に先行する。また南西隅に倒木がかかるが新古は明確でなく、第709図掘方図中の南西隅部下の掘込みは倒木に関連する。規模は南北で350cm、東西で420cmを測り、方向は北壁に基づくとN5°Wを測る。施設としては東壁に竈、南東隅部に貯蔵穴も、貯蔵穴は床面で浅く凹んでいたが掘方底面は標高73.90mにある。掘方には凹凸があり、床下坑は床面中央にある凹みが、それとも考えられたが、掘方底面は円形にはならなかった。結果は、床面の掘過ぎのようである。竈底面は床面よりも底く設けられ、土層断面Aの未注記カ所、B断面の各々は、床面上と掘方底面との成断面である。竈A断面中に破線で図示したピット見通し断面は、焼土、木炭を埋土に含み、竈の構築から廃棄直後までに生じたピットである。遺物第710図に示したとおり、全体としては9世紀前半の個体で、須恵器坏の個体量が多い。同図6は後出時期の椀片らしい底面整形が見える。竈内には軟質凝灰岩の切石加工材同図9がある。

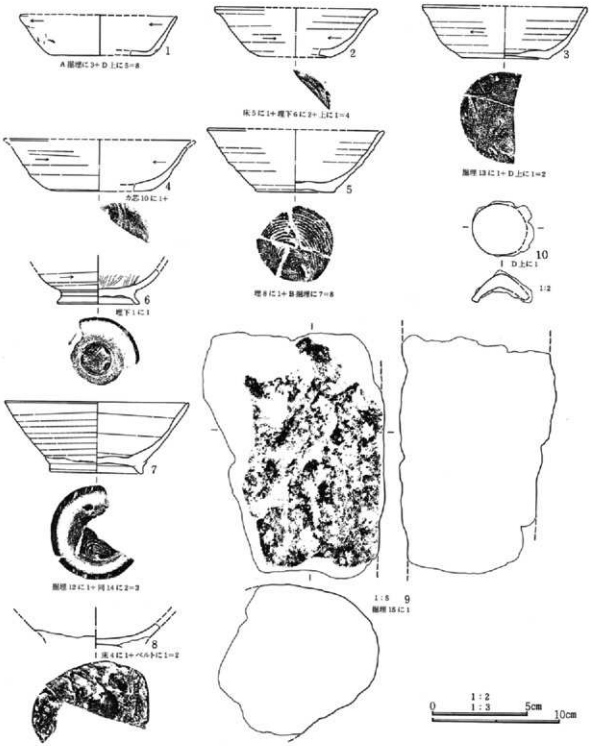
住居跡239　(第711・712図、写真図版117・224)

位置はR大区ｎｏ161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.2mである。重複は住居跡238、同241より後出するが、この隣接住居の埋土中での床追求は同じ黒色土であり、追求困難なため、ローム層基盤上に残された住居跡239のみを調査した。後出の遺構に坑420、同421、同423がある。第711図中の断面Aは、床成りと掘方成り断面の合成である。床面上には礫が多く散乱し、集石がその後に乱れたようでもある。規模は



第709図　住居跡238遺構図

南北で123＋αcm、東西で318＋αcm、方向は強いて東壁によればおよそN1°Wを測る。施設として竈、貯蔵穴は見えず、上面調査の際も焼土、木炭を多く含むカ所は明確でなかった。明確な場合は、必ず残して調査している。遺物は第239図に示した。同図１は須恵器坏のようでもあるが最頂部に、輪状摘みらしき付着物がある

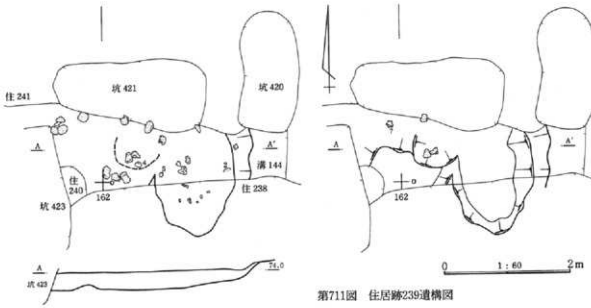


第710図　住居跡238遺物図

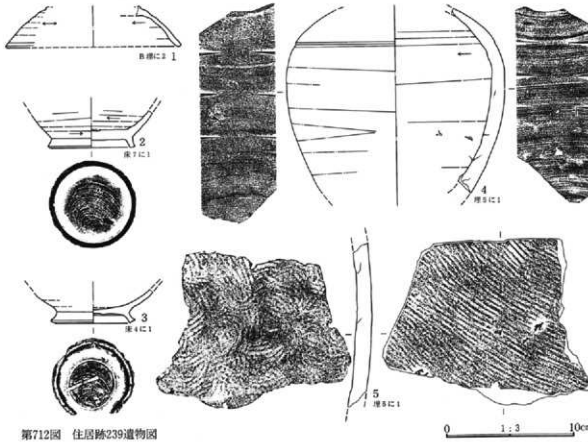
ため蓋としたが、当地域でも、そうした蓋は特異形状である。時期は、床に伴なう同図2・3があり、9世紀後半頃の製作で住居機能も同期。

住居跡240　(第713・714図、写真図版117・224)

位置はR大区ｎ0161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.2mにある。重複は東接の住居跡238が後

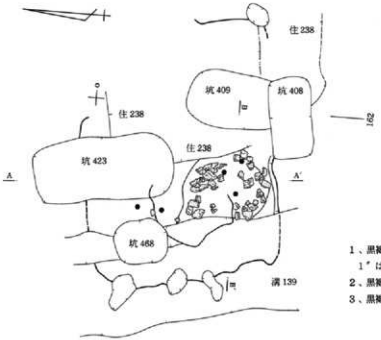


第711図　住居跡239遺構図

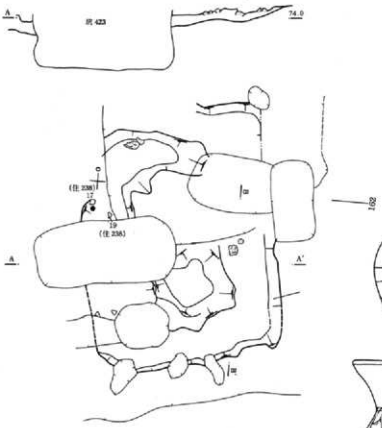


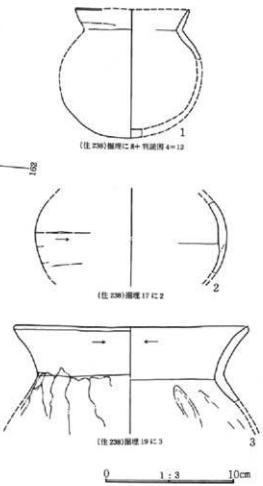
第712図　住居跡239遺物図

出してあり、坑408、同409、同423、同468、溝跡139が後出してある。このほか第713図中床面図の礫の集積がこの住居に関連して存在するのか、さらに9世紀以降の住居跡に関連して存在する床下坑様の土坑についても共存関係を得ることはできなかった。同図中細線が礫集積の範囲を、実線が床下坑様の土坑範囲を示めす。規模は南北305cm、東西387cm、方向はN8°30′Wを測る。施設として竈、貯蔵穴は確認されていないし、焼土粒の多いか所も見受られなかった。遺物は第714図に示したとおり、同図1は2/3個体の遺存で掘方埋土中からの出土であり、住居跡240に直結しそうである。時期は6世紀前半頃の個体で、住居機能も同期であろう。



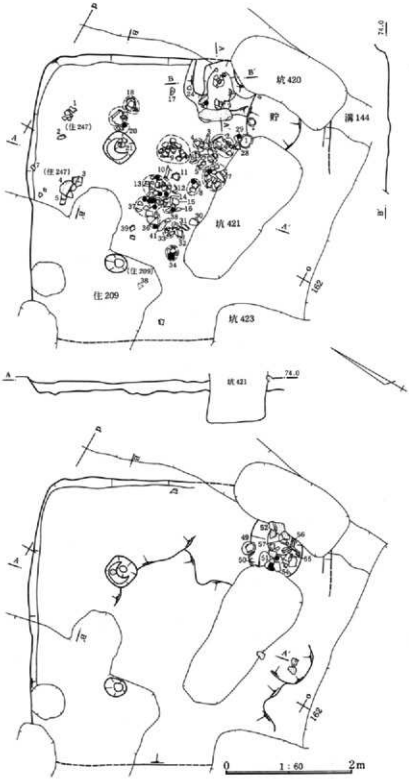
1、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒多い。1′はAs－B含む。
1″は少し粗。木炭ややや少。
2、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。ロームブロック多い。
3、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。ローム土壌化。



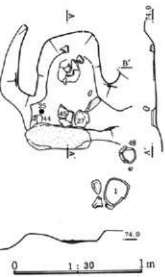


第713図　住居跡240遺構図

第714図　住居跡240遺物図

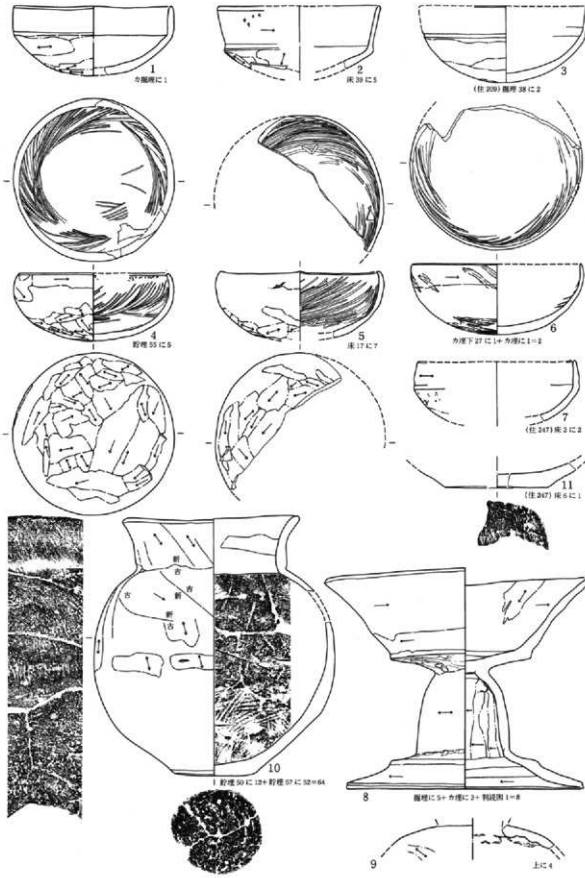


第715図　住居跡241遺構図

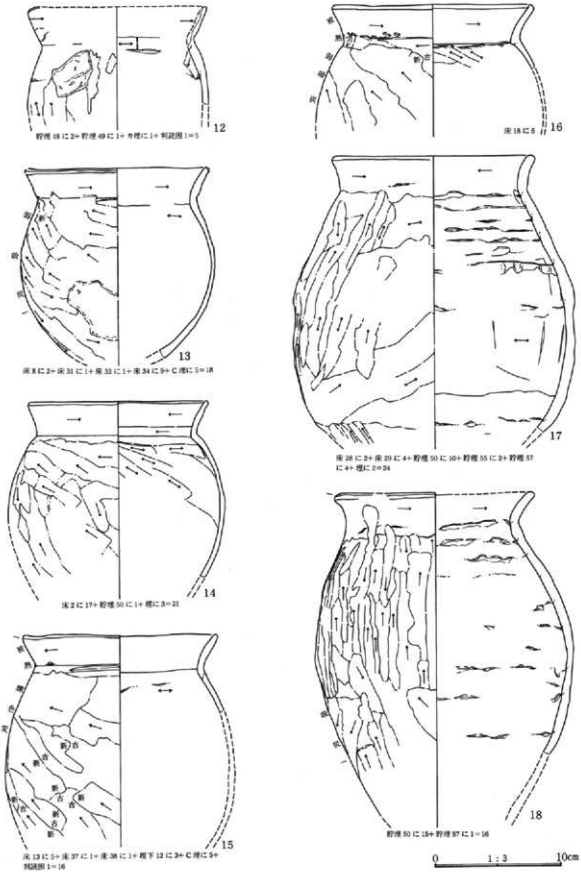


住居跡241　（第715・716・717・718・719・720・721、写真図版118・224・225・226）

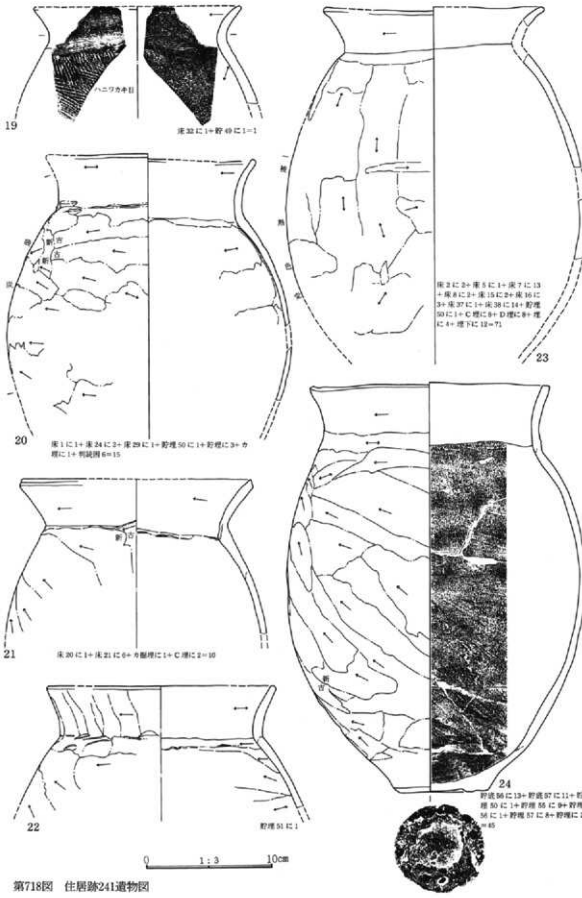
位置はＲ大区ｏＰ161・162にあり、調査面はローム層上面標高74.2mである。第715図断面Ａ・Ｂは床成り、掘方成りの合成断面である。重複は、当初北半を住居跡247をあたえて掘進んだが、結果的には１棟跡を考えた。南接の住居跡239に切られ、北西側も住居跡209に切られ、そのほか坑420、同421、同423も後出してある。規模は南北478cm、東西450cm、方向はＮ29°45′Ｗを測る。施設としては東壁に竈が、南東隅部に掘方底面高標高74.24mの貯蔵穴が、掘方では凹凸と北西、南西に各々柱穴を見い出した。北西柱穴は標高73.16mの底面を、南西は73.43mの底面高があった。第715図中、貯蔵穴遺物を掘方図中に入れてあるのは、床面図側に遺物量が多いため掘方図中に入れたが、掘方出土という意味ではない。竈は、東壁に取り付き、天井架材としての用石があり定形化しているようである。遺物は第716～721図に示した。頻度として坏類のうち内湾気の口縁を持つ個体が多く、高坏など前代の遺風も



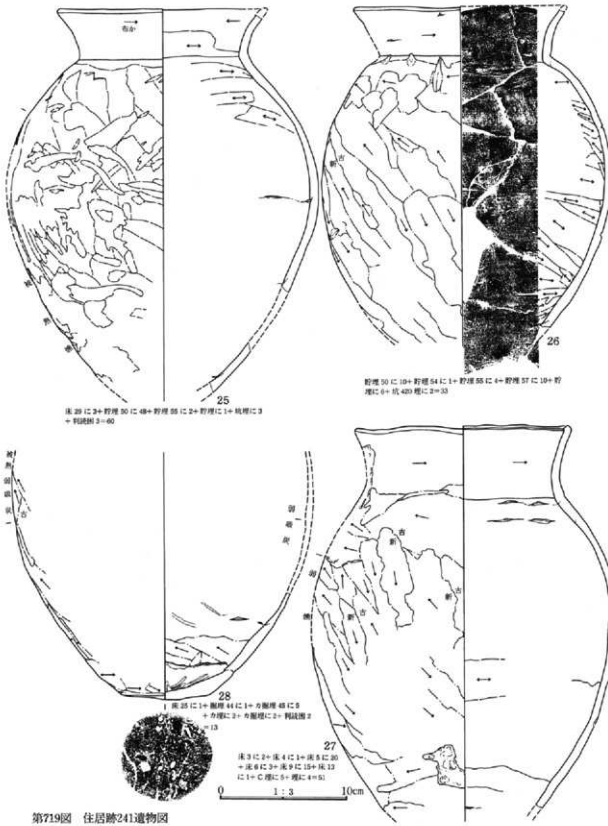
第716図　住居跡241遺物図



第717図　住居跡241遺物図

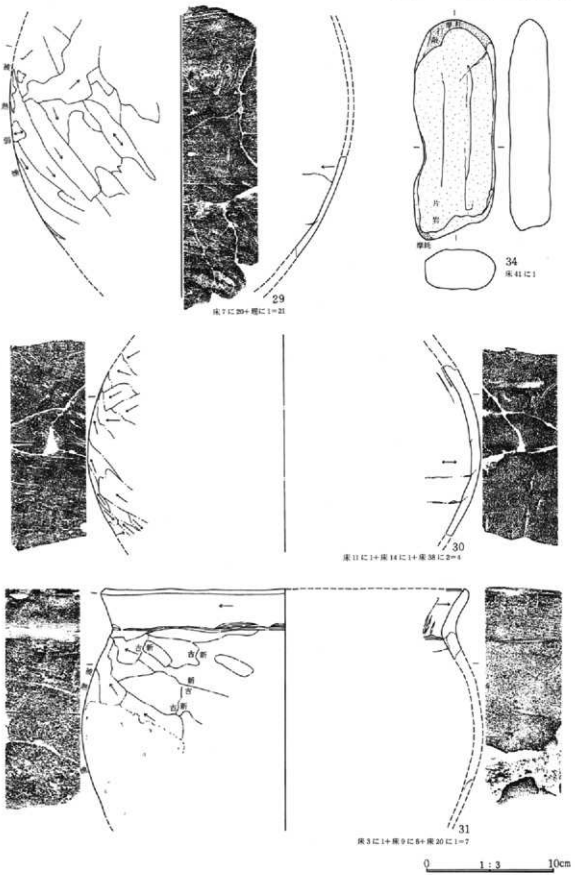


第718図　住居跡241遺物図

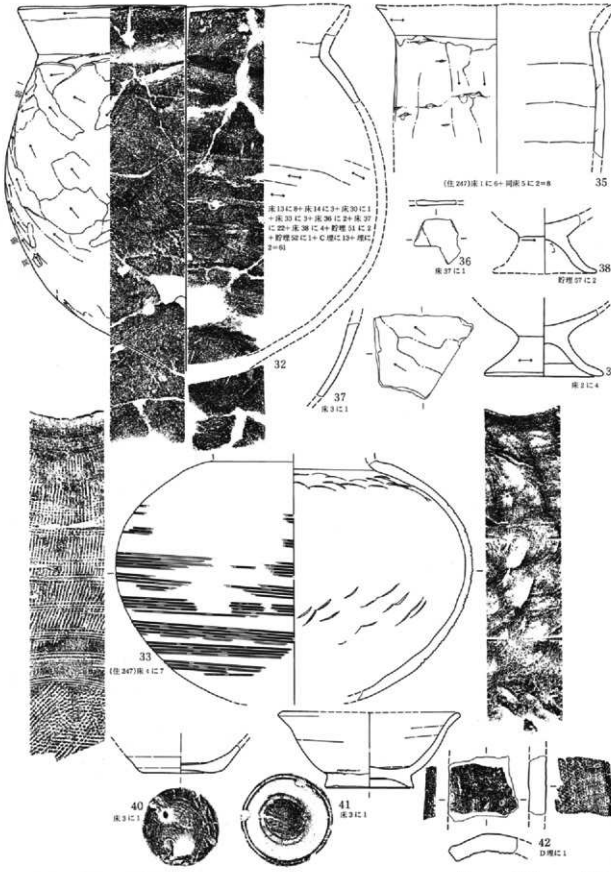


第719図　住居跡241遺物図

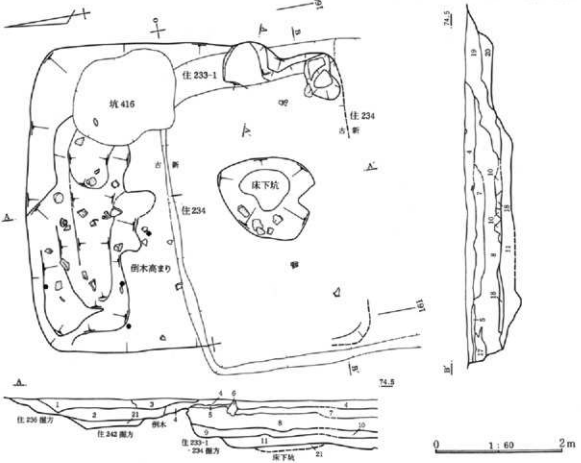
残存し全体的に器種上の一括性をかなえている点重要である。その中で甑が不足しているが第720図30・31、第721図32に可能性が持たれる。およそのまとまりは6世紀前半であり、機能時は同期である。しかし気になるのは住居跡247とした北側の一角から7世紀代の甕に見える第721図35があり、同図33も6世紀前半の一括



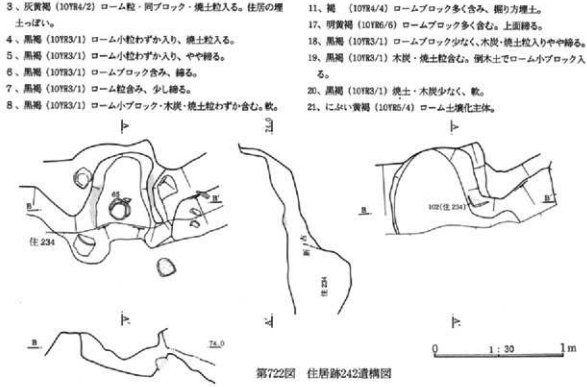
第720図　住居跡241遺物図



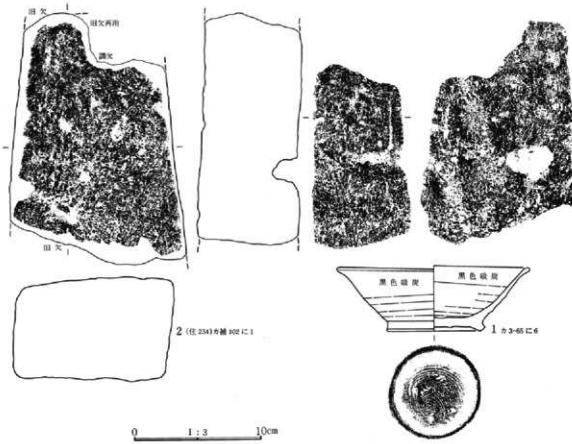
第721図　住居跡241遺物図



1、黒褐（10YR3/1）As-Bを思わせる粗質。
2、黒褐（10YR3/1）As-Bを思わせる粗質。わずかロームブロック入る。
3、灰黄褐（10YR4/2）ローム粒・同ブロック・焼土粒入る。住居の埋土っぽい。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、焼土粒入る。
5、黒褐（10YR3/1）ローム小粒わずか入り、やや締る。
6、黒褐（10YR3/1）ロームブロック含み、締る。
7、黒褐（10YR3/1）ローム粒含み、少し締る。
8、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。軟。
9、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・木炭・焼土粒わずか含む。少し締る。
10、黒褐（10YR3/1）ロームブロックやや多く、少し締る。
11、褐　（10YR4/4）ロームブロック多く含み、掘り方埋土。
17、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く含む。上面締る。
18、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、木炭・焼土粒入りやや締る。
19、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。倒木土でローム小ブロック入る。
20、黒褐（10YR3/1）焼土・木炭少なく、軟。
21、にぶい黄褐（10YR5/4）ローム土壌化主体。



第722図　住居跡242遺構図



第723図　住居跡242遺物図

に加えるには叩と沈線帯８単位以上施文的に見せる手法も６世紀代の同形より極立つ施文法でもあるため住居跡247の存在を捨て切れない。このほか後出遺物を第721図にまとめたか取上げ誤まりではなく、調査追求できなかった何んらかの遺構が住居跡241の床付近までおよんでいたと考えられるのである。

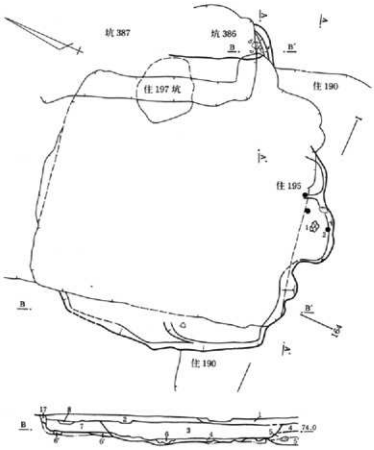
住居跡242　（第722・723図、写真図版118・227）

位置はＲ大区ｎｏ160・161にあり、調査面はローム層上面標高74.3mにある。遺構重複は重複過多の一角にあり、信頼度は低い。後出して住居跡233―１、同234、坑416、倒木痕がある。規模は、南北546m、東置483cm、方向は北壁を基にＮ10°30′Ｅを測る。施設として東壁に竈、南東隅に底面標高73.51m、中段底面73.68mの貯蔵穴が、掘方に床下坑がある。遺物は第723図１の９世紀中頃の境があり、住居跡機能も同期。竈図中の断面は床と掘方の成り合成断面図である。

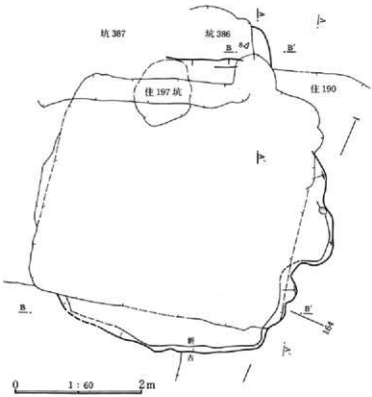
住居跡243　（第724・725図、写真図版227）

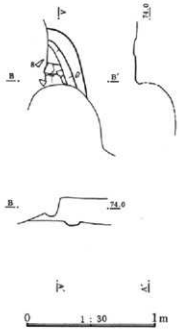
位置はＲ大区ｌ163・164にあり、調査面はローム層上面標高74.2mにある。遺構重複過多の一角にあり信頼度は極めて低い。結果として住居跡190に後出し、住居跡197、坑386、同387に先行する。規模は、南北368cm、東西472cm前後、方向はＮ13°Ｗを測る。施設に東壁に竈があるものの、異なる住居を合成した可能性もある。遺物は、第725図1・2の９世紀末頃の個体がある。

住居跡244　（第726図、写真図版112）

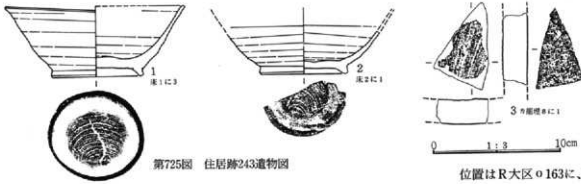


1、黒褐（10YR3/1）As-A含み、道跡。現代。水田畔わりの東西道。締る。
2、黒褐（10YR3/1）As-A入らず。ローム小粒入る。
3、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・焼土粒入る。
4、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック・焼土粒入る。
5、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く、締る。住床層。5'は軟。
6、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック多く、締る。住床層。6'は軟。
7、黒褐（10YR3/1）木炭粒含む。軟。
8、黒褐（10YR3/1）少し黒ずむ。
9、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少なく、締る。床層。
11、明黄褐（10YR6/6）ロームブロック主体。
14、黒褐（10YR3/1）ロームほとんど見えず。
16、黒褐（10YR3/1）ロームほとんど見えず。
17、未注記。



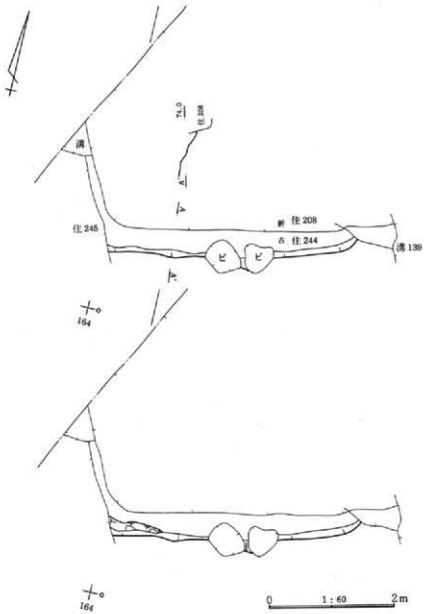


第724図　住居跡243遺構図



第725図　住居跡243遺物図

位置はＲ大区ｏ163に、調査面はローム層上面標高74.2mにある。重複は住居跡208、溝跡139が後出する。平面形は住208の南側輪郭に一致のため、同住居跡に関連するかもしれないが、平面上の切り合い関係がある。規模は南北で41＋αcm、東西で398＋αcm、方向は南壁を基とするとN13°Wにある。施設としては掘方において壁下周溝に見える小溝が西半に確認されている。遺物の出土は微弱であった。住居跡時期は住208と輪郭が並走する点から古墳時代前期ではないだろうか。

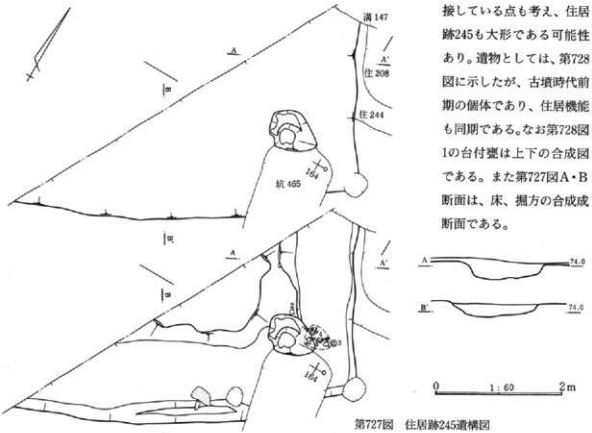


第726図　住居跡244遺構図

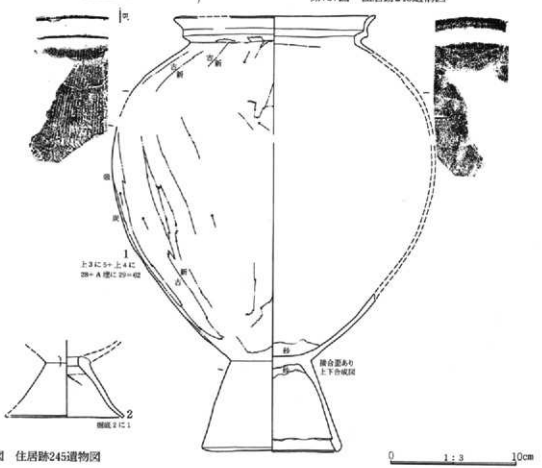
住居跡245　（第727・728図、写真図版118・227）

位置はＲ大区ｎｏ163・164にあり、調査面はローム層上面74.1mである。重複は溝跡147に切られるものの住居跡208、同244との関係は、平面上住居跡244をが先行して存在している。また坑465に切られる。規模としては南北で325＋αcm、東西546＋αcm、方向は、南壁を基とするとN29°Wを測る。施設は、南西柱穴と考えられる小穴が底面標高73.36mをもって存在し、掘方面で周壁下を巡る溝状の床下構造が確認されている。その掘方形状と柱穴は深さを有し、大規模住居跡に近

接している点も考え、住居跡245も大形である可能性あり。遺物としては、第728図に示したが、古墳時代前期の個体であり、住居機能も同期である。なお第728図1の台付甕は上下の合成図である。また第727図A・B断面は、床、掘方の合成断面である。



第727図　住居跡245遺構図



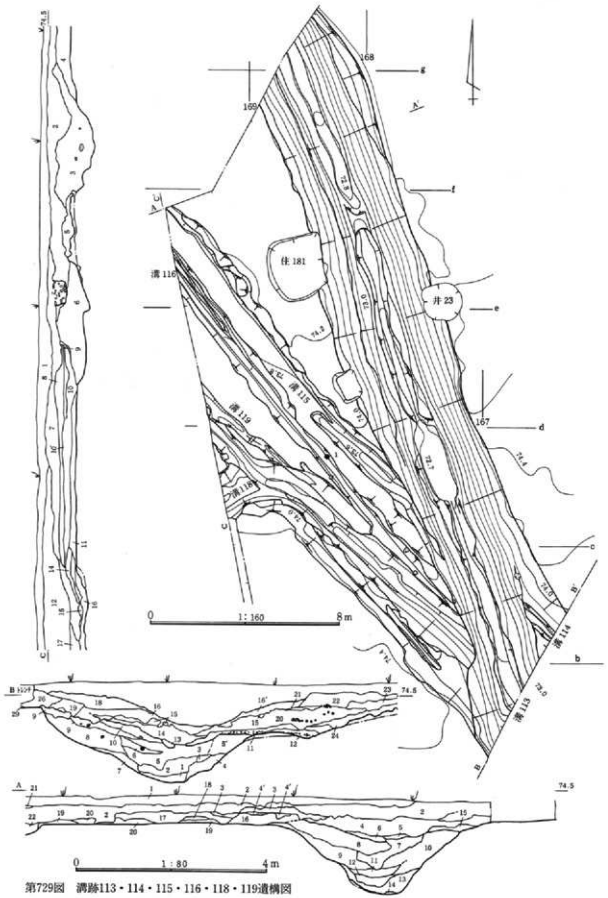
第728図　住居跡245遺物図

２．溝跡　（第2・11図、写真図版100）

Ｒ・Ｓ区の溝跡は、井野川段丘崖上で、古代から近代に至るまで35条を調査した。ここでは溝単独に対する個別内容の外に加えておくべき点について触れたい。

古代の溝跡は古墳時代前期と奈良時代、さらにそれ以降と考えられる例とがある。古墳時代前期の溝跡は溝跡130とほぼ直角に曲る溝跡135と同136がある。溝跡130は幅約250cm、深さ100cm、N35°45′Wの溝で上～中層には廃棄と考えられる大量の土器片と中～下層に季節的か通常かは不明ながら掘り直しも認められる中で通水を考えることができた。第２図の昭和58年度市教委調査中、北接トレンチにその延長が見え、南側は図中に土壇とある東西トレンチの西トレンチ中央にＳＤ14があるものの延長であるのか細述なくわからない。さらに同調査の拡張２区とされる中にＳＤ４とＳＤ５があり、ＳＤ４は第２図では小林前と小字名称を印字した前の字の下方に２条の溝跡があり右側がＳＤ４、左側がＳＤ５である。ＳＤ５は、相当量の土器が出土したらしく14個体の古墳時代前期の土器の図示があり、目立つ土器類の存在、溝横断面形の類以性からも溝跡130の延長の可能性がある。溝跡135と溝跡136は幅210cm、深さ88cm、N30°Wを測り、それは溝跡130と同規模にありながら埋土下方に通水の形跡は薄い。その北側延長上は市教委調査の南接トレンチ内に見え、さらにその南側は、市教委の拡張２区ＳＤ４に至るのかは横断面が中世溝であり、溝跡136の南側12cmを並走する溝跡121と似ること規模も似ることから延長推定は困難である。奈良時代、８世紀代の構築と考えられる溝に溝跡113がある。規模は幅約450cm、深さ170cm、N19°15′Wを測り、第２図のとおりその南北延長は昭和58年度の圃場整備前まで狭長な水田区画として南は530m南南東にある史跡絲貫観音山古墳周堀内東側まで続いていたのと、今回の調査時でも至近南側水田における雑草の生え方も溝跡の延長のみが青々と繁り、存在が示唆された。市教委調査では、北接トレンチ内から、９世紀瓦葺の土壇とされた中央を東西に設けられた西側トレンチの西端にＳＤ01として確認され、さらに延長上、史跡観音山古墳北東隅にかかる調査区まで溝延長は認められた。市教委調査では、本書中の溝跡113南端から南延長385mの位置で、西方から流入した地元で云う大堀田（おおほりた）水の先行溝がＳＤ１中にほぼ同規模で流水していることが示めされた。その流入に係わる遺物に15世紀代の宝篋印塔笠部の出土がある。調査地内における溝跡130は、第729図土層断面Ａ注記４に浅間山Ｂ軽石の混入が多くあり、大堀用水前代の溝が下流でＳＤ01に流下した際も、中規模な水路状態があったことも類推される。溝跡113は、前出の９世紀代の瓦葺土壇を中心とする寺院跡の西限大溝と考えられ、溝跡113の東方を並走するように第803図の西より溝跡126、同127、同122、第11図の同124があり、加えて道跡11がある。溝跡126、同127の埋土にA_s－Ｂが混るため中世以降、溝跡122・124は入らないため古代と考えられ、道跡11はA_s－Ｂの前代に硬化した轍面が以下に、以降が中世前半頃と考えられた。道跡11に関しては、溝跡113の構築当初掘出した土を東側に土塁状に客土し、後代にその跡が道として利用されたとも考えられる。土塁様の客土の目的は、当初は寺院地の区界を溝跡113とともに区界をなしていたのではないだろうか。土塁幅は溝跡113と溝跡122までの間にピットの土坑の存在がほとんどないので最大で340cmの幅を有していたのではないだろうか。

中世の溝跡は溝跡121、溝114が推考される。溝跡121は上端約280cm、深さ120cmを測り、中程にＲ大区ｉ165に第785図に示す、柱間240cmを測る１間柱穴跡、北側に並走する溝跡133、同134の小規模な溝跡を伴なって存在していた。出土遺物はないが、浅間山Ｂ軽石をまじえながら、地域の地方窯業製品片の出土がないので13・14世紀頃の遺構を推定しておきたい。並走の溝跡133、同134はともに小規模な溝跡であるが並走することに有機的な関連性が持たれる。この２条の溝跡中に小穴・ピットがほとんどなく、その間約70cm幅で客土した土塁様の施設を考えておきたい。前出の１間柱穴は柱痕は明確でなかったが、径60cm前後の柱穴の大き



第729図　溝跡113・114・115・116・118・119遺構図

溝 113

A－A′

1、黒褐（10YR3/1）As－B含み、現代。
2、黒褐（10YR3/1）As－A含み、旧耕土。粗。2′は少し密。
3、黒褐（10YR3/1）As－A含み、少し締る。
4、黒褐（10YR3/1）As－B混、黒褐ブロック含む。右上少し黒っぽい。中近世。4′は締る。
5、褐灰（10YR5/1）As－Bを主とする。
6、黒褐（10YR3/1）粘土。上方As－Aと混じりあう。
7、黒褐（10YR3/1）粘性。黒ずみ、小礫入る。最低部に砂まじえる。
8、黒褐（10YR3/1）焼土粒・小礫入る。粘性。
9、にぶい黄褐（10YR5/3）下方にしたがい粘性。
10、にぶい黄褐（10YR4/3）下方にしたがい粘性。中央下方にローム漂白化の縞約10 cm幅である。（右上方から流入したロームブロックらしき層はこれのみ）
11、褐灰（10YR4/1）粘性。還元。砂混じる。
12、褐灰（10YR4/1）小ロームブロック含み、締る。粘性。
13、褐　（10YR4/6）ローム土塊化・小礫・砂入る。
14、褐灰（10YR4/1）粘性。還元。樹影含む。
15、褐灰（10YR4/1）As－B含む。
16、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム小粒入り、As－B入る。
17、黒褐（10YR3/1）As－B・As－A入る。
18、黒褐（10YR3/1）17層に似る。As－B入る。
19、にぶい黄褐（10YR5/4）As－B混じり、漸移的。
20、にぶい黄褐（10YR5/4）As－B入る。
21、黄褐（10YR5/6）As－A入り、ロームブロック主。構造改善埋め土。
22、黒褐（10YR3/1）砂。現代工事埋め土。

溝 115・116・118・119

C－C′

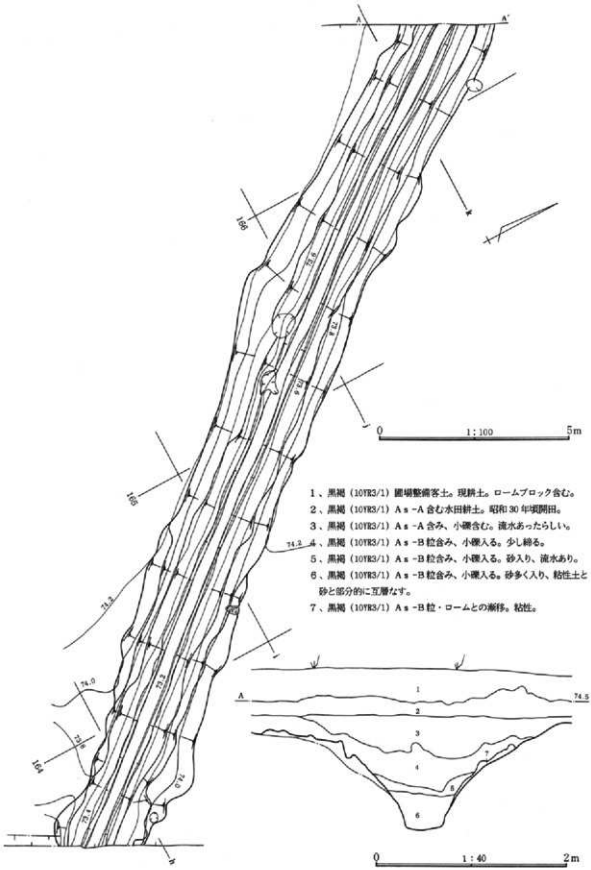
1、黒褐（10YR3/1）現耕土。
2、黒褐（10YR3/1）As－A含み、粗。
3、暗褐（10YR3/1）As－B含み、粗。
4、黒褐（10YR3/1）As－B不明。密。
5、黒褐（10YR3/1）As－B入り、少し粘性。
6、黒褐（10YR3/1）As－B入り、粗。
7、黒褐（10YR3/1）As－A多く混じる。粗。
8、黒褐（10YR3/1）As－A近純層。上方混じり、下半近純層。各硬化。東往道。
9、褐灰（10YR5/1）As－B含み、砂質。硬化。道路層。
10、褐灰（10YR5/1）As－B含み、砂質。硬化。道路層。10′は道路のつづきであるが、少し締り弱い。
11、褐灰（10YR5/1）
12、黒褐（10YR3/1）耕地整理埋積土。
14、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。少し硬化気味。締る。粘性。
15、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。14層より硬化弱。粘性。
16、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。粘性。
17、黒褐（10YR3/1）現代。粗。圃場整備土。

B－B′

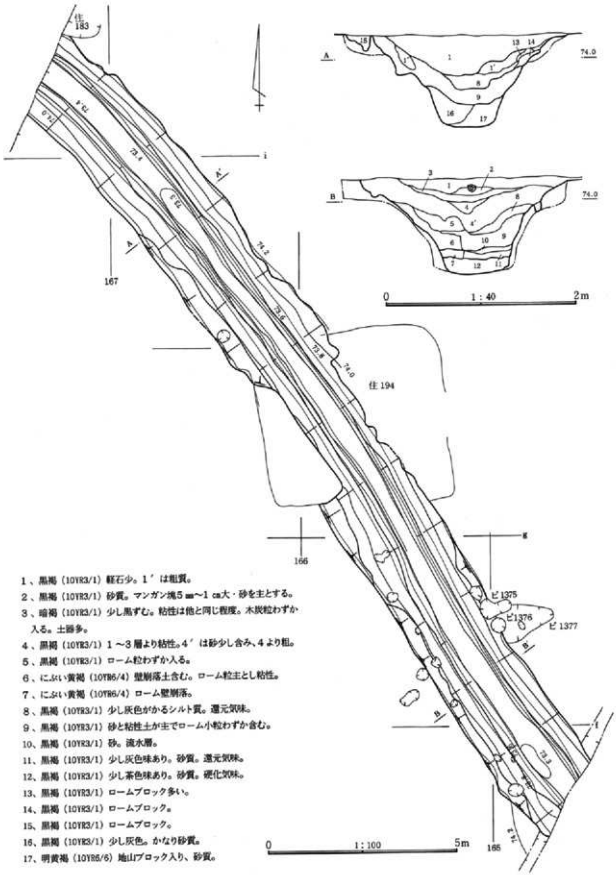
1、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。
2、灰黄褐（10YR5/2）砂多い。さらに還元気味。礫含む。
3、灰黄褐（10YR5/2）砂多い。酸化気味。
4、黄褐（10YR5/6）砂多い。酸化気味。
5、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。礫多い。5′は少し褐色味強。部分粘性。
6、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。少し褐色。
7、褐灰（10YR5/1）粘性。還元気味。少し褐色。
8、灰黄褐（10YR5/2）やや粘性。右上粗。
9、褐灰（10YR4/1）黒味あり。粘性。
10、黒褐（10YR3/1）黒味強。（As－B下の黒相当）下方礫あり。
11、灰黄褐（10YR4/2）上面酸化。砂・小礫多い。As－B入る。
12、灰黄褐（10YR4/2）上面酸化。砂・小礫さらに多い。As－B入る。
13、褐灰（10YR5/1）砂質。還元気味。As－B入る。
14、褐灰（10YR5/1）砂質。少し還元気味。As－B入る。右上硬化。道跡初期中世前半。
15、褐灰（10YR5/1）砂質。少し黒ずむ。As－B入る。硬化道跡。
16、褐灰（10YR6/1）砂質。少し黒ずむ。As－B入る。締る。道路。16′締らず。
18、灰白（10YR7/1）砂質。白っぽい。As－A近純層。締る。道跡。
19、褐灰（10YR5/1）粗。As－A入らず。溝埋土。
20、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。中位に礫入る。
21、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。少し締る。
22、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。さらにAs－A混じる。
23、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。
24、黒褐（10YR3/1）少し粘性。As－B入る。
26、黒褐（10YR3/1）As－B含む。少し締る。
29、黒褐（10YR3/1）As－B含む。少し粗。

さは、当地域の中世柱穴としては大規模であり、溝跡121の橋脚跡を推定しておきたい。この溝跡の延長は、昭和58年度の市教委の調査では明確でないが、埋土の下方に季節的であったかは不明ながら砂質土が堆積し、通水のあったことを推定できる。調査中の冬期であっても部分的に小規模な滞水があった。溝跡114は溝跡の底付近から第762図1砂岩製穀臼上臼の出土があり、近世に至っては産出地に近い場所は別としても砂岩製の石臼は未見に近いため、中世の所産と考え、また第729図中周囲にある溝跡の中では古出であることも加味されるところである。さらに溝跡114は、Q区溝跡82（第9図）からR区西溝85（第7図）そしてR・S区の溝跡118に至る約62mの一連の溝跡の延長が溝跡114でもあった。溝118の北側の道跡10と南側には硬化面があり、小規模な道跡が存在し、溝跡114の東側で道跡11の新段階に取り付き、溝跡113の埋没凹地中も硬化部は続いていた。

近世以降の溝跡については、先ず解れておかなければならないのはR・S区に存在していた昭和30年頃に開田の水田である。その水田は、昭和58年まで住居跡232（h＋0.4m161＋3.5m）と住居跡188（l＋4.5m

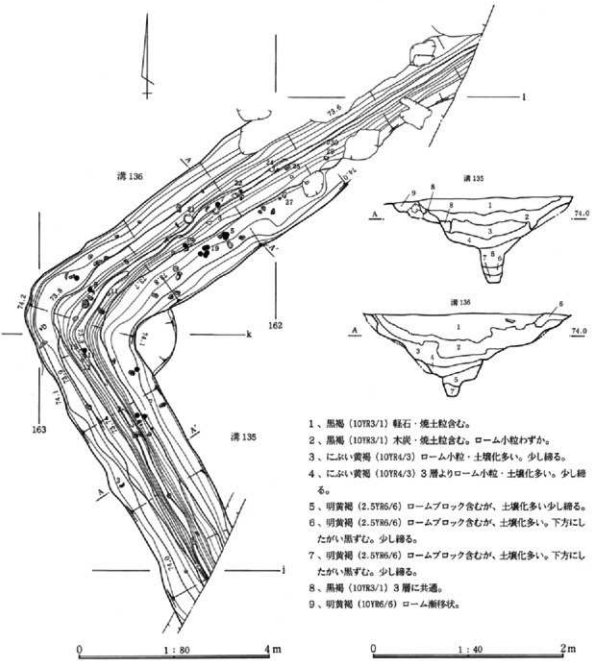


第730図　溝跡121遺構図



1、黒褐（10YR3/1）軽石少。1′は粗質。
2、黒褐（10YR3/1）砂質。マンガン塊5 mm～1 cm大・砂を主とする。
3、暗褐（10YR3/1）少し黒ずむ。粘性は他と同じ程度。木炭粒わずか入る。土器多。
4、黒褐（10YR3/1）1～3層より粘性。4′は砂少し含み、4より粗。
5、黒褐（10YR3/1）ローム粒わずか入る。
6、にぶい黄褐（10YR6/4）壁崩落土含む。ローム粒主とし粘性。
7、にぶい黄褐（10YR6/4）ローム壁崩落。
8、黒褐（10YR3/1）少し灰色がかるシルト質。還元気味。
9、黒褐（10YR3/1）砂と粘性土が主でローム小粒わずか含む。
10、黒褐（10YR3/1）砂。流水層。
11、黒褐（10YR3/1）少し灰色味あり。砂質。還元気味。
12、黒褐（10YR3/1）少し茶色味あり。砂質。硬化気味。
13、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多い。
14、黒褐（10YR3/1）ロームブロック。
15、黒褐（10YR3/1）ロームブロック。
16、黒褐（10YR3/1）少し灰色。かなり砂質。
17、明黄褐（10YR6/6）地山ブロック入り、砂質。

第731図　溝跡130遺構図



第732図　溝跡135・136遺構図

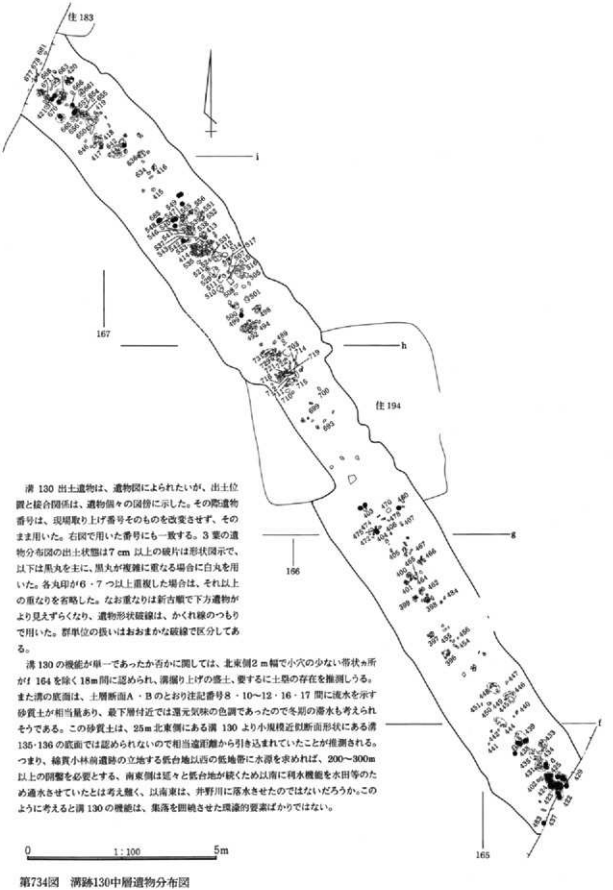
165＋2.8m）とを結ぶ偏角N62°Eの方向の畑地と水田境が存在していた。その水田の底面はローム層上面～同漸移層標高74.3m付近にあり、昭和58年以降は畑地と化すこととなった。したがって溝跡113埋没の跡地に設けられてい狭長な区画も造成により畑地となった。溝跡145、同146、同147などその水田域とは20m以上離れているが、流水の形跡のある砂質土があり、同水田の機能時の排水路の可能性と、その3溝以南に存在していた民家の屋敷巡り北溝の跡とも考えられる。またこの一群とは別に溝115、同116、同119などの一群も溝跡の最終は、浅間山A_s－Aを含む埋没土であることが確認されている。以上、概括的に触れたが溝跡114、溝跡139など個別項で触れたい。

溝跡113・114・115・116・118・119　（第729・762・763・803図、写真図版120・121・236・237）

溝 130 は、多時期・密度濃い遺構重複の当遺跡中、最も遺構集中から外れた場所にあり、遺存にとって幸運であった。主要な重複は、昭和 58 年の圃場整備前代に存在していた水田に上面を、住 194・183 に一部を削られていたほかはなかった。そのため発見面は、旧水田の耕作土直下のローム層上面であった。遺構密度との係わりは、溝 130 の目的と機能に関連する点でもある。溝 130 は、出土遺物によって古墳時代前期の古式土師器盛期に近い時期の構築である。前期の住居跡分布は当遺跡中、密度と住居跡の方向性などによって数群に分けることが可能で、溝 130 は、最北の大形住居跡を含む一群と以南Q区に続く一群との間にあり、最北の一群は一辺9 m を超え、嗣跡を伴う首長層級の住居を含む単位であり、古地も、井野川や対岸の下滝天水遺跡側から直線的に見られる景観上重要な位置にある。さらに微地形ながら準高所でもある。この首長級住居を含む単位が一群を構成していたことは、溝 130 が区界の機能を果たしていたと考えられる。

調査は、当初の掘り下げ段階から相当量の遺物出土があり、試掘兼主要土層断面A・Bトレンチによって約1 m の深さがあることも知れ、70 名近い発掘作業員数からくる調査能力も考慮して、調査の方法を上・中・下層の3 層分離による遺物取り上げで行なうことに決めて実施した。

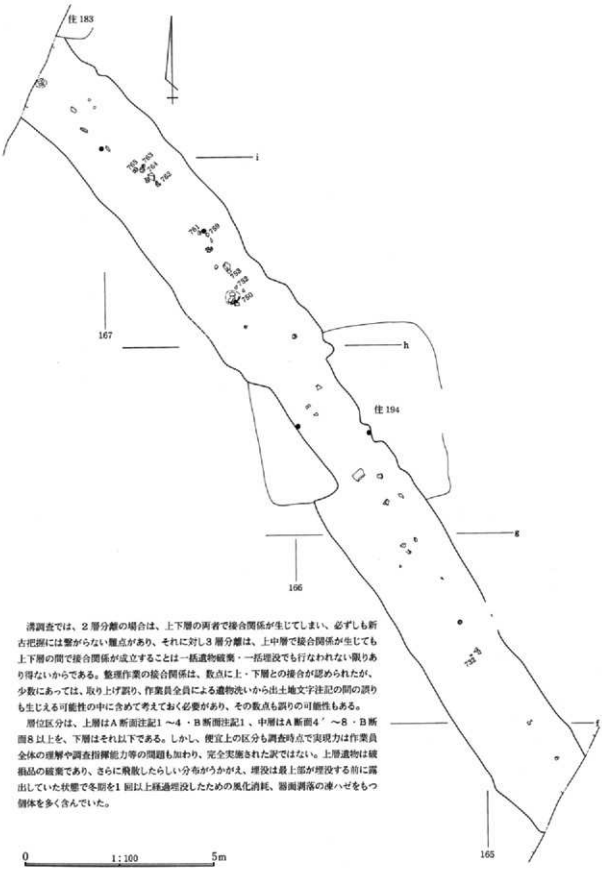
第733図　溝跡130上層遺物分布図



溝 130 出土遺物は、遺物図によられたいが、出土位置と接合関係は、遺物個々の図替に示した。その際遺物番号は、現場取り上げ番号そのものを改変させず、そのまま用いた。右図で用いた番号にも一致する。3 葉の遺物分布図の出土状態は7 cm 以上の破片は形状図示で、以下は黒丸を主に、黒丸が複雑に重なる場合に白丸を用いた。各丸印が6・7 つ以上重複した場合は、それ以上の重なりを省略した。なお重なりは新古順で下方遺物がより見えずらくなり、遺物形状破線は、かくれ線のつもりで用いた。群単位の扱いはおおまかな破線で区分してある。

溝 130 の機能が単一であったか否かに関しては、北東側2 m 幅で小穴の少ない帯状ｍ所が f 164 を除く 18m 間に認められ、溝掘り上げの盛土、要するに土塁の存在を推測しうる。また溝の底面は、土層断面A・B のとおり注記番号8・10～12・16・17 間に流水を示す砂質土が相当量あり、最下層付近では還元気味の色調であったのでを冬期の溜水も考えられそうである。この砂質土は、25m 北東側にある溝 130 より小規模近似断面形状にある溝 135・136 の底面では認められないので相当遠距離から引き込まれていたことが推測される。つまり、縄貫小林前遺跡の立地する低台地以西の低地帯に水源を求めれば、200～300m 以上の開墾を必要とする、南東側は延々と低台地が続くため以南に利水機能を水田等のため通水させていたとは考え難く、以南東は、井野川に落水させたのではないだろうか。このように考えると溝 130 の機能は、集落を囲繞させた環濠的要素ばかりではない。

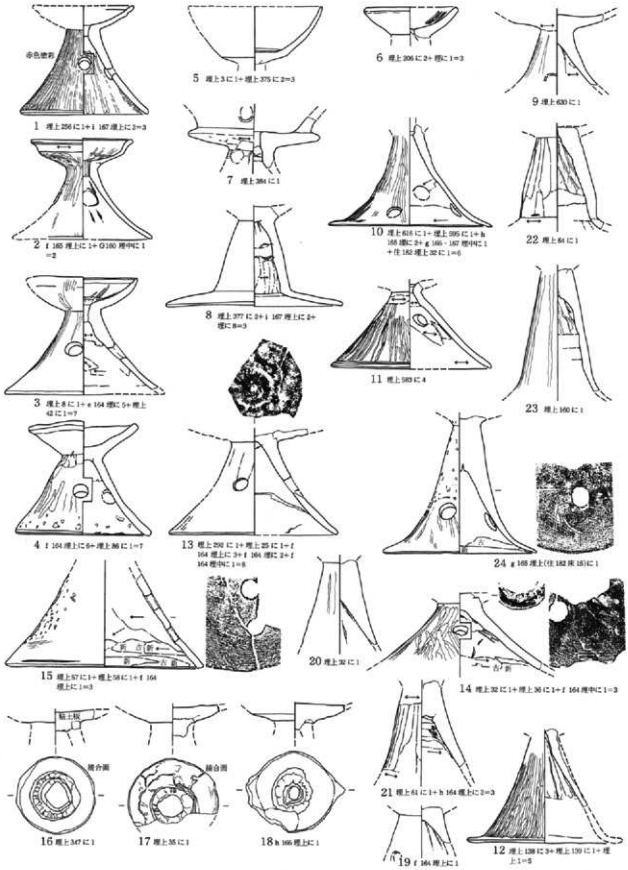
第734図　溝跡130中層遺物分布図



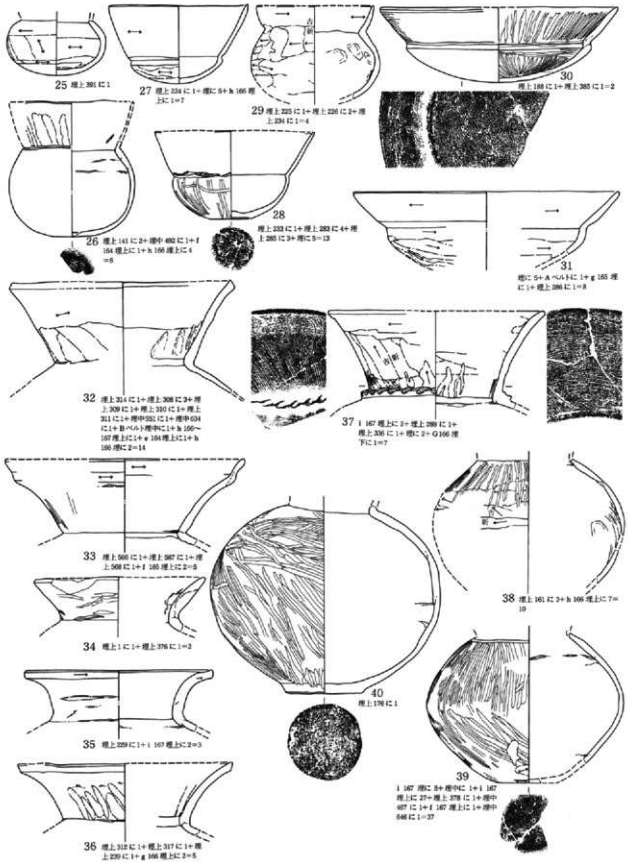
溝調査では、２層分離の場合は、上下層の両者で接合関係が生じてしまい、必ずしも新古祀据には整がらない難点があり、それに対し３層分離は、上中層で接合関係が生じても上下層の間で接合関係が成立することは一括遺物廃棄・一括埋設でも行なわれない限りあり得ないからである。整理作業の接合関係は、数点に上・下層との接合が認められたが、少数にあっては、取り上げ誤り、作業員全員による遺物洗いから出土地文字注記の間の誤りも生じえる可能性の中に含めて考えておく必要があり、その数点も誤りの可能性もある。

層位区分は、上層はＡ断面注記１～４・Ｂ断面注記１、中層はＡ断面４′～８・Ｂ断面８以上を、下層はそれ以下である。しかし、便宜上の区分も調査時点で実現力は作業員全体の理解や調査指揮能力等の問題も加わり、完全実施された訳ではない。上層遺物は破損品の廃棄であり、さらに飛散したらしい分布がうかがえ、埋設は最上部が埋設する前に露出していた状態で冬期を１回以上経過埋設したための風化消耗、器面剥落の凍ハゼをもつ個体を多く含んでいた。

第735図　溝跡130下層遺物分布図

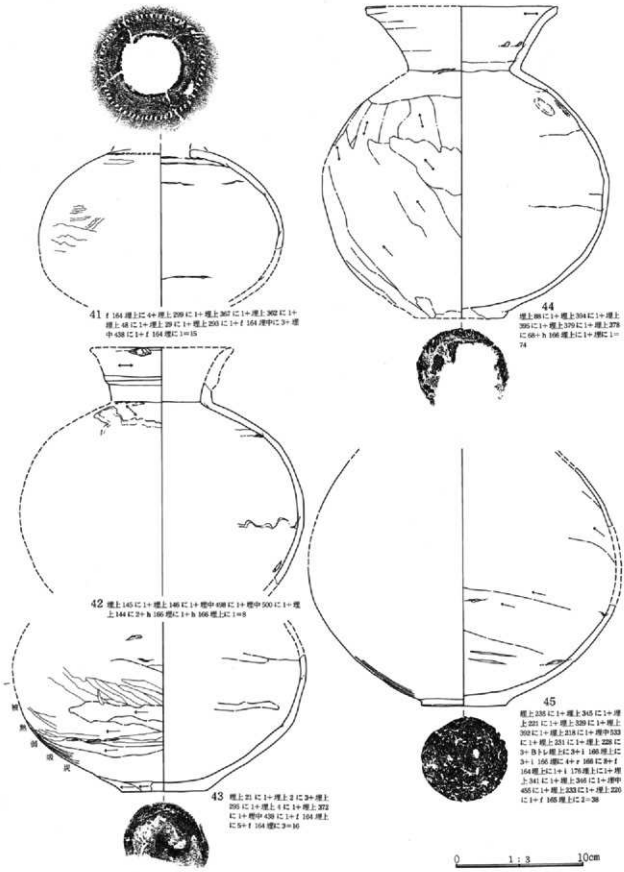


第736図　溝跡130遺物図

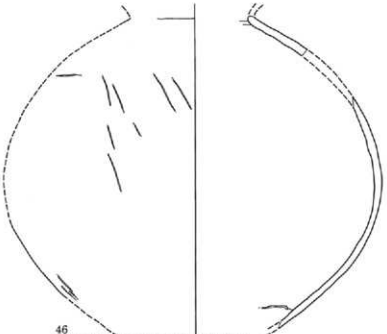


第737図　溝跡130遺物図

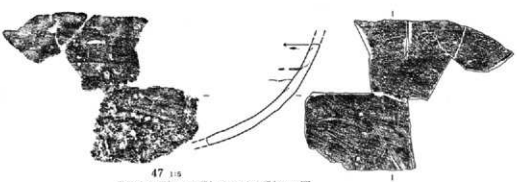
0　1：3　10cm



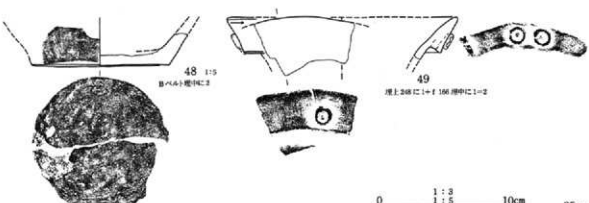
第738図　溝跡130遺物図



46
埋上136に1+埋中431に4+f 164埋に8+埋中424に2+埋上293に1+f 164埋上に25+埋中423に2+埋上300に1+埋上296に1+f 164埋中に2+埋上14に1+埋上301に1+埋上10に1+埋上に2+埋上12に1+埋上27に1+埋上9に1+埋上40に1+e 164埋に1+埋上45に1+埋中439に1+埋上58に1+埋上365に1+埋上364に1=62



47 1:5
埋上30に1+埋上26に1+埋中734に1+f 164埋上に1=4(図示を除く観片全35．埋上72に1+埋中446に4+埋中449に1+埋中439に1+埋中479に1+埋上420に1+埋中729に1+i 166に1+h 166埋上に1+g 168に5+g・h 166埋に1)

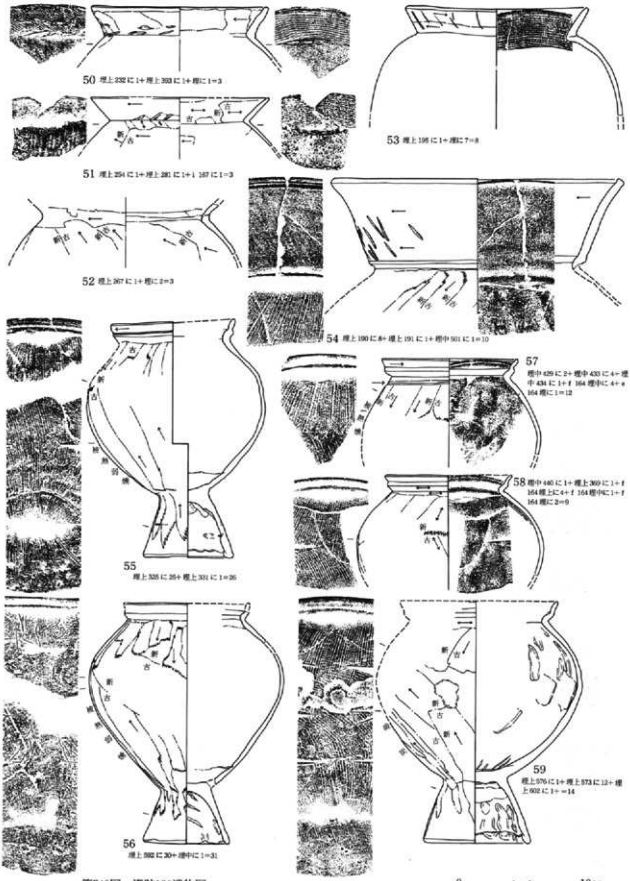


48 1:5
魯ベルト埋中に3

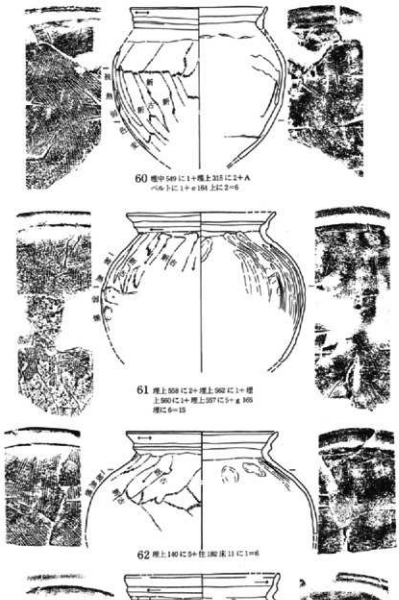
49
埋上248に1+f 166埋中に1=2

0　1:3　1:5　10cm　25cm

第739図　溝跡130遺物図

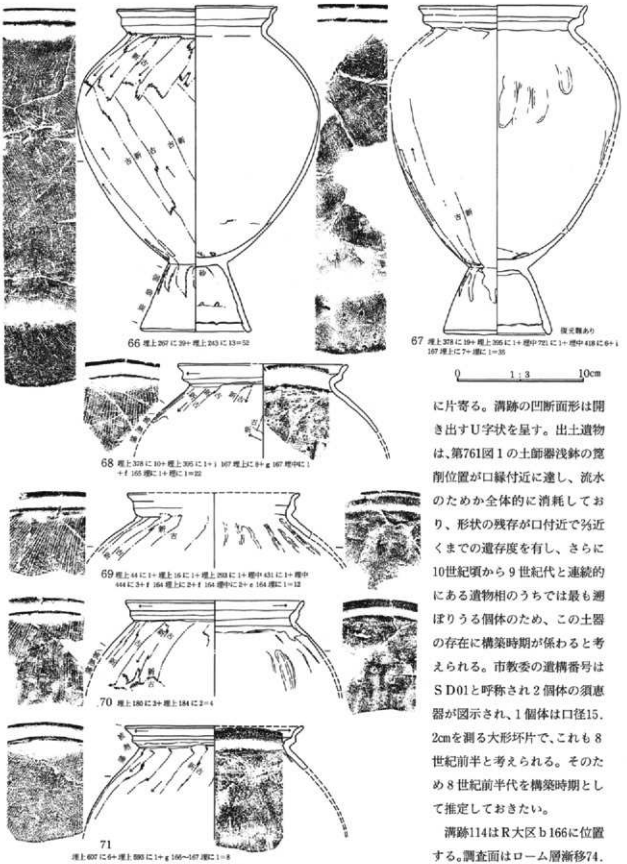


第740図　溝跡130遺物図



第741図　溝跡130遺物図

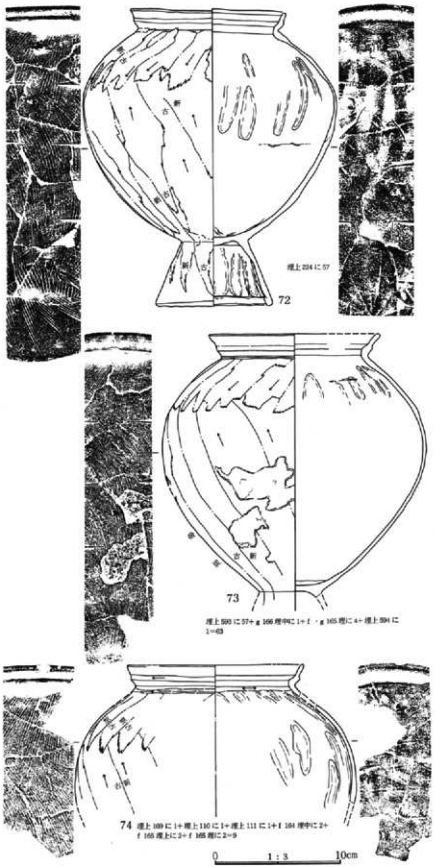
溝跡113はＲ大区ａ～ｇ166～168にあり、調査面はローム層上面から同漸移標高74.3m付近である。上面は近世以降の水田化によってと考えられ標高74.3m付近で削平され第803図中わずかに畦跡痕を示めす酸化斑が存在していた。第729図Ａ断面注２が耕作土でその右端に畦らしき高まりあり、下方が酸化斑をなす。その下方注５はA_s－Ａを含み、５はA_s－Ｂを含み中・近世前半が考えられそうな層があり、注７がA_s－Ｂ降下前代に存在したと見られる黒色土味の強い層がある。流水の痕跡は注７から以下においてである。最下部の注14に至るまで砂質土をまじえるのと掘直しを思わせる急な小溝の立ち上りが認められる。この溝跡113は整理担当である筆者と数人の男性作業員と重機によって排土を行なった。排土中に遺物存在時や、溝埋土中の礫面、硬化カ所（道跡に関連）が存在時には重機をそのつど止めて確認作業を行なった。その結果、ｇ168の埋土上～下層でNo47を、ｃの167ライン付近の最下層でNo１を得ることができた。ｃ167の埋土上層で溝跡114の北東側と溝跡118の北側に取り付いていた道跡10も延長部を認めることができた。溝跡113の規模は、上端幅440cm、深168cm、全体の溝底面走行を基にN19°15′Wを測る。全体的には直線ではなく、少しづつ東、西



第742図　溝跡130遺物図

に片寄る。溝跡の凹断面形は開き出すU字状を呈す。出土遺物は、第761図1の土師器浅鉢の篦削位置が口縁付近に達し、流水のためか全体的に消耗しており、形状の残存が口付近で⅓近くまでの遺存度を有し、さらに10世紀頃から9世紀代と連続的にある遺物相のうちでは最も遡ぼりうる個体のため、この土器の存在に構築時期が係わると考えられる。市教委の遺構番号はSD01と呼称され2個体の須恵器が図示され、1個体は口径15.2cmを測る大形坏片で、これも8世紀前半と考えられる。そのため8世紀前半代を構築時期として推定しておきたい。

溝跡114はR大区b166に位置する。調査面はローム層漸移74.1m付近である。排土は重機を用

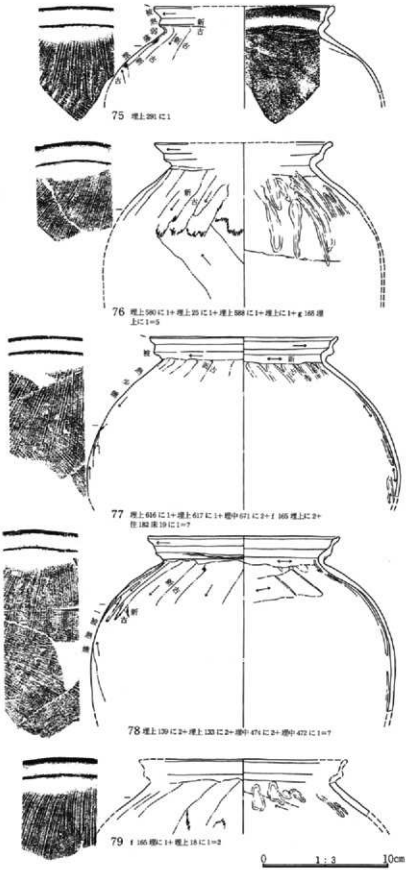


第743図　溝跡130遺物図

い、溝跡113を掘り上げる過程で存在を確認し、溝跡118から続き、北側に礫石を伴なうやや硬化した状態が西へと続いて存在しており、さらに南西側にも小礫を伴む平坦な面があった。その平坦面は第729図中の注11・12に相当するが前代の道になるのかは明確でなかった。溝跡114は同断面注24を捉えたが最深部は注12の下面であり、わずかな凹みとなるが砂質土が入り流水の形跡がある。規模は幅150cm、深さ24～55cm、方向はおよそN50°Wを測る。遺物は第762図１に砂岩製穀臼の上臼片があること、延長溝の溝跡118の当初に繋ると考え中世の構築を想定しておきたい。

溝跡115は、溝跡116計２条の溝の西寄りを溝跡115、東寄りを溝跡116として捉えて名称をあたえたがともに一条の溝の掘り直しの結果と考えられた。埋土は下方までA_s－Aを含む粗質な埋土であった。規模は両溝の幅で256cm、深さ80cm、溝116の底面の走行を基に方向はN37°Wを測ることができる。遺物は第762図Bに寛永通宝があるほか近世陶磁片の出土があった。埋土によればA_s－A以降の１機能しているが、出土陶磁器に18世紀代の個体もまじえるため江戸時代後期以降の構築としておきたい。

溝跡119はＲ大区ｂ～ｄ167～169にあり、調査面はロー

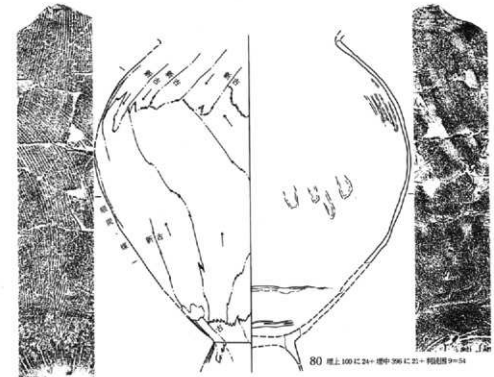


第744図　溝跡130遺物図

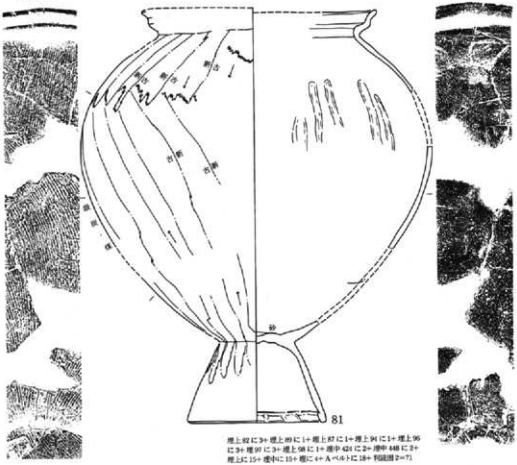
ム層上面～同漸移層標高74.2m付近である。溝跡115、同116に並走し、ともに水田農耕に係わる用水路であろう。埋土は上層の覆土でA_s－Aを含むほかは、その前代の埋土で占めるため前出の2条より先行することになる。規模は、上面幅208cm、深さ80cm、最底部の下端を基にN51°Wを測る。遺物は第762図6の美濃焼擂鉢があり18世紀以前の個体と考えられる。

溝跡118はR大区c169にあり、調査面はローム層漸移標高74.3m付近である。西接のR区西では溝跡85、Q区では溝跡82としたが一連の溝跡である。Q区では北側に70cmの道跡と南側にも硬化面が道跡と考えられた。第728図断面eでは北接の注0・10に道跡（第802図）は見られ、最下層は注14にある綿りのある道跡10に繋る。注14は溝跡118の上層部でもあり、埋没過程の同溝内も道として機能していたらしい。この注14の道跡は東方にある溝跡113の埋没凹地を越え、溝跡114の北東側を登り上げていた。溝跡118の規模は上幅で208cm、深さ80cm、Q区から延長上の方向でN68°Wを測る。遺物はほとんどなく、上方の埋土中から第762図5の呉須吹墨による大正頃の碗片がある。

溝跡121・122・123・124・125・126・127・128・129（第730・760・762・763図、写真図版122・



80 埋上100に24＋埋中396に21＋利用図9＝54

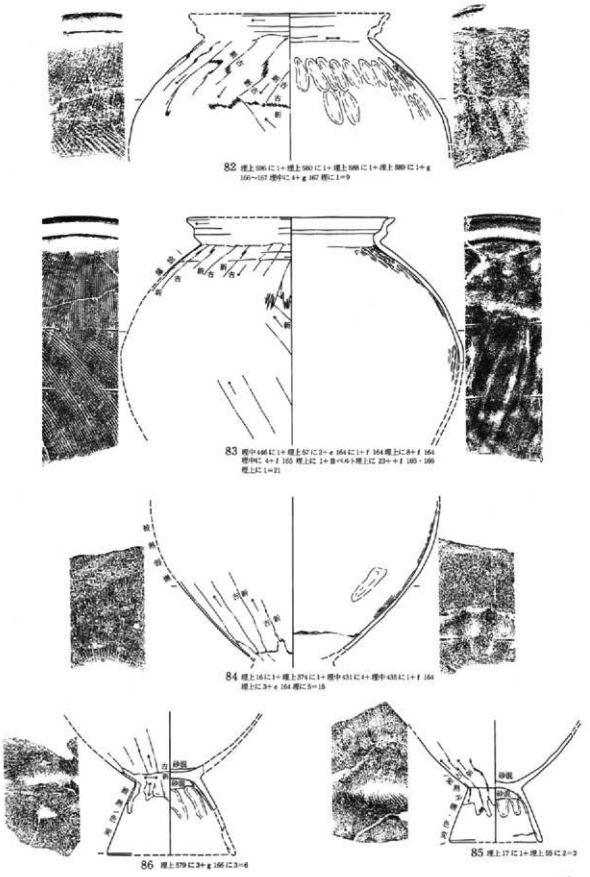


81

埋上92に3＋埋上89に1＋埋上87に1＋埋上94に1＋埋上95に3＋埋97に3＋埋上98に1＋埋中424に2＋埋中448に3＋埋上に15＋埋中に15＋埋に4＋Aベルトに18＋利用図2＝71

第745図　溝跡130遺物図

0　1：3　10cm



82 埋上596に1＋埋上580に1＋埋上588に1＋埋上589に1＋g 156～157埋中に4＋g 167埋に1＝9

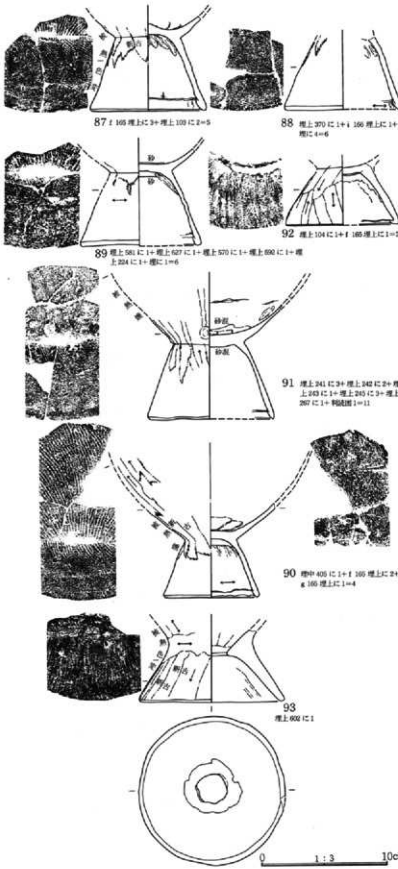
83 埋中446に1＋埋上67に23＋e 164に1＋f 164埋上に8＋f 164埋中に4＋f 165 埋上に1＋Bベルト埋上に23＋＋f 165・166埋上に1＝21

84 埋上16に1＋埋上374に1＋埋中431に4＋埋中435に1＋f 164埋上に3＋e 164埋に5＝15

86 埋上579に3＋g 166に3＝6

85 埋上17に1＋埋上58に2＝3

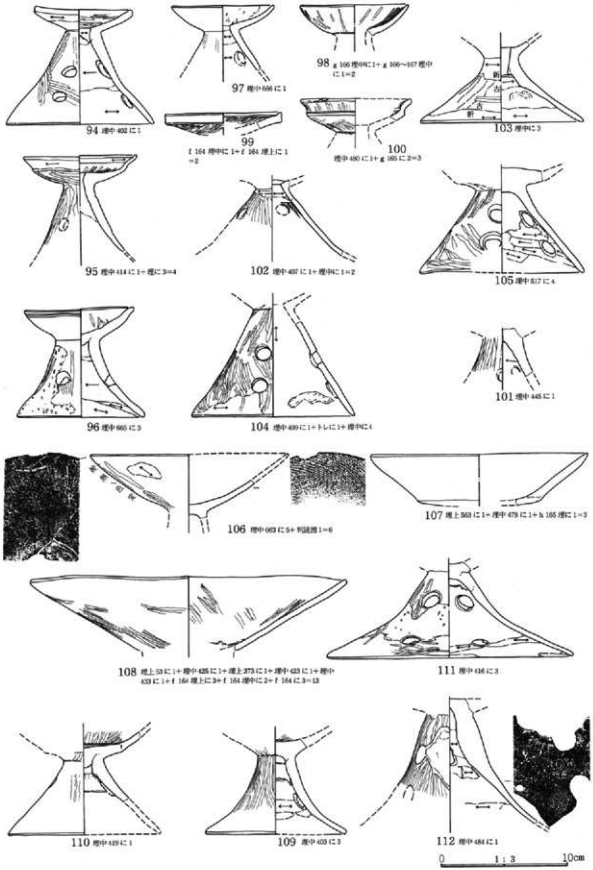
第746図　溝跡130遺物図



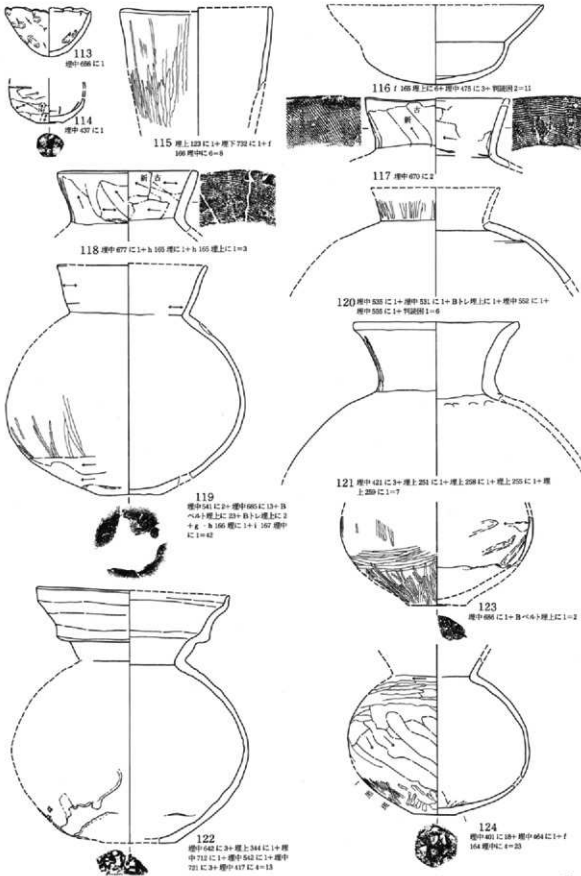
第747図　溝跡130遺物図

236・237)

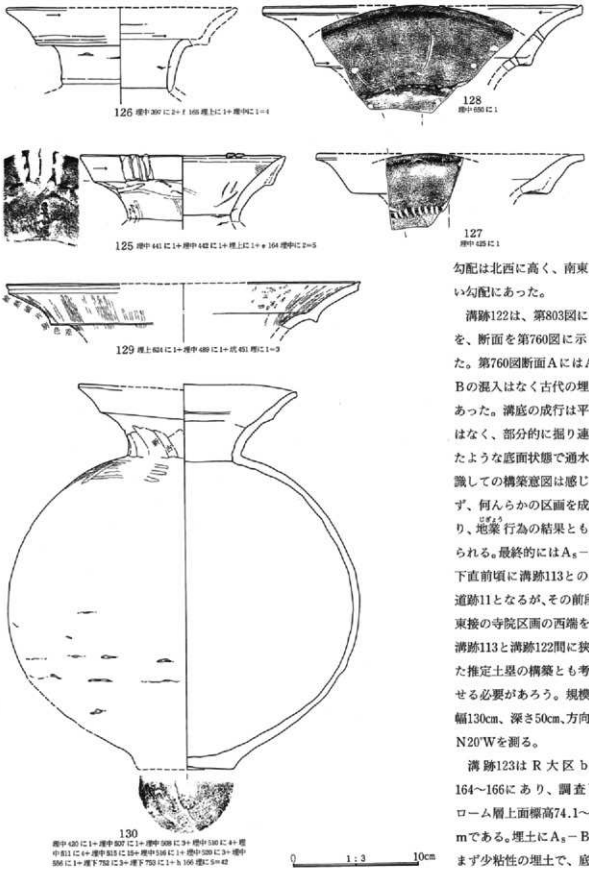
溝跡121はＲ大区ｇ～ｋ163～166にあり、調査面はローム層上面で標高73.4m、上面は昭和30年頃に開田された水田耕土(第730図注２)を覆土とする。同注記３の左端はさらに左上へと延びようとする方向性にあり、幅はもっと広がるのかもしれない。北側には小規模な溝跡133、同134が並走する。土層断面Ａは、水田の耕土となる注２以前に注３の溝跡がある。この溝跡は狭長な水田区画の存在していた頃の水路跡かもしれない。それは、地山であるローム層上面が溝跡121と境に北側が約20cm程高くなる一因として水田の存在を考えたい。さらに注４以下が残存の溝跡121の埋土で、いずれもA_3－Ｂをまじえ、注5・6は粘性があり、もには流水の形跡のある砂質土がある。６は黒味のある還元気味の粘性土で、調査中も若干の湧水滞水があった。溝跡の中央付近には、第785図に示した橋脚を推定した１間柱穴が240cmの柱間をもって並ぶ。規模は上面幅308cm、深さ120cm、方向性は直線的な底面の成行でＮ38°15′Ｗを測る。遺物は第763図に示した近世後半以降の瓦が上層から出土し、中層以下の埋土からは構築時期と示唆する土器片は一つもなかった。その点から地域の土器生産不毛の12・13・14ｃ前半頃までを考えたくなる。なお底



第748図　溝跡130遺物図



第749図　溝跡130遺物図

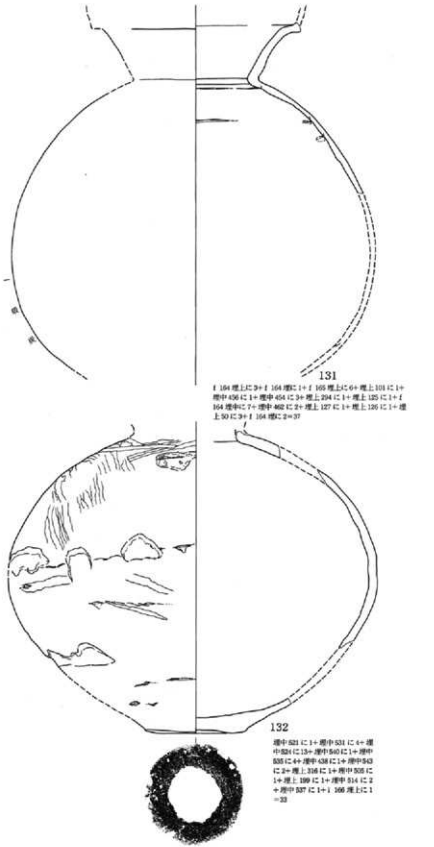


第750図　溝跡130遺物図

勾配は北西に高く、南東に低い勾配にあった。

溝跡122は、第803図に平面を、断面を第760図に示めした。第760図断面AにはA$_s$－Bの混入はなく古代の埋土であった。溝底の成行は平らではなく、部分的に掘り連らねたような底面状態で通水を意識しての構築意図は感じられず、何んらかの区画を成したり、地築（じぞう）行為の結果とも考えられる。最終的にはA$_s$－B降下直前頃に溝跡113との間が道跡11となるが、その前段に、東接の寺院区画の西端を成す溝跡113と溝跡122間に挟まれた推定土塁の構築とも考え合せる必要があろう。規模は上幅130cm、深さ50cm、方向性はN20°Wを測る。

溝跡123はR大区b～d164～166にあり、調査面はローム層上面標高74.1～74.2mである。埋土にA$_s$－Bを含まず少粘性の埋土で、底面は部分的に鋤先を思わせる土掘

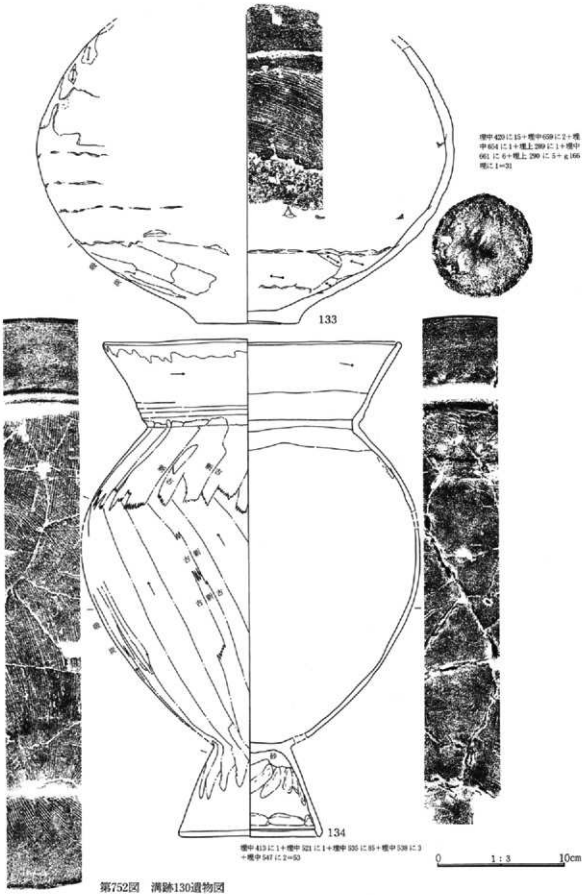


第751図　溝跡130遺物図

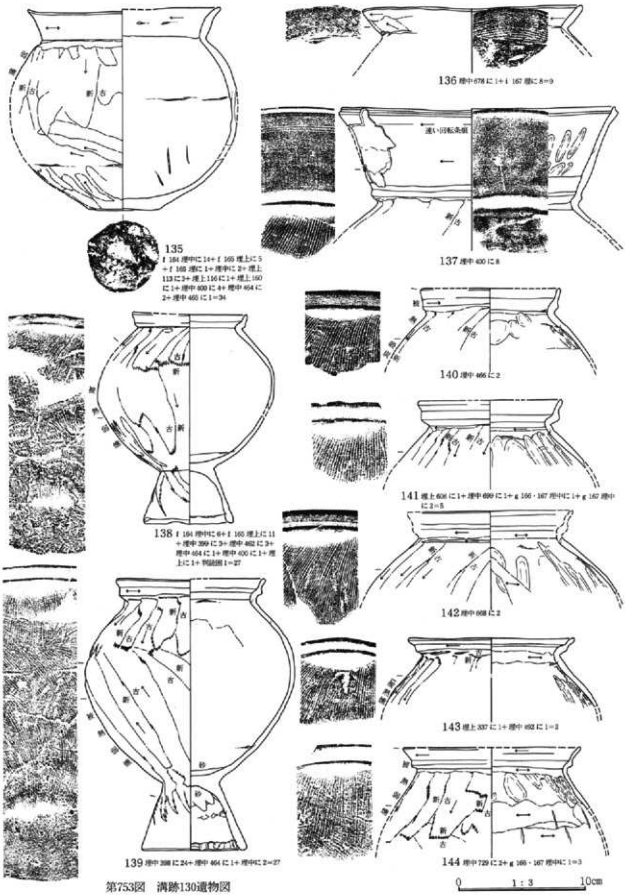
具刃型が残され、周囲の溝跡122、同124の底面と異なり北東下りの底面がゆるやかに続く。平面確認上の重複は溝跡113との関係は不明。溝跡122が先行し、溝跡124が後出してある。規模は幅60cm、深11cmを、方向は他の溝と異なり東偏し、N33°Eを測る。遺物は微弱であるが溝跡113に並走する溝群に挟まれた時期の構築と考えれば平安時代でも遡った時期ではないだろうか。

溝跡124、溝跡129はR大区c～g165・166にあり、調査面はローム層上面標高74.3～74.2mである。両溝は同一溝が分断したとも方向性と底面幅大の横断面形状は近似しているため考えられる。埋土にA_0－Bは入らずロームブロックを含み、幅広の底面形を有する点などは溝跡122などに共通しているため、地業溝の可能性がある。地業溝とした場合、溝跡122は土塁構築関連を推定したが、溝跡122・129の場合、説明理由や素材不足であり結論を保留したい。構築時期は第763図３に土師器甕片があるが、時期特定は困難である。重複順からすれば平安時代でも遡ぼる頃である。

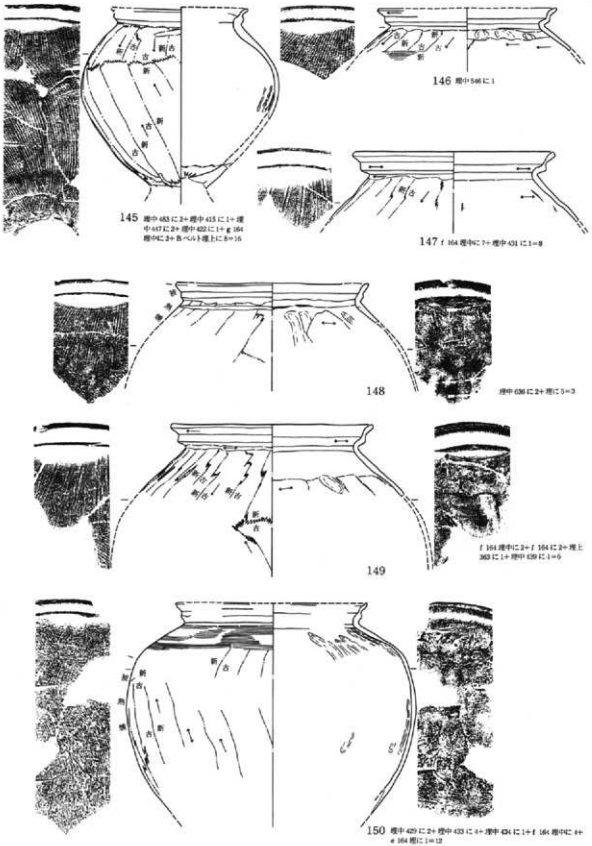
溝跡125、溝跡126、溝跡127は溝跡113東側に並走する小溝跡で、平面図は、第803図、土層断面は第760図である。３溝はR大区a～f165・166にあり、調査面はローム層漸移～ローム層上面標高74.2m付近である。規模



第752図　溝跡130遺物図

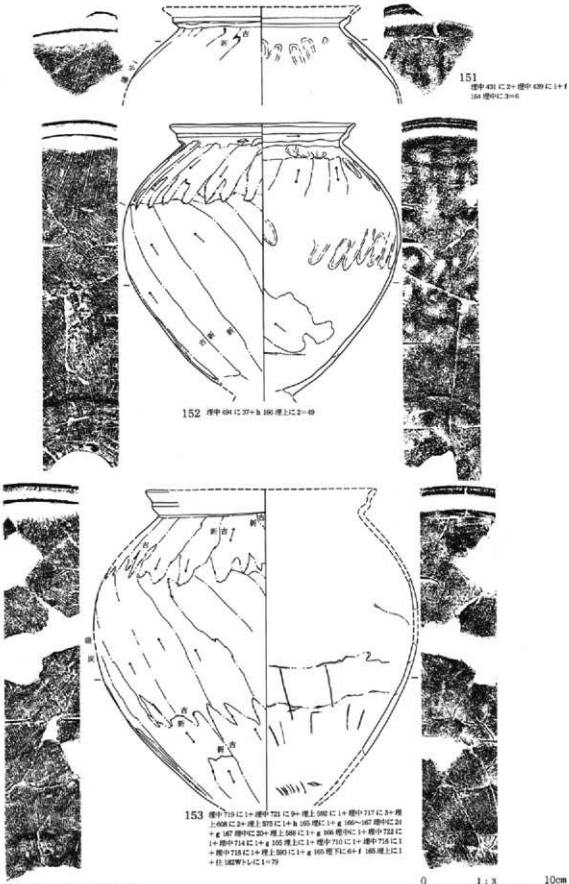


第753図　溝跡130遺物図

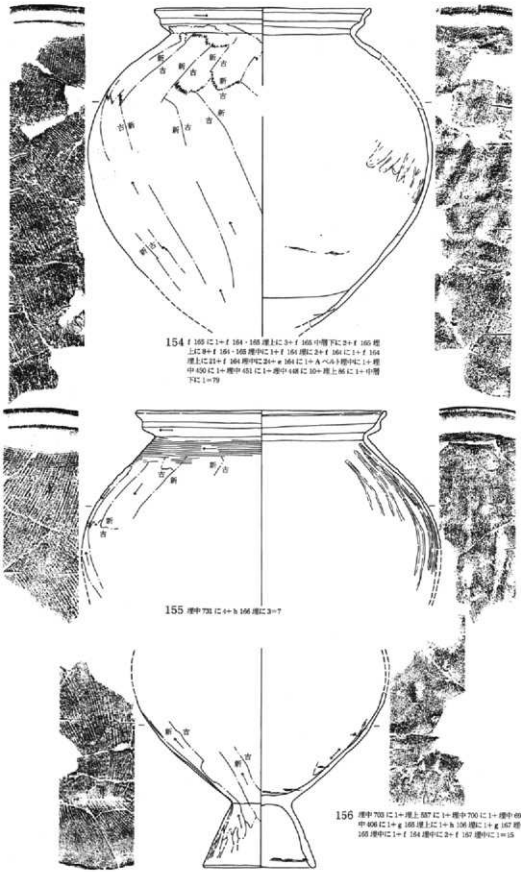


第754図　溝跡130遺物図

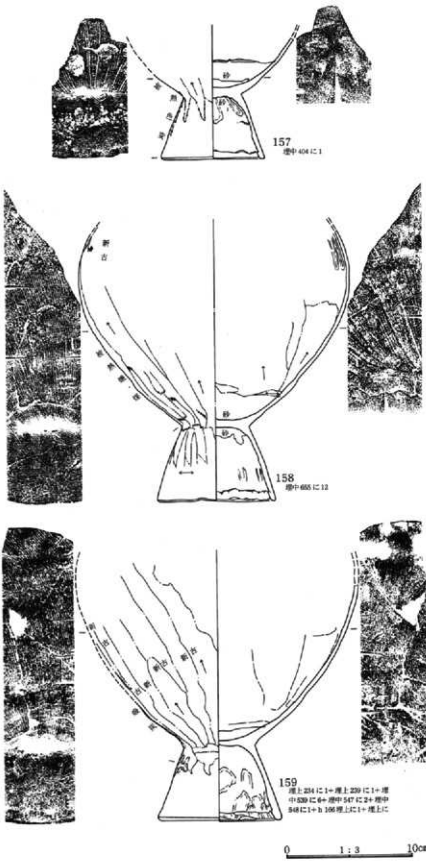
0　1：3　10cm



第755図　溝跡130遺物図

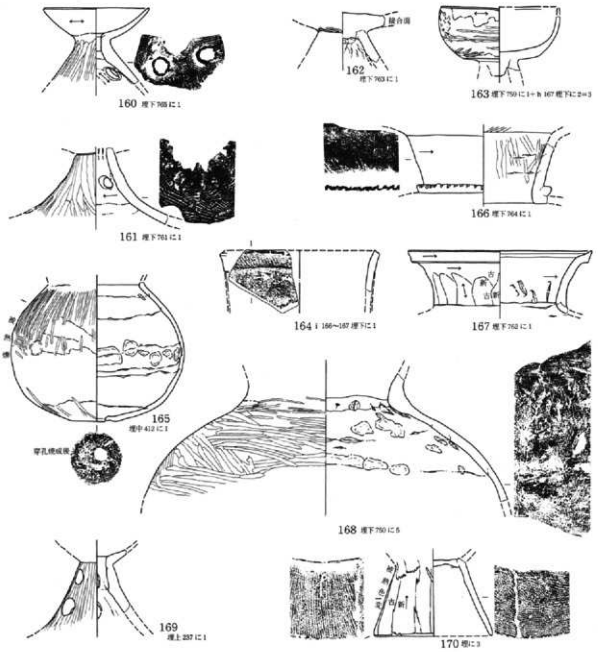


第756図　溝跡130遺物図



第757図　溝跡130遺物図

溝跡125は幅80cm、深さ41cm、方向は底の走行でN23°Wを測る。溝跡126と同127は幅72cm、深さ11cm、方向は底の走行でN22°Wを測る。溝跡125は溝跡123の東肩側以東にあり、部分的に溝としての東西立上りを見るが大半は溝113側は流出している。第803図土層断面Ａ～Ｃは、第760図溝跡125・126土層断面Ａは、第803図断面Ｂであり、第760図溝跡126・127、溝跡122断面Ａ・Ｃは第803図断面Ａと同じであるので第803図を用いて説明すると、Ａ断面では溝跡125は注1・2がその埋土でA_s－Ｂを混え硬化しているので幅240cmの硬化面が続く。トーン貼中の注2・4は、注２が溝跡126・127の埋土であり、トーンは硬化顕著を示す。この面上と埋土中には小礫が敷詰められたように存在していたが、礫そのものは、地山中のローム層は水性２次堆積で礫をまじえるため、含まれた礫で人為面を成したのであろう。同断面Ａ′点から左側168cmまでが溝跡122の埋土であり、A_s－Ｂは入らない。第803図Ｂ断面では注1・2にA_s－Ｂが入り、３は入らないため溝跡は前代に遡る。右側Ｂ′から80cm左側にある土層注２の位置が溝跡122である。土層断面Ｃは溝跡122を捉えたものであるが左寄りの48cmの深さの溝跡が同122で注２の上方までA_s－Ｂ入る。前代土塁の痕跡はＡ断面Ａ点から320cm右側



第758図　溝跡130遺物図

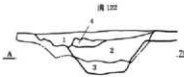
0　1：3　10cm

にある注5・6が痕跡であり、B断面ではB点から160cm右側の注3′がそれである。小穴群はいずれもA_5－B降下後に行なわれている。なお溝跡126と同127とは同じ溝跡である。

溝跡128、同129はR大区g166・167にあり、各々溝跡122と溝跡124の延長上の溝跡と考えられるが、道跡11下の土墨状痕跡、溝跡122、同124がgライン付近を境に断続することについては以東にも小穴の少ない空間が続くので強い意味がありそうであり、通路的な空間なのかもしれない。寺院跡中軸から北へ35m遡った位置に相当する。

溝跡135・同136　（第11・732図、写真図版120・123・237）

位置はR大区ｉ～ｌ161～163にあり、調査面はローム層上面～ローム漸移層標高74.2mである。折れ曲る



溝 122　Ａ－Ａ′

１、黒褐（10YR3/1）軽石粒入る。他は入らず。

２、黄褐（10YR5/6）１層にブロック多く入る。

３、灰黄褐（10YR4/2）ローム漸移的。

Ｂ－Ｂ′

１、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少し入る。

２、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多く入る。流水痕なし。

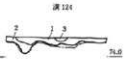
３、黒褐（10YR3/1）ロームブロック多く入る。少し締る。

４、黒褐（10YR3/1）ロームブロック少し入る。

溝 123

１、黒褐（10YR3/1）軽石含む。

２、黒褐（10YR3/1）少し締る。

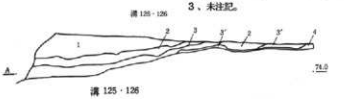


溝 124

１、黒褐（10YR3/1）ローム小粒含む。

２、黒褐（10YR3/1）ロームロック多い。

３、未注記。



溝 125・126

１、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ｂ混じり、粗質。

２、黒褐（10YR3/1）粘性。上方Ａｓ－Ｂ混じる。

３、黒褐（10YR3/1）ローム粒わずか入り、粘性。３′は締る。

４、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム漸移的。締る。

溝 126・127

１、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ｂ混じり、粗質。

２、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ｂ混じり、締る。硬化。ローム小粒入る。

３、黒褐（10YR3/1）２層にほとんど同じ。

４、灰黄褐（10YR4/2）ローム小粒入る。

溝 122　Ｃ－Ｃ′

５、黒褐（10YR3/1）軽石入る。

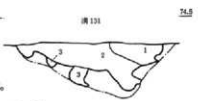
６、灰黄褐（10YR4/2）ロームブロック入る。

７、灰黄褐（10YR4/2）ロームブロックやや多い。

８、黄褐（10YR5/6）ローム土壌化を主とする。

溝 128

１、黒褐（10YR3/1）黒味あり。軽石見えず。

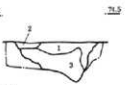


溝 131　Ａ－Ａ′

１、黒褐（10YR3/1）漸移状～黒軽石粒入る。他は入らず。

２、黄褐（10YR5/6）１層にブロック多く入る。

３、にぶい黄褐（10YR7/4）ロームブロック多い。



Ｂ－Ｂ′

１、黒褐（10YR3/1）軽石見えず。

２、黒褐（10YR3/1）軽石見えず。

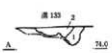
３、黒褐（10YR3/1）１・２層より黒っぽい。

溝 129

１、黒褐（10YR3/1）木炭を多く含む。

２、黒褐（10YR3/1）焼土粒わずか含み、粘性。

３、明黄褐（10YR6/6）ローム大ブロック含む。



溝 132

１、黒褐（10YR3/1）粘性。軽石入る。

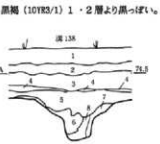
２、黄褐（10YR5/6）ロームロック主。

溝 133・134

１、黒褐（10YR3/1）軽石・焼土粒含む。

２、黒褐（10YR3/1）木炭・焼土粒含む。ローム小粒わずか。

６、明黄褐（2.5YR6/6）ロームブロック含むが、土壌化多い。下方にしたがい黒ずむ。少し締る。



溝 138

１、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ａ含む新土。

２、黒褐（10YR3/1）ロームブロックを多く含む。

３、黒褐（10YR3/1）昭和 30 年代以降水田耕土。

４、黒褐（10YR3/1）水田硬化層。

５、黒褐（10YR3/1）軽石含む。軟。

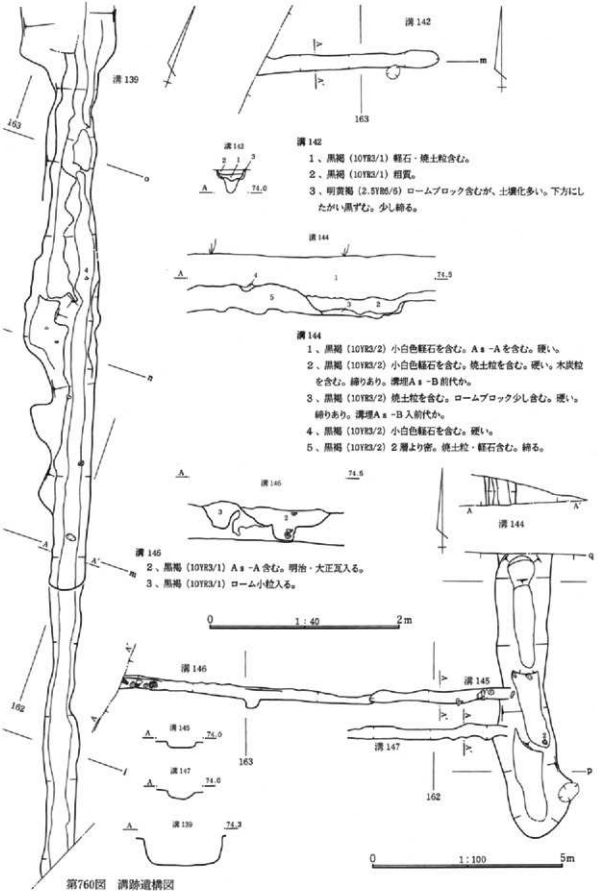
６、黒褐（10YR3/1）ローム小粒含む。軟。

７、黒褐（10YR3/1）ローム小粒含む。軟。

８、黒褐（10YR3/2）ローム小ブロックわずか含む。軟。

0　1：40　2m

第759図　溝跡遺構図



溝 142

1、黒褐（10YR2/1）軽石・焼土粒含む。
2、黒褐（10YR2/1）粗質。
3、明黄褐（2.5YR6/6）ロームブロック含むが、土壌化多い。下方にしたがい黒ずむ。少し締る。

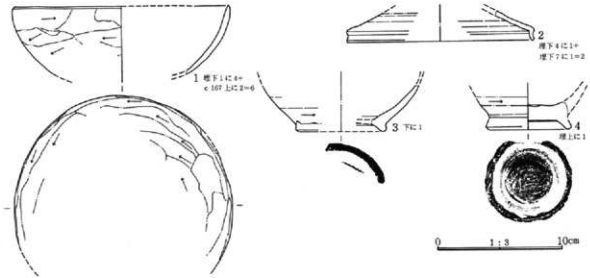
溝 144

1、黒褐（10YR2/2）小白色軽石を含む。Ａｓ－Ａを含む。硬い。
2、黒褐（10YR2/2）小白色軽石を含む。焼土粒を含む。硬い。木炭粒を含む。締りあり。溝埋Ａｓ－Ｂ前代か。
3、黒褐（10YR2/2）焼土粒を含む。ロームブロック少し含む。硬い。締りあり。溝埋Ａｓ－Ｂ入前代か。
4、黒褐（10YR2/2）小白色軽石を含む。硬い。
5、黒褐（10YR2/2）２層より密。焼土粒・軽石含む。締る。

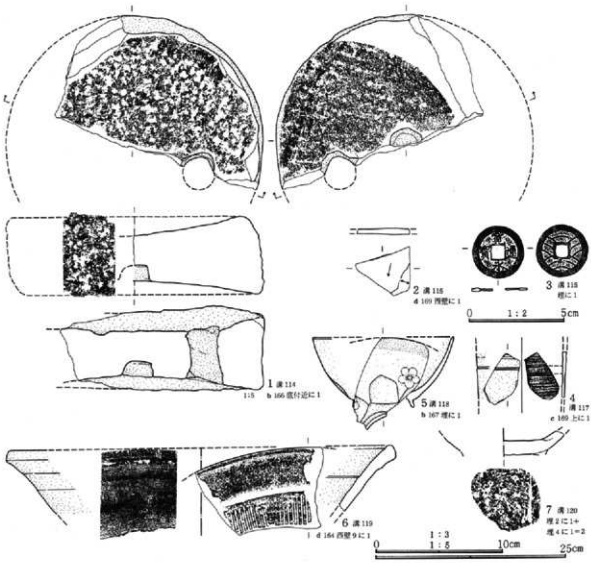
溝 146

2、黒褐（10YR3/1）Ａｓ－Ａ含む。明治・大正瓦入る。
3、黒褐（10YR3/1）ローム小粒入る。

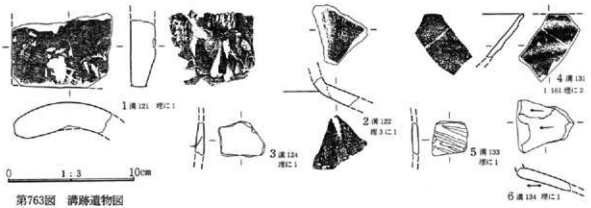
第760図　溝跡遺構図



第761図　溝跡113遺物図



第762図　溝跡遺物図



第763図　溝跡遺物図

1条の溝の各々に溝跡番号を付した。第732図中の土層断面A・Bは、断面薬研状を呈し、度々の掘直しの形跡は見えず、最下面に至るまで流水の形跡も薄く、灌漑用など水田経営上、設けられた溝と性格を異にしている。溝跡130ほど土器の出土はないが上層を中心に第764・765図の個体がある。溝跡130の量的な土器種構成に比らべると溝跡130の高坏、器台量と小形壺は、いちじるしく小形壺の占める割合が少ないのに対し、溝跡135、同136の場合は小形壺多く、器台は微弱であり、甕類は少なく壺系譜の個体がやや多い傾向にあり、時期的には、古墳時代中期様相にある。しかし第765図17に無文の台付甕台部片があり、器種として台付甕が存在しないと云うことではないようである。規模は溝の最大幅のある溝跡136の中程付近で224cm、深さ92cm、方向は溝跡135の底軸でN30°Wを、同136でN32°30′Eを指向する。なお溝底の高低は屈曲カ所付近が高く各々調査地外が低い傾向にある。

溝跡139　(第759・776図、写真図版123・238)

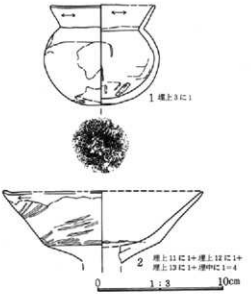
位置はR大区h～o161～163にあり、調査面はローム層上面標高74.2～74.3m。規模は幅198cm、深さ60cm、方向はN17°45′Wにある。埋土はA_5－Aを含み、南が高く、北に下る。遺物は第776図2のように明治印判の染付碗を含む近代の個体が新らしく、18世紀頃までの個体を含む。旧民家の屋敷城東限の溝跡の可能性があり、底面の高低は一率でない。

溝跡142、同144、同145、同146、同147　(第11・759・766図、写真図版238)

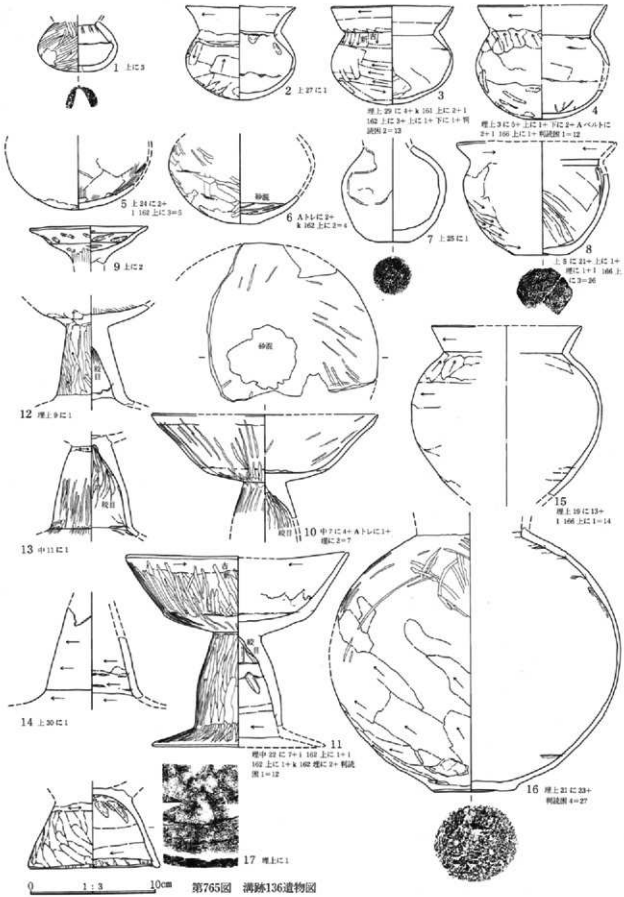
溝跡はR大区1m142・143にあり、調査面はローム層上面74.25mにあり、古代様の埋土の質感にあり、幅18cm、深さ23cm、方向は底面でN87°15′Eを測る。遺物は微弱であった。

溝跡144はR大区o～q161・162にあり、住居跡59、同202・204を切り、A_5－B降下前代の遺構である。規模は幅100cm、深さ23cm、方向はN6°Wを測る。遺物は第766図3・4の9世紀後半代の個体がある。

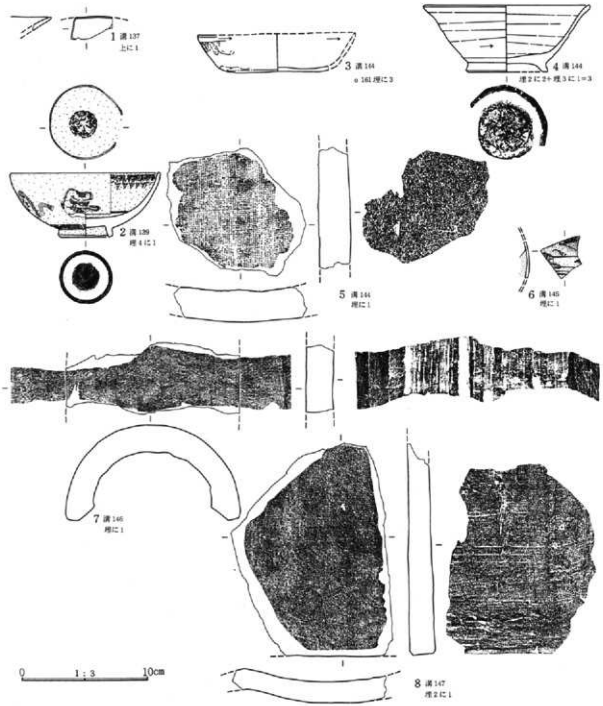
溝跡145、同146、同147はR大区P161～163にある。各々小規模ながら底面に砂質土が入り流水の形跡がある。形態、規模に共通性があり、類似の目的で設けら



第764図　溝跡135遺物図



第765図　溝跡136遺物図

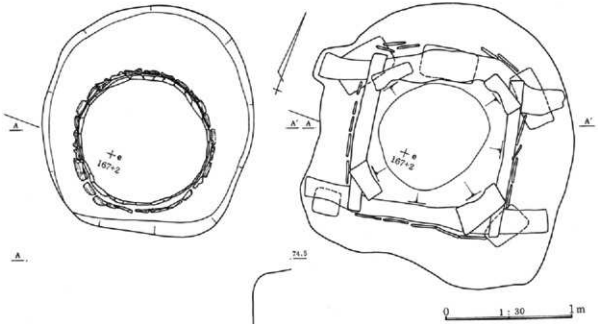


第766図　溝跡遺物図

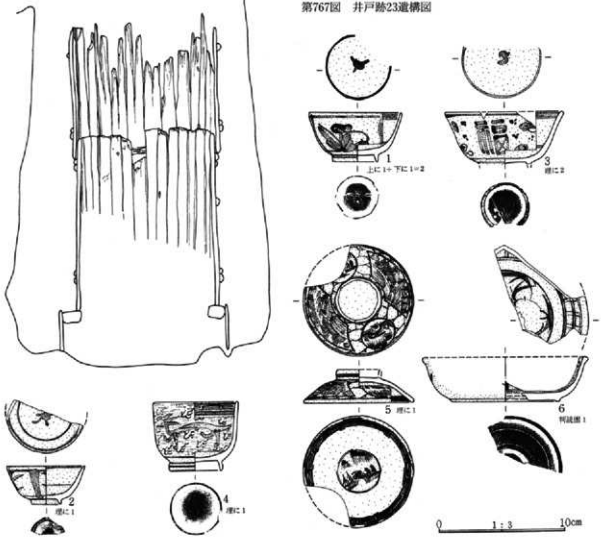
られ、機能したと考えられる。規模は各々幅30cm内外、深さは調査面から10～15cm、方向は溝跡145、同146の方向でN88°Eを測る。遺物は第766図のように近代瓦を伴なう。溝の走下は東に下る。

3．井戸跡　(第768・769・770・771図、写真図版124・238・239)

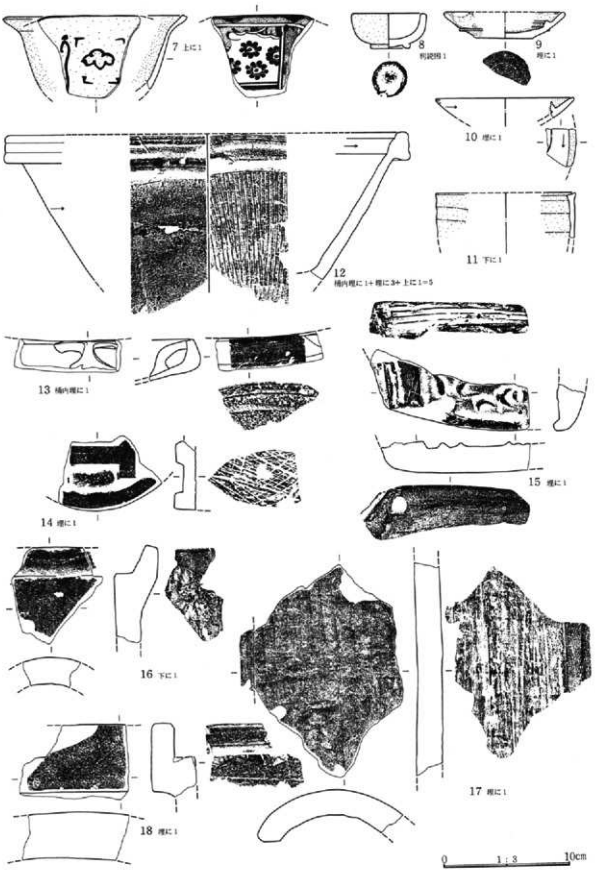
R・S区の井戸跡は井戸跡23のみであった。同井戸は、近世の末頃の竪穴遺構である住居跡181と近時期、近距離にあり、共存の時間帯があったと考えられる。井筒桶2段重ね、井筒側の大材、井筒埋設の丁寧な築土作業が行なわれている。規模は、最大径225cm、深さ336cm。遺物は19世紀中頃である。



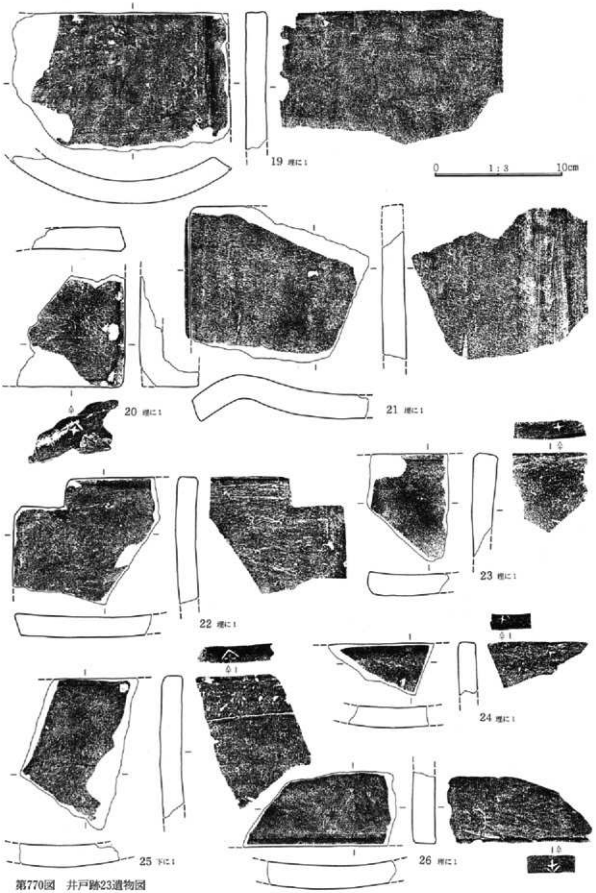
第767図　井戸跡23遺構図



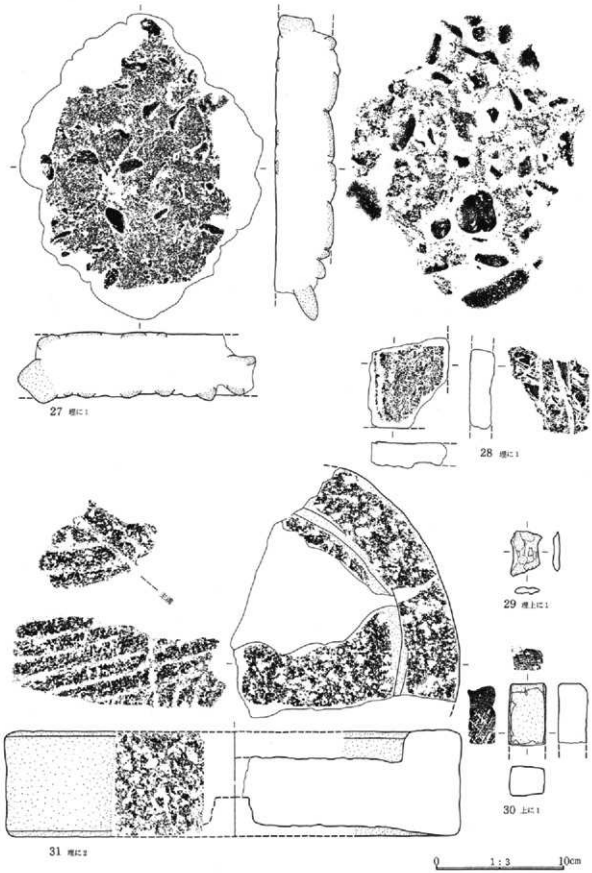
第768図　井戸跡23遺物図



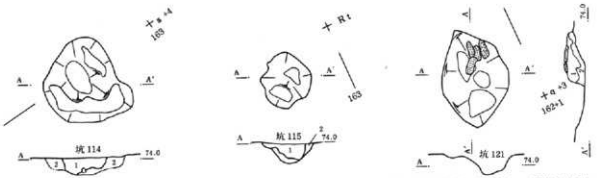
第769図　井戸跡23遺物図



第770図　井戸跡23遺物図



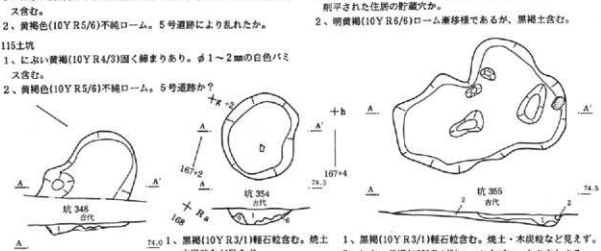
第771図　井戸跡23遺物図



1、にぶい黄褐(10Y R4/3)固く締まりあり。φ１～２mmの白色パミス含む。
2、黄褐色(10Y R5/6)不純ローム。５号道跡により乱れたか。

115土坑
1、にぶい黄褐(10Y R4/3)固く締まりあり。φ１～２mmの白色パミス含む。
2、黄褐色(10Y R5/6)不純ローム。５号道跡か？

1、黒褐(10Y R3/1)黒味やや少なく、軽石含む。古代様で上面を削平された住居の貯蔵穴か。
2、明黄褐(10Y R6/6)ローム漸移様であるが、黒褐土含む。



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
6、黒っぽい。

1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。

1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含み、焼土・木炭粒など見えず。軟らか。

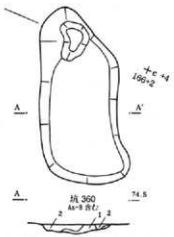
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。

1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。やや締まる。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック含む。
4、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。

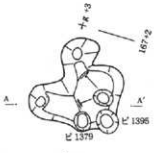
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。少し締まる。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。

0　1：40　2m

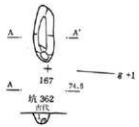
第772図　土坑遺構図



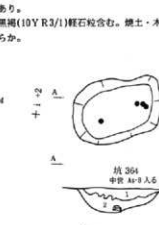
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まりあり。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。

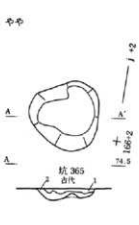


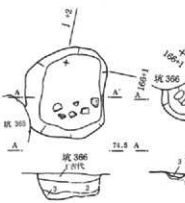
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まりあり。
3、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。やや軟らか。

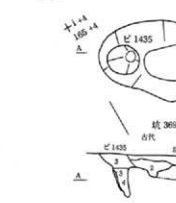


1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。









坑 363
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。

坑 364
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。

坑 365
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。

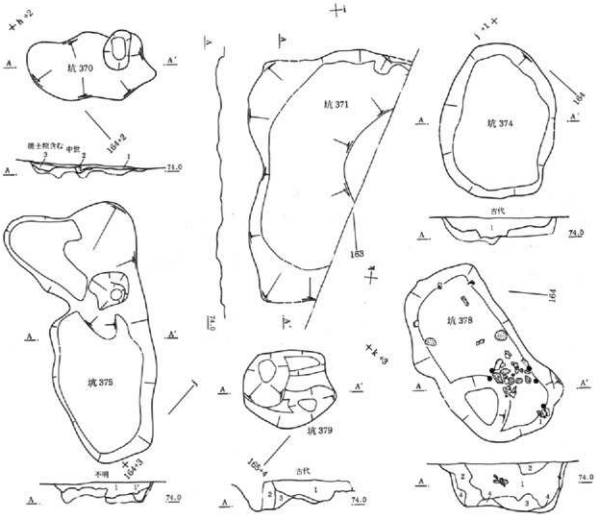
坑 366
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まりあり。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。

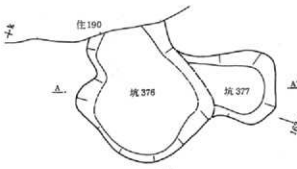
坑 368
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、未註記。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。

坑 369
1、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
3、黒褐(10Y R3/1)軽石粒・焼土・木炭粒など見えず。多少締まりあり。
4、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。

0　1:40　2m

第773図　土坑遺構図





坑370
1、黒褐(10Y R3/1)軽石含み、焼土・木炭粒など見えず。少し締まりあり。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
3、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まりあり。

坑374
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。

坑375
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
1'締まる。

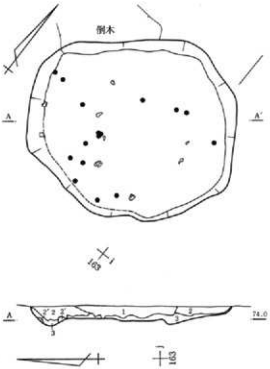
坑376・377
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。

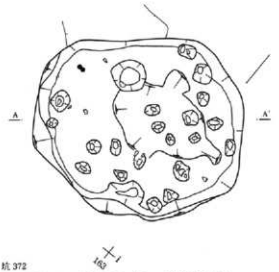
坑378
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
4、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。やや締まりあり。

坑379
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック含む。
3、未註記。

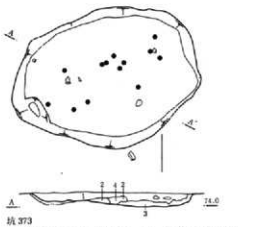
0　1：40　2m

第774図　土坑遺構図





坑372
1、黒褐（10YR3/1）軽石含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック少し含む。2′は細りあり。
3、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。



坑373
1、黒褐（10YR3/1）軽石含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐（10YR3/1）ローム小ブロック含み、
3、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
4、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム大ブロックを主とする。

0　1：50　2m

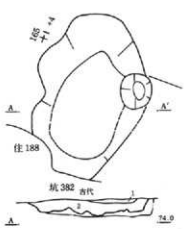
第775図　土坑遺構図

4．土坑　（第12・772～784図、写真図版126・127）

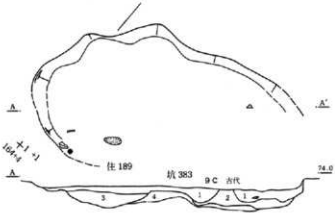
R・S区の土坑数は111、時代は、古代から近世まで各時代に恒って存在している。土坑は輪郭から形状までしっかりとした構築意識に基づいて設けられた場合と、輪郭不鮮明で形状も不整形で、人為構築が凝わしいものとがあり、総じて後者の一群は古代が多い。

古代の土坑中、性格付けが推考される例に、R大区ｉｊ165・166に、古墳時代６世紀頃と考えられる坑378、坑451がある。坑378は長さ200cm、幅100cm、深さ54cm、中軸方向はN52°Eを測る。埋土下方から第784図１の甕片と礫石がまとまって出土した。同図１は完器ではない。近接に坑451があり、規模は長さ192cm、幅118cm、深さ42cm、中軸方向はN52°Wを測る。両者は近接し、複数で存在することも合せると、ある程度ではあるが墓跡としての可能性があるのではないだろうか。そうした可能性は、後出時期では坑394－１、同－２がR大区ｌｍ161にある。坑394－１は長さ146cm、幅120cm、深さ12cm、中軸でN2°Eを測る。坑394－２は長さ170cm、幅112cm、深18cm、中軸でN0°EWを測る。遺物は第784図の９世紀代の埦の出土がある。このほか古代の土坑372、同373に縄文土器を含む凹地状の掘り込みが第775図のように存在し、輪郭不鮮明、底面の凹凸顕著であった。

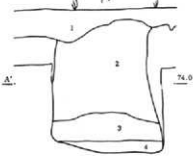
中世以降の土坑は、中世として目立つ土坑は明確でなく、長方形の土坑や円形土坑は近世以降であった。第12図１ライン以北に長方形土坑と円形土坑は分布し、長方形土坑は特徴的に深く、A_5－Ａの降下をまたいで存在していた。機能上は芋穴を考えている。円形土坑は桶据え用の土坑が主であった。



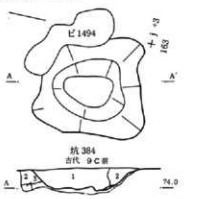
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。



1、黒褐(10Y R3/1)焼土粒・ロームブロックなど含まず。
2、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック僅か含む。少し粘性。
4、明黄褐(10Y R6/6)ローム。軟。

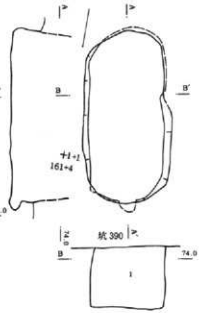


1、黒褐(10Y R3/1)As-A入る現耕作。
2、灰黄褐(10Y R4/2)ロームブロック多く含む。
3、黒褐(10Y R3/2)ロームブロック僅か入る。
4、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック僅か入る。
少し締まる。



1、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。

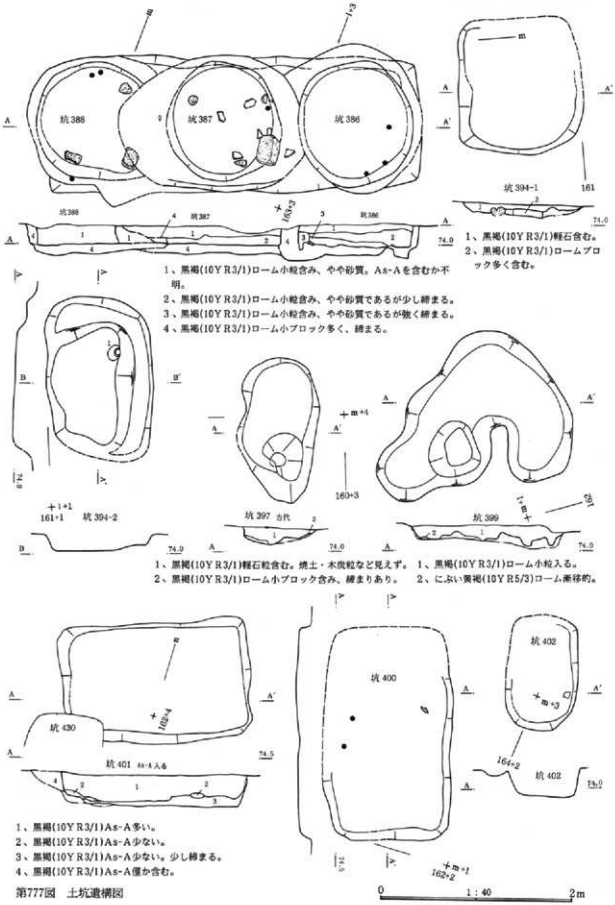
坑393
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロック多。黒褐含。
2、明黄褐(10Y R6/6)ロームブロック主体。
3、黒褐(10Y R3/1)少し締まる。



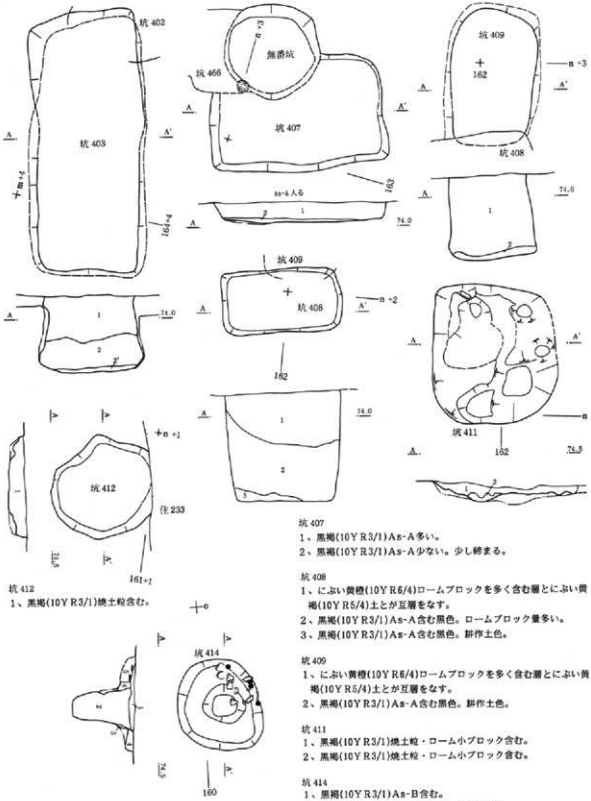
1、黒褐(10Y R3/1)As-A含む。

0　1:40　2m

第776図　土坑遺構図


坑388
坑387
坑386
坑394-1
161
74.0
1、黒褐(10YR3/1)ローム小粒含み、やや砂質。As-Aを含むか不明。
2、黒褐(10YR3/1)ローム小粒含み、やや砂質であるが少し締まる。
3、黒褐(10YR3/1)ローム小粒含み、やや砂質であるが強く締まる。
4、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック多く、締まる。
1、黒褐(10YR3/1)軽石含む。
2、黒褐(10YR3/1)ロームブロック多く含む。
坑394-2
161+1
坑397 古代
160+3
坑399
1、黒褐(10YR3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
1、黒褐(10YR3/1)ローム小粒入る。
2、にぶい黄褐(10YR5/3)ローム漸移的。
坑430
坑401 As-A入る
1、黒褐(10YR3/1)As-A多い。
2、黒褐(10YR3/1)As-A少ない。
3、黒褐(10YR3/1)As-A少ない。少し締まる。
4、黒褐(10YR3/1)As-A僅か含む。
坑400
162+2
坑402
164+2
0
1:40
2m

第777図　土坑遺構図



坑412
1、黒褐(10Y R3/1)焼土粒含む。

坑403
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロック多く含む層とにぶい黄褐(10Y R5/4)土とが互層をなす。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。耕作土色。2'締まる。

坑407
1、黒褐(10Y R3/1)As-A多い。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A少ない。少し締まる。

坑408
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロックを多く含む層とにぶい黄褐(10Y R5/4)土とが互層をなす。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。ロームブロック量多い。
3、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。耕作土色。

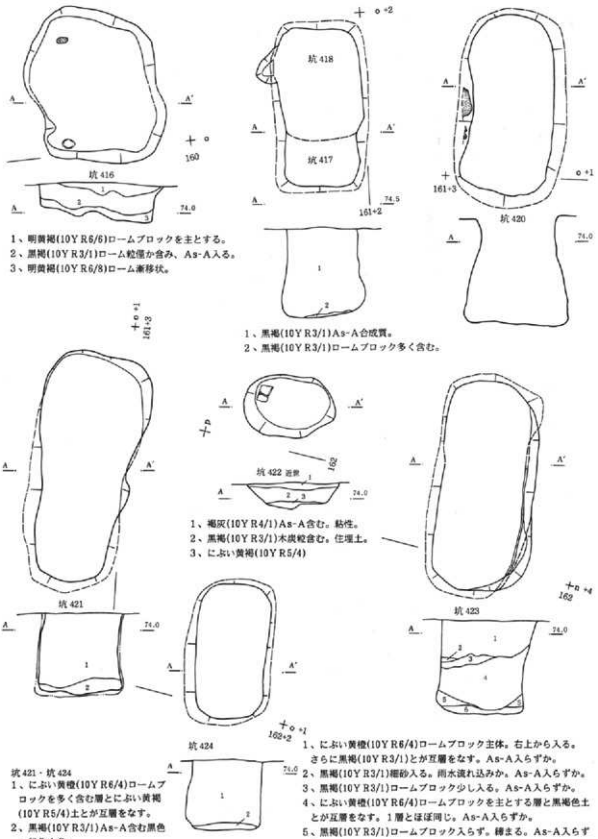
坑409
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロックを多く含む層とにぶい黄褐(10Y R5/4)土とが互層をなす。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。耕作土色。

坑411
1、黒褐(10Y R3/1)焼土粒・ローム小ブロック含む。
2、黒褐(10Y R3/1)焼土粒・ローム小ブロック含む。

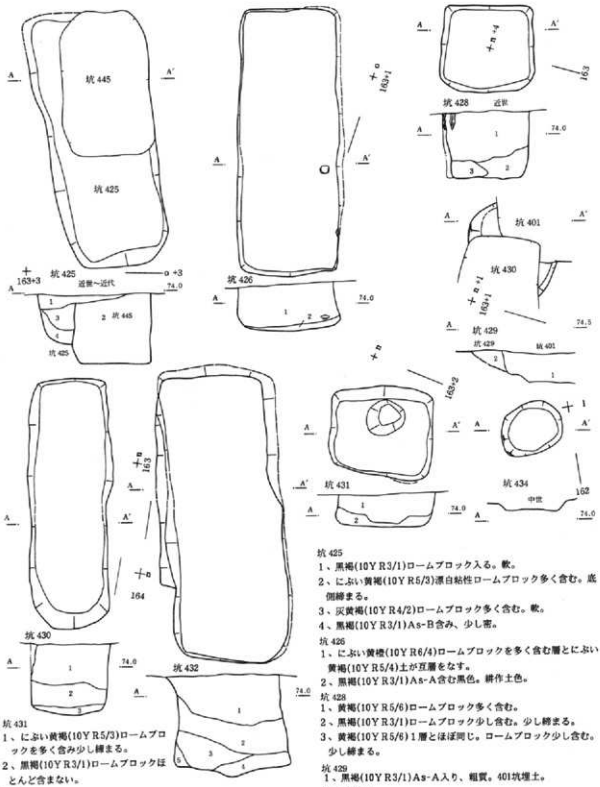
坑414
1、黒褐(10Y R3/1)As-B含む。
2、黒褐(10Y R3/1)As-B見えず。焼土粒含む。
3、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含むが、焼土・木炭粒など見えず。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。やや締まる。
5、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック入り、やや締まる。

第778図　土坑遺構図

0　1:40　2m


坑416
1、明黄褐(10Y R6/6)ロームブロックを主とする。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム粒極か含み、As-A入る。
3、明黄褐(10Y R6/8)ローム漸移状。
坑418
坑417
1、黒褐(10Y R3/1)As-A合成質。
2、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック多く含む。
坑420
坑422
1、褐灰(10Y R4/1)As-A含む。粘性。
2、黒褐(10Y R3/1)木炭粒含む。住居土。
3、にぶい黄褐(10Y R5/4)
坑421
坑423
坑424
坑421・坑424
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロックを多く含む層とにぶい黄褐(10Y R5/4)土とが互層をなす。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。耕作土色。
1、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロック主体。右上から入る。さらに黒褐(10Y R3/1)とが互層をなす。As-A入らずか。
2、黒褐(10Y R3/1)細砂入る。雨水流れ込みか。As-A入らずか。
3、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック少し入る。As-A入らずか。
4、にぶい黄橙(10Y R6/4)ロームブロックを主とする層と黒褐色土とが互層をなす。1層とほぼ同じ。As-A入らずか。
5、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック入らず。締まる。As-A入らずか。
6、暗褐(10Y R3/4)ロームブロック入り、締まる。As-A入らずか。
0　1:40　2m

第779図　土坑遺構図



坑 431
1、にぶい黄褐(10Y R5/3)ロームブロックを多く含み少し締まる。
2、黒褐(10Y R3/1)ロームブロックほとんど含まない。

坑 432
1、黄褐(10Y R5/6)ロームブロック主。
2、黒褐(10Y R3/1)黒褐ブロック主。
3、明黄褐(10Y R6/8)ロームブロック大主。
4、褐灰(10Y R4/1)ロームブロック含み締まる。
5、未註記。

坑 425
1、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック入る。軟。
2、にぶい黄褐(10Y R5/3)漂白粘性ロームブロック多く含む。底側締まる。
3、灰黄褐(10Y R4/2)ロームブロック多く含む。軟。
4、黒褐(10Y R3/1)As-B含み、少し密。

坑 426
1、にぶい黄褐(10Y R6/4)ロームブロックを多く含む層とにぶい黄褐(10Y R5/4)土が互層をなす。
2、黒褐(10Y R3/1)As-A含む黒色。耕作土色。

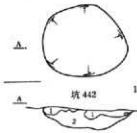
坑 428
1、黄褐(10Y R5/6)ロームブロック多く含む。
2、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック少し含む。少し締まる。
3、黄褐(10Y R5/6)１層とほぼ同じ。ロームブロック少し含む。少し締まる。

坑 429
1、黒褐(10Y R3/1)As-A入り、軽質。401坑埋土。
2、未註記

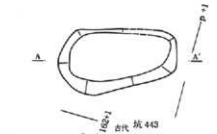
坑 430
1、明黄褐(10Y R6/6)ロームブロック主層と黒褐(10Y R3/1)中にロームブロック含む層との互層。
2、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック含む。
3、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック少なく締まる。

0　1：40　2m

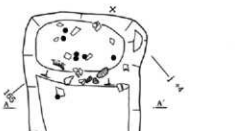
第780図　土坑遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック少ない。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック多い。



1、黒褐(10Y R3/1)焼土粒含む。軟。
2、黒褐(10Y R3/1)焼土粒含む。ロームブロック含む。

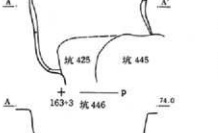


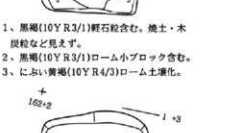
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。

1、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック入る。軟。
2、にぶい黄褐(10Y R5/3) 漂白粘性。ロームブロック多く含む。
底付近締まる。

1、黒褐(10Y R3/1)As-A含む。

1、黒褐(10Y R3/1)As-A含み砂質。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、やや締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、強く締まる。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まる。

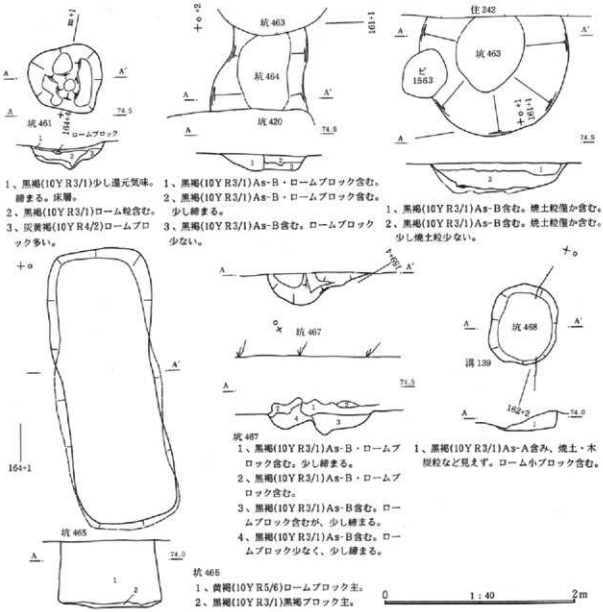




1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
3、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。

0　1：40　2m

第781図　土坑遺構図

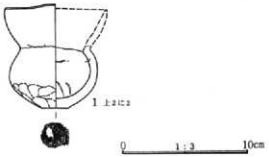


第782図　土坑遺構図

5．１間柱穴跡・杭列　(第785、写真図版125)

１間柱穴跡は、R大区ｉ165、溝跡121中にある。当初は掘立柱建物跡としてまとめるつもりで周囲の確認を行なったが延長を認めることはできなかった。ピ1509と同1510とした柱穴は、柱痕確認はできなかったがピ1510の横幅は80cm近くあり、溝跡121の構築時期を13、14世紀頃の中世としたが、中世の当地域での柱穴規模としては異例の大きさであり、ピ1509の底付近に残された築土も極めて締り強であったことや同時期と考えられる北接の溝跡134もこの１間柱穴跡の延長上で中途切れに立ち上ることから、渡溝の施設である橋跡を推定しておきたい。

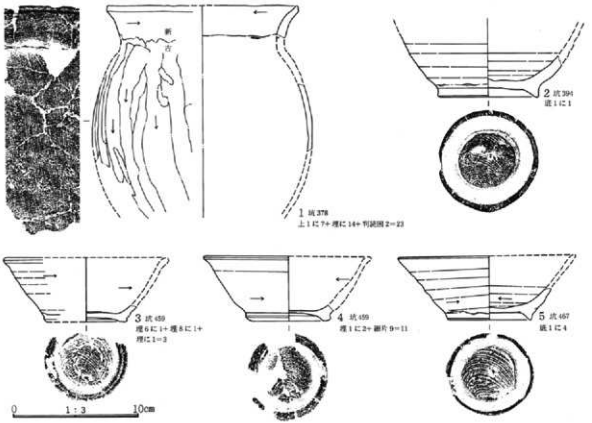
杭列１は、R大区ｂｃ167～169の溝跡115中に存在している。同溝は溝跡116との堀直しの関係にある。両溝は埋土中にA$_5$－Aをまじえ、構築当初はそれ以前であることが考えられた。杭列は10cm以下で、ピット番号をあたえたが掘方はなく、打込まれた杭で護岸の役割りを果していたのであろう。



第783図　土坑111遺物図

6．ピット　(第786～800図、写真図版128～135)

R・S区のピットは329の総数を数える。先のQ区では、柱穴の可能大が多いことに対し、R・S区のピットは、自然に起因する柱穴と思えるもの多く存在していた。第786～800図中、構築時期を現場での埋土の質感から推定した時期を加えておいた。ピットは人為であろうと、自然であろうと、小穴が存在していたこと

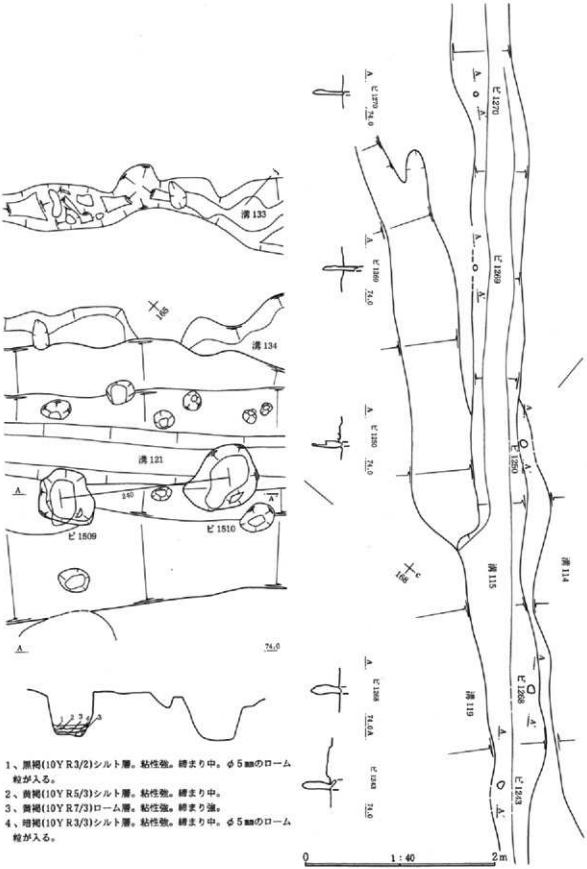


第784図　土坑遺物図

に変りなく、ピットの密度や有無によって、旧地表面までが厚いか薄いかを知る重要な手懸りとなる。その意味で、溝跡125と同122の間、溝跡133と同134の間にピットは無いが薄い状態にあるため、客土がなされているとの推定をもたらせた。逆に密度が高いのは溝跡113の両岸で横斜状となる場合もあり、天地方向の例も浅いため中世に人為による護岸と自然の動・植物関連を思わせ、それだけ長期に恒り、埋没せず開放的であったのであろう。溝跡121の場合は同時期の護岸かもしれない小穴が多く存在し、流水の可能性と護岸かもしれない行為との関連性を見せる。なおR・S区の大半は、平安時代の推定寺院跡の寺院地内を推定したか関連と見られる柱穴は極めて少なく、Q区とは対照的であった。

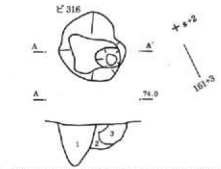
7．道跡　(第801・802・803図、写真図版124・125)

R・S区では、4条の道跡を調査した。道跡5は、第11図中S大区a～d165～167にあり、第11図中の井野川崖上にある等高線73.0mに沿う形で、幅約100cmのやや締る硬化面を認めたがR大区tライン付近で狭く

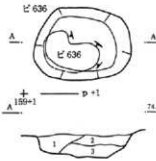


1、黒褐(10Y R3/2)シルト層。粘性強。締まり中。φ５mmのローム粒が入る。
2、黄褐(10Y R5/3)シルト層。粘性強。締まり中。
3、黄褐(10Y R7/3)ローム層。粘性強。締まり強。
4、暗褐(10Y R3/3)シルト層。粘性強。締まり中。φ５mmのローム粒が入る。

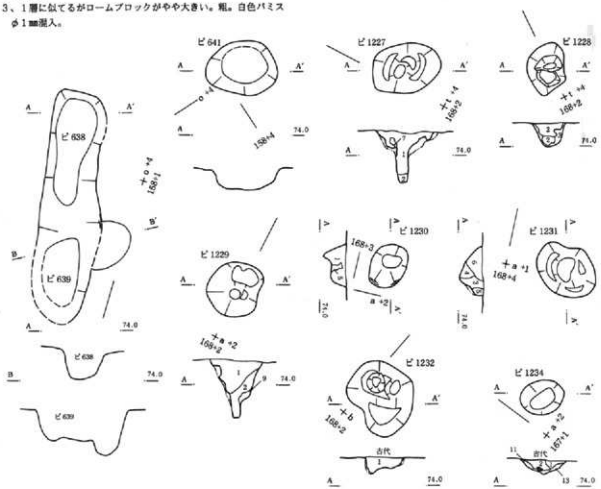
第785図　１間柱穴跡・杭列１遺構図



1、暗褐(10YR3/4)φ1～5mmのロームブロック混入。締まり普通。柱根埋土。
2、暗褐(10YR3/4)ロームブロック多量混入。φ1mm白色パミス少量混入。
3、1層に似てるがロームブロックがやや大きい。粗。白色パミスφ1mm混入。



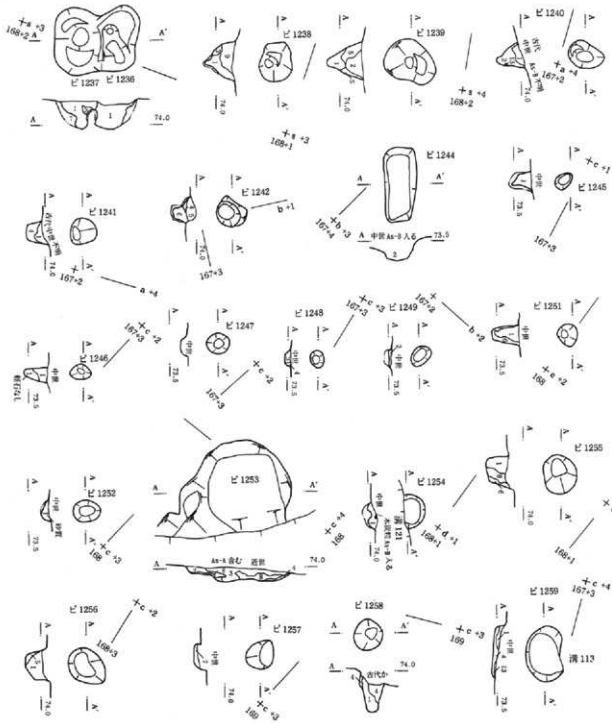
1、灰黄褐(10YR4/2)ロームブロック少し入る。
2、黄褐(10YR5/6)ロームブロック多く軟らかい。
3、黄褐(10YR5/6)少し締まる。



1、黒褐(10YR3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10YR3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10YR4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10YR4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1:40　2m

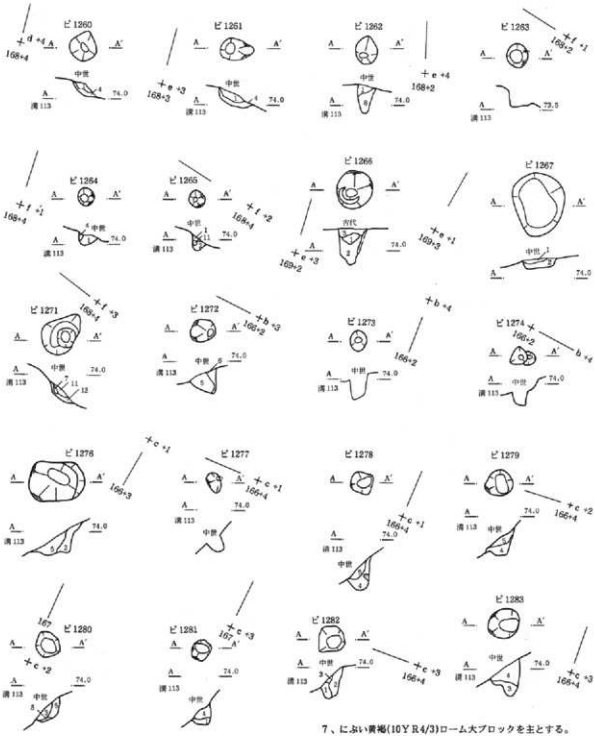
第786図　ピット遺構図



1、黒褐(10Ｙ R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Ｙ R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Ｙ R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Ｙ R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Ｙ R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Ｙ R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1:40　2m

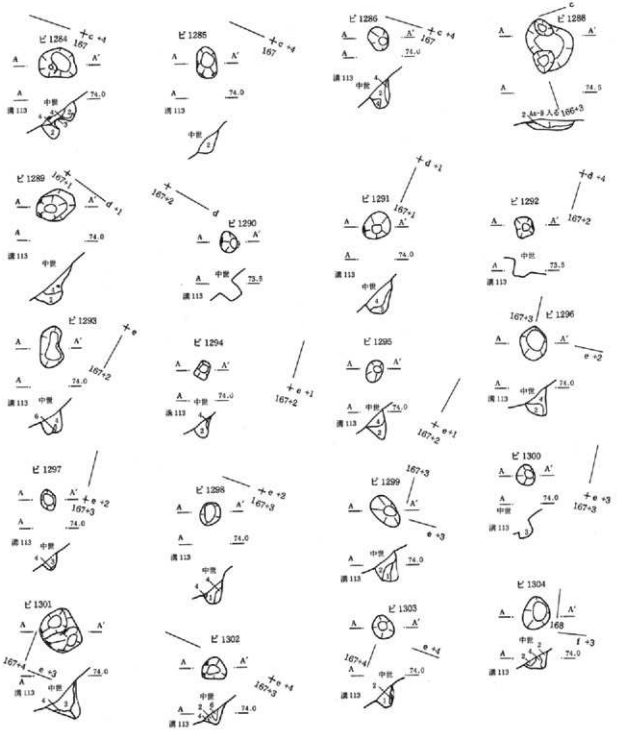
第787図　ピット遺構図



1、黒褐(10YR3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10YR3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10YR3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10YR4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10YR4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10YR4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、来註記。

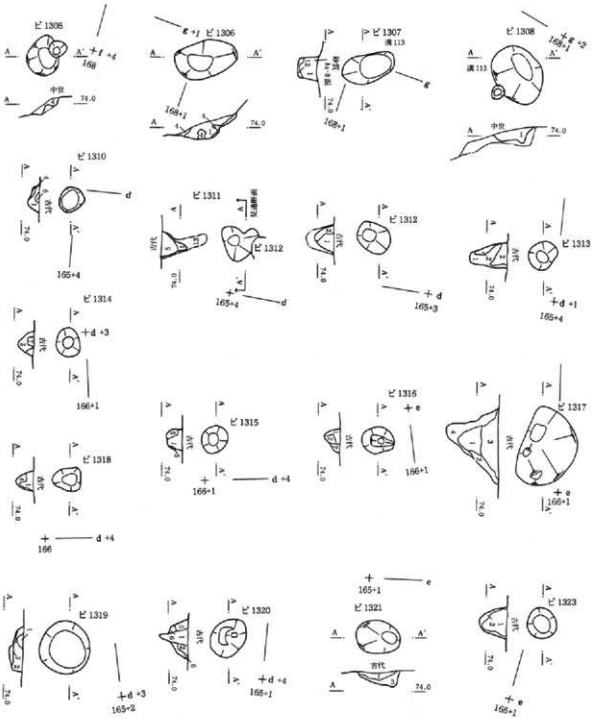
0　1:40　2m

第788図　ピット遺構図



1、黒褐(10Ｙ R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Ｙ R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Ｙ R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Ｙ R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Ｙ R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Ｙ R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Ｙ R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

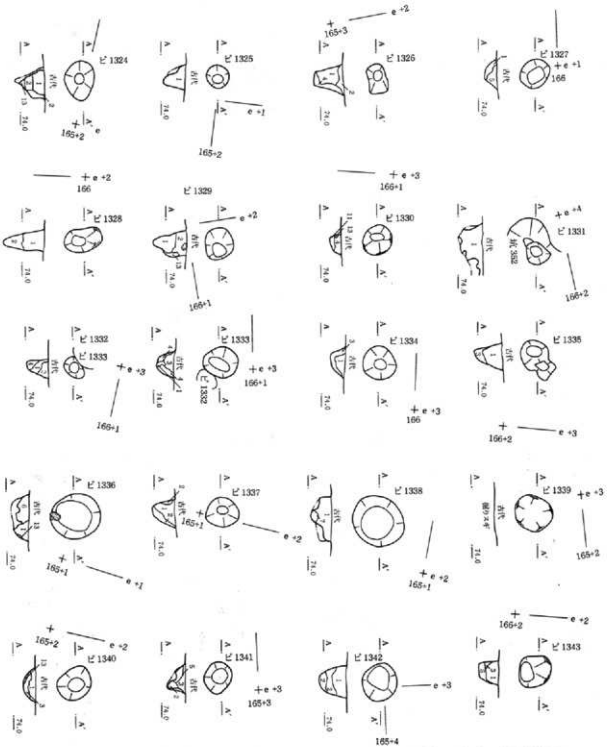
第789図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

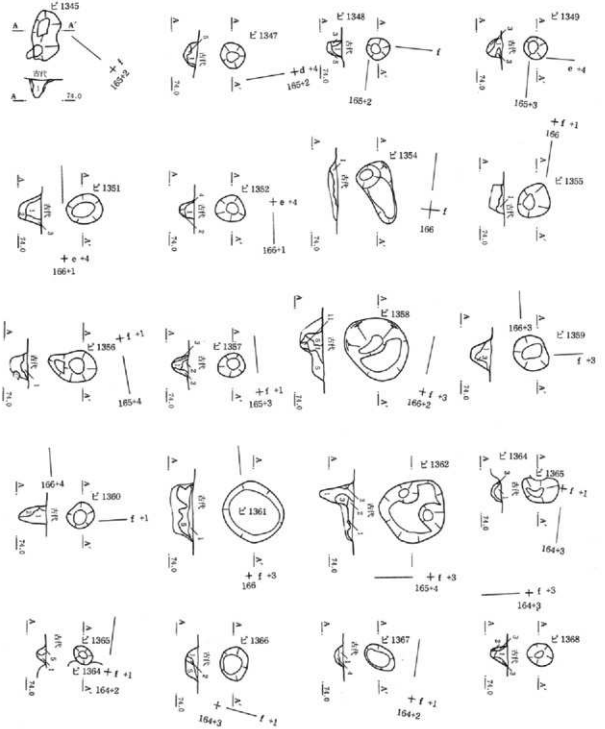
第790図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

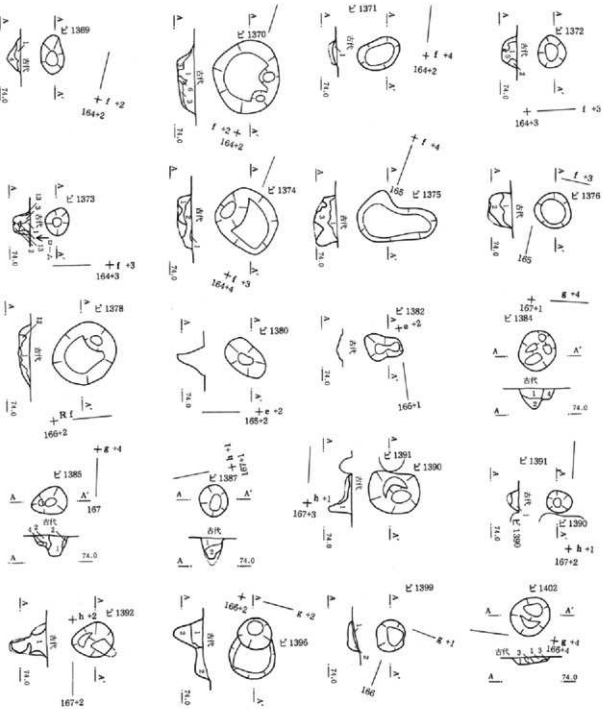
第791図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R 4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R 4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

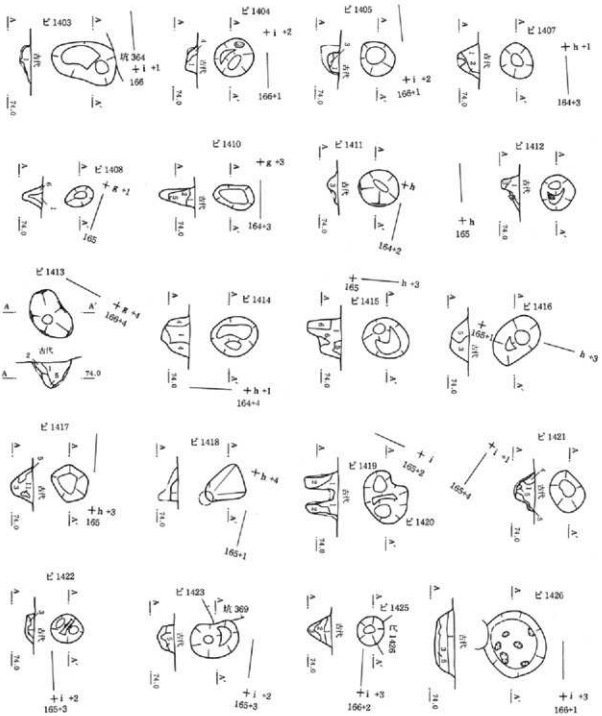
第792図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R 4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R 4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R 4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

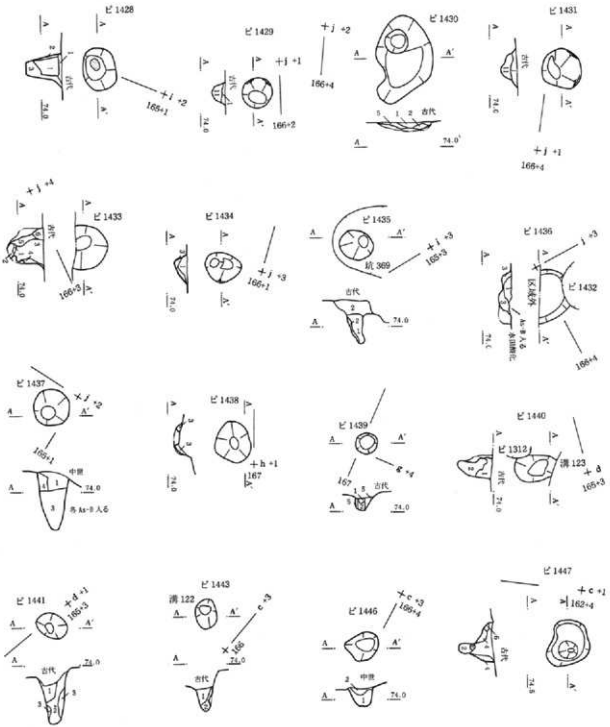
第793図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

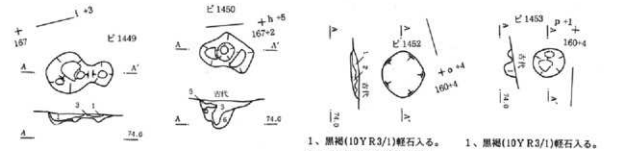
第794図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

第795図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石入る。
2、明黄褐(10Y R6/6)漸移代。

1、黒褐(10Y R3/1)軽石入る。

1、黒褐(10Y R3/1)石・ローム小粒入る。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小粒入り、少し締まる。
3、未註記。

1、黒褐(10Y R3/1)焼土・ローム粒僅か入る。

1、黒褐(10Y R3/1)As-B入るか。粗。
2、黒褐(10Y R3/1)焼土粒僅か入る。
3、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック入る。

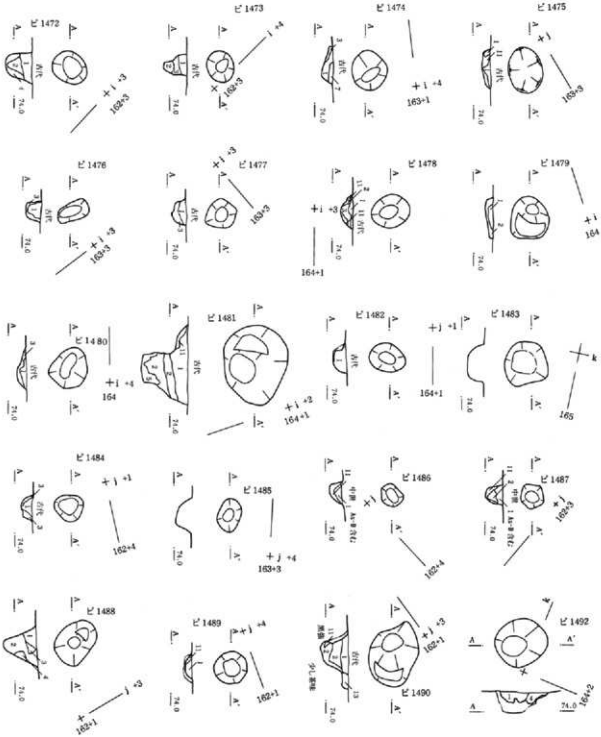
1、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック入る。
2、黒褐(10Y R3/1)ロームブロック多い。

1、黒褐(10Y R3/1)焼土粒僅か入る。
2、黒褐(10Y R3/1)ローム小粒入る。

1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

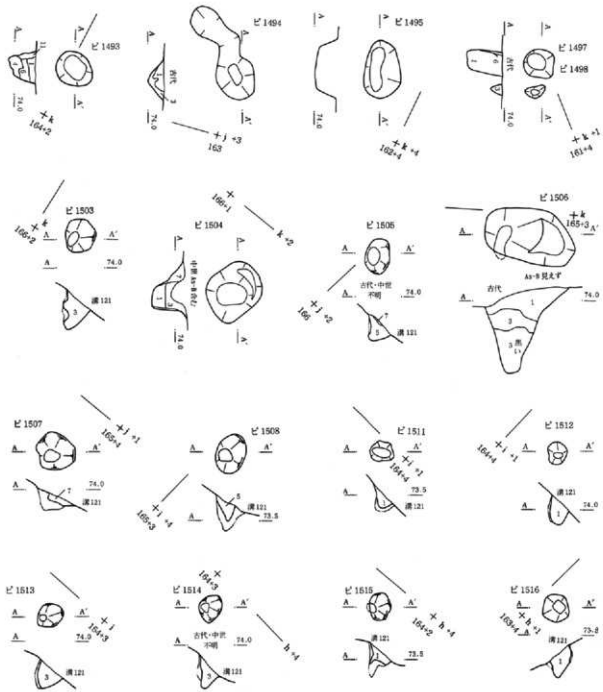
第796図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

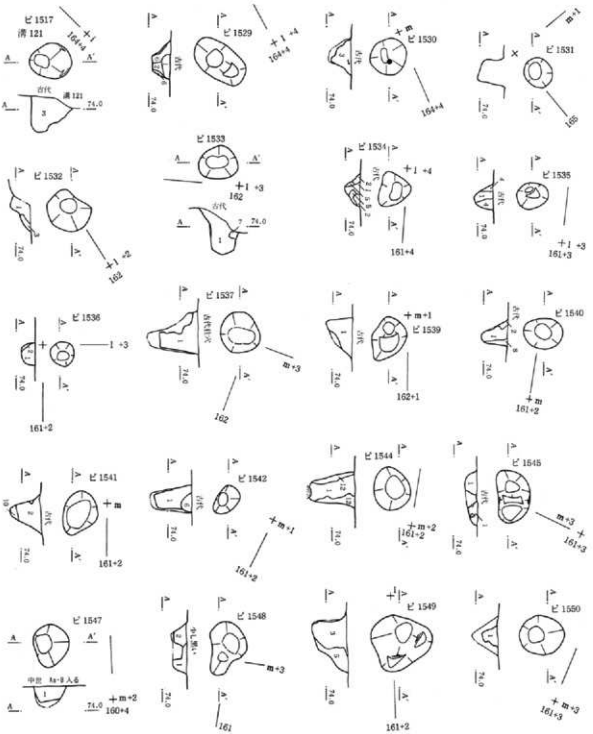
第797図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

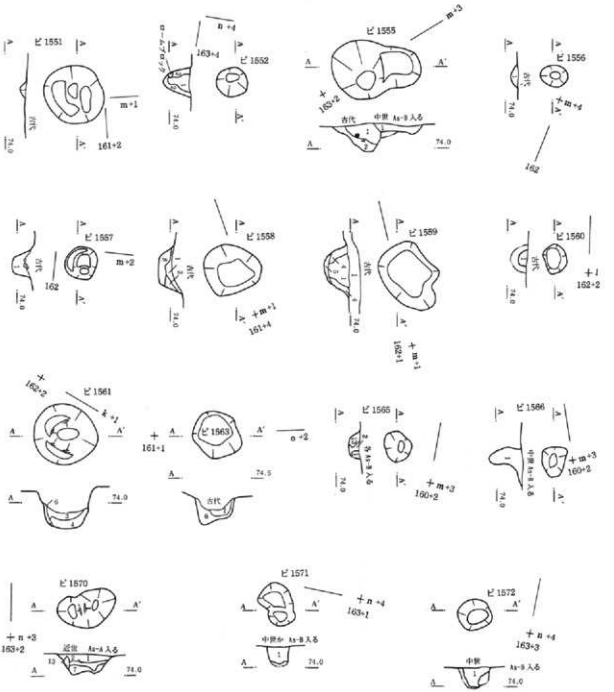
第798図　ピット遺構図



1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

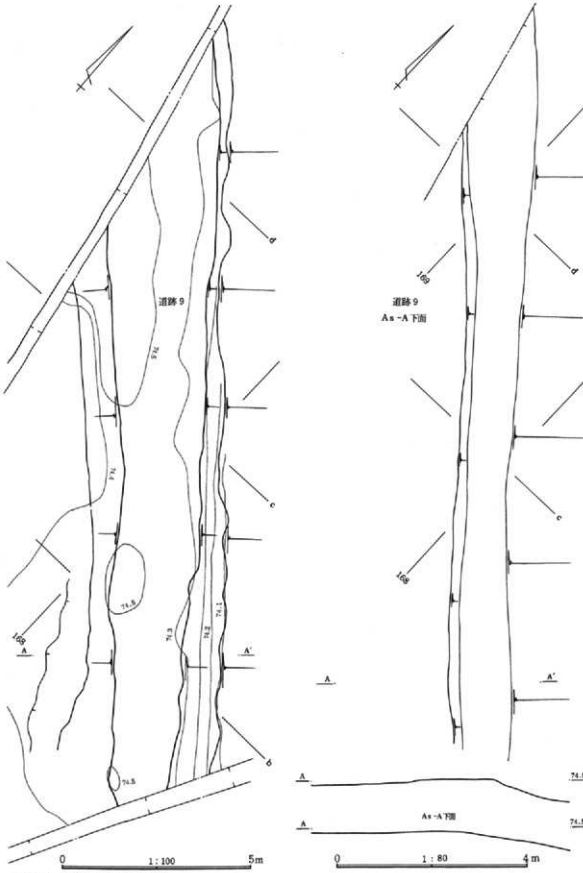
第799図　ピット遺構図



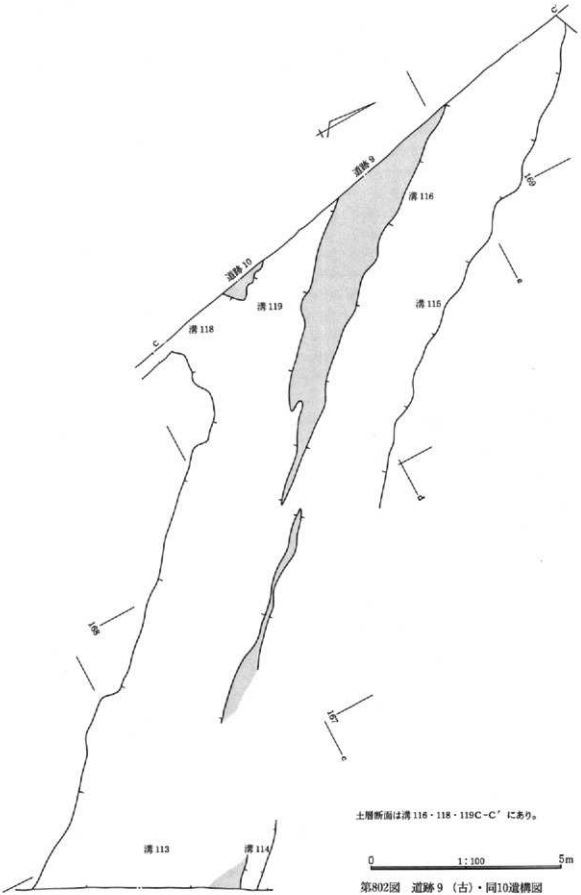
1、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。
2、黒褐(10Y R3/1)軽石粒含む。焼土・木炭粒など見えず。締まる。
3、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含む。
4、黒褐(10Y R3/1)ローム小ブロック含み、締まりあり。
5、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。
6、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム小ブロック多く含み、土壌化あり。締まりあり。
7、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。
8、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム大ブロックを主とする。締まる。
9、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。
10、灰黄褐(10Y R4/2)ローム小ブロック含む。締まりあり。
11、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。
12、にぶい黄褐(10Y R4/3)ローム土壌化。締まりあり。
13、未註記。

0　1：40　2m

第800図　ピット遺構図



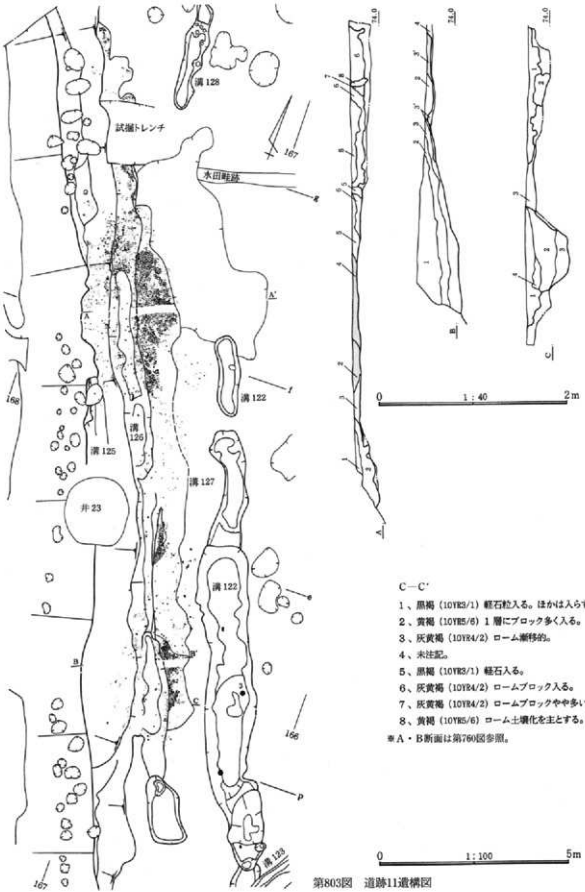
第801図　道跡9（新）遺構図



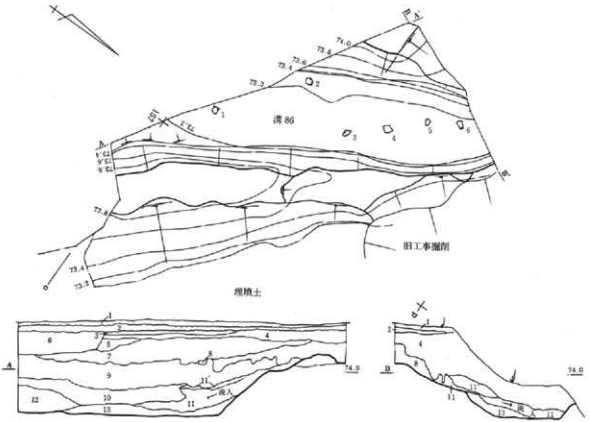
土層断面は溝116・118・119C−C′にあり。

0　1:100　5m

第802図　道跡9（古）・同10遺構図



第803図　遺跡11遺構図

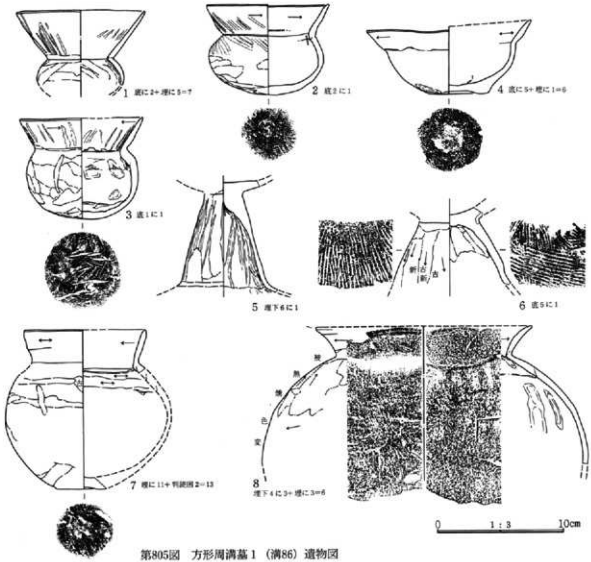


第804図　方形周溝墓1（溝86）遺構図

なり崖の浸蝕中に消えていた。その道跡は調査直前にR大区ｒライン以北は雑木を含む密な竹林であり、その根により上面は荒れ、層位上は、近現代の耕作土下である。竹林化前代の存在であろう。

道跡9はR大区ａｄ167・168にあり、調査時に昭和58年度の圃場整備前代、東側に農業用水路を伴なう幅約2ｍの道を、地域では東往還（ひがしおうかん）と呼び南南東700ｍにある堀米（ほりこめ）地区まで続いていたとの説明を受け、道跡9の位置は東往還に相当とも聞いた。第801図左はＡs－Ａ降下後しばらく後の状態、右は降下前状態である。新段階の左図は上幅で最大で280cm、基部で360cmを測り、中軸でN42°Wを指向、古段階は硬化部で幅180cm、中軸でN49°Wを測る。新段階は左・右に100cm前後の溝が取り付き、両側が水田跡となっていた。古段階も水路として、溝が第802図のとおり溝跡115、同116、同119が存在している。

道跡10は、R大区ｃｄ169に見えるが、Q区の溝跡82の北側に幅70cmほどの当初は中世と目される道跡があり、その延長上に道跡10はある。道跡10は、道跡９とも重さなるが溝跡113の埋没土中に入り、道跡11に接続していた。溝跡82は南側にも硬化面があった。道跡10の方向性はN68°Wを測る。

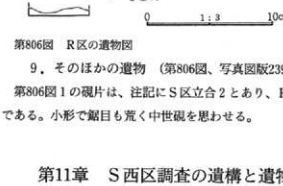


第805図　方形周溝墓１（溝86）遺物図

道跡11は、R大区ａ～ｇ166～168にある。第803図のとおりの形状を呈し、A_9－B降下直後では、溝跡113の肩部付近まで硬化面は達する。降下後に北小礫の敷き込みなどがなされ、部分的に小礫敷をなしている。東側は溝跡122付近まで小礫の分布は細々と続き、硬化も部分的に強弱があるため東側は明確ではないが、溝跡122付近とすると、最大で350cm程で、方向性は溝跡113と同じでN19°15′Wを測る。

８．方形周溝墓１　（第804・805図、写真図版121・227）

調査は、井野川橋台にかかる関連工事の段階で早急な調査を行なった。規模は幅198cm、下端幅120cm、深さ90cm、方向性は溝底中軸でN26°Wを測る。調査当初、溝について溝跡86の名称をあたえた。溝底から出土した土器類は、溝底１層上の注13上面であり、底面からすれば少し浮いた状態にあること、注11・12は客土の流入が崩落により、その客土は古墳や方形周溝などならそうした流入もあり得ると考えたこと、さらに溝の横断面形は、底端のしっかりした逆台形であること、出土した土器に小形品が多いことなどから方形周溝墓の存在を考えた。囲繞溝の延長は、台地側調査地には見えず、土層注12も客土流入と考えられるため、方台部は以東にあったとも考えられ、井野川により浸蝕流出の可能性がある。時期は、第805図４にやや肉厚の折口、平底鉢があり、出土個体量の割に小形壺系譜の個体に優位性があるため、古墳時代中期に近い頃と考



第806図　R区の遺物図

えられる。なお昭和58年度、市教育委員会による綿貫遺跡調査では、溝跡86から南西225m付近の8・20トレンチから周溝墓が発見されている。溝跡86を含め、散在・極所集中していたのか、別々に群構成されていたのかなどは不明点である。

9．そのほかの遺物　(第806図、写真図版239)

第806図1の硯片は、注記にS区立合2とあり、R大区o156・157で溝跡86の存在する工事中の調査区出土である。小形で鋸目も荒く中世硯を思わせる。

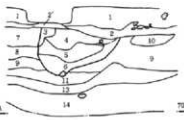
第11章　S西区調査の遺構と遺物

1．S西区の調査　(第11図、写真図版137)

S区西調査区は、井野川をまたぐ橋下を東西に延びる新設市道と現道との取り付き部の調査区でS大区k1171に位置する4.5×3.9mの小調査区である。旧綿貫村の村社天満宮まで約40mのため、関連遺構が、東接農道が江戸時代から続く秧(ちょう)父道(ふみち)もしくは近接道の可能性もあったが結果的に遡ぼる時代性のある遺構の存在は薄かった。調査前段階は畑地のようであったが、直前は一部に客土、土取りがなされ、草地と化していた。調査面はローム層中標高73.2mである。第11図のとおり東側にゆるやかに下る段差の変換部が認められ、北東端で40cmほど低くなっていた。その段下は旧農道であったらしく、削り出し道跡状であったが硬化は進んでいなかった。近世以降の陶・磁器片の出土がある。

第12章　S区下段調査の遺構と遺物　(第11図)

今回の報告は、R・S区を10章で説明したが、調査時点ではS区は井野川の段丘上をS区上、同下をS区下の調査区と呼称していた。S区下の調査区は、面積約620㎡あり、井野川段丘崖下にある。この段丘崖下面は、現井野川の河川敷面の最奥部にあり、河川敷面を現と旧に分ければ、旧面に相当する。現井野川の水際面は標高約68mあり、調査地の最下面は69.2mであるので、1.2m程高所と云うことになる。調査地の北限は、高崎土木との協議結果でもあるが、内容は第11図中、S大区a162以東・以北において砂利採集によって出来たと考えられるビニールなど石油系の樹脂をまじえた埋土の大規模な凹地が見い出されたためと、河川敷工事に伴い失なわれるカ所のみについて調査を行なう取決めによるためである。調査面は3面を行ない、1面目は浅間山A軽石層下で、現在の耕作土下付近から80cm前後の深さのカ所までを行ない、その面は流水による浸蝕と堆積のため一率の深さではなかった。また、A_s－A混りの土壌も場所により有無があり、目標とするA_s－A下面の露呈は全体的には目標倒れに近かった。同面の遺構は溝跡68・70・71、土坑101、道跡5・6と関連の水田跡があった。2面目はA_s－B混下面を目標としたが、A_s－Bを含む砂質土と含まない砂質土とは区分困難なため、間層中の粘性土や固結化する土壌を主とする層中に含まれた経石について観察したが、この方法も充分ではなく、結極のところ、時折り出土する土器片等も含せながら面露呈を行なった。その結果、畑1・2、土坑106・113を調査した。この面の調査は、崖下直下では、地山層を追いながらと、洪水砂で埋没したA_s－B混り下を目標とする面とを結ぶ面でもあった。3面目は、地山層に残された古代とその以前の遺



1、黒褐（10YR3/1）現代。As-A含む。耕土。
2、黒褐（10YR3/1）As-A含む。右上に小円礫あり。2′は畦下か(現代)As-A含む。
3、黒褐（10YR3/1）As-A入らず。根かも。粗。
4、黒褐（10YR3/1）シルト質。少し酸化気味。溝として流水の形跡あり。
5、黒褐（10YR3/1）シルト質。4層より酸化少ない。溝として流水の形跡あり。
6、黒褐（10YR3/1）シルト質。部分的に砂～小礫含む。下部に砂、流水痕。溝として流水の形跡あり。
7、にぶい黄褐（10YR4/3）細砂質。As-B入る。少し酸化気味。
8、にぶい黄褐（10YR4/3）細砂質。As-B入る。7層より細かい。
9、にぶい黄褐（10YR4/3）7・8層より還元気味。
10、褐灰（10YR4/1）少し締る。土壌化したブロック。As-B入る。
11、褐灰（10YR4/1）砂・流水痕。
13、褐灰（10YR4/1）As-B含み、少し締る。
14、褐灰（10YR4/1）As-B含まず。水性シルト。

0　1：40　2m

第807図　溝跡70遺構図

構を探し、その結果、土坑119を調査した。同坑は流水と礫石によって生じた、おう穴状の大きな穴跡であった。

1．道　　跡

道跡４とA_s－A混り水田跡　（第11図）

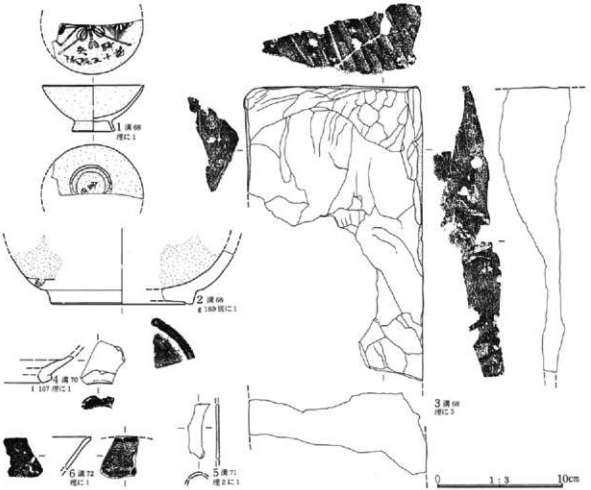
道跡４はＳ大区ｄｅ166･167にあり、調査面は、現在の耕作土直下で硬化上面は発見され、A_s－A泥下面にもその硬化は続いていた。第11図ではｅ166北半の東西２条の溝跡に挟まされた間が道跡４である。第11図中は標高70.1mの等高線が巡るが、上層面は70.5mの等高線が入る。上層面は、畦道として利用され、南側を溝跡５を畦道とする区画の一部をなしていた。この水田跡の東側の畦畔は以東30mの調査中に、硬化した南北畦を見い出すことは出来なかったし、東側に向い砂質感は強まりA_s－A混りも不明瞭であったため、東限の南北畦は流失したのかもしれない。道跡４の規模はA_s－A混面で上幅50cm、N60°Eを指向し、道跡６との接続は道跡４側の200cm分の硬化面が無く、水口施設であったようである。A_s－A混を除去した下面では、硬化面に道跡６に接するか所が見い出された。その段階での道跡６の最大幅は110cm、畦としての落差は15～20cm弱であり、方向はN56°Eを指向する。

道跡６と水田跡　（第11図、写真図版136）

道跡６はＳ大区ａｅ162～168にある。調査面はA_s－A混りから同混り下面まで存在していた。井野川崖直下には、溝跡68が存在し、水田水路として利用されていた。同溝跡と道跡６は崖崩落土中に深く喰込み急斜となり危険なためｄｅ167・168の第11図以西の調査は打切った。道跡６は井野川崖下廻りの道であったらしく、地山の造り出しで設けられ、その後の硬化などしっかりしていた。写真図版136の崖下に見える直線的な高まりが道跡６である。道跡６は前出のとおり、道跡５とともにA_s－A混り水田の南畦でもあった。規模は、東西35.4mを調査し、幅は広いか所で80cm、溝跡68との落差28cm、水田側との落差約20cm、方向は内湾しているので東西の両端でN51°Wを測る。その方向性は道跡４の畦道と90°に近い関係にあり、流出した可能性もある東側畦と合せれば、おそらくは、道跡６が内湾形でいても全体的には長方形を意識しての水田区画であったのではないだろうか。

2．溝　　跡

溝跡68　（第11・808図、写真図版136・239）

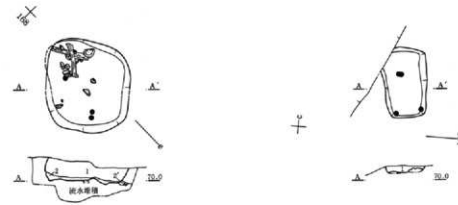


第808図　溝跡遺物図

同溝は、S大区a～d163～167に存在し、最下面はA_8－A混りが主で埋土中は近年までのビニールなどが入り、水路として用いられていた形跡があったが、調査前は段丘崖下の調査区内は畑地であった。調査地外北西約70mには以北西にかけ水田が広がり、第2図の高崎市現形図の昭和54年段階にはこのあたりも水田マークが入るので水田耕作が行なわれていたらしい。その水路跡も道跡4の延長水口と交わるe168交点付近以西ではA_8－A混り前代のA_8－B混りの池溜り様の凹地と繋がっていた。その様子は第11図に溝跡の北西延長が崖際で広がる状況を示した。そのため溝跡68の崖下を南に流下する約35.4m分は、e168交点付近以北西の池溜り様のカ所から新設して導水路としたことも考えられる。溝跡68の南東延長上は、近年の砂利採取の池状凹地に削られ見えなくなる。規模は幅のあるカ所で80cm、地山削り出しの道跡6との差は28cm、方向は並走の道跡と同一とした場合にN51°Wを測る。遺物は第808図1・2・3があり、同図1は高崎15連隊、金田銘が入る盃片で、戦前を思わせる。同図2は18、19世紀代の鉢片である。同図3は県下南牧産の砥沢砥で地元生産地を除くと最大級の大きさで長さ23cm以上、幅約14cmを測り、周囲は鋸挽目なく、削具痕あり。

溝跡70　(第807・808図、写真図版137・239)

同溝は、S大区e166～168にあり、坑108と道跡4の西側にあり道跡4の西側を並走する。e168交点付近より南西側は地山を削り出し、前出溝68西延長上にある池溜り様の凹地に至り、下方は北東側砂質土中に入る。第807図土層断面は中央よりやや北寄りを西北一南東に横切る断面で、覆土層にA_8－A混り層が存在し、



坑108
1、黒褐（10YR3/1）軽石多い。As-C・As-Bか。
2、黒褐（10YR3/1）還元状態。砂質。開放時の砂か。2′は砂少なく、粘性。

坑113
1、黒褐（10YR3/1）As-B・地山凝灰岩ブロック含む。

第809図　土坑遺構図

以下はA_s－Ｂ混りであり、注記2′に現代水田の存在していた頃の畦下らしき土層があり、同注記２右側に道跡４に続小円礫が見える。注記６には溝としての流水の形跡を示めすシルト質土の堆積がある。注４に酸化気味のカ所が観察され、渇水期と流入水期の繰り返しが示唆され、周囲は乾田のようである。規模は中央側の幅広のカ所で120cm、深さ51cm、方向はＮ62′Ｅを測る。遺物は第808図４埋土中に須恵器片が存在するが、機能時に直結しての遺物ではない。機能は接したカ所に畦の発見こそないが、畦道としての道跡４と並走することや、溝跡68西端の池溜り様凹地から導水を計ったと考えられる点など水田に係わる溝跡と考えられ、A_s－Ａ前代を遡った頃もある程度、A_s－Ａ混水田と共通の方向性の区画が存在した可能性のあることを考えたい。

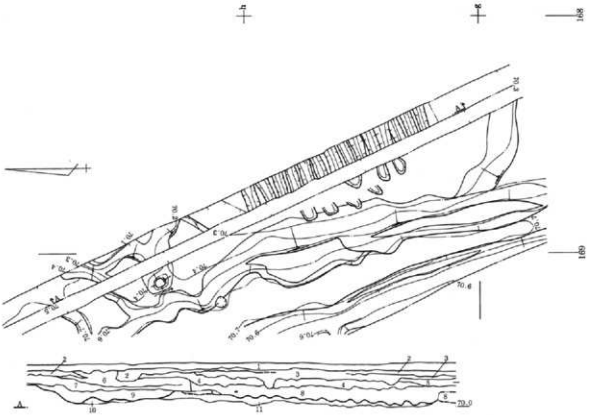
溝跡71と水田跡　（第11・810図）

溝跡71は、Ｓ大区ｅ168にある。３ｍ程の小溝を注視したのは、Ｓ区下段の新様段階に、溝跡71は、ｆｇ168の低位側南北約11＋αｍの水平面を中心とする、A_s－Ａ混下の水田の尻側の水口として存在したと考えられたためである。溝跡の規模は長さ265cm、幅38cm、深さ９cmを測る。構築は地山そのものではなく一坦崩落し、それが固まった状態の土壌を掘り込んで設けられていた。溝跡71を尻水口（けつすいぐち）とする前代は、A_s－Ｂ混下面の段階のことであるが、ｆ168内の北寄りを東西に、基部幅165cm、上面幅60cmの東西畦が、N11°Wの方向をもって存在し、さらに第810図中ｈ＋２ｍ、169＋１ｍの交点付近を尻水口とする東西畦が、壁面際で確認され以東に70.3mの等高線が巡る別の単位の水田跡とさらに北東側にもう１単位、計３単位の区画を確認することができた。この３単位の南東方延長上について関連を求めたが水平延長上の南東側以南は砂質土であり、不明であった。流失の可能性がある。

３．畑　　跡

畑跡１　（第810図、写真図版137）

位置はＳ大区ｇ168にある。調査面は、第810図のＡ－Ａ′の見通し断面中の注８の水性堆積層を埋没土とし、標高70.1m付近を発見面とする。層位上は地山層もしくは崖崩落による地山層の再堆積層の上面まで崖際でA_s－Ｂ混りの土壌で覆われているため、２ｍ前後その急斜地から離れた畑跡１の位置関係からすれば、畑跡



1、黒褐（10YR3/1）As-A含む。粗。現耕土。
2、黒褐（10YR3/1）As-A含む。粗。耕作土下。
3、黒褐（10YR3/1）As-A含む。粗。
4、黒褐（10YR3/1）As-B含むが、粗。地山経石粒・小ブロック含む。11層に似る。
5、黒褐（10YR3/1）As-B含むが、粗。
6、黒褐（10YR3/1）As-B含む。As-A不明。粗。
7、黒褐（10YR3/1）As-B含む。As-A不明。粗。
8、黒褐（10YR3/1）As-Bを含むかは不明ながら、層位順上は入っていて良い。シルト～細砂。流水の堆積。
9、黒褐（10YR3/1）As-Bを含むかは不明ながら、層位順上は入っていて良い。シルト～細砂。流水の堆積。
10、にぶい黄褐（10YR4/3）地山崩れか。小ブロック入る。
11、にぶい黄褐（10YR4/3）畠の耕作土および地山崩落土の客土か。As-B入るかは不明であるが、層位上は入っていて良い。

0　1:80　4m

第810図　畑跡1遺構図

1の基部をなす土層注11もA$_s$－B混りの可能性がある。畑跡1は、さく跡、畝跡とが10条以上の単位で連続的に存在していた。第810図中、小トレンチで分断したが、畑跡1の延長は東南寄りの2条がそれと考えられ、以西の急斜地のさく痕跡は前代の畑跡である。溝跡71と関連水田跡とは、畑跡1が先行してある。

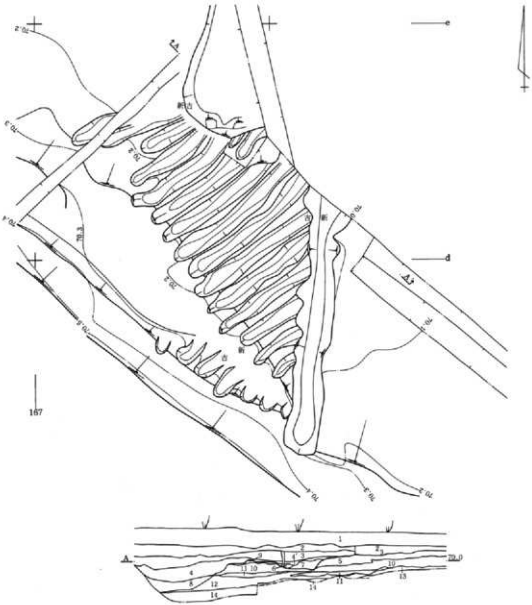
畑跡2　（第811図、写真図版137）

位置はS大区ｃｄ165･166にあり、層位上はA$_s$－B混りであってよい畑基盤と埋没土にある。新旧3時期の畑跡が確認されたが上下層にあり、そう時期は隔りがあるとは思えない層厚中にあった。前出の新様時期の水田より先行してある。

4．土　坑

土坑108　（第809図、写真図版137）

位置はS大区ｃｄ168にあり、長径156cm、深さ22.8cmを測る。A$_s$－Aに先行しての存在である。内部に砂



第811図　畑跡２遺構図

質の堆積があり、水溜めか。出土遺物に自然木が含まれていた。時期性のある遺物微弱であった。

土坑113　（第809図、写真図版137）

位置はＳ大区ｂ165にある。長さ109cm、深さ11cmを測り、調査面は最下であっても埋土中にＡs－Ｂ軽石粒をまじえる。出土遺物は時期性のある個体はなかった。

第４篇　遺物について

第１章　観察にあたり

遺物の観察は、第５章Ｐ東区（第77～243図、観察表623～650頁）は、㈶埼玉県埋文事業団整理班による観察で、同観察は㈶同埋文整理担当の一方的な作成ではなく、㈶群埋文整理担当の密な打合せにより作成された。以下は群埋文整理のあらましである。遺物実測図は、土器類を１：３で、同縮率と異なる場合は図傍に縮少率を示めし、図版中に縮尺を添えた。遺物実測は群埋文の場合、整理班による手実測と、三次元電子実測機（機械名称スリー・スペース）班との併用で、正位、倒立しうる大形個体の須恵器坏・埴を除く個体に用いた。実測図は補助員と整理担当とが作成し、大幅な加除筆かトレース用下図を整理担当が作成した。

遺物実測図の表現方法は、実線中軸線は土器四分割実測法を成立しうる直接実測の個体に、１点鎖線中軸は土器残存量の不足から回転実測した個体を示す。割れ口延長線は通常の場合でも推定であるので破線２単位でそれを示し、それ以上の場合は、実測用分割位置とは別に残存のカ所があり、それを用いた断面補足である。外形線ほか形を決定づける線を主体線とし実線で、補助を細線で表現してある。器壁断面中に粘土紐の接合面もしくは粘土走行を捉えて点描～実線で接極的から不安を感じる状態の場合までの幅で強弱を付けた。また土器中に型肌を認める型作りの場合に接合線が描かれていても、紐作りと限らず、粘土板や粘土塊の接合面もありうる。土器中の技法に関する表現は、横撫・撫・轆轤目線について破線状に途中切目を入れ、１点鎖線は、篦削や削意識のある場合に用いた。矢印は轆轤目・横撫・削りの方向を示したが、胎土中の夾雑物は抜ける場合と喰い込む場合との全体的な両者を捉えたつもりである。必要に応じて底内側、外側の平面も加えた。土器外面の２次的状態のうち、土器本来の目的である。日常生活で食を目的として用いられたことを上回る使用の場合や、特に目立つ技法痕などを認めた場合ヒ図傍に補注文字を加えた。二次的に、炉や竈で火による被熱の場合、主として炊飯用具に、被熱状態を土器左側部外形線外に短かい横線を用いてその、二次的状況のおよんだカ所の高さと範囲を示し、下方側の範囲線がない場合は、外面下端までその状況があったということである。なお図版下は２倍版のため、コピー縮少67％をトレース用に、トレースは手書きである。拓本については、二つの意味から、１つは技法・文様の表現補足として、２つ目は質感とハゼ剝落など状況補足として貼付した。

観察表は図版順に作成したかったが、瓦類は土器・石など同一項目では、ユニット的量産品のため用を成さないため、技法項目を基調に置いた内容を、各調査区の末尾側にまとめた。観察表項目のうち、出土位置は本来であれば一覧表中に記入すべきであるが、当遺跡の遺構重複過多の状況は、取り上げ時点で個有の単位での取り上げは重複認定は、単純には行なえず、複雑にならざるを得なかった。そのため、図傍に出土位置と、接合関係を文字で明示し、観察表中の出土地は、最少限である。器種名称は、古語名称を主とし、近代以降の名称を従としたが整然と用いることはできず混用である。量目欄は古語であれば度目としなければならないが貫用に習い量目とした。胎土・焼成・色調と摘要欄は、胎土は含まれる夾雑の鉱物・粒状を捉え、肉眼による粘土素地と製作地の推定を備考欄に加えた。製作地は1979年から始めた胎土分析の1000点を上まわる結果を踏えたことと、県内外窯跡群で採集した資料に基づく。焼成は、種別を意識しながら軟・並・硬・焼締りに分け、土師器・須恵器の軟は爪で傷が付く以下の焼上りの時に、並とは、それ以上の時。このほか被熱、凍ハゼ(焼成時の石ハゼは表現に加えていない)などの風化作用も観察し、顔料や付着物も備考欄に記入した。

略記の内容次章で触れたい。

第2章　観　察　表

以下に、観察の結果について一覧化し、表末の704頁に略記した名称を中心に触れたい。

N西区

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第14図1 写138	土師器 高坏	住1床1	口径7.5。 2/3。	鉱物少、並、弱酸化小黒褐。	割口消耗。外横撫・荒磨・接合痕。 内小研磨・工具撫・工具撫。	藤岡。
同図2 写138	土師器 高坏か	住1埋9	脚端径(20.2) 脚部片。	鉱物少、並、弱酸化。 純黄橙10YR7/4。	割口消耗。外密研磨。内工具撫削・上方撫。	透円形2段穿定3方向。
同図3 写138	土師器 高坏	住1床2・埋	口径17.1。 小欠あり。	鉱物少、軟、酸化。 橙7.5YR6/8。	割口消耗。器面消耗少。外研磨・接合痕。内研磨・接合痕。	
同図4 写138	土師器 壺	住1埋下3・6・埋撹	口径(12.4)。 1/2。	鉱物少、硬、酸化。 橙5 YR6/6。	割口消耗。外ハギ横撫・研磨、内横撫・接合痕・ハギ。	ハギのため回転実撫。
同図5 写138	土師器 甕台付か	住1A埋他	口径13.8。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。 黒褐7.5YR3/1。	割口消耗少。外横撫、8＋α条刷毛目。内横撫・接合痕。	
同図6 写138	土師器 甕台付	住1埋5・埋	台廻部径5.0台部2/3。	鉱物少、硬、弱酸化。 橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外7＋α条刷毛目。 内砂付着・撫・接合痕。	
第16図1 写138	土師器 壺小形	住2南西穴埋18・埋他	口径(10.4)。 3/5。	鉱物多、軟、弱酸化。 橙7.5YR6/6。	割口器面消耗大。外横撫・研磨・接合痕。内横撫・研磨・接合痕。	
同図2 写138	土師器 台付壺	住2－13・12・10・16	口径15.2。高19.4。1/2。	鉱物多、硬、酸化。 にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内外面横撫。外面10＋α条の刷毛目あり。内面指撫きあり	外面下半煤付着。
第19図1 写138	土師器 高坏	溝7埋1・埋	口径17.6。 2/3。	鉱物少、並、酸化。 橙2.5YR6/8。	器面消耗。外全面研磨。内研磨・撫・接合痕。脚内横撫。	透円形坏5穴・脚3穴、残6穴
同図2 写138	軟質陶器 不明	溝11埋	胴部片。	鉱物少、並、還元燻。 黒褐10YR3/1。	割口器面消耗大。外横撫・製作肌。 内横撫・接合痕。	18C以降か。
同図3 写138	焼締陶器 甕か形か	溝12埋	胴部片。	鉱物少、締、還元最終酸化。 暗褐7.5YR3/4。	割口器面消耗大。外自然釉・その剥落。内撫・接合痕。	軽質のため知多窯か不明。
同図4 写138	土師器 不明	溝15埋	体部片。	鉱物少、硬、酸化。 鈍赤褐5 YR4/4。	割口消耗。表研磨。内研磨。	
同図5 写138	石鍋ス レート	溝16埋	破片。	割口消耗少。割口にガラス質揮か石硝状物質見える。		現代。
同図6 写138	ガラス 瓶	溝18埋	胴部片。	割口消耗微。色はコーン・フラワーブルーで薬瓶色。気泡含み、細かい気泡もあり。表面は平らでない。		
同図7 写138	磁器 小碗	溝19埋	口径(8.0)。 1/2。	白磁胎。締、還元。　白。	割口消耗見えず。外内にクローム青磁釉様、外刷目あり。	高台裏無釉。
同図8 写138	ガラス製 瓶	溝23埋	胴部片。	割口消耗微。淡黄緑色で気泡含むが小さい。サイダー瓶より黄味強い。		
同図9 写138	軟質陶器 焙烙	溝32埋	底部片。	鉱物少、軽質、並、酸化燻。 橙2.5YR6/8。	割口消耗。外製作刷。内工具撫。	19C以降。小泉焼か。
同図10 写138	軟質陶器 羽口	溝25埋	長15.0＋α。径5.1	鉱物少、並、酸化～還元。 橙2.5YR6/8。	割口消耗少。硅化・酸化・還元部。 表面に製作時条痕多。小鉄滓付着	近世・近代か。
第21図1 写138	磁器 小碗	井1埋3	口径(8.6)。 1/2。	鉱物無、締、還元最胎は淡灰。染付は暗い呉須。	割口消耗微。外植物文。内無文。 白磁釉は少し灰色がかる。	肥前系。
同図2 写138	軟質陶器 香炉	井1	口径(16.0)。 1/2。	鉱物少、硬、還元燻黒色。 灰褐2.5YR4/2。	割口消耗少。口内外研磨。外石目様施文。内輪幅無。2足残存。	外ペンガラ塗か。小泉焼。
同図3 写138	陶器無釉 擂鉢	井11	最大径(29.2) 体部片。	鉱物少、締、酸化。釉茶褐。 純赤褐5 YR4/4。	割口消耗少。外回転刷。内12条卸目・輪幅目あり。	常滑。
同図5 写139	石製 砥石	井1埋4	長10.6。 81 g。小欠。	欠損は旧時。使用は側小口を除く4面。	両側部に櫛目タガネ目あり。黒小口は刃付痕。中砥級。手持砥。	流紋岩。砥沢砥。
同図6 写139	石製 砥石	井1埋	長9.6。158 g。 完存。	研磨は全体、部分的に川原石面を残す。 孔質であっても水沈する。	研磨の主体は硬質。多	角閃石安山岩。
同図7 写139	石製 砥石	井1埋	長9.6。 149 g。	割口は旧欠。使用時の消耗は微。 の割れあり。研磨の主体は硬質の物質。	研磨は表面全体。表面使用時	角閃石安山岩。 川原石円礫。
同図8 写139	石製 擂石	井1埋	残存最大径42.5	割口消耗少。外斜り痕あり、突ノミ不明瞭。	内研磨状消耗（水磨様）でなく、もっと荒い磨耗痕。小穴が突ノミか不明。	滑結凝灰岩（里見石）
第21図10 写139	石製 石白か	井1埋	長辺9.6。 745 g。	割口は旧欠の打欠き。旧磨部は、石四隅と左側部で、石白としての期目なし。		砂岩。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
図版11 写139	鉄製 小刀	井1埋2	長14.4	平棟様、平造、茎栗尻。柄に木質あり。棟はわずか反る。柄は茎尻から元まで続く。	刷口消耗少。外横撫・接合痕。刷口型肩痕。内横撫・撫。3内耳。	包丁か小刀か不明。
第22図4 写138	軟質陶器 焙烙	井1埋1・埋他	径38.8。 口縁1/3欠。	鉱物少・白色含、並、弱酸化燒。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕。破損後の修理孔6。小泉焼。	破損後の修理孔6。小泉焼。
図版9 写138	石製 板碑片	井1埋	長12.7。 303 g。	割口は旧欠で消耗あり。板碑としての個郡・文字見えず。薄手なので後出時期か。		15・16C。
第27図1 写139	銅主材	坑27埋	長2.9。 小欠。	板状を曲げ鑢付したか不明。割口は筒状の個体が潰れた様子。中間部は調査時欠損。		

O東区

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第30図1 写139	土師器 甕	1住№1	口縁部小欠。口径22.9。底径5.3。器高29.1。	白・黒色鉱物粒多含。並。明赤褐2.5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に指頭圧痕 粗作痕あり。体部の外面に撫削 内面に撫撫 接合痕あり。底面に段削あり。体部の下方外面に煤付着。	
図版2 写139	土師器 甕	1住№2	体部小欠。口径21.9。底径5.0。器高30.5。	白・黒色鉱物粒多含。並。明赤褐2.5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に撫削 内面に撫撫 接合痕あり。底面に撫削あり。口縁部・体部の外面に煤付着。	
第38図1 写139	土師器 鉢形か	溝1埋	底径7.5。	鉱物微・シルト質、軟・酸化。橙7.5YR6/6。	割口・器面消耗大。底外面不定方向撫削。頸部外彩巻目。内面荒撫	
図版2 写139	土師器 甕	溝1埋	底径4.8。	鉱物少、硬、酸化被熱剥色変。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外撫削。内接合痕・工具撫。底外撫削。	外底付近黒斑状吸炭。
図版3 写139	須恵器 埦か	溝2埋	口径14.2。 口縁部片。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰5Y6/1。	割口器面消耗。外横撫目。	非陶土質。
図版4 写139	須恵器 坏	溝1埋	底部径(6.0) 底1/2。	鉱物少、硬、還元。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗少。外内右回転横撫目。底右回転糸切痕。	観音山。
図版5 写139	須恵器 坏	溝1埋	口径(12.2)。 2/3。	鉱物少・軽質、軟、還元弱爆斑。灰白5Y7/1。	割口器面消耗大。外右回転横撫目内ハゼ剥落大。底糸切・同央敷痕	観音山か。
図版6 写139	須恵器 台付瓶	溝1埋7	台部端径(8.8) 底～胴片。	白鉱物少、硬、還元。灰N6/。	底面横撫右回転糸切。内外横撫目。高台貼付。割口消耗少。	観音山か。
図版7 写139	須恵器 瓶	溝1埋1	最大径(8.2) 1/2。	鉱物少、緻、還元後酸化。酸化部赤褐5YR4/8。	外面回転撫削。自然釉。内面横撫目。外面底糸切痕。高台貼付。	東海。
第38図8 写139	軟陶 耳付焙烙	溝5 埋91・87・89	口径(34.0)。	鉱物少、硬、明褐化燒。黒褐10YR3/1。	割口消耗少。外左回転撫・製作刷。内横撫左回転・研磨。	藤岡。
図版9 写139	軟質陶器 鍋か	溝5 埋67 近・埋56他	底径25.4。 2/3。	鉱物少・軽質、軟、還元・黒燒。暗灰N3/。	外面平行押圧文・焚口。内面左回転横撫目。底板状圧痕、三ツ足。	底外面製作中修理痕。小泉焼。
図版10 写140	軟質陶器 火鉢か	溝5 №60他	口径55.9。 高18.8。	並、並、還元燒。	外面に格条様の径5mmの不整円形連続文。肥手2カ所剥落。	小泉焼。19C。
図版11 写140	軟質陶器 置竈か	溝5 埋58付近	最大径(34.5) 胴部片。	鉱物少・軽質、並、弱酸化燒。暗灰N3/。	割口消耗既。外格手穴・持手貼付・波状文。内横撫目。	小泉焼か。
図版12 写140	磁器 湯呑	溝5 埋58付近	口径(6.0)。 2/3。	鉱物微、緻、白胎胎。	外面に「岩鼻火薬製作所江口剛道大会」とある。高台端除き白磁釉	大正頃か。
図版13 写140	陶器施釉 土瓶	溝5 埋91	口径9.5。 2/3。	鉱物少、緻、陶胎灰・白土掛・透明釉・ベロ藍釉。	割口消耗既。外草花文・圏線施文・下地白土。内白釉。	底番筒底は墨押。
図版14 写140	陶器 悪水形	溝5 埋48・47・58・64	口径13.2。 3/4。	鉱物微、緻、最終酸化。暗赤褐5YR3/4。	割口消耗既。外茶褐釉・黒釉・鐵蘭目。内茶褐釉・鐵蘭目。底白釉。	底左回転削。
図版15 写140	陶器 鉢	溝5 埋64・60・65	口径(37.4)。 1/4。	鉱物微、緻、還元。透明・緑灰釉。淡黄5Y8/4。	外面に刷毛目状、回転撫痕。内面鐵蘭目。外高台際鐵蘭右回転削。	北関東か。
図版16 写140	陶器 鉢	溝5 埋67・66・61・85他	口径36.0。 2/3。	鉱物微、緻、中性。透明・緑灰釉。淡黄7.5Y7/3。	内外面に透明釉、刷毛目、鐵蘭目あり。高台削出。鐵蘭右回。	内面下手目6カ所。北関東製か。
第40図17 写140	陶器施釉 鉢	溝5 埋60・67付近	口径(35.4)。 口1/2。	鉱物微、緻、弱酸化～中性。純黄7.5Y6/3。	割口消耗既。外内鐵蘭目。内外透明釉。外摘緑青（剥）釉。	瀬戸・美濃焼。
図版18 写140	多彩陶器 置	溝5 埋58	口径8.5。 3/5。	鉱物微、緻、磁胎か。	釉彩は茶・緑。文様時計と梅枝か。内かえり端を除き透明釉。	大正～戦前。
図版19 写140	ガラス製 パレット	溝5 埋86・89	最大径10.0。2/3。	灰白7.5Y7/1の磨乳白色ガラスを透明ガラス包む。	八重桜文で裏面に」八四一四号実用案登録「とある。	大正頃か。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　要	備　考
第40図20 写140	陶器 徳利	溝 5 埋58付近	最大径15.4。 1/2。	鉱物多、締、還元。透明・茶・黒。灰白5GY8/1。	内外面透明釉。鉄釉中。内面轆轤目。外面回転篦削・クッツキ刻痕	北関東製か。
同図21 写140	銅主材 銭	溝 5 埋64	径2.2。 完存。	表「寛永通宝」と判読できる。	背面文字なし。鋳作。新・古寛永が不明。	通用1文。
同図22 写140	石製 砥石	溝 5 埋 9 付近	長6.9＋α 129g	手前は旧欠で消耗微。使用は表・裏の2面。	側部・奥小口は風化消耗。奥小口に刃傷あり。手持～置砥。中砥～荒砥級。	デイサイトか。
同図23 写140	石製 砥石	溝 5 埋69	長6.6＋α 96g	使用は表裏2面。奥小口・両側部に櫛目タガネ目。	前小口は旧時欠損。中砥・手持砥。底部ヂセは右利。	19世紀後半。流紋岩、砥沢砥。
第41図26 写141	焼締陶器 甕	溝 6 埋 1	胴部片。	白鉱物含。締、還元燻。	割口消耗少。外自然釉。内指圧痕・撫。	常滑。
同図27 写141	軟質陶器 鉢	溝 8 埋 2	口縁部片。	鉱物少、並、弱酸化燻。褐灰10YR4/1。	割口消耗。外ハゲ・横撫・撫。内ハゲ・右回転撫・磨耗微。	14後～15前C。 瓶音山。
同図28 写141	軟質陶器 火鉢か	溝 8 埋 5	底部片	鉱物少・軽質、軟、弱酸化黒燻。黒10YR2/1。	割口消耗少。外製作跡、内右回転撫。内厚のため大形製品か。	小泉焼。17・18Cか。
同図29 写141	土師器 坏	溝 9 埋	口径(12.0)。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗。外横撫・ハゲ。内横撫・暗文状放射状研磨・ハゲ。	
同図30 写141	土師器 坏	溝 9 埋25・溝 9・10埋	口径(11.2)。 高3.1＋α。	鉱物少、並、酸化。鈍黄橙10YR7/4。	内外ハゲ剥落多。口縁内外横撫。体部外面中位指圧痕。消耗大。	
同図31 写141	土師器 坏	溝 9 埋51・67	口径(11.0)。 1/3。	鉱物少、並、酸化燻底。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・型肌・篦削。内横撫・撫。	
同図32 写141		溝 9 盛土200	口径(11.4)。 1/3。	鉱物少、硬、酸化燻底。橙7.5YR6/1。	割口消耗少。外横撫・綿合痕・篦削。内横撫・暗文放射状。	暗文。
同図33 写141	土師器 坏	溝 9 埋	口径(11.6)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化。鈍5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・型肌・接合痕・篦削。内横撫。	
同図34 写141	土師器 坏	溝 9 埋35・79他	口径(12.6)。 1/3。	鉱物微、硬、酸化。橙5YR6/6。	口縁部内外横撫。体部内外指圧痕。底外面篦削。割口消耗少。	
同図35 写141	土師器 坏	溝 9 底200	口径11.8。 2/3。	鉱物少、並、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗大。器面消耗。外横撫・製作跡・篦削。内横撫。	
同図36 写141	須恵器 蓋	溝 9 盛113	摘部と周辺片。	白鉱物含、並、還元。灰白5Y7/1。	内面磨耗大。外面消耗少。天井外面轆轤右回転篦削・撫。内轆轤目	道具再利用。 吉井か。
同図37 写141	須恵器 坏	溝 9 埋	口径13.6。 高4.3。	鉱物微・軟・還元。灰白5Y8/1。	内外面轆轤目あり。轆轤右回転の糸切痕底。器面消耗あり。	吉井・観音山。
同図38 写141	須恵器 坏	溝 9 埋	台端径(6.0)。 底～体部片。	鉱物少、硬、還元酸化斑。黄灰2.5Y5/1。	割口消耗微。外内右回転轆轤目。底右回転糸切痕。	観音山。
同図39 写141	須恵器 坏	溝 9 盛 土124・111他	口径15.3。 高7.9。	白鉱物多・並・還元。黄灰10YR6/1。	外右回転轆轤目多。内右回転滑か。底右回転糸切痕、高台貼付。	
同図40 写141	灰釉陶器 瓶	溝 9・10埋、溝 9 埋20	口径(9.6)。	緻密・締・還元。胎土灰白5Y7/2。	釉は安定、やや暗緑かかり、全国指釉。釉中小黒粒。底堂色あり。	東海。
同図41 写141	灰釉陶器 瓶	溝 9 底199・盛土163他	最大径16.1	密・締・還元。胎土灰白5Y7/2。	釉やや薄く暗い。外面上半釉あり。外面可以下回転篦削。内面轆轤目	東海。
同図42 写141	須恵器 台付瓶	溝 9 埋99	脚端径(9.8)。 脚部1/2。	鉱物少、締、還元弱燻。灰7.5Y6/1。	割口消耗少。外内微。外内面底自然釉付着。脚部接合面割口に有。	吉井・観音山。
第42図43 写141	須恵器 甕	溝 9 埋130	口径(29.8)。 口縁部片。	鉱物少、締、還元。灰7.5Y4/1。	割口消耗微。外内轆轤目。外自然釉付着。	吉井。
同図44 写141	須恵器 甕	溝 9 埋21・107他	口径(38.6)。 口1/3。	鉱物少、硬、還元。灰N4/。	割口消耗少。外内轆轤目・回転撫。回転撫は布様。	観音山。
同図45 写141	須恵器 甕	溝 9 埋	口径(44.4)。 口縁部片。	鉱物少、硬、還元。灰5/。	割口消耗少。外右回転撫・8＋α条櫛目波状。内右回転轆轤目。	観音山。
同図46 写141	土師器 坏	溝10底34・溝 9 埋	口径(12.6)。 1/2。	鉱物微、軟、酸化。鈍橙5YR6/4。	消耗大。内面傷多。口縁部内外面横撫。底外面篦削。	
同図47 写141	土師器 甕か	溝10埋(古)	胴部片	鉱物少、軟、酸化。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。外横撫・篦削。内撫・小ハゲあり。	9・10C頃か。
同図48 写141	須恵器 瓶	溝12埋 1 他	口径(12.6)。 1/2。	鉱物含・軽質、軟、還元。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗。内外面轆轤目。内面小ハゲ。底面轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。内面底磨耗。
同図49 写142	須恵器 坏	溝10埋古78・86・埋	口径(14.0)。 1/4。	鉱物少、硬、還元。灰7.5Y6/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底糸切痕と周辺手持篦削。	観音山。
同図50 写142	須恵器 瓶	溝10埋 8	台端径(6.2)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化。鈍橙7.5Y7/4。	割口消耗。外内右回転轆轤目・回転撫。底回転撫。	非陶土質。
同図51 写142	須恵器 台付瓶	溝 9 盛202他	台端径(8.4)。 底～胴部片。	白鉱物含、硬、還元。灰N5/。	底面轆轤右回転糸切痕。外轆轤目。内底磨耗大。外面消耗少。	道具再利用か。 硯か、吉井か。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘 要	備 考
第42図52 写142	須恵器 壺	溝9・10埋	口径(14.0)。 1/4。	鉱物微、砂、還元強雑。 灰7.5Y4/1。	割口器面消耗大。内外面轆轤目。 底面高台剥離、糸切痕不明。	高台剥離後も使用。弗面土質。
同図53 写142	須恵器 甕	溝10埋ほか98・ 同99	胴部片。	鉱物少、緻、還元。 灰N6/。	割口消耗少。外自然釉、叩目見えず。内素文当目。	観音山。
第43図54 写142	須恵器 甕	溝9盛土 118・161他	口径23.6。 高7.0+α。	鉱物微・雲・還元。 灰白10YR7/1。	口縁部内外轆轤目、胴外面平行叩。 内面同心円当目あり。消耗少	観音山。
同図55 写142	須恵器 瓶	溝10・9・12 埋他	胴径25.4。 2/3。	鉱物含、硬、還元。 褐灰10YR6/1。	外面平行叩・横撫。内面素文当目跡部撫。割口消耗ともありの2種。	観音山。
同図56 写142	須恵器 瓶	溝内底55・59 他	残存径(35.6) 胴部1/4。	鉱物少、緻、還元強。 灰白7.5Y7/1。	割口消耗少。外叩未見・ひっつき痕跡。内素文当目・貼土板接合。	観音山。
同図57 写142	石製 加工材	溝9埋78	長15.5+α。 1770g。	欠損は折時。全体に消耗少ない。 工跡のノミ削目あり。	旧欠の前小口を除き5面に加 工跡の面に刃傷あり。被熱痕見えず。	角柱状。
第44図58 写142	陶器施釉 碗	溝13埋14	最大径(18.8)	鉱物少、緻、砲脆淡灰。外 黒施釉。内半透質淡褐。	割口消耗目、高台削出 外縁轆目、高台削出 し。内滑らか。	製作地不明。
同図59 写142	軟質陶器 焙烙	溝13埋6	底部片。	鉱物少、硬、中性黒雑。 黒10YR2/1。	割口消耗少。外接合痕・横撫・製作 肌・麗刷。内右回転撫。	18・19C。小泉 焼。
同図60 写142	陶器施釉 碗	溝14埋1	体部径(10.7)	鉱物少、緻、中性。胎土浅 黄2.5Y7/3。	割口消耗少。外撫削・釉滴黄褐。内 滑らか。高台内外無釉。	美濃。
同図61 写142	焼締陶器 甕	溝17埋3	肩部片。	鉱物少、緻、還元最終酸化 強。胎土灰白2.5Y7/1。	割口消耗大。外自然釉・スダレ状工 具目。内工具撫・指圧痕。	知多窯か。
同図62 写142	土師器 台付壺	溝24埋1	台部片。	鉱物少、緻、弱酸化。 純黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外5+α条刷毛目。 内撫・砂付着。	肥前系。
同図63 写143	磁器染付 小碗	溝25埋2	底径(9.2)。 口1/3。	白磁胎、緻、やや青みがか る白磁釉、染付は山呂調。	割口消耗強。外網代文染付。内外 白磁釉。	肥前系。
同図64 写142	須恵器 坏か蓋	溝28底2	口径約(11.8)	鉱物少、緻、還元。 灰10Y4/1。	割口消耗少。外内回転撫。回転方 向不明。	観音山。
第46図1 写142	磁器青磁 小坏	井1	口径(12.2)。 口縁部片。	鉱物無、緻。還元磁胎淡灰。 釉暗オリーブ緑。	割口消耗少。釉掛厚く釉貫入・雲口 状が生じる。内印花弁、外無紋	龍泉窯系。13後 14C。
同図2 写142	焼締陶器 甕	井1埋	胴部片。	鉱物含、緻、還元最終酸化。 暗褐10YR3/4。	割口消耗無。外工具撫痕。内正筋 と撫痕。	常滑。
同図3 写142	焼締陶器 甕	井1-3m 埋	胴部片。	鉱物含、緻、還元最終酸化。 暗赤褐2.5YR3/3。	割口消耗強。表面に自然釉。整形 撫痕。接合痕・工具撫。	常滑。
同図4 写142	焼締陶器 甕	井1埋	底径(12.0)。 底付近片。	鉱物含、緻、還元最終酸化。 暗赤褐2.5YR3/2。	割口消耗少。外胴撫。内工具撫・工 具傷。内外自然釉。	常滑。
同図5 写142	軟質陶器 鉢	井1埋	口径約(11.8) 口縁部片。	鉱物少、並、還元。 灰5Y5/1。	割口消耗少。外内左回転横撫・轆轤 目。摺りおろし部に達せず。	観音山。
同図6 写142	軟質陶器 鉢	井1埋	片口部破片。	鉱物少、並、弱酸化弱雑。 黒褐10YR3/1。	割口消耗。外内横撫。内から外へ 指らしき押出し片口あり。鉄釉。	観音山。15・16 C。
同図7 写142	軟質陶器 鍋内耳	井1埋1	口径(24.2)。 口1/5。	鉱物少、並、還元強。 褐7.5YR4/1。	割口消耗少。外左回転撫・接合痕内 左回転撫・内耳接合の凹みあり	観音山。
同図8 写142	鉄製 鉄釘か	井1埋	径2.1。 完存。	釘状の先端は旧欠か不明。 錆状。中空か。	旧欠の場合は、再加工か。鉤状部は 軽く、中空か。	
第49図1 写142	鉄製 鉄	坑1埋2	径2.6。 3/4。	割口は調査時欠損。表「永楽□□」と判読でき、「永楽通宝」と 解釈される。背面文字の存在不明。内厚しっかりしている。		初鋳1368。 図は乾拓。
同図2 写142	鉄製 鉄	坑1埋3	小欠あり。 1.3g。	割口は調査損。表「永楽通宝」と判読される。背面文字なし。 内厚しっかりしている。		初鋳1368 図は乾拓。
第51図1 写142	石材 加工石	O東PQラ イントレ	長2.1。 割片。	石材は粘板岩で、質感は県内遺跡出土として見かける石材と異 なる気がする。周囲は打欠き。表面に磨耗あり。		

瓦

図版番号	写真番号	出土位置	瓦種	製法・作様	一枚作可能性	粘土板		布圧痕		軸線の使用痕	叩技法・形式名称	瓦乾燥時圧痕	側部面取	備 考
						側取	接合	合目	断面					
第40図24	写140	溝5埋67	男瓦	2枚割	なし	× ×	×	△	×	○	縦研磨素文。	×	3	並、並、還元黒燻。吉井観音山
同図25	写141	溝5埋65	桟瓦か	なし	なし	× ×	×	×	×	×	横撫素文裏横撫。	なし	—	並、硬、還元黒燻。吉井観音山

Ｏ西区

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第53図１ 写143	土師器 台付甕	２住12	口径(16.5)口縁部～体部片	黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/4。	口縁部の内外面に横撫あり。体部外面に刷毛目、内面に篦撫あり。	
第53図１ 写143	土師器 壺	３住５・10	底径7.2。体部～底部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。橙5YR6/6。	体部外面刷毛目後篦研磨。内面刷毛目、組作痕。底面網色目後篦研磨。	
第55図２ 写143	土師器 壺	３住 埋2・5・8・9・10・11・13・14・18・19・20・21・29・30	体部片。最大径(25.5)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。明赤褐5YR5/6。	体部の外面に篦撫、内面に篦撫、組作痕あり。器面全体にハゼ顕著。	
同図３ 写143	土師器 台付甕	３住床4・5	口縁部片。口径(15.9)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR7/6。	口縁部の内・外面に横撫。体部の外面に刷毛目、胴部横撫。体部の内面に篦撫あり。口縁部の外面に煤付着。	
第57図１ 写143	須恵器 坏	４住床上23	７分１側体。口径(12.2)。底径(7.7)。	黒色微粒子多含む。硬。灰白N7/。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図２ 写143	須恵器 台付皿	４住掘方埋18・19・20、掘方埋	３分１側体。口径(14.2)。高台部径(7.5)。	白・黒色粒子含。軟。灰N5/。	体部の轆轤目は弱く目立たず、内面に重焼による変色あり。口縁端部は肥厚する。底面糸切貼付高台。	
同図３ 写143	須恵器 壺	４住 埋2・3・4・6・7・・8・13、床10・11・12、掘方	小破あり。口径14.1。高台部径6.9。器高5.2。	白・黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y6/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面にかすかに墨痕。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕。	
同図４ 写143	須恵器 蓋	４住掘方埋	口縁部片。口径(14.6)。	白色鉱物粒含。軟。にぶい橙7.5YR7/4。	天井部の外面に轆轤右回転篦削あり。内面に小さなかえり。酸化焔気味。	
同図５ 写143	土師器 坏	４住掘方埋	口縁部～体部片。口径(12.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰褐5YR4/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に指頭圧痕あり。底面に篦削あり。	
同図６ 写143	土師器 坏	４住竈、掘方埋26・27・28	２分１側体。口径12.5。底径8.3。	白色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に指頭圧痕あり。底面に篦削あり。	
同図７ 写143	土師器 坏	４住床No16	口縁部小欠。口径11.5。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。底面に篦削あり。	
同図８ 写143	土師器 甕	４住掘方埋21・25、床上32、掘方埋	口縁～体部片。口径(18.4)。	白・黒色鉱物粒子含。並。橙7.5YR7/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦当痕を残す篦削あり。内面に篦撫あり。	
同図９ 写143	土師器 台付甕	４住 床上No17	脚部片。脚部径(7.7)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR6/6。	脚部の内・外面に横撫あり。	
同図10 写143	石製 加工材	住４床30	長21.2＋α。重910	被熱と調査時以降の消耗大。表上方に１カ所見える他消耗。	加工は表・裏面と右側部。削目は表面側に被熱酸化あり。	カマド材か。
第59図１ 写143	軟質陶器 焙烙	調31底１	底部片。	鉱物含、並、弱酸化被熱弱燻。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外製作部。内右回転撫。割口に煤及び使用中割れか。	18・19C。西毛。
同図２ 写143	須恵器 壺	調32埋10	台端径(6.0)底1/2。	鉱物少・緻質、軟、弱還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外内轆轤右回転轆轤目・撫。底糸切痕。	非陶土質。
同図３ 写143	須恵器 壺	調32埋１	口径13.4。3/5。	鉱物少、硬、還元。灰N5/。	割口消耗少。外内轆轤目。内面底磨耗光沢。底右回転糸切痕。	欠損部は旧状。秋間。
同図４ 写143	軟質陶器 焙烙	調33埋61・63	口径 約(37.0)口縁部片。	鉱物含、並、酸化被熱燻。橙。	割口消耗少。外右回転撫、製作肌。内右回転撫。	観音山。
同図５ 写143	陶器施釉 ひさげ	調33埋1・15 坑26埋13	最大径(20.0)1/3。	陶土、緻。外鉄黒釉、内鉄酸釉無。	割口消耗撫。外下方露胎部、回転削。内工具整形。注孔５穴。	美濃。18世紀後半頃。
第61図１ 写143	磁器染付 小碗	井２埋	口径(6.8)。1/2。	鉱物無。緻。還元白磁胎白。発付は乳濁した青色。	割口消耗撫。外菊文と櫛格子。内圏線２条。	肥前系。
同図２ 写143	陶器施釉 ひさげ	井２埋８	口径(14.0)。1/5。	鉱物少、緻、弱還元。灰白7.5Y8/2。	割口消耗少。外釉・右回転篦削。内鉄黄色釉(長石か)。	美濃。
同図３ 写143	軟陶か 鉢	井２	底径(12.4)。底1/5。	鉱物多、硬、還元。褐灰7.5Y6/1。	割口消耗少。外面転撫・回転削。底回転削。内壁純大。	県内外不明。軟陶か陶器か不明

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘 要	備 考
同図4 写144	軟質陶器 焙烙	井2埋	口径(37.6)。	鉱物少、並、酸化黒燻。 黒2.5Y2/1。	割口消耗少。外内輪縁左回転痕。 底製作肌。	19C。
同図5 写144	石製 砥石	井2埋10	長13.6。102g。 小欠あり	使用は奥小口下半を除く5面。前小口は刃付砥の尖り。裏面は上半に刃傷あり。右利、使用丁寧。中～仕上砥級、手持砥	流紋岩、砥沢砥。	硬質。
同図6 写144	石製 砥石	井2埋	長11.3。640g。 完存。	角礫、自然石利用。研磨は表面の点描部で研磨条痕もあり。裏面にも条痕あり。荒砥級・置砥で使用は浅い。	荒砥岩。	硬質。
同図7 写144	石製 砥石	井2埋16	長9.4。 320g。	図左側は旧欠。左側部・前小口は自然角礫の面。奥小口・表上半・裏面に櫛痕か荒目ヤスリ目。使用は表・裏2面。近名倉砥	仕上砥級。	仕上砥級。
同図8 写144	石製 敲石下	井2埋	直径(33.0)。1/4。	割口少消耗。表目無し状態となる。裏突込みノミ痕などの整形痕あり。側部は さらに細かい。ふくみ約3cm。	多孔質粗粒安山岩。	多孔質粗粒安山岩。
第63図1 写144	磁器染付 小瓶	坑26埋18	高6.1。 完存。	鉱物見えず、緑、還元。磁胎白。染付ややくすんだ青	挽物で内面口より1cm以下、外台付近除き白磁釉。台付近鉄是状酸化。	染付は草花か。 肥前系。
同図2 写144	磁器染付 瓶	坑33埋5	底径(4.6)。1/2。	鉱物見えず、緑、還元。磁胎淡灰。染付は呉須様。	割口消耗微。外側目、草文、内鎬捲か。高台端無釉。白磁釉青緑。	肥前系波佐見か。
第63図3 写144	石製 砥石	坑33埋5	長推定11.8。96g。	上方・表・裏は旧欠。研磨面の残存なし。図側部潤滑目あり。置砥、仕上砥級。やや硬質。	硬質頁岩。桐生の砥石。	硬質頁岩。桐生の砥石。
同図4 写144	軟質陶器 鍋行平か	坑36埋1	長10.2+α。把手のみ完存	鉱物少、硬、酸化。 明褐7.5YR5/6。	割口消耗大。外面輪縁目右回転。把手付根付近、内面煤付着。	無釉。

P西区

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘 要	備 考
第66図1 写144	土師器 甕有付か	住67埋17・上層他	口径(19.8)。口縁1/2。	鉱物少、硬、弱酸化。 鈍橙7.5YR7/3。	割口消耗少。表横撫・13+α条刷毛目。裏横撫・接合痕・指圧。	被熱不明。
第71図1 写144	陶器 土管か	溝74埋1	直径約25cm。口部片。	鉱物少、並、酸化。胎土赤10R6/5。	割口消耗少。内外鉄釉。口縁砂付着。	大形土管か。 20C。
同図2 写144	陶器灰釉 坏か	溝75埋	口径(12.8)。口縁部片。	鉱物微、並、還元。 灰白10YR7/1。	割口器面消耗少。内外浸掛灰釉と釉壁あり。内外回転撫。	東海。
同図3 写144	土師器 甕	溝77埋	頸部片か。	鉱物少、硬、酸化。 赤褐5 YR4/6。	割口器面消耗少。外工具撫か。内横撫。	
同図4 写144	土師器 甕	溝78埋2	口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。 橙5 YR6/6。	割口器面消耗少。内外面横撫。口縁内側ハゼ剥落。	
第75図1 写144	土製 神像	神社166 As-A 混	長5.4。	鉱物微、並、硬、酸化。 黄橙7.5YR8/8。	型押で側部に接合面あり。底に製作時の小欠あり。雲母粒含。	大黒天。帰外搬入か。
同図2 写144	軟質陶器 焙烙	神社160基埋	径30cm強。口縁部片。	鉱物微、並、並、酸化。 橙7.5Y6/8。	内耳付着痕あり。外内横撫。底砂付着。	白鉱物少なく藤岡か。
同図3 写144	軟質陶器 焙烙	神社72 基埋上埋	径30cm強。口縁部片。	鉱物少、硬、還元弱。 黒褐10YR3/1。	外接合・回転部・横撫。内横撫。外煤付着。	内耳か。小泉焼。
同図4 写144	軟質陶器 焙烙	神社100・111・112	口～底部片。	鉱物少、硬、還元弱。 黒褐10YR3/1。	破片色差あり被熱。内外横撫。内接合面。底製作肌。	外使用の痕・煤付着。
同図5 写144	陶器 擂鉢	神社58 基埋上埋	底径12.8。 底部片。	鉱物少、硬、中性。胎土に淡い黄橙10YR7/4。	内外に暗褐釉。内面に12+α条櫛目・磨耗。底糸切。外回転撫痕。	美濃、18C。
同図6 写144	陶器 擂鉢	神社183 As-A 混中	底径11.8。 底部片。	鉱物少、硬、中性。胎土に淡い黄橙10YR7/4。	内面に18条の櫛目あり。外回転削・輪縁目あり。底部磨耗。糸切	美濃、19C。
同図7 写144	須恵器 壺小形	神社116一溝埋	胴部片。	鉱物少、硬、還元部分黒化。 灰白7.5YR8/2。	割口消耗あり。胴格子目叩、内面素文当目か不明瞭。	瓶容か。
同図8 写144	鉄製 刊器	神社絡周辺 As-A 混	長8.1	横断面形は3層構造となる。	鋼よくく少なく、良鉄。図下方に刃部あり。図右側は刃とならず丸みおびる。	和鉄。
同図9 写144	石製 硯	神社207	破片。	表面の硯面は破損しているが縁部残存。	側部研磨で下地に鍛接らしき条痕。底面剣筋。	粘版岩。

P東区

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
第77図1 写145	土師器 壺	5住掘方埋 №13・14	口縁部片。口径(11.6)。	白色鉱物粒子含。硬。 橙7.5YR6/6。	口縁部の内・外面に縦位の荒研磨あり。胎土緻密。
同図2 写145	土師器 小形壺	5住床№12	体部～底部片。底径4.5。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙5YR6/8。	体部の外面に横位の荒研磨あり。内面は刷毛目後荒撫あり。底面に撫あり。

図番号 写真番号	種別 器形	出土位置	量　目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
同図3 写145	土師器 台付甕	5住埋	口縁部～体部片。口径(13.3)。最大径(19.7)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、内面に指撫あり。体部の外面に煤付着。
同図4 写145	土師器 台付甕	5住底№1、床№3・5・6・7、埋	体部～脚部片。	黒色鉱物粒多含。並。灰黄褐10YR5/2。	体部の外面に刷毛目、内面に指撫、接合痕あり。底面に砂付着。脚部外面に櫛歯状の刷毛目、内面は指撫あり。体部の外面全体に厚く煤が付着。
同図5 写145	須恵器 坏か	5住埋	口縁部片。口径(13.8)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。軟。黄灰2.5YR6/1。	体部の外面に弱い轆轤目あり。
同図6 写145	須恵器 甕	5住埋	口縁部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰5Y5/1。	口縁部の内・外面に轆轤条痕あり。
第79図1 写145	須恵器 坏	6住付	口縁部～体部片。口径(12.6)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白10YR8/2。	体部の外面に轆轤目あり。高台剥離。体部の外面に一部煤付着。
同図2 写145	須恵器 坏・坏	6住電埋	口縁部片。口径(13.4)。	白色鉱物粒少含。軟。灰白2.5Y8/2。	体部の外面に粘土屑の付着あり。酸化焔気味。
同図3 写145	須恵器 坏か	6住埋№23	口縁部～体部片。口径(13.3)。	白色鉱物粒子含。並。黒N2/。	体部の外面上方の轆轤目顕著。
同図4 写145	須恵器 坏	6住埋№20	体部～底部片。底径(6.6)。	黒色鉱物粒含。軟。灰白2.5Y8/1。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
同図5 写145	須恵器 坏	6住貯埋	体部～底部片。底径(6.7)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい黄橙10YR6/3。	体部の内面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。底外面に煤付着。酸化焔気味。
同図6 写145	須恵器 坏か	6住電底№34	口縁部～体部片。口径(13.8)。	黒色鉱物粒少含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。酸化焔気味。
同図7 写145	須恵器 坏か	6住電埋	口縁部片。口径(14.8)。	白色鉱物粒少含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	体部の轆轤目は弱く目立たない。酸化焔気味。
同図8 写145	須恵器 羽釜	6住埋№21	体部片。最大径(23.4)。	白色鉱物粒・夾雑物粒含。硬。にぶい褐7.5YR6/3。	体部の内・外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
同図9 写145	須恵器 羽釜	6住電埋№27・28	体部片。	白色鉱物粒含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面下方に篦削、内面に磨作痕あり。
同図10 写145	須恵器 羽釜	6住埋№13	底部片。底径(6.7)。	白色鉱物粒少含。並。にぶい黄橙10YR6/3。	体部の外面に篦削、内面に擦あり。底面に篦削あり。
同図11 写145	土師器 甕	6住強力炉埋№35	口縁部～体部片。口径(15.8)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。褐7.5YR4/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦撫、内面は篦削後篦研磨あり。
第81図1 写146	須恵器 甕	7住埋上層№5	体部～底部片。高台部径6.4。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。底面糸切痕付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図2 写146	灰釉陶器 碗	7住電埋	底部片。高台部径(6.3)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白5Y7/1。	釉は薄く、高台を除いて施釉。釉掛は浸掛け。内面平滑。底面は轆轤右回転糸切後高台貼付。
同図3 写146	灰釉陶器 碗	7住埋	体部～底部片。高台部径(6.9)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰黄褐10YR6/2。	釉は底面裏を除き施釉。内面に重焼痕あり。
同図4 写146	須恵器 中形甕	7住埋№9	口縁部片。	白色鉱物粒含。硬。暗青灰5PB3/1。	口縁部の内・外面に轆轤条痕あり。
同図5 写146	須恵器 小形甕	7住埋№9	口縁部片。口径(20.3)。	黒色鉱物少含。軟。灰白2.5Y7/1。	口縁部の内・外面に轆轤条痕あり。
同図6 写146	土師器 坏	7住埋	口縁部～体部片。口径(12.4)。	赤褐色粒子含。軟。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。口縁端部直下に沈線あり。
同図7 写146	土師器 甕	7住埋	口縁部～体部片。口径(20.2)。最大径(21.8)。	白色鉱物粒含。並。にぶい赤褐5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。口縁部の外面に乾燥時の亀裂を補修した指圧痕あり。体部の外面に篦削、内面に篦撫あり。
同図8 写146	土師器 台付甕	7住埋	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR6/6。	底面に多量の砂付着。脚部の外面に目の粗い刷毛目、内面に指撫あり。
同図9 写146	土師器 台付甕	7住埋	体部～脚部片。	白色鉱物粒多含。並。にぶい黄褐10YR5/3。	体部の外面に刷毛目、内面に篦当痕あり。底面に砂付着。
第83図1 写146	須恵器 坏・坏	8住埋№39	口縁部片。口径(14.2)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰白5Y7/1。	口縁端部は外反し肥厚する。体部の外面に轆轤目あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	法 目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備 考
同図2 写146	須恵器 坏	8住埋№9・14・73、床№16、底№68・85	4分3個体。口径12.8。高台部径6.0。	白・黒色鉱物粒含。並。灰5Y5/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。糸切後の撫により轆轤回転方向は不明瞭。	
同図3 写146	須恵器 坏	8住埋№47・48・51・70、底№69	口縁部中欠。口径13.1。高台部径6.7。	白色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤目、内面に重複痕あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図4 写146	須恵器 坏・坏	8住埋№33	口縁部～体部片。口径(14.3)。	白色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の内・外面に明瞭な轆轤目あり。	
同図5 写146	須恵器 坏	8住埋№55	体部～底部片。底径(5.6)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰5Y6/1。	体部の整形不明瞭。底面に糸切痕あり。	
同図6 写146	須恵器 坏	8住埋№4	5分1個体。口径(13.4)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の外面に轆轤目あり。内面平滑。底面糸切貼付高台。高台調部。酸化焔気味。	
同図7 写146	須恵器 坏	8住床№15	2分1個体。口径(12.4)。高台部径7.1。器高4.8。	黒色鉱物粒含。並。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。内面平滑。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図8 写146	須恵器 坏	8住埋№41	体部～底部片。底径(6.4)。	白・黒色鉱物粒多含。並。橙7.5YR6/6。	体部の内・外面とも轆轤目は弱く目立たない。底面に糸切痕あり。酸化焔気味。	
同図9 写146	須恵器 坏	8住床№58	底部片。高台部径(6.8)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰褐7.5YR4/2。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。	
同図10 写146	須恵器 坏	8住埋上層№25	底部片。高台部径(7.4)。	微粒雲母多含。並。灰白5Y8/1。	体部の外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図11 写146	須恵器 甕	8住埋№71	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。	
同図12 写146	須恵器 蓋	8住埋№79	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰N5/。	天井部に回転箆削あり。内面平滑。	
同図13 写146	須恵器 羽釜	8住埋№13・17・56・74、底№84	口縁部～体部片。口径(20.3)。	白色鉱物粒多含。並。黒褐2.5Y3/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。酸化焔気味。口縁部の外面に煤付着。	
同図14 写146	須恵器 羽釜	8住床№52	口縁部～体部片。口径(21.6)。最大径(25.4)。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の内・外面に轆轤目あり。断面に紐作痕あり。	
同図15 写146	灰釉陶器 皿	8住埋	口縁部～体部片。口径(14.4)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y7/1。	口縁部の内・外面に淡緑色の釉を施釉する。	
同図16 写146	灰釉陶器 皿	8住埋	口縁部～体部片。口径(14.4)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y7/1。	釉は口縁部の内・外面に薄く施釉する。	
同図17 写146	灰釉陶器 椀	8住埋№53・75	口縁部～体部片。口径(14.5)。	白・黒色鉱物粒含。緻。黄灰2.5Y6/1。	淡緑色の釉を体部の内・外面に施釉する。	
同図18 写146	灰釉陶器 皿	8住埋№28	口縁部～体部片。口径(15.2)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰褐2.5Y7/2。	釉は薄く、灰白色を呈し、体部の内・外面に施釉。釉掛は浸掛け。	
同図19 写146	灰釉陶器 椀	8住埋№50・57	底部片。高台部径(7.3)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白10Y7/1。	釉は薄く、高台を除いて施釉。釉掛は浸掛け。底面は回転箆削後高台貼付。	
同図20 写146	電袖芯 坏	8住№88	長15.2。幅12.2。厚12.9。	被熱により、風化激しい。		凝灰岩。
第86図1 写147	土師器 鉢	9住埋№84	口縁部片。口径(12.1)。	透明鉱物粒子含。硬。赤褐5YR4/6。	口縁部の内・外面に荒研磨あり。胎土緻密。	
同図2 写147	土師器 坩	9住1ピット№249	体部～底部片。底径3.5。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	体部の外面に荒研磨、内面に撫無あり。底面に撫あり。	
同図3 写147	土師器 壺	9住床2埋№163	口縁部～頸部片。口径(10.0)。	黒色鉱物粒子含。硬。にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に刷毛目後横撫を施す。	
同図4 写147	土師器 器台	9住床2床№290	受部～脚部片。口径(8.0)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	受部から脚部の外面に荒研磨を施す。受部の内面にハゲあり。脚部の内面に撫あり。	
同図5 写147	土師器 高坏	9住床№75	坏部～脚部片。口径12.4。	黒色鉱物粒含。硬。明赤褐5YR5/6。	坏部の内・外面に荒研磨あり。脚部の外面に荒研磨、内面に絞目あり。脚部は三方に円孔を穿つ。	
同図6 写147	土師器 壺	9住埋上層№26	底部片。底径6.2。	白色鉱物粒含。並。明赤褐5YR5/6。	体部の外面に荒撫、内面に荒当痕あり。底面にかすかに木葉痕あり。	
同図7 写147	土師器 高坏	9住床2床№240・243、掘方埋№250	坏部～脚部片。口径(11.3)。	白色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	坏部の内・外面に荒研磨あり。脚部の外面に荒研磨、内面に粗い刷毛目を残す。脚部は三方に円孔を穿つ。	

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	法　目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
図版8 写147	土師器 高坏	9住埋№74	脚部片。	白色鉱物粒含。並。黒褐10YR3/1。	脚部の外面は刷毛目後筋状磨去。内面に刷毛目あり。
図版9 写147	土師器 壺	9住埋№4	頸部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	外面の文様帯は上から櫛描横線、櫛描波状文、縄文、櫛描横線を描く。内面は撫を施す。
図版10 写147	土師器 壺	9住床2埋№171	頸部片。	白色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR6/2。	頸部に刺目をもつ突帯をめぐらし、その下方に幾何学的幾何文様あり。内面は紐作痕を残す。
図版11 写147	土師器 壺	9住埋№27	口縁部片。口径(26.0)。	黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。段部の外面には筋撫がある。
図版12 写147	土師器 台付甕	9住埋上層№71	口縁部～体部片。口径(13.7)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。灰褐7.5YR4/2。	口縁部の内・外面に横撫を施す。体部の外面に刷毛目、内面に筋撫がある。
図版13 写147	土師器 台付甕	9住床2埋№202	口縁部～体部片。口径(12.8)。最大径(18.1)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい黄橙10YR7/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面は筋削後刷毛目、内面に筋撫がある。
図版14 写147	土師器 小形台付甕	9住床1№98	脚部完存。脚部径6.2。	白色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR7/3。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。脚端部を折り返す。
図版15 写147	土師器 台付甕	9住床2埋№201・207・208・209	口縁部～体部片。口径(14.9)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、内面に筋撫あり。
図版16 写147	土師器 台付甕	9住埋№33、床№105	体部～脚部片。	白色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に刷毛目、内面に筋撫、接合痕あり。脚部の外面は櫛歯状の刷毛目あり。底面に砂付着。
図版17 写147	土師器 台付甕	9住床1№106	口縁部～体部片。口径(19.0)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、内面に筋撫あり。
図版18 写147	土師器 台付甕	9住埋№58	脚部片。脚部径(11.7)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。脚端部を折り返す。
図版19 写147	縄文土器 深鉢	9住床№83	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。にぶい赤褐5YR4/4。	加曾利E IV式で、底部付近の破片。縦位の摩滅懸垂分が施す。L R単節の縄文が充填施文される。内面に指頭による粗い調整痕あり。
第88図1 写148	須恵器 壺	10住埋№8	口縁部片。口径(13.4)。	黒色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の外面に淡緑色の自然釉付着。磨耗のため整形不明。
図版2 写148	須恵器 坏	10住竈上層№97、竈袖№98	口縁部～体部片。口径(12.9)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の外面に櫛目あり。酸化焔気味。
図版3 写148	須恵器 坏	10住床№77、竈埋№79	2分1個体。口径(12.0)。底径6.1。	白色鉱物粒・夾雑物粒含。硬。灰白5Y7/1。	体部の外面に櫛幅目あり。底面に櫛幅右回転糸切痕あり。
図版4 写148	須恵器 坏・坏	10住埋№41	口縁部片。口径(12.5)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰褐7.5YR4/2。	口縁端部は肥厚する。体部の外面に櫛幅目あり。内・外面に油煙付着。
図版5 写148	須恵器 坏・坏	10住埋	口縁部～体部片。口径(14.1)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の内・外面に櫛幅目あり。内面に油煙付着。
図版6 写148	須恵器 坏	10住埋№27	底部片。底径(6.1)。	白色鉱物粒多含。並。茂黄2.5Y7/3。	体部の内・外面に櫛幅目あり。底面に櫛幅右回転糸切痕あり。
図版7 写148	須恵器 坏	10住埋№37	体部～底部片。底径(6.8)。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の外面に弱い櫛幅目、内面は平滑。底面に櫛幅右回転糸切痕あり。
図版8 写148	須恵器 皿	10住埋上層№54	底部片。底径(6.1)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白N7/。	体部の外面に櫛幅目あり。内面平滑。底面に櫛幅右回転糸切痕あり。
図版9 写148	須恵器 坏	10住床№22	体部～底部片。高台部径(7.1)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。にぶい黄2.5Y6/3。	体部の内・外面の櫛幅目は弱く目立たない。底面糸切貼付高台。底面は磨耗のため糸切痕不明瞭。酸化焔気味。
図版10 写148	須恵器 坏	10住貯埋№119	底部片。高台部径(6.1)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	底面糸切貼付高台。高台貼付後櫛幅右回転の撫を加える。糸切痕不明瞭。
図版11 写148	須恵器 坏	10住床№23	2分1個体。口径12.6。高台部径5.7。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄2.5Y6/3。	体部の内・外面に櫛幅目あり。底面糸切貼付高台。底面に櫛幅右回転糸切痕あり。
図版12 写148	須恵器 坏	10住埋№9	体部～底部片。高台部径(6.8)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白5Y7/2。	体部の外面に櫛幅目あり。底面を欠損する。
図版13 写148	須恵器 羽釜	10住埋№20、床№76・81	体部片。最大部径(23.4)。	白・黒色鉱物粒多含。並。黒褐10YR3/2。	体部の内・外面に櫛幅目あり。体部の下方に箆削あり。
図版14 写148	須恵器 羽釜	10住埋№32	底部片。底径(6.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の外面に箆撫、内面に櫛幅目あり。底面に箆削あり。器面は被熱のため荒れている。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	見 目(cm) 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と摘要		備 考
周図15 写148	須恵器 鉢	10住埋	口縁部～体部片。口径(13.6)。	黒色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR5/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の内・外面に轆轤目に近い横撫あり。体部外面に煤付着。	
周図16 写148	土師器 鉢	10住埋上層№62	6分1個体。口径(14.5)。器高(6.0)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の内・外面に撫削あり。	
周図17 写148	土師器 壺	10住埋№19	口縁部片。口径(16.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の内・外面に刷毛目あり。口縁部の外面に赤彩が一部残る。	
周図18 写148	土師器 小形壺	10住埋№71	底部片。底径3.0。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の外面に箆削、内面に箆当痕あり。底面は上げ底気味。	
周図19 写148	土師器 台付甕	10住埋№52	口縁部～体部片。口径(15.8)。	白・黒色鉱物粒子含。硬。灰黄褐10YR4/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面は刷毛目、内面は撫あり。	
周図20 写148	土師器 台付甕	10住床№114	脚部片。脚部径(9.5)。	白・黒色鉱物粒子含。並。明赤褐5YR5/6。	脚部の外面に縦櫛状の刷毛目、内面は撫あり。脚端部を折り返す。	
第91図1 写149	須恵器 坏	11住埋、掘方埋	6分1個体。口径(13.7)。底径(7.2)。器高4.1。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図2 写149	須恵器 坏	11住床2床№63	2分1個体。口径(14.3)。高台部径6.8。器高5.1。	白色鉱物粒・赤褐色粒子・微粒雲母含。並。にぶい黄橙10YR7/3。	体部の外面に轆轤目あり。口縁部の内面に油煙付着。底面糸切貼付高台。底面は糸切痕で明瞭。	
同図3 写149	須恵器 坏	11住貯蔵№61	3分2個体。口径14.2。高台接合部径7.6。	白色鉱物粒・赤褐色粒子・微粒雲母含。軟。灰黄2.5Y6/2。	体部の外面に轆轤目あり。高台剥落。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図4 写149	須恵器 坏・坏	11住 竈掘方埋№70	口縁部～体部片。口径(13.2)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。	
同図5 写149	須恵器 坏・坏	11住竈底№17	口縁部片。口径(14.4)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。並。灰5Y5/1。	体部の外面に轆轤目あり。	
同図6 写149	須恵器 坏	11住掘底№85	底部片。底径5.2。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y5/1。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図7 写149	須恵器 椀	11住竈埋№18	体部～底部片。高台部径6.1。	微粒雲母多含。並。黄灰2.5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。体部の内面に煤付着。	
同図8 写149	須恵器 椀	11住床埋№66	底部片。高台部径6.9。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。並。灰黄2.5Y7/2。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
同図9 写149	須恵器 椀	11住埋№23	底部片。高台部径(6.5)。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の内面平滑。底面糸切貼付高台。	
同図10 写149	須恵器 大形椀	11住床2床№62	底部片。高台部径(9.0)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。灰白2.5Y7/1。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。底外面にハゲ顕著。	
同図11 写149	須恵器 甕	11住埋№83	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。	
同図12 写149	須恵器 小形甕	11住竈内№15	口縁部～体部片。口径(14.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	口縁部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面に紐作痕あり。	
同図13 写149	土師器 坏	11住埋№42・53	口縁部片。口径(14.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙2.5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削あり。	
同図14 写149	土師器 坏	11住埋№38・40	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削あり。	
同図15 写149	土師器 甕	11住竈底№19	口縁部～体部片。口径(19.2)。	白色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。	
同図16 写149	土師器 台付甕	11住埋№55	脚部片。脚部径(8.4)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。明赤褐5YR5/6。	脚部の内・外面に横撫あり。外面に煤一部付着。	
同図17 写149	焼粘土塊	11住埋上層№3	完存。長2.8。幅2.5。厚1.1。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい黄橙10YR6/3。	酸化焔。	
同図18 写149	竈袖芯	11住竈袖石№90	長(19.0)。幅14.0。厚12.1。	被熱により風化激しい。		凝灰岩。
第93図1 写150	須恵器 坏	12住埋№63	7分1個体。口径(13.4)。底径(8.2)。	黒色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に回転箆削あり。	
同図2 写150	須恵器 坏	12住埋上層	口縁部～体部片。口径(12.8)。	白色鉱物粒含。硬。灰N4/。	体部の外面に轆轤目あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	法量(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摸様	備考
同図3 写150	須恵器 坏・椀	12住埋№23・47	口縁部～体部片。口径(13.8)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	口縁端部肥厚。体部の外面に轆轤目、糸切痕あり。
同図4 写150	須恵器 坏・椀	12住埋	口縁片。口径(15.2)。	白・黒色鉱物粒含。並。黄灰2.5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。
同図5 写150	須恵器 坏・椀	12住埋№77	口縁部片。口径(13.2)。	白・黒色鉱物粒子含。並。灰白5Y7/1。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。
同図6 写150	須恵器 坏・椀	12住電埋№20	口縁部片。口径(14.6)。	赤褐色粒子・雲母石英片着含。並。灰5Y5/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図7 写150	須恵器 坏・椀	12住埋№33・71	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図8 写150	須恵器 坏・椀	12住埋№106	口縁部～体部片。口径(14.3)。	白色鉱物粒多含。硬。灰5Y6/1。	体部の外面に轆轤目あり。内面平滑。器肉厚い。
同図9 写150	須恵器 椀	12住電埋№19	体部～底部片。高台部径(6.5)。	微粒雲母多含。軟。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の轆轤目は弱い。底面糸切貼付高台。糸切痕は不明瞭。酸化焔気味。
同図10 写150	須恵器 坏・椀	12住埋№46	口縁部～体部片。口径(14.6)。	黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図11 写150	須恵器 椀	12住埋№28、電埋	体部片。高台接合部径(6.4)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。灰5Y5/1。	体部の内・外面に弱い轆轤目、内面に重焼痕あり。底面糸切貼付高台。高台剥落。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図12 写150	須恵器 椀	12住埋№85	底部片。高台部径(7.6)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰N5/。	底面糸切貼付高台。高台剥落。
同図13 写150	須恵器 椀	12住床№30・43、電埋	2分1個体。口径(16.4)。高台部径(6.7)。器高5.5。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白5Y7/1。	体部の内・外面に轆轤目、内面に重焼痕あり。底面糸切貼付高台。
同図14 写150	須恵器 椀	12住床№86	体部～底部片。高台部径6.4。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図15 写150	須恵器 羽釜	12住電埋	口縁部片。口径(22.2)。最大径(25.7)。	白色鉱物粒含。硬。浅黄2.5Y7/4。	口縁部の内・外面に轆轤目あり。
同図16 写150	須恵器 甕	12住埋上層№3	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰N5/。	外面に擬格子叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。
同図17 写150	羽口	12住床№50	最大径(6.0)。	截面円錐形か。スサの混入は不明瞭。先端は還元している。	
同図18 写150	土師器 坏	12住埋№60	口縁部片。口径(17.3)。	白色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削あり。
同図19 写150	土師器 甕	12住電埋№21	口縁部～体部片。口径(19.5)。	白・黒色鉱物粒含。硬。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削、内面に荒撫あり。
同図20 写150	土師器 甕	12住埋№34	口縁部～体部片。口径(20.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削、内面に荒撫あり。口縁部の内面に煤付着。
同図21 写150	土師器 甕	12住埋上層№8	底部片。底径(4.9)。	白色鉱物粒含。並。灰褐5YR4/2。	体部の外面に荒削、内面に撫あり。底面に砂付着。割口に接合痕あり。
第95図1 写150	土師器 台付甕	13住埋№23	口縁部片。口径(16.0)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、内面に荒撫あり。口縁部の外面に煤付着。
同図2 写150	土師器 台付甕	13住埋上層№5、埋№17・19、埋上層、埋	体部～脚部片。脚部径(16.2)。	白色鉱物粒多含。並。にぶい黄橙10YR7/2。	体部の外面に刷毛目あり。脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に指撫あり。底面に多量の砂が付着する。
同図3 写150	土師器 壺	13住埋上層	口縁部～頸部片。口径(14.7)。	赤褐粒子含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に刷毛目あり。
同図4 写150	須恵器 坏・椀	13住掘方埋	口縁部片。口径(14.2)。	微粒雲母多含。硬。にぶい褐5YR5/4。	体部の外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
同図5 写150	須恵器 坏	13住埋№46	底部片。底径(6.3)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰白5Y7/2。	底面の糸切痕は磨耗のため不明。
第97図1 写150	土師器 台付甕	14住床№1	体部～脚部片。	黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	体部の外面に刷毛目、内面に荒撫あり。脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に指撫あり。
同図2 写150	須恵器 甕	14住埋上層№5	体部片。	白色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	長 目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
第99図1 写150	須恵器 坏・椀	15住埋上層№3	口縁部片。口径(13.2)。	黒色鉱物粒含。軟。にぶい黄橙10YR7/4。	体部の轆轤目は不明瞭。酸化焔気味。
同図2 写150	須恵器 坏・椀	15住埋上層№1	口縁部片。口径(14.7)。	黒色鉱物粒含。軟。灰N5/。	体部の外面に轆轤目あり。
第101図1 写151	須恵器 坏・椀	16住竈トレE	口縁部片。口径(13.3)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい橙5YR6/4。	体部の外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
同図2 写151	須恵器 坏・椀	16住埋上層	口縁部片。口径(14.1)。	白色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。器肉肥厚する。
同図3 写151	須恵器 坏・椀	16住埋上層	口縁部～体部片。口径(14.1)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR7/6。	体部の外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
同図4 写151	須恵器 坏・椀	16住埋上層	底部片。底径(6.2)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。にぶい黄褐10YR5/3。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。内面黒色煤あり。酸化焔気味。
同図5 写151	須恵器 坏	16住埋№3、埋上層	底部片。底径(6.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白10YR7/1。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図6 写151	灰釉陶器 皿・椀	16住埋上層	体部片。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y7/1。	釉は内・外面に施釉する。
同図7 写151	須恵器 羽釜	16住竈材№15、28住埋№3	体部片。	白色鉱物粒含。並。暗灰黄2.5Y5/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面下方に箆削、内面は凹凸あり。
同図8 写151	須恵器 羽釜	16住埋№4	底部片。底径(6.2)。	白色鉱物粒含。硬。橙7.5YR6/6。	体部の外面に撫あり。内面の轆轤目顕著。底外面は箆削あり。
同図9 写151	須恵器 羽釜	16住埋№2・10・16・17、床№7	5分1個体。口径(22.2)。	白色鉱物粒多含。硬。灰黄褐10YR5/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面下方に箆削あり。
第103図1 写151	須恵器 坏・椀	17住埋上層№2	口縁部片。口径(14.4)。	白色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。器肉厚い。
同図2 写151	灰釉陶器 椀	17住掘方埋№34	体部片。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y7/1。	釉は外面にのみ施釉。
同図3 写151	土師器 台付甕	17住床№21	脚頂部片。	白色鉱物粒含。並。赤褐5YR4/6。	体部の内面に荒当痕あり。脚部の外面に横撫あり。
第108図1 写151	土師器 鉢	20住埋№45	口縁部～体部片。口径(14.2)。	白色鉱物粒含。硬。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に荒研磨あり。体部の外面に荒研磨、内面に箆撫あり。
同図2 写151	土師器 高坏・器台	20住1床下坑埋№120	脚部片。脚部径(14.2)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	脚部に円孔を穿つが、その配列・数については不明。脚部の内・外面に荒研磨あり。
同図3 写151	土師器 器台	20住埋上層№30・31、床2№80、1床下抗埋№119・120、36住埋№48	2分1個体。口径(16.7)。脚部径(14.9)。器高13.6。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR7/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。坏部の外面に荒研磨あり。脚部の外面に荒研磨、内面に撫あり。坏部・脚部にそれぞれ三方に円孔を穿つと思われる。
同図4 写151	土師器 粗製土器	20住2ピット№109	口縁部小欠。口径4.8。底径2.4。器高2.9。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。黒褐5YR3/1。	体部の外面に指頭圧痕、荒研磨あり。内面に荒撫あり。
同図5 写151	土師器 台付甕	20住床№46	脚部中欠。脚部径7.2。	赤褐色粒子含。並。灰黄褐10YR5/2。	底部の内面に接合痕あり。脚部の外面に斜面状の刷毛目、内面に荒撫あり。
同図6 写151	土師器 台付甕	20住№34・35・39・41・63・64・65・69・78・111・112・117	口縁部～体部片。口径13.5。	赤褐色粒子多含。軟。にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面は荒削後粗い刷毛目、内面に荒撫あり。
同図7 写151	土師器 台付甕	20住床№99	口縁部片。口径(17.4)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。灰黄褐10YR6/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目あり。頸部の内面に横刷毛目あり。体部の内面に荒撫あり。
同図8 写151	土師器 台付甕	20住埋№10・27・74、床下№68、柱穴№101	口縁部～体部片。口径18.0。	黒色鉱物粒子多含。硬。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、内面に指撫あり。体部の外面に一部煤付着。
同図9 写151	二次加工 剥片	20住埋№106	完存品。長4.5。幅8.5。厚1.5。重63.8。	裏面2箇所に二次加工。	凝灰岩。
第110図1 写151	須恵器 坏・椀	22住埋上層№3	口縁部片。口径(13.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の外面に轆轤目あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	器目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と調整	備考
同図2 写151	須恵器 坏・椀	22住掘方埋	口縁部片。口径(13.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白5Y7/1。	体部の外面に横撫目あり。
同図3 写151	須恵器 坏・椀	22住掘方埋	口縁部片。口径(14.2)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰5Y6/1。	体部の内・外面に弱い横撫目あり。
同図4 写151	須恵器 椀か	22住掘方埋	口縁部片。口径(15.2)。	微粒雲母多含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の外面に横撫目あり。内面平滑。
同図5 写151	須恵器 椀か	22住貯埋№6	口縁部～体部片。口径(15.1)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰白5Y7/2。	体部の外面に横撫目あり。口縁端部肥厚する。
同図6 写151	須恵器 椀	22住貯埋№4	体部～底部片。高台部径7.2。	微粒雲母多含。並。浅黄2.5Y7/3。	体部の内・外面に横撫目あり。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。
同図7 写151	須恵器 椀	22住貯埋№6	底部完存。高台部径6.8。	微粒雲母多含。並。灰白7.5Y7/1。	体部の外面に横撫目あり。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。
第12図1 写152	須恵器 坏か	23住掘底№39	口縁部片。口径(14.3)。	白色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の外面に横撫目あり。
同図2 写152	須恵器 坏・椀	23住掘底№39	口縁部片。口径(14.2)。	黒色鉱物粒多含。軟。灰白5Y7/1。	体部の外面に横撫目あり。口縁端部肥厚する。
同図3 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋 №51・93	口縁部～体部片。口径(14.9)。	黒色鉱物粒・雲母石英片含。軟。灰白2.5Y8/2。	体部の内・外面に横撫目あり。
同図4 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋 №75・78	体部～底部片。底径5.3。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。灰白2.5Y7/1。	体部の内面に横撫目あり。底面に横撫右回転糸切痕あり。
同図5 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋 №40・57	口縁部～体部片。口径(15.2)。	黒色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR7/4。	体部の内・外面に横撫目あり。酸化焔気味。
同図6 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋 №59・60	口縁部～体部片。口径(13.9)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の外面に横撫目あり。酸化焔気味。
同図7 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋№77 坏・椀	口縁部～体部片。口径(14.9)。	微粒雲母多含。軟。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の外面に横撫目あり。酸化焔気味。
同図8 写152	須恵器 坏・椀	23住掘方埋№76	口縁部～体部片。口径(15.0)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰黄2.5Y7/2。	体部の外面に横撫目あり。
同図9 写152	須恵器 椀	23住掘方埋№34	口縁部～体部片。口径(14.2)。	黒色鉱物粒多含。並。にぶい黄橙10YR6/3。	体部の内・外面に横撫目あり。高台刻落。酸化焔気味。
同図10 写152	須恵器 椀	23住床№14、掘方埋№82、掘方埋	口縁部中欠。口径14.4。高台部径7.3。器高4.8。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。灰黄2.5Y7/2。	体部の外面に横撫目、内面に重焼痕あり。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。
同図11 写152	須恵器 椀	23住掘方埋 №35・36・66	体部～底部片。高台部径(6.6)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰5Y4/1。	体部の内・外面の横撫目弱い。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。
同図12 写152	須恵器 甕	23住掘方埋№45	体部片。	白色鉱物粒含。硬。橙7.5YR7/6。	体部の外面に平行叩目後カキ目、内面に青海波当目、ハゲあり。
同図13 写152	土師器 甕	23住床№10	口縁部片。口径(18.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。外面に煤当痕あり。
同図14 写152	土師器 壺	23住埋上層	口縁部片。口径(15.6)。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の外面に刷毛目後横撫あり。内面は篦研磨あり。
同図15 写152	鉄製刀子	23住掘方埋№87	最大長3.7。厚0.3。	刀身部片。木質一部付着。	
第115図1 写152	須恵器 坏・椀	26住竈掘方埋 №13	口縁～体部片。口径(14.8)。	白色鉱物粒・夾雑物粒多含。軟。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に横撫目あり。胎土は砂っぽい。
同図2 写152	須恵器 椀	29住掘方埋№3 (26住に変更)	体部～底部片。高台部径6.9。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の外面に横撫目、内面平滑。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。
同図3 写152	須恵器 椀	26住床№21	体部～底部片。高台部径5.9。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。にぶい黄橙10YR6/3。	体部の内・外面に横撫目あり。図化していないが体部に二次的な穿孔あり。底面糸切貼付高台。底面に横撫右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
同図4 写152	土師器 甕	26住竈掘方埋 №8	口縁部片。口径(29.4)。	白色鉱物粒含。硬。明赤褐2.5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。口縁部の外面に指頭圧痕あり。体部の外面に篦用、内面に篦撫あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と胴要		備考
同図5 写152	鉄製不明 鑿か	26住 竈 掘方理 №11	長6.5+α。	平面形は撥形の鑿のようにも見えるが用途は明確でない。先端部は片刃気味である。		
第117図1 写152	須恵器 椀	27住 貯 掘方理 №7	口縁部～体部片。口径(13.4)。	黒色鉱物粒多含。並。灰白5Y7/1。	体部の内・外面に輪轆目あり。高台剝落。	
同図2 写152	須恵器 坏・椀	27住トレ埋	口縁部～体部片。口径(14.2)。	白色鉱物粒含。軟。褐灰5YR4/1。	体部の内・外面に輪轆目あり。酸化焰気味。	
同図3 写152	須恵器 椀	27住 貯 掘方理 №8	体部～底部片。高台部径5.5。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白5Y7/1。	体部の内面に輪轆目あり。底面糸切點付高台。底面に輪轆右回転糸切痕あり。	
同図4 写152	須恵器 坏・椀	27住 貯 掘方理 №6・10	口縁部～体部片。口径(14.6)。	白色鉱物粒含。軟。灰黄2.5Y6/2。	体部の外面に輪轆目あり。体部の内・外面にハゼあり。	
同図5 写152	須恵器 椀	27住埋、Qb-175 G	底部片。高台接合部径(5.6)。	白・黒色粒子含。硬。黄灰2.5Y6/1。	底面糸切點付高台。糸切痕は磨耗のため不明瞭。高台剝落。	
第121図1 写152	須恵器 坏・椀	30住埋	口縁部～体部片。口径(14.2)。	黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y6/2。	体部の外面に輪轆目あり。砂っぽい胎土。	
同図2 写152	須恵器 高台付皿	30住竈床№86	口縁部小欠。口径14.1。高台部径8.0。	赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	体部の内・外面に輪轆目あり。内面平滑。底面糸切點付高台。底面に輪轆右回転糸切痕あり。	
同図3 写152	須恵器 椀	30住床№49・78	3分1個体。口径(15.0)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰白2.5Y7/1。	体部の内・外面に輪轆目あり。底部糸切點付高台。糸切痕は不明瞭。	
同図4 写152	須恵器 椀	30住埋№3、竈 埋№52	3分1個体。口径(15.4)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の内・外面に輪轆目あり。内面平滑。底面糸切點付高台。底面に輪轆右回転糸切痕あり。	
同図5 写152	須恵器 椀	30住埋№22	2分1個体。口径(15.0)。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の外面に輪轆目あり。内面平滑。底面糸切點付高台。底面に輪轆右回転糸切痕あり。	
同図6 写152	須恵器 把手	30住埋№5	把手完存。	白色鉱物粒含。硬。暗灰黄2.5Y4/2。	全体に撫を施す。瘤の周部に付いていたものか。	
同図7 写152	灰釉陶器 長頸瓶	30住埋№42、埋、ベルト	体部片。最大径(12.7)。	白色粒子・鉱物微含。緻。黄灰2.5Y6/1。	淡緑色の釉を体部の外面に施釉。体部の内・外面に輪轆目あり。	
同図8 写153	土師器 坏	30住掘方埋№97	口縁～体部片。口径(12.2)。底径(9.4)。	白・黒色鉱物粒含。軟。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に指圧圧痕あり。底面に箆削あり。	
同図9 写153	土師器 坏	30住埋№35・39	口縁部片。口径(14.3)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。	
同図10 写153	土師器 甕	30住竈床№71、掘方埋	口縁部～体部片。口径(20.5)。最大径(21.2)。	白色鉱物粒含。並。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫、外面に指頭圧痕あり。体部外面に箆削、内面に箆撫あり。	
同図11 写153	土師器 甕	30住 竈床№80・81・82	口縁部～体部片。口径(19.8)。最大径(20.9)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫、外面に指頭圧痕あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。体部の内面に煤付着。	
同図12 写153	土師器 甕	30住 竈 埋№59・61・68・69・70、竈床№85・89	口縁部～体部片。口径(20.4)。最大径(22.8)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。口縁部の内面に紐作痕、体部の内面に接合痕あり。	
同図13 写153	土師器 甕	30住床№34	口縁部～体部片。口径(19.7)。最大径(21.9)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫、外面に指頭圧痕あり。体部の外面に箆削、内面は箆撫あり。体部の内面下方に接合痕あり。	
第122図14 写153	土師器 甕	30住埋№8・12・23	底部片。底径3.5。	黒色鉱物粒含。並。灰黄褐10YR5/2。	体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。底面に箆削あり。	
同図15 写153	土師器 甕	30住竈床№72	体部～底部片。底径(2.7)。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい赤褐5YR5/4。	体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。底面に箆削あり。	
同図16 写153	土師器 高坏	30住埋№45	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	脚部は三方に円孔を穿つ。脚部の外面に箆研磨、内面に撫あり。	
同図17 写153	土師器 壺	30住埋№17	底部片。底径7.1。	赤褐色粒子含。並。橙5YR7/6。	体部の外面に撫あり。磨耗のため全体に整形不明瞭。	
同図18 写153	鉄製鏃	30住床№95	完存品。長12.1。	先端部は研ぎ減りが見られる。耳の折り曲げは小さく不明瞭。		
同図19 写153	鉄製刀子	30住埋№46	残存長4.9+α。	刀身から茎にかけての破片。刃区、棟区の区別は不明瞭で、柄木の一部が遺存する。欠損は調査時のものである。		
同図20 写153	竈袖芯	30住床№47	長(9.6)。幅(9.9)。厚6.2。	切出面を二面残す。被熱により脆く風化する。		凝灰岩。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
同図21 写153	竈袖芯	30住竈袖芯 №94、竈トレE	長(14.0)。幅(10.1)。厚5.6。	切出面を二面残す。被熱により脆く風化する。	凝灰岩。
第124図1 写153	須恵器 坏	31住床№28	口縁部小欠。口径9.4。底径4.6。	黒色鉱物粒含。並。淺黄橙10YR8/3。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。底面の切離は不明瞭。
同図2 写153	須恵器 坏	31住床№31	体部～底部片。底径(6.0)。	黒色鉱物粒含。並。淺黄橙10YR8/4。	体部の外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図3 写153	須恵器 椀	31住埋№17・24・25、床№26、75坑上層	3分2側体。口径14.4。高台接合部径6.9。	黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR7/3。	体部の内・外面に轆轤目あり。高台剥落。底面に轆轤撫あり。酸化焔気味。
同図4 写153	須恵器 椀	31住埋№2	底部～高台部片。高台部径8.3。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	底面貼付高台。轆轤撫あり。高台外面に「有・有・□」の墨書あり。墨痕は明瞭。酸化焔気味。
同図5 写10	須恵器 椀	31住床№30	底部片。高台部径6.4。	黒色鉱物粒含。並。褐灰10YR4/1。	底面貼付高台。底面に轆轤撫あり。
同図6 写153	須恵器 羽釜	31住床№1・27	口縁部片。口径(21.9)。	白色鉱物粒・夾雑物多含。硬。灰白10YR7/1。	口縁部・体部の内・外面に轆轤目あり。
同図7 写153	土師器 甕	31住№6・8・9・12、埋№10・12、75坑上層	5分1側体。口径(16.3)。底径(8.7)。最大径(17.9)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に回転力のある横撫あり。体部の外面上方は横撫、下方は箆削あり。体部の内面に箆撫あり。底面に撫あり。
第127図1 写153	土師器 高坏か	33住埋№12	脚部片。脚部径(12.4)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい赤褐5YR4/3。	脚部の内・外面に箆研磨あり。
同図2 写153	土師器 坏	33住床№20	坏部～脚部片。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい橙5YR7/4。	脚部の外面に箆研磨、内面に撫あり。円孔を四方に穿つ。
同図3 写153	土師器 直口壺	33住埋№2	口縁部片。口径(10.1)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に箆研磨あり。
同図4 写153	土師器 壺	33住埋№11	底部片。底径4.7。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	体部の外面は箆削後箆研磨、内面に箆撫あり。底面に箆研磨あり。
同図5 写153	土師器 壺	33住床№14	口縁部片。口径(16.9)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。明赤褐5YR5/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。
同図6 写153	須恵器 甕	33住埋№15	口縁部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y5/1。	口縁部の外面に3条の櫛描波状文あり。内面に降灰がかかる。
第130図1 写154	須恵器 蓋	35住埋下№1	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N5/。	体部の外面に降灰がかかる。底面に轆轤右回転箆削あり。
同図2 写154	須恵器 甕	35住トレ	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。
第132図1 写154	須恵器 坏	36住掘方埋№53	口縁部片。口径(14.2)。	白色鉱物粒少含。硬。灰白5Y8/1。	口縁部の内・外面に弱い轆轤目あり。
同図2 写154	須恵器 甕	36住埋	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰黄2.5Y7/2。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。
同図3 写154	土師器 坏	36住床1床№18、掘方埋№59	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。底面に箆削あり。
同図4 写154	土師器 坏	36住床1埋№17	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に整磨あり。底面に箆削あり。
同図5 写154	土師器 坏	36住埋№44	口縁部～体部片。口径13.8。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部外面に整磨あり。底面に箆削あり。
同図6 写154	土師器 坏	36住埋№43	口縁部～体部片。口径(14.2)。	白・黒色鉱物粒含。軟。にぶい黄橙10YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。底面に箆削あり。
同図7 写154	土師器 坏	36住床1埋№16	口縁～体部片。口径(14.6)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削あり。
同図8 写154	土師器 甕	36住床2埋№22・30	口縁部片。口径(23.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。外面に箆当痕あり。
第134図1 写154	須恵器 坏	37住掘底№64	体部～底部片。底径(7.3)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の外面に轆轤目あり。底面は箆切後撫かう。
同図2 写154	須恵器 坏	37住床№6	2分1側体。口径12.9。底径4.9。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。軟。淺黄2.5Y7/3。	体部の外面に轆轤目、研作痕あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図3 写154	須恵器 坏	37住埋№54	体部～底部片。底径(6.6)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰5Y5/1。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。底面は轆轤右回転糸切痕あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	器 目(cm) 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と調整	備 考
同図4 写154	須恵器 坏	37住床No43、堀底No63	口縁部～体部片。口径(14.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰 N6/。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。
同図5 写154	須恵器 椀	37住理	底部片。高台部径(6.9)。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	底面は回転糸切後高台貼付。
同図6 写154	須恵器 甕	37住付上層	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。
同図7 写154	土師器 坏	37住理	口縁～体部片。口径(13.0)。	白・黒色鉱物粒含。軟。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。底面に箆削あり。
同図8 写154	土師器 台付甕	37住貯埋	脚部片。脚部径(7.6)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい赤褐5YR5/4。	脚部の内・外面に横撫あり。
同図9 写154	土師器 甕	37住理No 9・21	口縁部～体部片。口径(19.3)。	白・黒色鉱物粒含。硬。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削、内面に箆撫あり。
同図10 写154	土師器 甕	37住理No36	口縁部～体部片。口径(20.2)。最大径(21.8)。	白色鉱物粒多含。硬。にぶい赤褐5YR4/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に紐作痕、指頭圧痕あり。体部の外面に荒削、内面に箆撫あり。体部の内面に煤付着。
同図11 写154	土師器 甕	37住理No 7	口縁部～体部片。口径(20.6)。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に紐作痕あり。体部の外面に荒削、内面に箆撫あり。
第136図1 写154	須恵器 坏	38住床No 5・6、掘方埋No10	口縁部～体部片。口径(15.6)。	白・黒色鉱物粒・微粒雲母含。堅。灰黄2.5Y6/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面にハゼあり。
同図2 写154	須恵器 坏	38住別ピ底No 1 壁	体部～底部片。底径(18.9)。	白色鉱物粒・夾雑物含。硬。灰 N5/。	体部の内面に轆轤撫あり。断面に紐作痕あり。底面は磨耗のため整形不明。
同図3 写154	灰釉陶器 瓶	38住掘方埋No 8 瓶	体部～底部片。高台部径7.2。	白色粒子・鉱物微含。硬。灰白 N8/。	釉は高台を除き施釉。濃緑色の釉が厚くかかる。底面は回転糸切後高台貼付。
第138図1 写156	土師器 鉢台	39住床No38	受部～脚部片。口径(9.6)。	白・黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。堅。橙5YR6/6。	受部の内・外面に箆研磨あり。受部の内面は壁面が荒れている。
同図2 写156	土師器 高坏	39住埋	坏部～脚部片。	赤褐色粒子含。硬。明赤褐2.5YR5/6。	坏部の外面に箆研磨あり。脚部に円孔の一部が残る。三方か。脚部の外面に箆研磨、内面に紋目あり。
同図3 写155	土師器 高坏	39住床No71	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。堅。橙5YR6/6。	脚部の三方に円孔を穿つ。外面に箆研磨、内面に紋目と紐作痕あり。
同図4 写155	土師器 壺	39住埋No22・31・67、床No34、埋	体部～底部片。底径10.1。最大径(26.6)。	赤褐色粒子多含。硬。にぶい赤褐5YR5/4。	体部の外面に荒撫、内面に紐作痕あり。底面に箆撫あり。
同図5 写155	土師器 壺	39住埋No16	口縁部片。口径(17.7)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。堅。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に箆研磨あり。
同図6 写155	土師器 壺	39住床No74	底部片。底径8.4。	白色鉱物粒・赤褐色粒子多含。堅。橙5YR6/6。	内底面の器面剥離。底面に木葉痕あり。
同図7 写155	土師器 甕	39住床No56	体部～底部片。底径5.6。孔径1.0。	白色鉱物粒含。堅。橙5YR6/6。	体部の外面に荒削、内面に箆撫あり。底面に円孔を穿つ。底面に擦あり。
同図8 写155	土師器 台付甕	39住埋No32	体部～脚部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/4。	底面に砂付着。脚部外面に粗い櫛歯状の刷毛目、内面に指撫あり。脚部の外面に煤付着。
同図9 写55	土師器 台付甕	39住埋No21、埋、埋上層、50住床No33	口縁部～体部片。口径14.5。最大径(20.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。褐灰10YR4/1。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面上方は撫・荒削、下方は刷毛目。体部の内面に指撫あり。体部の外面下方に煤付着。
同図10 写155	土師器 台付甕	39住埋No54	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	底面に砂付着。脚部の外面に刷毛目、内面に指撫あり。
同図11 写155	土師器 台付甕	39住埋No57、床No20	体部～脚部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄橙10YR6/4。	内底面に刷毛目あり。脚部の外面は撫、内面に横位の刷毛目あり。
同図12 写12	土師器 台付甕	39住埋No17	脚部片。脚部径(9.2)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/3。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に指撫あり。脚端部を折り返す。指頭圧痕あり。
同図13 写156	須恵器 壺	39住掘方ピ埋No86	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰 N4/。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。外面に自然釉がかかる。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	法　量（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備　考
第142図1 写155	土師器 椀か	41住堀№2	口縁～体部片。口径（14.6）。	微粒雲母・赤褐色粒子含。軟。におい黄橙10YR7/3。	体部の外面に細かい轆轤目あり。酸化焔気味。
同図2 写155	須恵器 甕	41住堀№1	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰N6/。	体部の外面に平行平目、内面に撫あり。
第145図1 写155	須恵器 蓋	42住堀№58	摘部～体部片。摘径（5.8）。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰5Y8/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。天井部の上方に轆轤右回転撫削あり。
同図2 写145	須恵器 蓋	42住堀№23・24・26・60・61・91・231、床№21・139・140	4分3個体。口径18.8。器高3.2。摘径6.4。	白・黒色鉱物粒含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。天井部の上方は轆轤右回転の撫削あり。口縁部の割口を一部、二次的に研磨している。
同図3 写155	須恵器 蓋	42住埋、埋上層	2分1個体。口径（18.6）。	白・黒色鉱物粒含。並。灰5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。天井部の上方は轆轤右回転の撫削あり。
同図4 写155	須恵器 坏	42住貯埋№178	口縁部～体部片。口径（18.5）	白色鉱物粒多含。硬。灰N5/。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図5 写156	須恵器 甕	42住埋底№268	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰N5/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。
同図7 写156	須恵器 甕	42住埋№78	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰N5/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。
第146図6 写156	須恵器 甕	42住埋№22	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰5Y5/1。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。
同図8 写156	土師器 坏	42住埋№137、竈埋№113	ほぼ完存。口径11.7。器高3.4。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
同図9 写156	土師器 坏	42住竈埋№113	ほぼ完存。口径12.3。器高3.5。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
同図10 写156	土師器 坏	42住竈埋№113	完存。口径12.4。器高3.7。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。型痕が一部残る。
同図11 写156	土師器 坏	42住掘方埋№209	口縁部～体部片。口径（13.1）。器高3.3。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
同図12 写156	土師器 坏	42住埋№42	口縁部～体部片。口径（12.9）。器高3.3。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面上方に型痕、下方に篦削あり。
同図13 写156	土師器 坏	42住埋№16・41、床№32・156	2分1個体。口径（12.7）。器高3.0。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面の型痕は不明瞭。体部の外面下方に篦削あり。
同図14 写156	土師器 坏	42住埋№103	口縁部～体部片。口径（13.2）。器高3.9。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。内面に放射状の暗文あり。
同図15 写156	土師器 坏	42住埋№81	2分1個体。口径12.8。器高3.1。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面下方に篦削あり。型痕は不明瞭。
同図16 写156	土師器 坏	42貯埋№177、床№254	3分2個体。口径12.0。器高3.9。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に型痕あり。体部の外面下方に篦削あり。
同図17 写156	土師器 坏	42住埋№111、掘底№225、埋	5分1個体。口径（13.2）。器高3.6。	白・黒色鉱物粒含。硬。明赤褐2.5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫。体部外面に篦削あり。油煙が一部付着。
同図18 写156	土師器 坏	42住床№145	3分1個体。口径（13.7）。器高3.9。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面下方に篦削あり。
同図19 写156	土師器 坏	42住埋№14	4分1個体。口径（16.6）。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。器内薄作り。
同図20 写156	土師器 坏	42住掘方埋№213	口縁部欠。口径17.4。器高3.6。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面にハゲあり。器内薄作り。
第147図21 写156	土師器 坏	42住埋№95・96・100・194・195・198・243、床№85・90、埋上層	3分2個体。口径17.5。器高4.4。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面にハゲあり。器内薄作り。
同図22 写156	土師器 坏	42住床№69	2分1個体。口径（16.5）。器高3.7。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。器内薄作り。
同図23 写157	土師器 甕	42住埋№54・55	口縁部～体部片。口径（21.2）。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面に撫撫あり。口縁部の外面に紐作痕あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目 (cm) 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と胴要	備 考
同図24 写157	土師器 甕	42住 埋№63・101、竈 上 層№2・3、竈 埋№9	口縁部～体部片。口径(24.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR7/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。
同図25 写157	土師器 甕	42住貯埋№187・189・190・199、掘方埋№208・258	口縁部～体部片。口径(23.0)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。口縁部の外面に橙作痕あり。
同図26 写157	土師器 甕	42住埋№52	口縁部～体部片。口径(21.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。
同図27 写157	土師器 甕	42住埋№57	口縁部～体部片。口径(23.0)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。
同図28 写157	土師器 甕	42住埋№57・65	口縁部～体部片。口径(21.8)。	白・黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。口縁部外面に橙作痕あり。
同図29 写157	土師器 甕	42住埋	底部片。底径4.5。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に箆削、内面に撫あり。底面に箆削あり。胎土は砂粒の混入が多い。
同図30 写157	石槍	42住 掘 方 埋№222	基部(端部)欠損。長12.1。幅2.8。厚1.1。重31.9。		安山岩。
第149図1 写157	須恵器 坏	43住 床 下 坑 埋№38	底部片。底径(6.6)。	微粒雲母多含。軟。暗灰N3/。	体部の外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。内・外面に黒色燻あり。
同図2 写157	須恵器 椀か	43住 床 下 坑 埋№21	口縁部～体部片。口径(15.6)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。並。浅黄2.5Y7/3。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図3 写157	須恵器 椀か	43住 竈 掘 方 埋№42	口縁部～体部片。口径(14.3)。	微粒雲母多含。並。灰5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。
同図4 写157	須恵器 椀	43住 床 下 坑 埋№35	底部片。高台接合部径6.8。	微粒雲母含。並。黒N2/。	底面内側の轆轤目顕著。底面に轆轤右回転糸切痕あり。高台剥落。内・外面に黒色燻あり。
同図5 写157	須恵器 椀	43住 床 下 坑 埋№17	底部片。高台部径(6.9)。	微粒雲母多含。軟。灰黄2.5Y6/2。	体部の外面に轆轤目あり。底面貼付高台。糸切痕不明。外面に黒色燻あり。
同図6 写157	土師器 甕	43住掘方埋№11	口縁部～体部片。口径(10.3)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。硬。明赤褐2.5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆削、内面に箆撫あり。
同図7 写157	土師器 坩	43住 竈 掘 方 埋№41	口縁部～体部片。口径(11.3)。	白色鉱物粒含。硬。橙7.5YR 6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に箆撫、内面に箆撫・箆削あり。
第151図1 写157	須恵器 椀か	44住床№21・22、埋	口縁部～体部片。口径(13.3)。	赤褐色粒子含。軟。褐灰10YR4/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。内・外面に黒色燻あり。
同図2 写157	須恵器 椀か	44住 竈 掘 方 埋№72	口縁部～体部片。口径(13.8)。	白・黒色鉱物粒含。並。浅黄2.5Y7/3。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。
同図3 写157	須恵器 椀か	44住 竈 掘 方 埋№52	口縁部～体部片。口径(14.6)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。橙7.5YR7/6。	口縁部は大きく外反する。体部の外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
同図4 写157	須恵器 坏	44住 竈床№42	口縁部～体部片。口径(13.2)。	赤褐色粒子含。硬。橙7.5YR7/6。	体部の内・外面に轆轤目あり。砂っぽい胎土。酸化焔気味。
同図5 写157	須恵器 坏	44住埋	底部片。底径(5.5)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。並。灰黄2.5Y7/2。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
同図6 写157	須恵器 椀	44住掘方埋№98	底部片。高台部径5.7。	赤褐色粒子含。軟。黒褐10YR3/1。	内面剥落。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。外面に黒色燻あり。
同図7 写157	須恵器 椀	44住床№20、掘底№95、掘方埋№96・97、掘方埋	2分1個体。口径(14.3)。高台部径7.8。器高7.0。	白色鉱物粒・雲母石英片岩含。並。灰7.5Y5/1。	体部の外面に轆轤目、内面にハゲあり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図8 写157	須恵器 台付瓶	44住掘方埋№99	底部片。高台接合部径9.1。	微粒雲母多含。雲母石英片岩含。並。灰5Y6/1。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。高台剥落。底外面に箆記号「井」あり。底面内側の轆轤目凹凸著顕。
同図9 写157	須恵器 瓶	44住埋	体部～底部片。高台部径(8.0)。	白色鉱物粒・夾雑物含。緻。灰N4/。	体部の外面下端に回転箆削あり。内面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。糸切痕は不明瞭。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と調要	備考
図版10 写158	須恵器 甕	44住埋№13	体部片。	白色鉱物粒含。緻。灰7.5Y5/1。	体部の外面に平行叩目、内面に同心円当目あり。
図版11 写158	須恵器 甕	44住床№30	体部片。	白色鉱物粒含。緻。灰N5/。	体部の外面に平行叩目、内面に無文当目あり。
図版12 写158	須恵器 瓶	44住貯埋№10	体部～底部片。底径(13.6)。	白色鉱物粒多含。硬。灰N5/。	体部の内・外面に轆轤目あり。体部の外面下方に回転篦削あり。底面に無あり。
図版13 写158	灰釉陶器 小瓶	44住 竈 脇 方 埋 №59	体部～底部片。底径5.7。	白色粒子・鉱物粒微含。緻。硬。灰白2.5Y7/1。	外面の体部下端に回転篦削あり、内面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。釉は薄い。
図版14 写158	土師器 坏	44住トレW	口縁部片。口径(14.2)。	黒色鉱物粒含。並。にぶい黄橙10YR7/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
図版15 写158	土師器 甕	44住床№15	口縁部～体部片。口径(22.2)。	白色鉱物粒含。硬。赤褐5YR4/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面に篦撫あり。
第153図1 写158	須恵器 蓋	45住埋№2	体部片。	黒色鉱物粒含。緻。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤右回転篦削、内面に轆轤目あり。
第155図1 写158	土師器 甕	46住埋上層№3	口縁部～体部片。口径(19.9)。	雲母石英片岩・赤褐色粒子含。並。にぶい赤褐5YR4/4。	口縁端部の内側直下に沈線をめぐらす。口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面は整形不明瞭。内面は篦撫あり。
図版2 写158	土師器 台付甕	46住掘方ピ1埋 №26	脚部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。にぶい黄2.5Y6/3。	底面に砂付着。脚部の外面に鋸歯状の刷毛目、内面に篦撫あり。
第157図1 写158	須恵器 坏	47住床№1	口縁部小欠。口径12.4。底径7.6。	白色鉱物粒含。並。灰白2.5Y7/1。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
図版2 写158	須恵器 坏	47住竈袖№47	4分3個体。口径12.4。底径5.4。	白色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y6/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
図版3 写158	須恵器 坏	47住床№3	口縁部中欠。口径12.4。底径5.6。器高3.6。	雲母石英片岩・微粒雲母含。並。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焰気味。体部の内面に一部煤付着。
図版4 写158	須恵器 坏	47住竈埋№42	2分1個体。口径(12.6)。底径(6.3)。器高4.1。	白色鉱物粒含。硬。灰7.5Y6/1。	体部の外面に弱い轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
図版5 写158	須恵器 椀	47住埋№21、埋	口縁部～体部片。口径(14.8)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰白5Y7/2。	体部の内・外面に細かい轆轤目あり。
図版6 写158	須恵器 椀か	47住床№51	口縁部～体部片。口径(14.6)。	白色鉱物粒含。並。灰7.5Y6/1。	体部の外面に弱い轆轤目あり。内面平滑。
図版7 写158	須恵器 椀	47住床№2	4分3個体。口径15.5。	白色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切痕付高台。高台側部。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
図版8 写158	土師器 台付甕	47住埋№14	口縁部～体部片。口径(10.1)。最大径(11.5)。	白色鉱物粒子含。硬。褐7.5YR4/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面に篦撫あり。断面に紐作痕あり。体部の外面に煤付着。
図版9 写158	土師器 台付甕	47住竈埋№40	体部～脚部片。	白色鉱物粒・微粒雲母含。硬。にぶい赤褐5YR4/3。	体部の外面に篦削、内面に篦撫あり。体部の外面に煤一部付着。
図版10 写158	土師器 甕	47住床№35	口縁部～体部片。口径(19.6)。	白色鉱物粒含。硬。にぶい赤褐5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削、内面に篦撫あり。断面に紐作痕あり。
図版11 写158	土師器 坏	47住埋№36	口縁部～体部片。口径(14.2)。	微粒雲母含。並。灰黄2.5Y6/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面は磨耗のため整形不明瞭。
図版12 写158	土師器 壺	47住埋	口縁部片。口径(16.4)。	白色鉱物粒含。並。にぶい黄褐10YR5/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。口縁端部に篦による刻目あり。
図版13 写158	土師器 高坏	47住埋№4	坏部～脚部片。	赤褐色粒子含。硬。にぶい褐7.5YR5/4。	脚部の外面に篦研磨あり。
図版14 写158	土師器 坏	47住埋№11	口縁部片。口径(13.1)。	赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR7/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
第160図1 写158	土師器 坏	48住トレW	口縁部～体部片。口径(15.1)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい褐7.5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に篦削あり。
第162図1 写159	土師器 直口壺	49住床№6、埋	口縁部～頸部片。口径11.4。	赤褐色粒子含。並。明黄褐10YR7/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に目の細かい刷毛目あり。
図版2 写159	土師器 壺	49住埋	頸部～肩部片。	赤褐色粒子含。硬。淡黄2.5Y8/4。	頸部から肩部の外面に刷毛目。肩部に沈線あり。頸部の内面に刷毛目あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量　目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備　考
図版3 写159	土師器 台付甕	49住床№8	体部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。におい黄橙10YR7/4。	体部の外面に粗い刷毛目、内面に荒撫、貧当痕あり。
図版4 写159	灰釉陶器 椀	49住理	体部片。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白5Y8/2。	淡緑色の釉が体部の内・外面に薄くかかる。
第164図1 写159	須恵器 坏・椀	50住ベルトE	口縁部片。口径(13.6)。	微粒雲母含。軟。灰黄褐10YR5/2。	体部の内・外面に弱い横轆目あり。酸化焔気味。
図版2 写159	須恵器 坏	50住ベルトS	口縁部片。口径(14.8)。	赤褐色粒子含。緻。灰白2.5Y8/1。	体部の内・外面に横轆目あり。焼膨れあり。
図版3 写159	土師器 壺	50住掘方埋№35	口縁部～頸部片。口径(15.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。外面に目の細かい刷毛目、内面は磨耗のため整形不明瞭。
図版4 写159	土師器 壺	50住埋№32	底部片。底径(5.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子多含。並。橙7.5YR6/6。	体部の内・外面に撫あり。底面に擦を施す。
図版5 写159	土師器 粗製土器	50住掘方埋№46	体部～底部片。底径3.5。	白・黒色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	体部の外面に粗い刷毛目、内面に紐作痕あり。底面に撫あり。
第166図1 写159	須恵器 坏	51住埋№71	口縁～体部片。口径(14.4)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。におい黄橙10YR7/4。	体部の外面に轆轤目あり。酸化焔気味。
図版2 写159	須恵器 坏	51住埋№37	体部～底部片。底径(7.5)。	白色鉱物粒含。緻。灰N5/。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。底面に轆轤右回転糸切痕あり。混入か。
図版3 写159	須恵器 坏	51住床下坑埋№106	体部～底部片。底径(7.0)。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。黄灰2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。胎土に小礫を含む。
図版4 写159	須恵器 坏	51住埋№23	体部～底部片。底径6.8。	赤褐色粒子・微粒雲母含。並。黄灰2.5Y6/1。	内面平滑。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
図版5 写159	須恵器 椀	51住床№60	3分1個体。口径(14.7)。高台部径(6.3)。器高(4.7)。	微粒雲母多含。軟。にぶい黄褐10YR5/3。	体部の外面に轆轤目あり。内面平滑。酸化焔気味。
図版6 写159	須恵器 椀	51住貯№1	4分3個体。口径14.5。高台部径7.4。器高5.3。	白・黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
図版7 写159	須恵器 椀	51住貯№87・93	体部～底部片。高台部径6.8。	赤褐色粒子・微粒雲母含。軟。灰白5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。糸切痕不明瞭。酸化焔気味。
図版8 写159	須恵器 椀	51住貯№95	体部～底部片。高台部径6.1。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。におい黄橙10YR7/3。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
図版9 写159	須恵器 大形椀	51住貯№44	4分3個体。口径18.6。高台接合部径7.0。	白・黒色鉱物粒含。並。灰白2.5Y7/1。	口縁部の内面ハゼ顕著。体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。高台剥落。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
図版10 写159	須恵器 椀	51住床下坑埋№131	体部～底部片。高台部径6.3。	黒色鉱物粒含。軟。灰白2.5Y7/1。	底面糸切貼付高台。磨耗のため糸切痕不明瞭。酸化焔気味。
図版11 写159	須恵器 椀	51住埋№36、ベルトW	体部～底部片。高台部径(6.4)。	白・黒色鉱物粒含。軟。灰黄2.5Y6/2。	体部の外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
図版12 写159	須恵器 甕	51住埋上層№2	体部片。	白色鉱物粒多含。緻。灰N6/。	体部の外面に目の細かい平行叩目、内面に青海波当目あり。
図版13 写159	須恵器 甕	51住埋№33	体部片。	白色鉱物粒多含。緻。灰N4/。	体部の外面に平行叩目、内面に無文当目あり。
図版14 写159	須恵器 甕	51住埋№34	体部片。	白色鉱物粒多含。緻。灰N4/。	体部の外面に目の細かい平行叩目、内面に青海波当目あり。
第167図15 写159	土師器 坏	51住埋下№54	3分2個体。口径11.9。底径8.4。	赤褐色粒子・微粒雲母含。軟。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に強磨あり。内底面に刻書「十」あり。底面に貧削あり。
図版16 写159	土師器 甕	51住竈№73・81・84	口縁部～体部片。口径(17.8)。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。におい赤褐5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に指頭圧痕、内面に紐作痕あり。体部の外面に貧削、内面に荒撫あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量　目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摸要	備　考
同図17 写160	土師器 甕	51住埋№22	口縁部～体部片。口径(23.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削、内面に荒撫、絞作痕あり。煤一部付着。
同図18 写160	土師器 甕	5住埋№27	体部～底部片。底径4.4。	白・黒色鉱物粒含。並。灰褐7.5YR5/2。	体部の外面に荒削、内面に荒当痕あり。底面に荒削あり。
同図19 写160	土師器 甕	51住トレE、埋No.6、掘底№156	体部～底部片。底径(2.9)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰褐7.5YR4/2。	体部外面に荒削、内面に荒当痕あり。底面に荒削あり。体部外面に煤一部付着。
同図20 写160	土師器 台付甕	51住埋№29・30、39住埋	体部～脚部片。最大径(15.1)。脚部径(10.0)。	赤褐色粒子含。並。にぶい褐7.5YR5/4。	体部の外面に荒削、内面に荒撫あり。脚部の内・外面に横撫あり。体部外面に煤一部付着。
同図21 写160	土師器 甑	51住埋№159、床下成埋№119・121・123、貯埋	体部片。底径(10.6)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙5YR6/6。	体部の外面に荒削、内面に荒撫、接合痕あり。体部下端に小円孔あり。その個数は不明。
同図22 写160	竈袖芯	51住　竈　方　埋№184	長13.2。幅(11.5)。厚5.65。	切出面を残す。被熱により脆く風化する。軽量感あり。	凝灰岩。
同図23 写160	鉄製刀子	51住床№1	残存長8.0＋α。	刀身から茎にかけての破片。茎尻にむかって先端は尖り気味。棟区は明瞭であるが、刃区は不明瞭。欠損は調査時のものである	
第169図1 写160	土師器 坏	52住埋№30、床№32・33、竈埋№34、竈床№38・39・40・41・42	口縁部小欠。口径13.8。器高3.5。	黒色鉱物粒含。並。にぶい赤褐5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫、外面に亀裂補修用の粘土貼付痕あり。体部の外面に荒削あり。体部の内面に一部煤付着。
同図2 写160	土師器 壺	52住埋№21・28	頸部～体部片。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	頸部の内・外面に赤彩あり。肩部の外面に櫛描波状文、櫛描横線を施文する。体部の内面は磨耗している。
同図3 写160	土師器 壺	52住埋№1	底部片。底径(7.0)。	黒色鉱物粒含。硬。明赤褐5YR5/6。	体部の外面に荒、内面に荒研磨あり。底面に撫あり。
第186図1 写160	土師器 坩	2掘立90ピ埋№1	4分1側体。口径(9.3)。	黒色鉱物粒含。並。橙2.5YR6/6。	外面は全体に荒研磨を入念に施す。内面は口縁部に荒研磨、体部に撫を施す。
同図2 写160	須恵器 坏	9掘立165ピ埋№4・5	2分1側体。口径(13.6)。底径(7.6)。	白色鉱物粒含。硬。灰N6/。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に回転荒削あり。
同図3 写160	土師器 坏	11掘立386ピ埋№2	口縁部～体部片。口径(13.3)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削あり。
同図4 写160	須恵器 蓋	12掘立299ピ埋№7	口縁部片。口径(18.8)。	白色鉱物粒含。硬。褐灰10YR4/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。器肉薄い。
同図5 写160	須恵器 蓋	12掘立297ピ埋№7	口縁部～体部片。口径(13.5)。	黒色鉱物粒含。軟。灰白2.5Y7/1。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。割口に二次的な擦痕あり。
同図6 写160	須恵器 高盤	13掘立166ピ№3、掘No.6	脚部片。脚部径(12.0)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰5Y5/1。	脚部の内・外面に轆轤目あり。脚端部の形態特徴的。
同図7 写160	土師器 甕	13掘立632ピ埋	口縁部～体部片。口径(12.6)。	白・黒色鉱物粒含。並。にぶい赤褐5YR5/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面上方に型痕、下方に荒削あり。
第206図1 写164	土師器 坏	34～38溝トレ	口縁部～体部片。口径(12.0)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙5YR6/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に荒削あり。
同図2 写164	須恵器 坏	34溝埋№16	口縁部片。口径(21.3)。最大径(26.2)。	白・黒色鉱物粒多含。並。にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に轆轤撫あり。口縁部大きく内溝する。
同図3 写164	軟質陶器 鉢	44溝トレ№1	口縁部～体部片。口径(32.0)。	白色鉱物粒多含。並。灰N5/。	口縁端部の内側肥厚。内・外面に擦痕あり。器面にハゼが一部認められる。
同図4 写164	須恵器 椀	45溝埋	底部片。高台部径(6.2)。	白色鉱物粒含。並。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に轆轤目あり。底面糸切痕付高台。
同図5 写164	灰釉陶器 皿	45溝埋№23	底部片。高台部径(5.8)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白10YR7/1。	釉は内面に見られ、粕掛は浸漬け。内面に重焼痕あり。
同図6 写164	灰釉陶器 皿	45溝埋	口縁部～体部片。口径(14.6)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白10YR8/1。	釉は体部上方から内面にかけて薄くかかる。釉掛は浸漬け。轆轤目は凹凸が明瞭。
同図7 写164	須恵器 甕	45溝埋№8	体部片。	黒色鉱物粒含。硬。灰N5/。	体部の外面に平行印目後横位のカキ目。内面に青海波当目あり。
同図8 写164	須恵器 瓶	45溝トレ埋	体部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N5/。	体部の内・外面に轆轤目、内面に布目様の圧痕あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目 (cm) 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と摘要	備 考
同図9 写164	須恵器 壺	45溝理	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図10 写164	須恵器 甕	45溝理No.59	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰 N6/。	体部の外面に目の細かい平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図11 写164	軟質陶器 内耳鍋形か	45溝理No.36	口縁部片。	白・黒色鉱物粒多含。並。灰白2.5Y8/2。	口縁部の内・外面に横撫あり。
第207図1 写164	須恵器 坏	36溝理	底部片。底径(8.8)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰白2.5Y7/1。	底面に回転篦削あり。内底面に不定方向の撫あり。
同図2 写164	須恵器 坏	36溝理No.125	口縁部～体部片。口径(13.1)。	白色鉱物粒含。硬。灰 N4/。	体部の内・外面に細かい轆轤目あり。底面に回転糸切痕あり。轆轤右回転か。
同図3 写164	須恵器 椀	36溝理No.2	底部片。高台部径(5.7)。	赤褐色粒子含。硬。灰黄2.5Y7/2。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化焔気味。
同図4 写164	須恵器 椀	36溝 埋(Qb-176G)	体部～底部片。高台接合部径(5.6)。	白色鉱物粒多含。並。灰白2.5Y8/2。	体部の内・外面に弱い轆轤目あり。底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。
同図5 写164	須恵器 椀	36溝理No.11	体部～底部片。高台部径(6.6)。	黒色鉱物粒含。硬。灰黄2.5Y6/2。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。高台一部剥落。酸化焔気味。
同図6 写164	須恵器 椀	36溝理No.12	3分1個体。口径(14.2)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰白5Y8/1。	体部の外面に轆轤目、内面平滑。底面糸切貼付高台。高台剥落。底面は轆轤右回転糸切痕あり。全体に磨耗する。
同図7 写164	須恵器 椀	36溝理	底部片。高台接合部径(7.4)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰 N6/。	底面糸切貼付高台。底面は轆轤右回転糸切痕あり。高台剥落。
同図8 写164	灰釉陶器 碗	36溝理	体部～底部片。高台部径(6.2)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰黄2.5Y6/2。	底面は回転篦削後高台貼付。
同図9 写164	灰釉陶器 碗	36溝理	口縁部片。口径(16.4)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y8/1。	口縁部の内・外面に浅し歩けの灰釉がかかる。口縁端部を丸くおさめる。
同図10 写164	須恵器 長頸瓶	36溝理No.76	口縁部片。口径(12.3)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰黄2.5Y6/2。	口縁部の内・外面に回転条痕あり。
同図11 写164	須恵器 小形甕	36溝理	口縁部～頸部片。口径(22.0)。	白色鉱物粒含。並。灰 5Y6/1。	口縁部の内・外面に回転条痕あり。二次被熱により赤色化している。
同図12 写164	須恵器 甕	36溝理No.79	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。暗灰 N3/。	体部の内・外面ともに轆轤撫痕あり。
第208図13 写165	須恵器 瓶	36溝遺No.145	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の外面は平行叩目、内面は無文当目、無撫あり。
同図14 写165	須恵器 壺	36溝遺No.31	体部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。灰 N4/。	体部の外面は無、内面は平行当目あり。
同図15 写165	軟質陶器 鉢	36溝理	体部～底部片。底径(12.1)。	白色鉱物粒多含。硬。灰 N6/。	体部の外面下端に回転篦削、内面に無あり。内面平滑。	15世紀。
同図16 写165	須恵器 甕	36溝理No.121	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰 N5/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。
同図17 写165	須恵器 壺	36溝理	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰5Y6/1。	体部の外面は平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図18 写165	須恵器 壺	36溝理	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰5Y6/1。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図19 写165	須恵器 壺	36溝理	体部片。	白色鉱物粒。並。灰黄 2.5Y7/2。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図20 写165	須恵器 羽釜	36溝理No.151	口縁部片。口径(22.5)。最大径(25.9)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。灰白2.5Y8/2。	口縁部の内・外面に轆轤撫あり。断面に紐作痕あり。
同図21 写165	須恵器 羽釜	36溝理	口縁部片。口径(24.2)。最大径(27.9)。	黒色鉱物粒・微粒雲母含。軟。にぶい黄橙10YR7/4。	口縁部の内・外面に轆轤目あり。断面に紐作痕あり。
同図22 写165	須恵器 羽釜	36溝理No.146	口縁部～体部片。口径(21.8)。	黒色鉱物粒多含。軟。灰白2.5Y8/2。	口縁部の内・外面に轆轤目あり。内面に紐作痕あり。
同図23 写165	土師器 高坏	36溝理No.21	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙5YR6/6。	脚部の外面に篦研磨、内面に撫あり。脚部の三方に円孔を穿つ。
同図24 写165	土師器 壺	36溝理No.51・82・85	体部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR7/6。	体部の内・外面に撫を施す。内面に紐作痕あり。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
図版25 写165	灰釉陶器 大平鍋	36調底№24	口縁部～体部片。口径(25.8)。	白色鉱物粒多含。硬。灰白2.5Y8/2。	口縁部から体部上方にかけて内・外面に淡褐色の灰釉を施釉。体部の外面下方に回転篦削あり。内面平滑。	瀬戸・美濃産。15世紀。
図版26 写165	石製砥石	36調埋№76	長6.6。幅3.65。厚3.35。重100.9。	砥沢石。使用は図下小口、裏面一部を除き、4面。右側部に刃ならし傷あり。欠損は調査時以降の割れ。使用面に吸炭あり。手持ちと砥。中砥級。		流紋岩。
図版27 写166	軟質陶器 内耳鍋形	36調埋№6	口縁部～体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	内・外面に横撫がある。外面に整形時の凹凸がある。	14世紀末。
図版28 写166	軟質陶器 内耳鍋形	36調埋№5	口縁部～体部片。	白・黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい褐7.5YR6/3。	内面は回転による撫痕が認められ、外面には粘土板に伴うちぢれ痕がある。内・外面とも煤されている。残存形状から内耳鍋形と考えられる。	15世紀初。
図版29 写166	軟質陶器 鉢	36調埋№1	口縁部～体部片。口径(29.0)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰黄2.5Y6/2。	口縁端部は丸く、内側に突出する。口縁部の内・外面に横撫あり。内面平滑。	15世紀前半。
図版30 写166	軟質陶器 鍋形	36調埋№4	体部～底部片。底径(19.5)。	白色鉱物粒多含。硬。にぶい黄橙10YR7/3。	体部の外面下端に篦削、内面に撫あり。底面に砂付着。内・外面ともわずかに煤されている。	15世紀末。
図版31 写166	打製石斧	36調埋	未製品。長10.6。幅4.75。厚1.9。重88.9。			砂岩。
図版32 写166	打製石斧	36調埋	未製品。長13.55。幅6.55。厚2.8。重278.7。			花崗岩。
図版33 写166	打製石斧	36調埋	未製品。長14.5。幅9.55。厚3.3。重422。			砂岩。
第210図1 写166	須恵器 盤	38調埋№55	体部～底部片。高台部径(18.8)。	白・黒色鉱物粒含。並。灰N6/。	体部の外面下端に回転篦削あり。高台貼付。底面はハゲ顔著。	
図版2 写166	灰釉陶器 皿	38調埋№108	底部片。高台部径(8.6)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰N6/。	釉は内面に施釉。内底面に重焼痕あり。釉は淡緑色を呈する。	
図版3 写166	須恵器 甕	38調埋№76・99	体部片。	白色鉱物粒多含。並。灰7.5Y4/1。	体部の外面に平行叩目、内面に無文当目、擦痕あり。	
図版4 写166	須恵器 甕	38調底№85	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰オリーブ5Y6/2。	体部の外面に平行叩目。内面に青海波当目あり。外面に自然釉がかかる。	
図版5 写166	須恵器 甕	38調埋№24・118	体部～底部片。底径(15.8)。	黒色鉱物粒多含。並。灰白2.5Y8/1。	体部の外面に幅広の平行叩目、内面に擦痕あり。底面に撫あり。	
図版6 写166	軟質陶器 鉢	38調埋№16	体部～底部片。底径(11.3)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰N4/。	体部の外面に整形時の凹凸あり。内面平滑。底面に回転糸切痕がかすかに残る。	
図版7 写166	軟質陶器 鉢	38調埋№38	体部～底部片。底径(11.7)。	白・黒色鉱物粒多含。並。暗灰N3/。	体部の外面に整形時の凹凸あり。体部の外面下端に回転篦削あり。内面は平滑。底面に撫あり。	
第211図8 写167	石製砥石	38調埋№64	長4.75。幅5.75。厚3.5。重142.3。	砥沢石。使用は図下小口、裏面を除き、3面。左側部に刃ならし傷あり。裏面は削り目。各欠損は旧時の割れ。手持ち砥。中砥級。		流紋岩。
第212図1 写167	須恵器 坏・椀	40調西壁付近埋	口縁部～体部片。口径(16.6)。	白・黒色鉱物粒含。硬。明赤褐2.5YR5/6。	体部の内・外面に轆轤目あり。酸化焔気味。	
図版2 写167	須恵器 椀	40調№75、埋	体部～底部片。高台部径(12.1)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰N4/。	体部の内・外面に轆轤目あり。	
図版3 写167	須恵器 坏	40調、新調埋№26	底部完存。底径6.9。	白・黒色鉱物粒多含。並。灰白5Y8/1。	底部に轆轤右回転糸切痕あり。内面平滑。底部の器肉厚い。	
図版4 写167	須恵器 坏	40調埋	体部～底部片。底径(7.2)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰N6/。	体部の外面下端に回転篦削、内面に火襷痕あり。底面に轆轤右回転糸切痕あり。	
図版5 写167	須恵器 椀	40調上層	体部～底部片。高台部径(6.0)。	黒色鉱物粒多含。硬。灰白5Y7/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面に貼切挟高台貼付。体部の外面と底面に降灰がかかる。	
図版6 写167	須恵器 長頸瓶	40調埋	口縁部片。口径(10.4)。	黒色鉱物粒含。緻。暗灰黄2.5Y5/2。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面に自然釉が薄くかかる。	
図版7 写167	須恵器 甕	40調、新調埋№6	口縁部片。口径(23.4)。	白色鉱物粒多含。並。灰白2.5Y8/2。	口縁部の内・外面に轆轤撫痕あり。全体にハゲあり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備 考
同図8 写167	須恵器 長頸瓶	40溝埋	肩部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰N4/。	内・外面に轆轤目あり。外面は沈線区画内に綾杉状の櫛描刻突文あり。
同図9 写167	須恵器 甕	40溝埋№9	体部片。	白色鉱物粒多含。硬。5Y5/1。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。
同図10 写167	須恵器 甕	40溝埋、上層	体部片。	白色鉱物粒・雲母石英片岩多含。硬。暗灰N3/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。同心円かは不明。
同図11 写167	土師器 粗製土器	40溝埋	体部～底部片。底径4.0。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい褐7.5YR5/3。	体部の内・外面に指撫、底面に撫あり。
同図12 写167	土師器 器台	40溝、新溝埋№17	受部～脚部片。口径(8.0)。	白色鉱物粒含。軟。橙5YR6/6。	全体に磨耗。脚部の外面に荒研磨、内面に絞作痕あり。脚部の三方に円孔を穿つ。
同図13 写167	白磁小椀	40溝№72、上層	2分1個体。口径(7.0)。	白。硬。白磁釉。	口縁部端反。露胎部を除き白磁釉がかかる。底面裏に呉須による染付あり。
同図14 写167	染付中椀	40溝埋	3分1個体。口径(10.9)。高台部径4.3。器高5.0。	白。硬。白磁釉。	露胎部を除き白磁釉がかかる。外面に呉須による梅・笹の染付あり。口縁端部に口紅が一部付着。蛇目釉剥。	肥前系。18世紀。
同図15 写167	軟質陶器 耳付焙烙	40溝埋	口縁部～体部片。	黒色鉱物粒含。並。にぶい橙5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。底面に砂付着。
同図16 写167	軟質陶器 鉢	40溝下層№7	口縁部～体部片。口径(28.6)。	白色鉱物粒多含。並。にぶい橙10YR6/3。	内・外面に横撫あり。口縁端部内側が磨耗する。全体に煤きている。
同図17 写167	軟質陶器 植木鉢	40溝、新溝埋№18・19・20・21・22	体部～底部片。底径(10.6)。	赤褐色粒子含。並。橙5YR6/6。	体部の外面に焼成後の赤彩あり。体部の外面に荒研磨、内面に撫あり。
同図19 写167	鉄製鎌	40溝№1	残存長16.0。	刃部先端を欠損する。茎は先端が屈曲する、所謂ぜんまい茎。錆化顕著。	
同図20 写167	銅製簪	40溝№2	残存長11.4。	端部欠損。江戸・明治期。	
同図21 写167	鉄製不明	40溝埋	残存長3.6。	円環に棒状鉄を巻きつけている。棒状鉄の先端部は調査時の欠損である。	
同図22 写167	石製砥石	40溝埋	長11.6。幅2.85。厚3.45。重104.9。	砥武石。使用は表・裏の2面。表面に刃なしし傷あり。右側部、図下小口に削り目あり。両端にやや尖り、刃付砥に使用。左側部を除き、全体に吸炭あり。左側部の欠損は、調査時以降か。手持ち砥。中砥砥。	流紋岩。
第213図23 写168	磨石	40溝№94	長12.5。幅9.9。厚5.7。重315。		角閃石安山岩。
同図24 写168	削器か	40溝下層№56	基部欠損。長8.2。幅5.95。厚1.9。重72.6。	刃部磨耗。	安山岩。
同図25 写168	打製石斧 平鍬	40溝、新溝埋№5	長10.85。幅4.75。厚1.95。重103.4。	表面刃部、使用による磨耗あり。	安山岩。
同図26 写168	磨製石斧か	40溝№91	長16.4。幅9.3。厚2.4。重598.5。	表面刃部、使用による磨耗か。擦痕は見えにくい。	砂岩。
第214図1 写168	須恵器 坏か	46溝南面№14、南面埋	口縁部～体部片。口径(13.2)。	白・黒色鉱物粒含。並。橙5YRR7/6。	体部の内・外面の轆轤目は弱く目立ない。酸化焔気味。
同図2 写168	灰釉陶器 平鍋	46溝南面埋	口縁部片。口径(24.2)。	白色粒子・鉱物微含。緻。浅黄2.5Y7/3。	口縁部の内・外面に浅緑色の灰釉がかかる。買入あり。	中国産か。
同図3 写168	軟質陶器 鉢	46溝№41、埋	口縁部～体部片。口径(31.4)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。並。橙7.5YR6/6。	口縁端部は内側に突出する。内・外面に荒撫を施し、外面は横きている。	16・17世紀。
同図5 写168	銅製鈴	46溝南面埋№1	完存品。直径2.33。	表面の字銘は「姫型元寶(家寶)」である。字銘はしっかりしており、遺存は良い。	
同図6 写168	須恵器 羽釜	48溝上層№1・2	体部～底部片。底径(7.5)。	白色鉱物粒含。並。浅黄2.5Y7/4。	体部の外面下端に荒削、内面に指撫あり。底面に荒削あり。
同図7 写168	土師器 坏	50溝埋	口縁部～体部片。口径(17.6)。	黒色鉱物粒含。並。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部外面に荒削あり。
同図8 写168	灰釉陶器 長頸瓶	52溝埋№2	頸部～体部片。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白5Y7/1。	体部の内面は轆轤目顕著。釉は明緑色を呈する。
同図9 写168	須恵器 椀	51・52溝埋№8	体部～底部片。高台部径(6.0)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。軟。灰白N7/。	体部の内・外面に轆轤目あり。底面糸切貼付高台。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と釉薬		備考
同図10 写168	灰釉陶器 皿	51・52溝埋№2	体部～底部片。高台部径(7.4)。	白色粒子・鉱物微含。緯。灰白10YR8/1。	淡緑色の灰釉が内面に薄くかかる。底面に糸切痕右回転荒切り。	
同図11 写168	灰釉陶器 皿	55溝上層	口縁部片。口径(14.6)。	白色粒子・鉱物微含。緯。灰白5Y7/1。	口縁部の内・外面に施釉する。釉は淡緑色を呈する。	
同図12 写168	須恵器 蓋	55溝埋	口縁部～体部片。口径(17.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。褐灰5YR5/1。	体部の内・外面に轆轤目あり。	
同図13 写168	須恵器 甕	55溝埋	口縁部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N5/。	口縁部の内・外面に轆轤条痕あり。外面に6条単位の櫛描波状文を2段以上施す。	
同図14 写168	須恵器 椀	55溝埋	底部片。高台部径(6.5)。	白色鉱物粒・微粒雲母含。並。におい黄2.5Y6/3。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化短気味。	
同図15 写168	土師器 台付甕	57溝埋№12	口縁部～体部片。口径(13.6)。	赤褐色粒子含。軟。におい橙7.5YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部外面は刷毛目、胴部横撫あり。内面は磨耗のため整形不明。	
同図16 写168	土師器 高坏	57溝埋№13	脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。明赤褐5YR5/6。	坏部の内面に篦研磨あり。脚部の外面に篦研磨、内面に篦撫あり。脚部の四方に円孔を配したと考えられる。	
同図17 写168	須恵器 坏	57溝埋	底部片。底径5.6。	白色鉱物粒・微粒雲母含。並。黄灰2.5Y2/1。	底面に轆轤右回転糸切痕あり。内・外面に黒色煤あり。	
同図18 写168	縄文土器 深鉢	62溝上層	体部片。	白・黒色鉱物粒含。並。におい赤褐5YR4/4。	加曾利EIV式で、底部付近の破片。縦位の磨消懸垂文が垂下し、LR単節の縄文が充填施文される。内面に指頭による粗い整形痕あり。	
同図19 写168	鉄製大形 釘か	62溝上層	完存品。長18.6、厚1.5。	頭部は鍵型に折れ曲がる。縦方向に錆膨れあり、錆化顕著。鑿の可能性も考えられる。		
第220図1 写160	土師器 台付甕	3井埋№2	口縁部～体部片。口径(14.4)。	赤褐色粒子含。並。におい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、胴部横撫あり。体部の内面に縦位の指撫あり。	
同図2 写160	土師器 台付甕	3井埋	脚部片。	白・黒色鉱物粒含。硬。におい赤褐5YR4/4。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。底部に砂付着。	
同図3 写160	土師器 台付甕	3井埋	体部～脚部片。脚部径(9.6)。	白・黒色鉱物粒含。硬。におい黄橙10YR6/3。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。脚端部を折返す。脚部の外面に煤が一部付着。	
同図4 写160	土師器 台付甕	3井埋	脚部片。脚部径(10.2)。	白・黒色鉱物粒含。硬。におい橙7.5YR7/4。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。	
同図5 写160	土師器 台付甕	3井埋№5、上層№13	脚部片。脚部径(10.3)。	白色鉱物粒含。硬。におい黄橙10YR6/4。	脚部の外面に粗い刷毛目、内面に撫あり。	
第221図1 写160	土師器 壺	5井埋	口縁部～頸部片。	白色鉱物粒・雲母石英片岩含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に篦研磨あり。頸部の外面に目の細かい刷毛目あり。口縁部の外面にハゲあり。	
同図2 写160	土師器 台付甕	5井掘土、埋	脚部ほぼ完存。脚部径9.3。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙7.5YR6/6。	脚部の外面に櫛歯状の刷毛目、内面に撫あり。底面に砂付着。脚端部を折返す。	
第222図1 写161	須恵器 坏	7井埋	口縁部～体部片。口径(14.0)。	白色鉱物粒多含。硬。黄灰2.5Y6/1。	体部の内・外面に轆轤目、内面に紐作痕あり。	
同図2 写161	須恵器 大壺	7井埋	頸部～体部片。	白色鉱物粒多含。硬。暗灰N3/。	体部の外面に凝格子叩目あり、降灰がかかる。内面に青海波当目あり。同心円かは不明。	
同図3 写161	須恵器 甕	7井下層	体部片。	白色鉱物粒微含。硬。灰N5/。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。	
同図4 写161	須恵器 大壺	7井埋	頸部～体部片。	白色鉱物粒多含。硬。灰7.5Y4/1。	体部の外面に平行叩目あり、降灰が薄くかかる。内面に青海波当目あり。	
同図5 写161	須恵器 甕	7井埋	体部片。	白色鉱物粒・夾雑物含。硬。灰N5/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。	
同図6 写161	須恵器 甕	7井埋	体部片。	白色鉱物粒多含。緯。灰N5/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。	
同図7 写161	須恵器 甕	7井埋	体部片。	白色鉱物粒・夾雑物多含。硬。灰N4/。	体部の外面に格子叩目、内面に青海波当目あり。外面には降灰がかかる。	
同図8 写161	須恵器 甕	7井埋	体部片。	白色鉱物粒含。硬。灰5Y4/1。	体部の外面に平行叩目、内面に撫あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目 (cm) 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と摘要	備 考
第23図9 写161	灰釉陶器 椀	7井下層	底部片。高台部径(6.5)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白5Y7/1。	釉は薄く、高台を除いて施釉か。釉掛は浸掛け。
同図10 写161	灰釉陶器 皿	7井下層	底部片。高台部径(6.6)。	白色粒子・鉱物微含。緻。灰白2.5Y7/1。	底面は回転糸切後高台貼付。
第22図11 写161	軟質陶器 鉢	7井埋	体部～底部片。底径(13.7)。	白色鉱物粒含。緻密。灰黄褐10YR6/2。	体部の外面に成形時の凹凸あり。内面平滑。底面に擦あり。
同図14 写161	石製砥石	7井埋	長9.1。幅4.6。厚4.3。重175.4。	使用は表・裏の二面。他は自然面。持ち砥。中砥級。	砥沢石。
同図15 写161	石製砥石	7井埋	長8.5。幅6.5。厚5.95。重151.2。	万なしし傷は、金属なりしである。研磨面に凸凹あり、金属なら小形か、非金属研磨か。手持ち砥。荒砥級。	角閃石安山岩。
第24図1 写162	土師器 高坏	8井99坑表層 №43・63	脚部片。	白色鉱粒含。並。灰褐7.5YR4/2。	脚部の外面は刷毛目後細かな篦研磨を施す。内面に擦あり。
同図2 写162	土師器 高坏	8井99坑埋 №108	底部～脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙5YR7/4。	底面は器面が荒れている。脚部の外面は篦研磨、内面は無あり。
同図3 写162	土師器 高坏	8井99坑表層 №35、埋№23・81	坏部～脚部片。口径12.8。	赤褐色粒子含。並。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。坏部の内・外面と脚部の外面に篦研磨あり。脚部の内面は篦削あり。脚部の三方に円孔を穿つ。
同図4 写162	土師器 器台	8井99坑埋 №107	受部～脚部。口径7.8。	白色鉱物粒含。硬。にぶい橙7.5YR6/4。	受部の内・外面に細かい篦研磨あり。脚部の外面はやや幅広の篦研磨、内面に絞目あり。受部の内底面の器面は荒れている。脚部の三方に円孔を穿つ。
同図5 写162	土師器 壺	8井99坑埋	口縁部片。口径(11.9)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。橙5YR6/8。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の内・外面に横位の刷毛目あり。
同図6 写162	土師器 壺	8井99坑№65	口縁部～頸部はほぼ完存。口径15.7。	赤褐色粒子多含。並。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の内・外面に横位の刷毛目あり。
同図7 写162	土師器 壺	8井99坑№109	口縁部小欠。口径12.3。底径8.7。器高24.7。最大径22.1。	白色鉱物粒含。硬。橙5YR6/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部は全体に撫を施し、下方に篦削あり。体部の内面は篦撫か。底面刺殺。
同図8 写162	土師器 台付甕	8井99坑埋 №10・24・29・32・57	口縁部～体部片。口径16.1。最大径(20.6)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。硬。にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、胴部横撫あり。内面は指撫あり。体部の外面に煤一部付着。
同図9 写162	土師器 台付甕	8井99坑埋75・78・80・84・87・89	口縁部～体部片。口径16.5。最大径22.5。	黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい黄橙10YR6/4。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部の外面に刷毛目、胴部横撫あり。内面は指頭圧痕、指撫あり。体部の外面に煤一部付着。
同図10 写162	土師器 台付甕	8井99坑表層 №12、埋95	体部～脚部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい黄橙10YR6/4。	体部の外面に刷毛目、内面に篦撫あり。底面に砂付着。体部の外面に煤付着。
同図11 写162	土師器 台付甕	8井99坑埋 №111	体部～脚部片。	白・黒色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。にぶい橙7.5YR5/3。	体部の外面に刷毛目、内面に煤付着。脚部の外面に側面状の刷毛目、内面に撫あり。底面に砂付着。
第22図1 写163	陶器 椀	1集石理№6	口縁部～体部片。口径(11.0)。	黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y7/2。	体部の内・外面に鉄釉を施釉。外面に轆轤目あり。
第22図2 写163	陶器 椀	1集石上面№13	口縁部～体部片。口径(10.9)。	黒色鉱物粒含。並。灰黄2.5Y8/2。	体部の内・外面に鉄釉がかかる。
同図3 写163	青磁 皿	1集石理№5	体部～底部。高台部径(8.6)。	黒色鉱物粒含。緻。青磁釉(灰白5Y8/1)。	露胎部を除き青磁釉がかかる。底面に片切削文が一部見られる。	肥前産。
同図4 写163	須恵器 大甕	1集石理	頸部片。	白色鉱物粒・夾雑物数多含。硬。灰5Y4/1。	頸部に9条1単位の波状文あり。
同図5 写163	須恵器 瓶	1集石№4	体部～底部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰N6/。	体部の外面下端に回転篦削、内面に轆轤目あり。高台剥落か。体部の内・外面に濃緑色の自然釉がかかる。
同図7 写163	石製砥石	1集石上層	長7.6。幅4.2。厚2.3。重81.4。	砥沢石か不明。使用は表・裏・右側部の3面。図下小口に削り目。左側部は旧時の割れか、採集時来の割れ。図上小口は旧時の割れ。手持ち砥。中砥級。	流紋岩。
同図8 写163	須恵器 壺	2集石理№9	口縁部～頸部片。口径(20.5)。	白・黒色鉱物粒含。硬。灰N6/。	口頸部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	法　量（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
第231図1 写163	銅製銭	2火葬跡炭層 №85	ほぼ完存。直径2.44。	表面の字銘は錆化のため判読不能。背面字銘はない。遺存はあまり良くない。		
同図2 写163	銅製銭	2火葬跡炭層 №136	ほぼ完存。上面直径2.22。下面直径2.57。	錆化により5枚が重なっている。上面の字銘は「洪武通寶（篆書）」。下面の背面字銘はない。遺存は下面が一部欠損するほかは良好。全体的に炭化物が付着している。		
同図3 写163	銅製銭	2火葬跡埋下層	完存品。直径2.42。	表面の字銘は「元亨通寶（篆書）」で全体に磨耗している。背面字銘はない。遺存は良い。		
第236図1 写162	須恵器 椀	40坑埋№1	底部片。高台部径6.2。	黒色鉱物粒多含。軟。浅黄2.5Y7/3。	底面糸切貼付高台。磨耗のため糸切痕不明瞭。	
同図2 写162	軟質陶器 鉢	40坑埋№3	口縁部片。口径(27.0)。	白色鉱物粒含。並。灰5Y5/1。	口縁部の内・外面に横撫あり。内・外面とも煤される。	15・16世紀。
同図3 写162	土師器 壺	44坑底№1	体部片。	白色鉱物粒含。並。にぶい褐7.5YR5/4。	体部の外面に櫛描波状文を2段施す。内面は無あり。	
同図4 写162	灰釉陶器 小皿	46坑埋№1	口縁部～体部片。口径(11.9)。	白色鉱物粒含。緻。灰白2.5Y8/2。	口縁部の内・外面に灰釉を薄く施釉する。体部の外面に轆轤目あり。	
同図5 写162	灰釉陶器 片口鉢か	46坑埋№11	底部片。底径(19.2)。	白色鉱物粒含。緻。黄灰2.5Y6/1。	高台部の裏面を除いて施釉する。釉は濃緑色で貫入あり。内面に擂白の砂が付着する。	瀬戸・美濃産か。18世紀後半。
同図6 写162	鉄製釘	47坑埋	残存長4.1。	頭部は打ち折り曲げて、先端は少し曲がる。錆化顕著。欠損は調査時。		
同図7 写162	土師器 高坏	56坑№1	脚部片。	赤褐色粒子含。硬。橙5YR6/6。	脚部の外面に筮研磨、内面に筮撫あり。	
同図8 写162	土師器 壺	61坑埋№1・25	体部片。	白色鉱物粒含。並。赤褐5YR4/6。	体部の外面に筮研磨、内面に筮撫、組作痕あり。肩部に櫛描列突文あり。	
同図9 写162	土師器 壺	67坑埋	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。並。にぶい黄褐10YR5/3。	内・外面とも磨耗のため整形不明瞭。体部の外面に櫛描波状文、S字状結節文、櫛描横線文の文様帯あり。体部の下方に赤彩あり。	
同図10 写163	須恵器 甕	70坑埋	体部片。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。緻。灰N4/。	体部の外面に撫、内面に平行当目あり。	
同図11 写163	須恵器 鉢	70坑埋	口縁部片。	黒色鉱物粒含。普。灰白5Y7/1。	口縁部の内・外面に横撫あり。	
同図12 写163	鉄製棒状	77坑埋	残存長13.3。	全体に錆膨れし、柾方向の割れあり。両端を旧時欠損。		
同図14 写163	軟質陶器 内耳整形か	81坑底№2	口縁部片。口径(30.0)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。軟。灰5Y6/1。	内・外面に顕著な横撫がある。器形からして内耳整形と考えられる。	14世紀後半。
同図15 写163	土師器 甕	83坑№1	口縁部～体部片。口径(21.2)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。明赤褐5YR5/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部外面に筮削、内面に筮撫あり。	
同図16 写163	土師器 高坏	90坑埋№4	坏部～脚部片。	赤褐色粒子含。並。橙2.5YR7/8。	坏部の内・外面に筮研磨あり。脚部の外面に筮研磨、内面に指撫あり。脚部は三方に円孔を穿つ。	
同図17 写163	鉄製釘か	90坑埋№10	残存長5.9。	頭部を打ち広げ、錆膨れあり。欠損は調査時。		
同図18 写163	土師器 甕	90坑埋№6・11	口縁部～体部片。口径(17.8)。最大径(22.0)。	白色鉱物粒・赤褐色粒子含。並。赤褐5YR4/6。	口縁部の内・外面に横撫あり。頸部の外面に指頭圧痕あり。体部の外面に筮削、内面に筮撫あり。体部の内面下方に接合痕あり。	
同図19 写163	縄文土器 深鉢	90坑埋	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	LR単節横位回転の細密な縄文がみられる。後期か。外面は二次焼成による剥落が著しい。内面には横方向の指頭撫がみられる。	
同図20 写163	縄文土器 深鉢	90坑埋	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。並。にぶい橙7.5YR6/4。	LR単節横位回転の細密な縄文がみられる。後期か。外面は二次焼成による風化がみられ、内面には横方向の指頭撫がみられる。	
第242図1 写169	土師器 台付甕	469ピ№1	口縁部～体部片。口径16.8。	黒色鉱物粒多含。硬。灰黄褐10YR6/2。	口縁部の内・外面に横撫。体部の外面に刷毛目、肩部横撫あり。内面に指撫あり。口縁部の内面に煤一部付着。	

図番号 写真番号	種 器形	出土位置	量 目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調と調整	備 考
同図2 写169	須恵器 坏	396ピ跡№1	3分2個体。口径12.2。底径7.3。器高3.2。	白・黒色鉱物粒含。緻。灰N6/。	体部の内・外面に轆轤目あり。内面平滑。底面は荒切後周辺に撫を施す。器面が一部銀化している。
同図3 写169	須恵器 瓶	427ピ上層№1	体部片。最大径(13.7)。	白・黒色鉱物粒含。緻。灰N4/。	体部の内・外面に轆轤目あり。外面に降灰がかかる。
同図4 写169	須恵器 台付瓶	354ピ埋№1	脚部片。脚部径(14.0)。	白・黒色鉱物粒多含。硬。褐灰10Y6/1。	脚部の内・外面に轆轤擦痕あり。外面に降灰がかかる。
同図5 写169	須恵器 甕	295ピ上層№1、296ピ上層№1	体部片。	白・黒色鉱物粒多含。硬。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に平行叩目、内面に青海波当目あり。体部の外面に濃緑色の自然釉が付着する。
同図6 写169	焼締陶器 甕	554ピ跡№1	体部片。	白色鉱物粒多含。緻。灰N6/。	体部の外面上方に釉がかかり、下方に釉流あり。外面に矢羽状の叩目と平行叩目あり。頸口・内面に紐作痕あり。内面は整形時の凹凸あり。	渥美産。12世紀。
同図7 写169	銅製銭	628ピ埋№2	ほぼ完存。直径2.44。	表面の字銘は「皇宋通寶」。背面字銘はない。字銘はしっかりしており、周縁を一部欠損する。	
同図8 写169	銅製銭	628ピ埋№2	ほぼ完存。直径2.43。	表面の字銘は「聖宋元寶」である。背面字銘はない。字銘はしっかりしており、遺存は良い。	
第243図1 写169	土師器 高坏	面No86・67	坏部片。口径(26.5)。	微粒雲母少含。硬。橙7.5YR6/6。	坏部の内・外面に入念な荒研磨あり。内面には荒描によるパレス文様あり。胎土緻密。
同図2 写169	須恵器 坏	Qc-147G 拡 遺構面	底部片。底径(9.4)。	白色鉱物粒多含。硬。黄灰2.5Y6/1。	底面は荒切後手持ち荒削り。
同図3 写169	須恵器 椀	Qc-147G 拡 遺構面	4分1個体。高台部径(11.2)。	白色鉱物粒多含。硬。灰N6/。	体部の内・外面に轆轤目あり。口縁部を欠損。深身か。底面は回転荒削後高台貼付。
同図4 写169	須恵器 椀	面No105	底部片。高台部径(8.3)。	微粒雲母多含。並。灰黄2.5Y7/2。	底面糸切貼付高台。底面に轆轤右回転糸切痕あり。酸化痕気味。
同図5 写169	灰釉陶器 小形瓶	Pq-175G 上層	図示部完存。最大径7.6。高台部径4.3。	白色粒子・鉱物粒微含。緻。灰白2.5Y7/1。	体部の外面に轆轤目あり。釉は濃緑色で、体部の外面上方に厚くかかる。内面の整形は磨耗のため不明瞭。
同図7 写169	石製砥石	面No86	長11.45。幅4.3。厚4.5。重260.7。	硬質石材。表面上方に刃ならし痕あり。他は自然石の山石面か。	
同図8 写169	銅製煙管 吸口部	Qq-177G 上層	ほぼ完存。長5.8。直径1.2。	鐵付の合せ目あり。端部削り出しによる刻目文様あり。	
同図9 写169	銅製銭	Pn-176G 撹乱	ほぼ完存。直径2.52。	表面の字銘は「開元通寶」である。背面字銘はない。全体に磨耗している。	
同図10 写169	銅製銭	面No71	完存品。直径2.39。	表面の字銘は「元祐通寶」である。背面字銘はない。字銘はしっかりしており、遺存は良い。	

瓦

図版番号	写真番号	出土位置	瓦種	製作法・軸筒	一枚作可能性	粘土板 剥取	布圧痕 接合	合目	離前	補修の使用痕	叩吐法・形式名称	瓦乾燥時圧痕	顔部面取	色調	備 考
第77図7	写145	5住埋	男瓦	なし	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	淡黄	
第79図12	写145	6住床№19	鐙瓦	なし	なし	—	—	—	—	—	—	—	欠	淡黄	蕨弁4葉連珠文
同図13	写145	6住床№14、貯 底№33・37・38	女瓦	なし	○	表○	なし	なし	なし	なし	縄（全面）	なし	1	褐	広端部箆撫
第89図21	写148	10住埋№30	女瓦	○	なし	なし	なし	なし	なし	なし	縄（全面）	なし	2	灰	
同図22	写148	10住埋№74、竈埋№96	女瓦	なし	不明	表○	なし	なし	なし	なし	縄（部分）	なし	1	淡黄	
同図23	写148	10住床№16	女瓦	なし	不明	表○	なし	なし	なし	なし	縄（部分）	なし	1	淡黄	
同図24	写148	10住 竈上層№17、埋№72、床№16、竈№107	女瓦	なし	○	表○	なし	なし	なし	なし	縄（全面）	なし	1	褐	
同図25	写149	10住床№15、竈上層№69	男瓦	平紋作	なし	なし	紐作	○	なし	なし	素文	なし	2	褐	

図版番号	写真番号	出土位置	瓦種	製作法・縄目	一枚作可能性	粘土板剥取	粘土板接合	粘土板合目	粘土板断面	輪縄の使用痕	平坦法・形式名称	瓦配焼時圧痕	溝部面取	色調	備考
図版28	写149	10住竪穴No39	女瓦	○	○	表○	なし	なし	なし	なし	鳳（全面）	なし	1	灰	叩き縦横二方向
第101図10	写151	16住埋上層	女瓦	○	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	褐	
図版111	写151	16住竪材No13	女瓦	○	なし	表○	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	褐	
第223図12	写161	7井埋	女瓦	なし	○	表○	○	なし	なし	なし	鳳（全面）	なし	なし	灰	叩き縦横二方向　鰭音山か
図版13	写161	7井埋	男瓦	なし	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	1	灰	側部指撫
第239図13	写163	81坑武No.1	女瓦	なし	○	表○	なし	なし	なし	なし	鳳（部分）	なし	1	褐	
図版21	写163	98坑埋	女瓦	なし	不明	表○	なし	なし	なし	なし	平行	なし	3	灰	
第228図6	写163	1集石下層No39	女瓦	○	なし	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	淡黄	狭端部面潰
第206図12	写164	45溝埋No.15	女瓦	なし	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	淡黄	
第211図9	写166	38溝底No.119	男瓦	なし	なし	粗作	なし	なし	なし	なし	素文	なし	2	淡黄	
図版10	写166	38溝埋No.79	女瓦	なし	不明	表○	なし	なし	なし	なし	素文	なし	2	淡黄	
第212図18	写167	40溝下層No.43	女瓦	なし	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	淡黄	平行叩き＋　撫消し
第214図4	写168	46溝埋	男瓦	なし	不明	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	欠	淡黄	
第243図6	写169	Qc-174G上層	女瓦	○	なし	表○	なし	なし	なし	なし	素文	なし	1	褐	

Q区

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第245図1 写170	須恵器 坩	住73カ底17・カ埋他	口径13.2。小欠あり。	鉱物少、硬、還元弱燻成。	割口消耗。器面消耗大。外鎬縄目。底右回転糸切痕。内潤耗。	高台到層挟も使用。非陶土質。
図版2 写170	須恵器 坩	住73カ底9・3・6	口径13.6。4/5。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化。明黄褐10YR6/6。	割口消耗。外内鎬縄目。底右回転糸切痕。破片別被熱色変。	非陶土質。
図版3 写170	須恵器	住73埋22	口径13.4。完存。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰白5Y7/1。	器面消耗少。外内右回転鎬縄目。底右回転糸切。内外油壁付着。	非陶土質。灯火器か。
図版4 写170	土師器 甕	住73カ 埋6・カ掘埋31他	口径（18.0）。1/3。	鉱物含、硬、弱酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。表横撫・接合痕・篦削。裏横撫・工具撫・接合痕。	
図版5 写170	土師器 甕	住73カ 底8・13・15他	口径（18.8）。口縁付近1/2	鉱物少、硬、酸化下方弱燻。明褐7.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・篦削。内横撫・接合痕・工具撫。	下方被熱色変による弱燻か。
図版6 写170	土師器 甕	住73埋・カ表他	口径18.8。1/2。	鉱物少、硬、酸化被熱弱燻。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗大。外横撫・接合痕・篦削。内横撫・接合痕・工具撫。	破片色差あり。
図版7 写170	土師器 甕	住73埋・掘・掘底・カ埋	口径（19.0）。1/2。	鉱物含・硬・弱酸化被熱燻。鈍橙7.5YR5/3。	割口消耗大。外横撫・接合痕・篦削・内横撫・工具撫。底外篦削。	被熱破片別の色差あり。
第247図1 写170	須恵器 皿高台付	住75埋40	口径（13.4）。3/5。	白鉱物含・軽質、軟、還元。灰白7.5Y7/1。	内外面に鎬縄目、底面に鎬縄右回転糸切痕。割口消耗あり。	非陶土質。
図版2 写170	須恵器 皿高台付	住75掘 埋36 床下2-60他	口径（12.8）。1/3。	鉱物含、軽質・軟、弱酸化弱燻。鈍赤褐5 YR5/4。	内外面に右回転の鎬縄目あり。二次被熱色変。底面糸切、高台貼付	非陶土質。
図版3 写170	須恵器 坏	住75掘19・床20	口径（12.4）。1/2。	鉱物少・軽質、軟、還元。鈍黄橙10YR7/3。	内外面に鎬縄目あり。底面に鎬縄右回転の糸切痕。割口消耗あり。	非陶土質。
図版4 写170	須恵器 坏	住75掘埋41・52他	口径14.0。3/5。	鉱物少、硬、還元。明褐灰7.5YR7/2。	内外面鎬縄目。内面重焼圧痕・燻色変あり。底面鎬縄右回転糸切痕	脆音山。割口消耗少。
図版5 写170	須恵器 坏	住75埋A・24他	口径14.5。2/3。	鉱物少、軟・軽質、還元・燻。灰2.5Y7/1。	底面鎬縄右回転糸切痕。体部内外面鎬縄目。割口・器面消耗あり。	非陶土質。
図版6 写170	須恵器 坏	住75ル21・トレ	口径（14.8）。1/3。	鉱物少・軽質・軟、還元。灰10YR7/1。	内外面に鎬縄目あり。割口消耗。外面重焼坏燻成あり。	非陶土質。
第250図1 写170	須恵器 坏	住76床11	口径（12.5）。完存。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化弱燻。鈍橙5YR7/4。	口縁部に油壁付着。内外面鎬縄目。床面鎬縄右回転糸切。少消耗。	燈火具。二次被熱暗灰色変。
図版2 写170	須恵器 坏	住76カ堀・カ底18	口径（13.0）。1/2。	雲母粒含、軟・軽質、弱酸化弱燻。灰黄褐10YR6/2。	内外に右回転の鎬縄目あり。割口・器面消耗あり。底糸切。高台貼付。	藤岡。
図版3 写170	須恵器 坏	住76掘底21・住77上層他	口径（13.4）。1/2。	鉱物含・軽質、軟、酸化。橙2.5YR6/6。	内外面鎬縄目。全体二次被熱色変。	非陶土質。
図版4 写170	須恵器 坏か	住76カ埋14	口径（13.4）。1/2。	鉱物含・軽質、軟、還元。灰白7.5Y7/1。	内外面鎬縄目あり。口縁部付近際立ち厚い。割口消耗あり。	非陶土質。
図版5 写170	灰釉陶器 碗	住76C埋	高台径（7.0）。底部片。	鉱物見えず、緻、還元。灰白7.5Y7/1。	内外面に鎬縄目。内外施釉。内面重焼高台痕。細溝多。	消耗微。東海。
図版6 写170	土師器 甕	住76埋B・埋3・坑2	口径（16.6）。1/5。	鉱物少・硬、弱酸化内外燻色変。鈍赤褐5YR4/3。	割口消耗少。外横撫・篦削。内横撫・接合痕・工具撫。底砂付着。	破片別色差。
第253図1 写171	須恵器 耳皿台付	住70床17	底径4.3。1/2。	鉱物微、並、還元。灰白7.5Y7/1。	高台貼付。底面に鎬縄右回転糸切痕。内外鎬縄目。割口器面消耗。	脆音山。
図版2 写171	須恵器 坏	住77カ 上層4・2	口径（13.0）。小損。	鉱物少・軽質、軟、還元。鈍黄橙10yr7/3。	割口消耗あり。外鎬縄目。内底工具挽条痕。底鎬縄右回転糸切痕。	非陶土質。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
同図3 写171	須恵器 坏	住77床10・埋	底径(6.8)。 底部片。	鉱物微・シルト質、軟、弱酸化。鈍黄橙10YR6/4。	割口消耗あり。内外横撫目あり。右回転糸切後高台貼付。	軽質・非陶土質。
同図4 写171	灰釉陶器 瓶	住77埋 C	頸部(6.2)。 頸部片。	黒粒含、緻、還元。灰白7.5Y7/1。	外面灰釉。内面輪撫痕。	東海。
同図5 写171	須恵器 羽釜	住77床20・カ埋52他	口径(21.4)。 2/5。	鉱物含、粒、酸化内外黒色被熱色変。黒褐10R3/1。	割口消耗少。外横撫右回転横撫・荒削。内横撫・接合痕・横撫目。	吉井。被片別被熱色差あり。
第254図6 写171	土師器 甕	住77カ上層8・床21他	口径18.2。 2/3。	鉱物含、並、酸化。橙5YR6/6。	割口少消耗。外横撫・外横撫・接合痕・荒削。内横撫・接合痕。	部分的に少被熱。
同図7 写171	土師器 甕	住77カ埋12・39他	口径18.8。 2/3。	鉱物含、緻、酸化。明赤褐5YR5/8。	割口消耗少。外横撫・外横撫・接合痕・荒削。内横撫・荒撫・接合痕。	無右回転。削左回転。
同図8 写171	石製 造形品か	住77床34	細かいカ所片。 重2120 g。	四周面に水磨あり。C面左側に削目あり。3条あり、太い条線の凹みが3条あり。顔料濃く付着。	割口消耗少。ノミ傷状の物質付着。	鉱化鉄様の物質付着。
第257図1 写171	土師器 高坏	住78埋14・13	口径(20.8)。 坏部1/3。	鉱物少、並、酸化黒斑。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・工具撫。内針書様物文で条線・連弧文・研磨。	
同図2 写171	土師器 壺	住78埋22	口径(13.6)。 口縁部片。	鉱物含、緻、酸化燻斑。橙2.5YR6/8。	割口消耗。外横撫・接合痕・工具撫。内横撫・工具撫。	
同図3 写171	土師器 甕か付か	住78埋・住78・85口埋	口径(12.8)。 口1/2。	鉱物少・硬・酸化。燻斑7.5YR6/8。	割口器面消耗。外横撫・9＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕。	
同図4 写171	土師器 甕か付か	住78ピ4埋	脚裾径4.8。 脚部片。	鉱物少・硬・酸化。鈍橙7.5Y7/4。	割口消耗。外9＋α条刷毛目。内指圧痕。内外底砂付着。	
同図5 写171	石製 磨石	住78埋38	長18.8。 1329 g。	割れ口旧欠。全体的に摩耗しているが表裏面に長軸方向の擦痕あり。表面は2重面的に石の目に従う断摩耗あり。硬質。	割口消耗あり。外横撫・荒削。内横撫。小傷はカマドのためか。	藤岡。
第260図1 写172	土師器 甕小形	住223ヵ軸1	底径(9.0)。 口縁部片。	雲母粒含、並、酸化内外被熱小燻。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗あり。外横撫・荒削。内横撫。小傷はカマドのためか。	藤岡。
同図2 写172	土師器 甕	住223ヵ芯2	胴下半部片。	鉱物少、硬、酸化外下半燻。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外荒削。内工具撫・接合痕・荒識不明の工具圧痕撫。	非陶土質。吉井・藤岡。
同図3 写172	須恵器 坏	住79埋3	台端径5.8。 1/2。	雲母粒・軽質、軟、弱還元弱燻。鈍黄橙10YR6/4。	割口器面消耗。外右回転横撫目・ハゼ。内摩耗。	非陶土質。吉井・藤岡。
同図4 写172	須恵器 坏	住219床8	台端径5.8。 底部片。	鉱物少・軽質、硬、還元少燻。鈍黄橙10YR7/4。	割口器面消耗。外内回転撫。底端転右回転糸切痕。	非陶土質。
同図5 写172	須恵器 坏	住79埋2	台端径(6.6)。 1/3。	鉱物少・軽質、並、弱酸化燻黒。黒褐5YR3/1。	割口消耗。外内横撫目。内工具撫。底面横撫右回転糸切痕。	非陶土質。
同図6 写172	須恵器 羽釜か	住79床1	同径(21.6)。 胴部片。	鉱物含、並、酸化被熱弱燻色変。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外右回転横撫目。内横撫目・接合痕。	吉井。
第262図1 写172	土師器 埋坏	住80埋19・埋	口径11.8。 4/5。	鉱物少、硬、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。底手持荒削。	
同図2 写172	須恵器 坏	住80埋4・20・3・19	口径14.6。 4/5。	鉱物少・軽質、軟、還元弱燻。灰白5Y7/1。	割口消耗少。外挽出し高台その内側回転荒削。内重乾燥圧痕。	非陶土質。
同図3 写172	須恵器 瓶か	住80埋10	底部径(12.4)。 底部片。	鉱物少、軟、外還元内酸化。浅黄2.5Y7/3。	割口消耗少。外挽出し高台その内側回転荒削。内横撫目。	脱質山。
同図4 写172	須恵器 蓋・皿	住80埋2・4他	口径13.2。 1/2。	鉱物少・軽質、硬、還元重焼燻斑。灰白2.5Y8/1。	割口消耗少。外横撫目。内横撫目。摘部糸切後貼付。	非陶土質。
第265図1 写172	土師器 高坏か	住82床19	口径約(13.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。外内研磨。高坏にしては断面形と厚さに疑問が残る。	
同図2 写172	土師器 器台	住82掘堆1	脚端径9.7。 坏部のみ欠。	鉱物少、並、酸化。鈍橙5YR7/4。	割口消耗大。図右半器面消耗。外研磨。内40余＋α条細刷毛目。	透明彩3穴1段。
同図3 写172	土師器	住82上17・埋12他	最大径(22.8)。 脚部1/6。	鉱物少、硬、弱酸化。灰褐5YR5/2。	割口消耗少。外16＋α条刷毛目。内指圧痕・工具撫・工具撫。	
同図4 写172	石製 磨石	住82床21	長23.1。 1321 g。	摩耗は全体におよぶ。両小口に敲打磨滅痕あり。4隅部の摩耗少ない。	割口は旧欠。摩耗は全体的にあるが、特に表面は摩耗大。表面はさらに研磨面と工具傷あり。	
同図5 写172	石製 磨石	住82上層	長9.8。 533 g。	割口は旧欠。摩耗は全体的にあるが、特に表面は摩耗大。表面はさらに研磨面と工具傷あり。	割口消耗。外5＋α条刷毛か掘目・部分研磨・接合痕。内横撫・工具撫・工具撫。	
第267図1 写172	土師器 壺	住83掘3・調80埋4・3	残存径(22.4)。 胴上半1/3。	鉱物少、硬、弱酸化内燻。淡黄2.5Y8/4。	割口器面消耗。外荒削。内横撫・指撫。	非陶土質。
第270図1 写172	須恵器 蓋	住84床15	最大径13.8＋α。2/3。	鉱物少、硬、還元重焼燻斑。灰白5Y7/1。	割口消耗少。外内左・右回転横撫目。外上方荒削。重焼は坏燻跡。	脱質山。
同図2 写172	須恵器 蓋	住84床48・50	口径16.9。 4/5。	鉱物少、硬、還元。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗少。外内右回転横撫目あり。外上方回転荒削・摘下糸切痕。	吉井・脱質山。
同図3 写172	須恵器 蓋	住84床73	口径15.7。 完存。	鉱物少、硬、還元。灰N6/。	器面消耗少。外内右回転横撫目。外上回転荒削。内面底少摩耗。	脱質山。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　要	備　考
同図４ 写172	須恵器 坏	住84カ埋40	口径11.4。 2/3。	白鉱物含・鉱物多、硬、還元。灰5Y5/1。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切痕。	吉井。
同図５ 写172	須恵器 坏	住84カ埋41	口径(12.2)。 1/2。	鉱物含、硬、還元重焼酸化斑。青灰10BG5/1。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切痕。内外重焼色変。	観音寺。
同図６ 写172	須恵器 坏	住84カ 掘 埋81	口径12.0。 完存。	鉱物少、硬、還元。灰5Y6/1。	器面消耗少。外面轆轤目。内口辺と底摩耗光沢。底右回転糸切痕。	吉井・観音寺。
同図７ 写172	須恵器 坏	住84床13	口径(12.4)。 近完存。	鉱物少、硬、還元。灰5Y6/1。	割口消耗。口周辺小損は旧使用時。外内轆轤目。底右回転糸切痕。	吉井・観音寺。
同図８ 写172	須恵器 坏	住84床17	口径12.5。 2/3。	鉱物含、硬、還元。灰白N5/。	割口消耗少。外轆轤目。内回転撫・赤色物質付着。摩耗あり。	吉井・観音寺。
同図９ 写172	須恵器 坏	住84床64	口径13.3。 完存。	白鉱物多、硬、還元重焼燻。灰N5/。	器面消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切。内面底摩耗大、外摩耗。	吉井・観音寺。
同図10 写173	須恵器 坏	住84床24	口径13.8。 2/3。	鉱物少、硬、還元重焼微燻。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗少。外内轆轤目。内回転撫。底右回転糸切痕。	吉井。
同図11 写173	須恵器 瓶	住84床10	口径14.4。 口～頸小欠。	鉱物少、硬、還元。灰N5/。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。外綾目。内接合痕・指圧痕。	観音寺。
同図12 写173	土師器 甕小形	住84床７	口径10.4。 上半1/2。	鉱物少、硬、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕・摩耗。内横撫・接合痕・撫。	
同図13 写173	土師器 鉢	住84床8・26・27他	口径(25.0)。 2/3。	鉱物少、硬、酸化黒斑。明赤褐2.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・摩耗。内横撫・撫・ハッピ剥落。	
同図14 写173	土製 土垂	住84埋65	長5.4。	鉱物少・やや粗、硬、酸化。橙5YR6/8。	摩耗消耗少。上端調整時欠損。表光沢あり。穿孔直線的。	外面下半煤付着。
第271図15 写173	土師器 長胴甕	住84床72・カ埋他	口径20.0。 2/3。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗強。外横撫・荒撫・削。内横撫・工具撫・接合痕。	軟質。凝灰岩。
同図16 写173	土師器 甕	住84床12・1他	口径(20.8)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化被熱弱燻鈍橙5YR7/4。	割口消耗強。外横撫・接合痕・ササラ状荒撫。内横撫・接合痕。	軟質。凝灰岩。
同図17 写173	石製 カマド材	住84床74	長13.1＋α。 重550ｇ。	軟質で旧材面は平面表面のみ。表面に加工具条痕あり。表面は被熱酸化目立ず。表面に若干の吸炭あり。	摩耗消耗大。表面に若干の吸炭あり。下小口左下側に敲打痕あり。摩耗の主因は非金属。	軟質。凝灰岩。
同図18 写173	石製 磨石	住84床31	長19.4。 重2460ｇ。	硬質な河原石。表・裏・両側部・両小口とも浅い擦耗痕あり。下小口左下側に敲打痕あり。摩耗の主因は非金属。	硬質で河原石。摩耗は浅く全面。固右側部と奥小口面に刃ならし傷あり。摩耗は非金属。	
第272図19 写173	石製 磨石	住84床22	長14.9。 重760ｇ。	硬質で河原石。摩耗は浅く全面。固右側部と奥小口面に刃ならし傷あり。摩耗は非金属。	割口消耗強。外横撫・接合痕・ササラ状荒撫。内横撫・接合痕。	
同図20 写173	石製 磨・打石	住84床59	長11.4。 重800ｇ。	硬質、円状礫でありながら、使用制器を思わせる凸凹多い。固平面上方は摩耗あり。摩耗は非金属。	摩耗消耗少。外横撫・荒撫・削。内横撫・撫・ハッピ剥落。	
同図21 写173	石製 磨石	住84床30	長13.7。 重539ｇ。	硬質な川原石。使用は図表面の上半部が主体。摩耗の主因は非金属。図平面右上に自然かく入為か不明の敲打状痕あり。	割口消耗少。外内轆轤目。内回転撫。底右回転糸切痕。	吉井。観音寺。
同図22 写173	石製 磨石	住84床60	長14.5＋α。 重850ｇ。	硬質な川原石。摩耗は全体的で、表・裏が主体。裏面擦痕の条痕あり。摩耗は非金属。	割口消耗少。外内轆轤目。内回転撫。底右回転糸切痕。	吉井。観音寺。
同図23 写173	石製 磨石	住84床29	長12.7。 重890ｇ。	硬質で、河原石。表・裏面に摩耗痕あり。摩耗主体材は非金属。裏面に自然凹み３カ所あり、その上方まで摩耗。	割口消耗少。外内轆轤目。内回転撫。底右回転糸切痕。	吉井。観音寺。
同図24 写173	石製 磨・打石	住84床57	長12.2。 重330ｇ。	硬質の川原石。摩耗は全体に浅い。被打痕は、小口を含め６カ所に２cm大の打痕あり。図表側のみ金属刃ならし傷あり。	摩耗消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切痕。	吉井。観音寺。
第274図１ 写173	須恵器 坏	住85床４	台端径(6.2)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗。外内回転撫。底轆轤右回転糸切。	吉井・観音寺。
同図２ 写173	須恵器 坏	住85埋	台部径(6.8)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、弱還元。灰黄2.5Y6/2。	割口消耗。外右回転轆轤目。内回転撫。底切離し不明瞭。	吉井・観音寺。
第276図１ 写173	須恵器 坏	住86埋	口縁部片。 径約(13.0)。	鉱物少、硬、還元。褐灰7.5YR6/1。	割口消耗。外内右回転轆轤目。	９Ｃ後。
第278図１ 写173	須恵器 坏	住87カ床５・９	台端径7.6。 底部片。	鉱物少・シルト質、軟、還元酸化斑。灰黄2.5Y6/2。	割口消耗大。内外回転横撫。底轆轤右回転糸切痕。	吉井・観音寺。
同図２ 写173	須恵器 羽釜	住87カ床８	口径(19.0)。 口縁部片。	鉱物・片岩粒含、軟、還元黒燻。黒5Y2/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。外鍔部接合あり。	吉井・観音寺。吉井。
同図３ 写173	須恵器 瓶	住87カ底11・12他	底径(6.4)。 底～胴部片。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化。黄橙7.5YR8/8。	割口縁部消耗。外縦刷不明瞭。内右回転轆轤目・接合痕。底削目。	吉井・観音寺。
第281図１ 写174	土師器 甕	住89上層１・９他	口径11.0。 2/3。	鉱物少、硬、酸化。明褐7.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・制作肌・荒削。内横撫・指圧痕。	
同図２ 写174	土師器 甕	住89床19	口径(12.8)。 1/4。	鉱物少、並、酸化。明褐5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・荒削。内口縁下に浅い凹み、横撫・撫。	
同図３ 写174	土師器 甕	住89床22・カトレ他	口径20.6。 全体の1/2。	鉱物少、硬、弱酸化被熱色変質。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒削・荒撫。内横撫・撫・接合痕。	

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	最目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
図版4 写174	須恵器 坏	住89埋49	口径11.8。 2/3。	鉱物少、硬、還元。灰7.5Y6/1。	割口消耗少。内外轆轤目。底石回転糸切痕・工具条痕は穴埋か。	秋間・観音山。
図版5 写174	須恵器 坏	住89埋25・46・50他	口径13.8。 3/5。	鉱物少、硬、還元。灰5Y4/1。	割口消耗少。外内轆轤目。底石回転糸切痕。高台剥落再加工。	高台欠後も使用。観音山。
図版6 写174	須恵器 瓶	住89住37・41・38・32他	口径20.4。 1/2。	白鉱物少、硬、還元。灰(N5/)。	消耗少。口付近旧損。外轆轤目・平行印。内轆轤目・当目・接合痕。	観音山。
図版3図1 写174	須恵器 坏	住90カ 袖中26・カ埋20	口径12.6。 2/3。	鉱物少・軟質、軟、還元黒色斑。黄灰2.5Y5/1。	割口・器面消耗。内外面右回転の轆轤目。底面右回転糸切痕。	非陶土質。黒斑と別重焼色変。
図版2 写174	須恵器 坏	住90貯蔵24	口径11.3。 口縁小欠。	鉱物微シルト質軟質・弱酸化弱燻。銘灰黄2.5Y6/2。	製作歪大。器面消耗あり。外面轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。胎かぶり付着。
図版3 写174	須恵器 坏	住90カ埋5	底径5.8。 1/2。	鉱物微・軟質、軟、中性。灰黄7/2。	器面消耗少。外面に轆轤目。内面底工具痕轆轤目。底面糸切後燻。	非陶土質。
図版4 写174	須恵器 羽釜か	住90埋4・カ埋	底径(7.6)。 底部片。	片岩含、軟、弱酸化。鉄黄橙10YR7/3。	割口消耗少。内面右回転轆轤目。外面全面荒撫。底面外もや荒れる。	吉井。
図版5 写174	須恵器 羽釜	住90床3・7・掘埋他	口径20.4。 1/3。	鉱物少、硬、弱酸化。鉄黄褐10YR5/4。	割口・器面消耗少。外面右回転轆轤目。内面轆轤目・接合痕。	破片単位で被熱色変あり。
図版6 写174	灰釉陶器 皿	住90カ トレS	口径12.6。 口縁部片。	鉱物微・緻・還元～中性。灰白7.5Y8/1。	割口消耗微。内外面に侵蝕様の釉境あり。外面轆轤目あり。	東海。
図版4図9 写174	石製 加工石材	住90埋23	長17.3。 重4320g。	軟質・重みあり。図表面拓影部が加工もしくは研磨面に見えるが各部剥落多く加工痕不明瞭。図上方燻かかり他は撥化。	割口消耗少。表面に研磨痕か。	カマド材か。軟質。凝灰岩。
図版10 写174	石製 台石か	住90床12	長32.6。 重13160g。	全体に摩耗痕あり。特に側部は摩耗大。表面の凸凹は自然か。拓影の面は上・下小口隙まで被熱燻があり、旧カマド天井材か。	割口消耗少。外横撫・斜方向撫・底側荒撫。内面横撫。	カマド材転用か。
図版2図1 写174	土師器 甕	住91床1	口径(12.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・斜方向撫・底側荒撫。内面横撫。	
図版2 写174	土師器 甕	カ埋28・カ埋他	口径(21.8)。 口～胴部片。	鉱物少、硬、酸化。鉄褐7.5YR6/3。	消耗微。外面横撫・接合痕・荒撫。内面横撫・撫。	
図版3 写174	須恵器 坏	住掘埋	口径11.4。 1/2。	白鉱物含、緻、還元。灰5Y5/1。	器面消耗微。内外面右回転の轆轤目あり。底糸切後手持荒撫。	体部外面下半手持荒撫。
図版4 写174	須恵器 坏	カ埋19・22他	口径13.4。 3/4。	鉱物微・軟質、軟、還元。灰白5Y7/1。	器面消耗大。内外面に右回転の轆轤目あり。底部糸切、方向不明。	非陶土質。外面下半重焼吸炭。
図版2図1 写175	土師器 坏	住92床3・4・埋	口径11.8。 1/2。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/7。	割口器面消耗。外横撫・荒撫。内横撫・撫。	
図版2図1 写175	土師器 甕	住93埋8・埋	口径(17.4)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐7.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・製作肌・荒撫。内横撫・工具撫。	
図版2 写175	土師器 甕	住93カ掘埋・カ掘埋54他	底部片。	鉱物少、硬、酸化被熱破片色差。鉄褐7.5YR5/4。	割口消耗少。表荒撫。器面・接合痕。底砂付着。	
図版3 写175	土師器 鉢か形	住93埋40	口径(15.2)。 1/5。	鉱物含、硬、弱酸化。鉄黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外横撫・荒撫。内横撫・接合痕。	
図版4 写175	土師器 甕	住93床57・貯埋	口径(14.6)。 口1/3。	鉱物少、硬、酸化。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。外横撫・8＋α条刷毛か櫛目施文。内工具横撫。	横撫右回転。施文左回転。
図版5 写175	須恵器 瓶	住93床6	台端径5.8。 底部片。	割口消耗少・軟質、軟、還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外内轆轤目。内重乾燥圧痕。底石回転糸切。付高台。	非陶土質。
図版6 写175	須恵器 瓶	住93床12・住90カ掘埋	台端径(7.8)。 底部2/3。	鉱物少、硬、還元。鉄黄橙10YR7/2。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切痕。高台貼付。	片岩含。吉井。
図版7 写175	須恵器 瓶	住93カ S・N トレ	底径(7.4)。 底付近1/2。	鉱物少・軟質、軟、弱酸化。鉄黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外内轆轤右回転轆轤目。底糸切後高台貼付。	非陶土土質。
図版8 写175	石製 電材か	住93床61	長21.8＋α。 1560g。	割口は調査時欠損。岡小口・裏面を欠くほかは旧状。整形面は消耗のため削具など不明。	割口消耗少。表面に浅く燻かかる。	軟質。凝灰岩。
図版9 写175	石製 電材	住93カ 袖芯51	長16.8＋α。 2205g。	割口は旧欠。摩耗は全体にわたる。本来は磨石らしい。燻は割口までおよぶが端上方は浅い。裏面被熱剥落2カ所あり。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切。付高台。	磨石転用か。川原石利用。
図版3図1 写175	土師器 壺か	住94埋69	口径(14.0)。 口縁部片。	鉱物微、硬、酸化。黄橙7.5YR7/8。	割口消耗少。表ハケ・研磨。内研磨。口縁部消耗あり。	
図版2 写175	土師器 高杯か	住94床98	脚端径(15.6)。 脚部1/3。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。表研磨・ハケ。内14＋α条櫛目後横撫。透孔形1穴残。	
図版3 写175	土師器 壺	住94床68	口径16.4。 口縁小欠損。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR6/8。	口小欠は使用時。口縁耗あり。表3条貼付文・須粘土編。内研磨。	
図版4 写175	土師器 甕	住94床24・脚～脚部1/3。	脚～脚部1/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱燻。褐7.5YR4/3。	割口消耗少。表11＋α条刷毛目。内面にも弱燻。	内面にも弱燻。
図版4 写175	土師器 壺有付か	住94床20口5・埋	口径12.8。 1/4。	鉱物多、並、弱酸化被熱燻。灰黄褐10YR4/2。	割口消耗少。口縁付近は使用時欠。表横撫・11＋α条刷毛目。	

図番号 写真番号	器別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	調　整	備　考
図版5 写175	土師器 壺台付か	住94埋71・ 93・63・76	口径(13.2)。 1/3。	鉱物少、硬、弱酸化。鉢褐7.5YR6/3。	割口消耗少。表横撫・12＋α条刷毛目。裏横撫・指撫・指圧痕。	被熱見えず。
図版6 写175	土師器 壺	住94埋80	口径(13.8)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鉢黄橙10YR7/4。	割口消耗。外横撫・12＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕。	
図版7 写175	土師器 壺台付か	住94床25・ 埋・埋33他	口径(15.2)。 口縁2/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱朋爆。鉢黄橙10YR6/3。	割口消耗少。表横撫・11＋α条横刷毛・縦刷毛目。裏横撫・指撫。	
図版8 写175	土師器 壺台付か	住94埋62・ 55・57他	最大径(24.0)。 胴部1/4。	鉱物少、硬、弱酸化被熱爆裂。鉢黄橙10YR6/4。	割口消耗少。9＋α条刷毛目。内指撫・指圧痕。	
図版9 写175	土師器 台付壺	住94床19	台付片。	鉱物少、硬、酸化。鉢黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外10＋α条刷毛目。内工具撫・砂混付着。	
第295図1 写176	土師器 坏	住95掘埋51・ D埋	口径(13.6)。 1/4。	鉱物微・シルト質、軟、酸化。橙5YR6/6。	割口器面消耗。表横撫・荒削。裏横撫・撫。底荒削。	藤岡。
図版2 写176	土師器 坏	住95掘埋67・ 70他	口径(13.6)。 1/3。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙5YR6/6。	割口器面消耗大。表横撫・荒削。裏横撫・撫。底荒削。	藤岡。
図版3 写176	土師器 盤	住95床5	口径(19.8)。 1/5。	鉱物少、硬、酸化小黒斑。橙5YR6/6。	割口少消耗。表横撫・荒削。裏横撫。底荒削。	
図版4 写176	土師器 甕	住95床2・埋 A	口径(23.2)。 口～頸1/3。	鉱物少、硬、酸化破片剥色差。鉢赤褐5YR5/4。	割口少消耗。表横撫・荒削。裏横撫・工具撫。	
図版5 写176	土師器 甕	住95埋35・A 埋	口径(22.6)。 口～頸1/3。	鉱物少、硬、酸化被熱色変。鉢赤褐5YR5/4。	割口消耗少。表横撫・接合部・荒削・工具撫。裏横撫・工具撫。	
図版6 写176	土師器 甕	住95埋18・8 他	口径(24.2)。 胴部1/3。	鉱物少、硬、酸化。鉢赤褐5YR5/4。	割口少消耗。表荒削・工具撫。裏工具撫・接合痕。被熱観見えず。	
図版7 写176	石材 カマド材	住95床2～ 33	長23.8＋α。 重2590g。	表・左側部・前小口のみ旧盤。他は軟質のため調査時以降の欠損。表面にわずか加工痕。裏面被熱酸化断落。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。	
第297図1 写176	土師器 坏	住96C埋	口径(13.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。鉢褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。	
図版2 写176	土師器 坏	住96Sトレ	口径(14.4)。 1/5。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗。外横撫・口下浅圧痕。内放射状研磨。	藤岡。
図版3 写176	土師器	住96埋	口径(16.6)。 1/5。	鉱物少、軟、酸化。明赤褐5YR5/6。	割口消耗。外横撫・荒削は高位置に及ぶ。内横撫。	
図版4 写176	石製 紡垂車	住96Sトレ カWトレ	直径4.7。 55g。	欠損は調査時。周縁部の摩耗は弱く、整形時撤痕あり。穿孔は断面図下方を主とする両側穿孔で穴内に条痕あり。	流紋岩、砥沢石	
第299図1 写176	土師器 坏	住97貯埋2・ カWトレ	口径12.4。 小欠。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・荒削・荒削。内横撫・撫。	形肌希少。
第302図1 写176	土師器 坏	住99床11	口径(12.0)。 2/3。	鉱物少、硬、酸化弱爆。鉢褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・工具傷・黒色塗光沢あり。	黒色塗はニカワか。吉井・藤岡
図版2 写176	土師器 坏	住99床9・カ トレ	口径(11.5)。 1/3。	鉱物少、硬、酸化爆。鉢赤褐5YR6/3。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫布様・横撫・黒色付着。	黒色付着は光沢ありニカワ墨か
図版3 写176	土師器 坏	住113カトレ	口縁部片。	鉱物少、軟、酸化。橙5YR6/8。	割口器面消耗大。消耗のため外内整形不明。	
図版4 写176	土師器 坏大形	住99	口径17.4。 1/3。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・サザラ状の荒削。内横撫・少ハゼ。	
図版5 写176	土師器 甕	住113埋	口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化爆。鉢黄褐10YR4/3。	割口消耗大。外横撫・9＋α条刷毛目。内横撫。	
図版6 写176	須恵器 高杯	住99	杯下半部1/5。	鉱物少、並、還元。灰5Y4/1。	外回転荒削後撫。内回転撫。内回転撫。透3・4方向不明。	脚音山。短脚高杯。右回転。
図版7 写176	石製鎬転 用温石か	住99・176上 層	長7.0＋α。 161g。	割口消耗大。曲面は鎬形状。平面では長方形状のため石鎬を温石に転用か。加工は表裏のほか天・地小口・左側部面取整形。	部分的に白銀色の滑石	
図版8 写176	石製 紡垂状	住99床7	長14.4。 239g。	自然石川原石。摩耗は全体におよぶが側部・小口に強い。前小口は敲打の痕跡あり。	こも編石か。	
図版9 写176	石製 紡垂状	住99床6	長14.3。 298g。	自然川原石。摩耗は全体におよぶが側部がやや強。小口の敲打痕跡ではない。	こも編石か。	
図版10 写176	石製 紡垂状	住99床10	長14.3。 614g。	自然川原石。摩耗は小口・両側部にあるが、全体的に浅い摩耗および。天小口は敲打痕少しあり。	こも編石か。	
第304図1 写177	土師器 甕	住100貯埋下 54・55・62	口径(10.5)。 2/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱朋吸炭。鉢褐7.5YR5/4。	割口消耗少。表横撫・接合痕・荒削。裏横撫・接合痕・工具撫。	
図版2 写177	土師器 甕	住100掘埋	口径(18.0)。 口～脚部片。	鉱物少、硬、酸化被熱朋爆。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外工具横撫・接合痕・荒削。内横撫・工具撫。	
図版3 写177	須恵器 坏	住100貯埋下 61	口径12.8。 2/3。	雲母粒・並、並、弱酸化爆斑。鉢褐7.5YR7/4。	割口消耗。外内還元目。底右回転糸切。爆斑は重焼痕か。	非陶土質。藤岡

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　要	備　考
同図4 写177	須恵器 坏	住100貯埋下 66・63他	口径12.5。 3/5。	雲母斑・軽質、軟、弱酸化。 純黄2.5Y6/3。	割口消耗。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。底内摩耗大。	非陶土質。藤岡
同図5 写177	須恵器 坏	住100貯埋下 53・61	口径12.6。 4/5。	雲母粒・軽質、軟、還元。鈍黄橙10YR7/2。	割口消耗。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。	藤岡。非陶土質
同図6 写177	須恵器 椀	住100埋12	口径(12.6)。 3/5。	雲母粒・軽質、軟、弱酸化燻斑。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗。底面消耗大。外内右回転蝕幅目。底面糸離し不明。	非陶土質。藤岡
同図7 写177	須恵器 坏	住100貯埋下 60・54	口径13.0。 小欠あり。	雲母粒・軽質、軟、弱還元燻斑。灰白2.5Y8/1。	器面消耗あり。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。	非陶土質。藤岡
同図8 写177	須恵器 皿	住100貯埋下 56	口径12.4。 完存。	雲母粒・軽質、軟、還元内面燻斑。灰白2.5Y8/1。	器面消耗。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。内面燻は重焼痕かゥ。	藤岡。非陶土質
同図9 写177	須恵器 椀	住100埋3	口径14.3。 完存。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰白2.5Y8/2。	割口消耗。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。内底摩耗。	非陶土質。
同図10 写177	須恵器 台付甕	住100床8 台端	台端径(7.4)。 底部1/2。	鉱物少、並、還元。灰N6/。	割口消耗少。外内右回転蝕幅目。底右回転糸切痕。内底消耗せず。	脆弱。
同図11 写177	須恵器 椀	住100掘埋68	高台径(11.8)。 底1/5。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰10Y6/1。	割口消耗微。外内右回転蝕幅目。底回転摺用・高台削出し。	観音山。水挽は布使用か。
第307図1 写177	須恵器 椀	住101貯上層26	口径(12.8)。 1/4。	鉱物少・軽質、軟、還元内重焼痕。灰白5Y7/1。	器面消耗あり。外内右回転蝕幅目。底糸切かで明。	非陶土質。
同図2 写177	須恵器 椀	住101貯上層25	台端径6.3。 2/5。	鉱物少・軽質、軟、還元黒焼炭。暗灰黄2.5Y5/2。	割口消耗。外内蝕幅目。底右回転糸切痕。内底摩耗。	非陶土質。
同図3 写177	灰釉陶器 皿	住101埋28・上層12他	口径(12.8)。 1/2。	鉱物微、緻、還元。灰白2.5Y7/1。	割口消耗少。外内浸漬による灰釉・高台打欠き。釉潤・内底摩耗。	東海。
同図4 写177	灰釉陶器 椀	住101Wトレ 弧	台端径(7.0)。 高台付近片。	鉱物微、緻、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗微。無釉部片。外内回転蝕。内ハゼ。	東海。
同図5 写177	石製 紡石	住101埋	長5.2・厚2.9。 81g。	被熱炭状・ヒビ割れ。使用の主は表と右側部。前小口に整理剖目。左側部も残く剖目残る。	奥小口一部自然面。穿孔は両側。	流紋岩。下砥・中砥痕・手持砥
第309図1 写177	須恵器 坏	住102埋11・13	口径(12.6)。 1/3。	鉱物少、硬、還元。黄灰2.5Y4/1。	割口少消耗。外右回転蝕幅目。内回転無。底糸切痕。	観音山。
同図2 写177	須恵器 椀	住102埋	口径(11.6)。 1/2。	鉱物含・軽質、軟、還元黒燻。純黄橙10YR6/4。	割口器面消耗少。内外右回転蝕幅目。底面糸切後高台貼付。	燻焼後被熱色変あり。
同図3 写177	須恵器 坏か椀	住109掘埋19	口径(12.0)。 口1/4。	鉱物少・軽質、並、還元黒。黒褐10YR3/1。	割口消耗少。表右回転蝕幅目。内回転無。	非陶土質。
同図4 写177	灰釉陶器 皿	住102B埋	口径(12.6)。 口縁部片。	鉱物微、緻、還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗微。器面使用摩耗あり。外蝕幅目。内外施釉。釉潤暗いゥ。	東海。
同図5 写177	灰釉陶器 椀	住102カ掘埋26	高台径(7.6)。 底部片。	鉱物微、緻、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗微。外艶現・蝕蝕目。内重焼痕・浸漬釉潤。底右回転摺用。	東海搬入。
同図6 写177	土師器 壺	住122B埋	径約13.0。 口縁直下片。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。内消耗。外研磨・貼付文。内撫・接合痕。	古墳時代前期。
第311図1 写177	土師器 甕	住103カ上層7	口径19.0。 口縁2/3。	鉱物含、硬、酸化顕著。明褐7.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・工具傷・接合痕・提耳。内横撫。	非陶土質。
同図2 写177	須恵器 椀	住103カ上層12	口径(12.8)。 口縁部片。	鉱物少・軽質、硬、酸化燻小斑。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。外内右回転蝕幅目。高台一部残。	非陶土質。
同図3 写177	須恵器 甕	住103カ上層13	脚部片。	鉱物少、硬、還元。灰N4/。	割口消耗少。外平行叩・2～3cm大の被熱経化。内摩耗大沢・ハゼ。	破片転用。
第315図1 写178	土師器 壺台付か	住104埋29	最大径(14.4)。 胴部片。	金雲母、硬、酸化燻と被熱吸炭。純褐7.5YR5/3。	割口消耗少。外17＋α条刷毛目。内工具撫・接合痕。	古井・藤岡。
同図2 写178	石製 加工材	住104ピ966埋	長17.3。 1310g。	ほぼ旧状。欠損は旧時。図表・奥小口の一部に削跡あり。刷は丸ノミ状と幅広平らな工具の2種。	割口消耗少。表右回転蝕幅目。高台一部残。	ピ966は柱穴。軟質。凝灰岩。
同図3 写178	土師器 台付甕	住104床10・Sトレ他	口径9.8。 2/3。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。明赤褐2.5YR5/6。	器面消耗大。外横撫・摺用。内横撫・撫・接合痕。外下半弱吸炭。	藤岡。
同図4 写178	土師器 甕	住104住埋20	口径(19.8)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。明褐7.5YR5/6。	割口消耗あり。外接合痕・横撫・篦用。内接合痕・横撫・工具撫。	非陶土質。
同図5 写178	須恵器 坏	住104埋7・8	口径(13.0)。 2/3。	鉱物少、並、還元焼成色変。純橙7.5YR7/3。	割口消耗少。外蝕幅目。内底工具撫系痕。底蝕幅右回転糸切。	非陶土質。
同図6 写178	須恵器 椀	住104埋7	高台径6.0。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、還元弱燻。褐灰10YR5/1。	割口消耗あり。外蝕幅目。内工具の蝕幅目。底右回転糸切後高台貼付。	非陶土質。
第317図1 写178	須恵器 椀か	住105カ袖16他	口径(12.2)。 口1/3。	鉱物少・軽質、並、弱酸化被熱色変。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外右回転蝕幅目。内回転無。	非陶土質。
同図2 写178	土師器 椀	住105埋11	口径11.6～12.6。完存。	鉱物少・軽質、並、弱酸化。灰黄2.5Y7/2。	器面消耗微。外内蝕幅目。底右回転糸切痕後高台貼付。	非陶土質。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
同図3 写178	須恵器 羽釜	住105ヵ床19	口径約(20.6)。 口縁部片。	鉱物少・硬、還元弱雑。	割口消耗少。外内輪轆右回転轆轤目。弱燻は使用中か不明。	観音山。
同図4 写178	須恵器 甕	住105床6	底径7.6。 底～胴部片。	鉱物少・軟、軟、割酸化弱雑。	割口消耗少。外工具撫。内右回転轆轤目。底撫。	非陶土質。
同図5 写178	石製 電材	住105掘埋27	厚さ 690g。	旧材面は表・裏と左側部は、全体削耗大のため削などが不明。被熱部は上端部に強かかる。	割口消耗大。外内右回転轆轤目。	非陶土質。
第319図1 写178	須恵器 坏	住106床2	口径(12.8)。 1/2。	鉱物少・軟質、軟、還元。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底糸切痕。	非陶土質。
同図2 写178	須恵器 坏	住106床3 -55	口径(13.8)。 1/4。	鉱物少・軟質、軟、還元部分黒色。	割口少消耗。表磨滅目。裏回転撫痕。底面糸切痕。	重焼坏底黒色化 非陶土質。
同図3 写178	須恵器 坏有孔	住106埋11	底径(6.0)。 底部片。	鉱物少・軟質、軟、還元。	割口消耗、内面摩耗。外横撫目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図4 写178	須恵器 椀	住106貯 埋 42・43・45他	口径13.8。 小欠あり。	鉱物少・軟質、軟、還元雑斑。	器面消耗。外内輪轆目・重鈍痕痕。底左回転糸切後貼付高台。	非陶土質。左回転希少。
同図5 写178	須恵器 椀	住106貯埋41	口径14.3。 3/5。	鉱物少・軟質、軟、還元黒雑。	割口消耗少。外内輪轆目。底右回転糸切痕。内轆轤目は工具撫。	非陶土質。
同図6 写178	須恵器 有孔円盤	住106床1 -12	底部片。 直径6.9。	鉱物少・軟質、並、還元。灰N6/。	椀底部転用加工。円線を丁寧に削る。底面糸切痕。焼成後穿孔。	非陶土質。
同図7 写178	須恵器 鉢形か	住106掘 20・ストレ	口径28.0。 口縁部片。	鉱物含・軟質、軟、弱還元雑斑。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外・内右回転轆轤目。形態不明瞭特殊器種か。	非陶土質。
第321図1 写178	土師器 台付甕か	住108埋16	口径(15.6)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化被熱雑鈍黄橙10YR7/3。	割口器面消耗。外横撫・9＋α条刷毛目。内横撫・接合痕・指腹痕。	被熱は要使用時か不明。
同図2 写178	土師器 壺大形	住108床1	最大径(29.0)。	鉱物少、硬、弱酸化被熱雑鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外14＋α条刷毛目。内指圧痕・接合痕。	非陶土質。
第323図1 写179	須恵器 羽釜	住109床58	口径(20.8)。 口縁部片。	鉱物少、並、還元雑。黄灰2.5Y4/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。胴部補薄作り。	観音山。
同図2 写179	須恵器 羽釜	住109床59	口径(22.0)。 口縁部片。	鉱物少、並、還元弱雑。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。外口縁下粘土補足か然みあり。	観音山。
同図3 写179	緑釉陶器 椀か	住109床32	右端径(6.8)。 底部片。	鉱物微、並、中性。胎土灰5Y6/1。	割口消耗少。外底部に右回転轆轤回転痕。内研磨。極上面摩耗。	関西か。
第325図1 写179	土師器 坏	住110ヵ 埋 埋10	口径12.2。 小損あり。	鉱物微、硬、酸化口小損。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗無。外横撫、工具撫。内横撫。底荒削。粘土質。	粘土成形時肌荒大。
同図2 写179	土師器 短頸壺	住110ヵ掘抜 芯35	口径(9.2)。 1/4。	鉱物微・シルト質、並、酸化被熱。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗。外横撫・接合痕・荒削・ハゼ。内横撫・接合痕・工具撫。	被熱色変、内面煤付着。
同図3 写179	土師器 台付壺	住121ヵ袖埋 11他	口径12.5。 脚除2/3。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・上半に煤付着。	非陶土質。
同図4 写179	土師器 壺	住110ヵ埋11 他	口径(19.6)。 口～脚部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒削。内横撫・工具撫。	非陶土質。
同図5 写179	須恵器 坏、再用	住110埋6	口径(12.0)。 1/3。	鉱物含、並、還元。灰白5Y8/1。	器面消耗少。外輪轆目、内面摩耗少。底轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。図打点部は割口磨部
同図6 写179	須恵器 坏	住110貯 埋 36・39	口径12.8。 小損。	鉱物含、並、還元。灰白5Y8/1。	割口器面消耗微。外輪轆目。内回転撫。底轆轤右回転糸切。	吉井。
同図7 写179	須恵器 羽釜	住110埋2	口径(21.4)。 口縁部。	鉱物少、軟、還元雑。褐灰10YR4/1。	割口消耗。外内右回転輪轆目。細かな割側多。	観音山。
同図8 写179	石製 紙石	住110溝埋27	長7.1。 49g。	下方は鋭直時欠損。使用は、表・裏と左側部。両小口と右側部は自然石面。採集石材か。中砥級、手持砥。	滑紙着。紙状石	滑紙着。紙状石
第327図1 写179	土師器 坏	住111埋26	口径(11.0)。 1/3。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・撫。	型肌希少。
同図2 写179	土師器 坏	住111埋49	口径(11.2)。 1/4。	鉱物含、硬、酸化雑小欠。橙7.5YR6/6。	割口消耗。外横撫・型肌・荒削。内横撫・撫。	型肌希少。
同図3 写179	土師器 坏	住111(井B・C埋上)	口径(12.0)。 1/2。	鉱物少、硬、酸化弱雑。褐7.5YR4/3。	割口消耗微。外横撫・型肌・底荒削。内横撫・指圧痕。	井18内四地状のため層位不明瞭
同図4 写179	土師器 坏	住111ヵ 埋 59・カ上層	口径(11.8)。 1/5。	鉱物少、硬、酸化。鈍褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒削。内横撫・暗文研磨。	
同図5 写179	土師器 坏	住111床14・ 埋16	口径12.0。 完存。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	器面消耗大。外横撫・荒削。内横撫・撫。	
同図6 写179	土師器 坏	住111埋45・ カ芯52	口径(13.0)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化雑。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。	
同図7 写179	土師器 坏	住111埋43	口径(13.0)。 1/5。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・工具撫。	藤岡。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	最目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
図版8 写179	土師器 坏	井18埋	口径(14.0)。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・製作肌・荒削。内横撫・圏線2～3条。	
図版9 写179		住111掘埋C	口径(15.2)。 口縁部片。	鉱物少、並、酸化部分被熱還元。橙5YR6/6。	割口消耗少。外列点刺突・櫛目後横撫。内櫛か刷毛撫後横撫。	外面横撫は左回転。
図版10 写179	土師器 甕	住111床 2 -72	口径(21.8)。 口縁部片。	鉱物含、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・指圧痕・荒削。内横撫・接合痕。	被熱不明瞭。
図版11 写真なし	土師器 甕	住111床 2 -103	口径(19.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗。外横撫・接合痕・ササラ状荒削。内横撫・接合痕・撫。	被熱不明瞭。
図版12 写180	須恵器 蓋	住111坑 理 80・84	口径(15.8)。 1/3。	鉱物少、並、還元。	割口消耗少。外荒削後回転撫・轆轤目。内轆轤目。	脚台由。
図版13 写180	須恵器 坏片口	住111床17・ 4・B理	口径11.4。 4/5。	鉱物少、並、還元。灰5Y6/1。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切。口縁指曲げ片口。	脚台由。
図版14 写180	須恵器 坏	住111坑 埋- 撹埋。	口径13.4。 2/3。	鉱物含、並、弱酸化。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外内轆轤目。底右回転糸切痕。	脚台由。
図版15 写180	石製 台・磨石	住111床 1 -5	長22.0。 3375g。	自然石・川原石。摩耗面は表面が主で他はそれより程度軽い。	敲打を行なった痕跡は薄い。	床頭えの状態で出土。
図版16 写180	石製 電材か	住111貯 理 104	長15.7。 1340g。	消耗・旧挽剪別因離。突込み状の工具痕各所にあり。	図平面右端中央に剪込み部あり。被熱の痕跡見えず。	軟質・凝灰岩。
第329図1 写180	土師器 甑	住112床 1 -5	口径(23.2)。 1/5。	片岩含、硬、酸化黒斑。10YR5/3。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・工具傷・接合痕・撫。	
図版2 写180	須恵器 坏	住112口埋	口径(12.2)。 底～口縁部片。	鉱物少、硬、還元。灰N6/。	割口消耗微。外内右回転轆轤目。内底摩耗光沢。底筋切後削か。	脚台由。
図版3 写180	須恵器 坏	住112埋16	底径(8.0)。 底部片。	鉱物少、並、還元。灰白2.5Y7/1。	割口消耗少。表右回転轆轤目。底荒切後回転荒削。	荒削希少。轆轤右回転。脚台由。
図版4 写180	須恵器 提瓶	住112埋12	脚部片。	鉱物少、緻、還元自然釉。灰白2.5Y7/1。	割口消耗微。外カキ目・自然釉。内轆轤目。	扶関。
図版5 写180	須恵器 甕	住112埋31・ 32埋	口径(34.8)。 口～胴部片。	鉱物含、硬、還元。灰10Y5/1。	割口消耗少。外平行叩・陰圏取。内轆轤目・接合痕。	右回転。吉井。
図版6 写180	須恵器 甕	住112埋11	胴部片。	鉱物多、硬、還元・自然釉。灰5Y6/1。	割口消耗少。外平行叩と撫消。内浅い平行目の素文当目。	吉井。
図版7 写180	石製 磨石か	住112床36	長11.7。 395g。	全体に摩耗痕あり。部分的に図平面上下端のようにハゲ剥落あり。摩耗は特に表・裏面。	割口消耗少。外平行叩と撫消。内浅い平行目の素文当目。	機能は単一でないかもしれない
第331図1 写180	土師器 坏	住114床 2 -6他	口径10.8。 2/3。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐5YR5/8。	器面消耗。外ハゲ多・横撫・荒削。内撫・ハゲ。	
図版2 写180	土師器 坏	住114床 2 -7	底部片。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/8。	割口器面消耗。外荒削。内撫・手掌圧痕。	藤岡。
図版3 写180	土師器 坏	住114床1	口径13.0。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗大。器面消耗少。外横撫・荒削。内横撫・撫。	脚台由。
図版4 写180	土師器 坏	住114床3	口径(19.0)。 口縁部片。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	割口器面消耗。外横撫・ハゲ・荒削。内横撫。	藤岡。
図版5 写180	石製 磨石	住114床 2 -14	長10.8。 261g。完存。	旧状は川原石。摩耗は表面のみ。表には、金属刃傷・擦痕あり。上小口残敲打痕。	割口消耗あり。内外面研磨。外面被熱・破片色差あり。	
第335図1 写180	土師器 高坏	住116床12・ C掘埋他	口径14.2 坏部2/3。	鉱物微、硬、酸化外面橙。橙5YR6/6。	割口消耗あり。内外面研磨。外面被熱・破片色差あり。	
図版2 写180	土師器 高坏	住116C埋	口径(12.2)。 坏部1/3。	鉱物少、硬、酸化褐橙。鈍黄橙10YR5/4。	割口消耗少。外横撫、9＋α条刷毛か櫛目下地・研磨。内研磨。	
図版3 写180	土師器 壺小形	P174上層2	口径(12.8)。 口縁小損。	鉱物含、硬、酸化下半弱橙。鈍褐7.5YR5/3。	割口消耗少。外横撫・不定撫・組作痕。内横撫・接合痕・撫。	下半無は使用時か不明。
図版4 写180	土師器 壺	住116埋下・ 埋	口径14.2。 上半3/5。	鉱物少、並、酸化。鈍橙5YR7/4。	割口消耗。外横撫・荒削・工具痕荒。内横撫・接合痕・指撫撫。	
図版5 写181	土師器 甕台付	住116坑 埋・ 埋	口径10.4。 上半2/3。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫・9＋α条刷毛。内横撫・指圧痕。	
図版6 写181	土師器 甕台付か	住116床14 埋	口径12.8。 上半2/3。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍橙7.5YR7/3。	割口消耗少。外横撫・10＋α条刷毛。内横撫・接合痕・指圧。	左回転。図裏面同上に穿孔凝似
図版7 写181	須恵器 椀	住116床16	台部径5.5。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、還元・黒褐。褐灰10YR4/1。	割口消耗あり。表・裏右回転轆轤撫。底糸切痕。高台貼付。	
第337図1 写181	須恵器 椀	住117ヵ掘埋 41	口径(11.8)。 1/3。	鉱物少・軽質、並、還元火襷褐。鈍黄橙10YR7/2。	割口消耗微。外内右回転轆轤目。底切離し不明。	非陶土質。
図版2 写181	須恵器 椀	住117ヵ底27	台端径(5.5)。 底部片。	鉱物少・軽質、並、弱酸化・還元色差。灰白5Y7/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底右回転糸切痕。	非陶土質。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　要	備　考
同図3 写181	土師器 甕	住117床19	口径(15.6)。 口縁部。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐2.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・製作肌・工具痕。内横撫。	
同図4 写181	土師器 甕	住117カ 底24・25	口径(20.4)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。赤褐5YR4/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・棒状工具孔線・荒削。内接合・工具撫。	
同図5 写181	須恵器 羽釜	住117抗埋30	口径(19.8)。 口1/5。	鉱物含・軽質、軟、弱還元。橙5YR6/6。	割口器面消耗少。外内横軸右回転・接合痕。	片岩含む。吉井
同図6 写181	須恵器 羽釜	住117床49	口径(23.8)。 口縁部片。	鉱物含、並、酸化。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。外右回転撫・接合痕・荒削。内横撫・右回転撫。	吉井。
同図7 写181	土製 土垂	住117B掘埋	長4.6。8g。 実存。	鉱物微・やや軽、並、弱還元。褐56YR6/1。	器面消耗少。孔内、長軸方向に細条線あり、突込み軸ごと焼成か。	表面の酸化脱なし。
同図8 写181	土製 土垂	住117埋下1	長5.5。23g。 実存。	鉱物微、硬、弱酸化。黄橙10YR8/6。	器面消耗少。器面に傷少しあり。孔内に突込み見えず軸粘土巻かん。	表面にわずか酸化脱カ所あり。
同図9 写181	土製 土垂	住117掘出50	長5.1。 31g。実存。	鉱物少・やや軽、並、弱酸化。淡黄2.5Y8/4。	器面消耗少。外傷跡あり。孔内に突込み見えず、軸粘土巻かん。	表面に酸化脱部分あり。
同図10 写181	土製 土垂	住117掘埋	長4.0。35g。 完存。	鉱物少・重、並、弱酸化。弱燒瑕。鈍黄褐10YR7/4。	器面消耗少。外製作時圧痕あり。孔内に突込みなく軸粘土巻かん。	表面に酸化脱斑あり。
同図11 写181	灰釉陶器 皿	住117抗埋29	口径(12.0)。 1/2。	鉱物微、緻、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗微。釉面摩耗。外右回転軸撫目。施釉内外段1.2度掛。	東海。底面糸切痕跡。
第340図1 写181	土師器 壺	住118抗底29	口径約24cm。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化外黒色。黒10YR2/1。	割口消耗微。外横撫・接合痕・荒削。内横撫・工具撫。	
同図2 写181	土師器 壺	住118B埋	頸部下破片。	鉱物含、軟、被熱還元。緑灰10GY6/1。	割口消耗。外矢羽状に列点刺突文2段。内指圧痕・接合痕。	
同図3 写181	須恵器 椀	住117床19	台端径(6.0)。 底部片。	鉱物少・軽質、並、還元黒色吸炭。褐5Y7.5YR4/1。	割口消耗少。外内回転撫。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図4 写181	須恵器 椀	住118床21	台端径5.6。 底部片。	鉱物少・軽質、酸化、酸化色変。鈍橙5YR6/4。	割口消耗。外轆轤目。内回転撫。底右回転糸切痕。	非陶土質。10C後～11C前。
同図5 写181	須恵器 椀	住118床3	口縁部片。	鉱物少・軽質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	割口器面消耗。外轆轤目。内回転撫、被熱色変。	10C後。
同図6 写181	須恵器 坏	住118A埋	台端径(9.6)。 底部片。	鉱物少、硬、還元。灰7.5Y6/1。	割口消耗微。外内右回転撫。底右回転荒削。	瓶音山。
同図7 写181	須恵器 羽釜	住117埋下12	口径(19.8)。 口1/3。	鉱物少、並、弱酸化弱燒。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外内右回転軸撫目あり、内接合痕。	吉井・瓶音山。
同図8 写181	須恵器 甕	住117床21	底径(7.8)。 底付近1/2。	鉱物少・軽質、軟、弱還元。灰黄2.5Y6/2。	割口消耗大。外工具撫。内轆轤目・接合痕。底切離し不明。	非陶土質。
同図9 写181	灰釉陶器 椀	住118A掘埋	口径(17.0)。 口縁部片。	鉱物微、緻、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗微。外轆轤目・右回転荒削。内外受掛かる。釉面摩滅あり。	東海。
第341図15 写182	石製 電材か	住118埋19・20	長15.9＋α。 718g。	全体は旧時状態。残存は表・左側部・前小口で他は巨欠。加工痕は左側にわずか削目あり。	割口消耗少。外内右回転撫。底右回転荒削。	軟質。凝灰岩。
同図16 写182	石製 紡錘状	住118床23	長15.6。 274g。	摩耗は全体におよび残い。特に両小口は摩耗。さらに両小口は浅い裁打痕あり。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・接合痕。	こも編石か。
第343図1 写182	土師器 小形壺	住119床40・1・56他	口径(11.8)。 2/3。	鉱物少、並、酸化被熱弱吸炭。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・工具撫・荒削。内横撫・接合痕。	外被熱弱吸炭あり。
第345図1 写182	土師器 甕	住120トレ	口径約20.0。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・工具撫。	
第347図1 写182	土師器 甕	住121カ 埋・調88埋	口径(12.8)。 上半1/4。	鉱物少、硬、酸化弱燒。鈍褐7.5YR5/4。	割口消耗、外横撫・荒削。内横撫・接合痕。	
同図2 写182	土師器 甕	住121カ埋1・調88埋	口径(19.2)。 口1/2。	鉱物少、硬、酸化弱燒。明褐7.5YR5/6。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒削。内横撫・接合痕・工具撫。	
同図3 写182	土師器 甕	住121カ埋5	底部片。	鉱物少、硬、酸化燒。褐7.5YR4/3。	割口消耗。外荒削。内工具撫。内外に煙かかるが使用時か不明。	吉井・藤岡。
同図4 写182	石製 電支脚	住121カ11	長19.8。 2430g。	図上力の欠損は被化消耗による。旧材は川原石で上方は酸化色がかる。	割口消耗少。外内右回転荒削。底右回転荒削。	軟質。凝灰岩。
同図5 写182	石製 電材	住121カ埋8・9・10	長46.4。 5360g。	壊天井築材か。小口を除き荒削目あり。右側部と裏面酸化色。	割口消耗少。外内横撫。表面中央部に擦傷多くあり。	軟質。凝灰岩
第349図1 写182	土師器 高杯	住122ビ 埋15・C埋	口径13.4。 坏部3/4。	鉱物少、硬、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗大。外横撫・20＋α条細刷毛目。内ハケ細刷毛・研磨。	
同図2 写182	土師器 高杯	住122床8	口径(21.6)。 坏部1/4。	鉱物少、硬、酸化被熱還元。橙5YR6/8。	割口消耗微。外緻横研磨。内左上り放射状研磨後施文。施文針書様	県外搬入。
同図3 写182	土師器 壺か	住122床10・11・埋7他	最大径(30.4)。 胴1/4。	鉱物少、硬、酸化大黒斑。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。外下地に7＋α条網毛目・還に工具撫。内工具細刷目	粘板岩。県外搬入か。
同図4 写182	石製 砥石	住122床14	長14.1、幅6.8 446g。	完存。小口を除く4面使用。表・左側面に凹研磨面あり。	奥小口表・裏面に刃らち傷。仕上砥破。手持・置砥兼用か。	粘板岩。県外搬入か。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第351図1 写182	土師器 壺小形	住123C 脚埋 他	口径(10.7)。 口1/3。	鉱物少、並、酸化。鈍赤褐 5YR5/4。	割口器面消耗。外横撫後研磨。 内研磨。	
同図2 写182	土師器 壺	住123脚埋15	脚部片。	鉱物少・シルト質、並、酸化。 橙5YR6/6。	割口消耗少。外研磨全面・接合痕。 内工具撫・接合痕。	藤岡。
同図3 写182	土師器 壺	住123脚埋	口径(14.0)。 口～頸1/3。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。 橙5YR6/6。	割口消耗。外横撫・荒撫・接合痕。 内横撫・接合痕。	藤岡。
同図4 写182	土師器 壺	住123床4	口径(16.6)。 口1/4。	鉱物少、軟、酸化。橙5YR6/ 8。	割口器面消耗。外横撫・貼付文。内 横撫。	
同図5 写183	土師器 甕か	住123A－A トレ	口径21cm内外 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化弱爆。 鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫。内横撫。割 れ口芯黒色で外淡黄橙サンド。	
同図6 写183	土師器 甕有付か	住123C 埋	口径約(11.8)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。淡黄 2.5Y8/3。	割口消耗少。外横撫、8＋α条刷 毛目。内横撫・指圧。	
同図7 写183	土師器 甕有付か	住123A ト レ・床8	口径(18.0)。 口縁部片。	鉱物含、硬、弱酸化。橙5 YR6/6。	割口消耗少。外横撫・12＋α条刷毛 目。内横撫・撫。	
第354図1 写183	土師器 坏	住124	口径11.8。 小欠あり。	鉱物少、硬、酸化弱爆。鈍 褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・荒撫。内横撫・ 暗文状研磨。	
同図2 写182	土師器 坏	住124貯床3・ 1他	口径12.6。 小欠あり。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/ 6。	割口消耗少。外横撫・製作肌・荒撫。 内横撫・工具撫・撫。	
同図3 写182	土師器 坏	住124貯床他	口径12.4。 4/3。	鉱物含、並、酸化部分爆。 橙5YR6/6。	割口消耗。外ハケ。横撫・荒撫。内 横撫・ハケ少。	
同図4 写182	土師器 坏	住124貯床4・ 32	口径12.5。 小欠あり。	鉱物少、硬、酸化爆発。鈍 褐7.5YR5/4。	割面消耗少。外横撫・荒撫・工具撫 同撫。	
同図5 写183	土師器 坏	住124貯床1 2/3。	口径13.2。	鉱物少、並、酸化弱爆。明 褐7.5YR5/6。	割口消耗。口内外ハケ刷落。外撫 撫荒削。内横撫・工具撫。	
同図6 写183	土師器 坏	住124貯床10 ほぼ完存。	口径13.2。 ほぼ完存。	鉱物少、硬、酸化爆。鈍橙 5YR6/4。	割面少消耗。内外ハケ少。外布 様撫撫・荒削。内布様撫撫。	
同図7 写183	土師器 坏	住124貯埋2	口径13.2。 小欠あり。	鉱物少、並、酸化爆。鈍赤 褐5YR4/4。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫・ 布様不定方向撫。	
同図8 写183	土師器 鉢	住124床25 1/2。	口径15.4。	鉱物少、硬、弱酸化。浅黄 橙10YR5/3。	割口消耗少。外横撫・成形肌・削。 内横撫・接合痕・工具撫。	
同図10 写183	土師器 短頸壺	住124・135 埋・137床他	口径13.4。 上半1/2。	鉱物含、並、酸化施成時還 元既。橙7.5YR6/6。	消耗あり。外面横撫・荒削。内面指 圧痕・横撫・工具撫・接合痕。	薄作。
第355図9 写183	土師器 壺	住124埋18・ 19他	口径(10.8)。 口1/3。	鉱物少、並、弱酸化内黒爆。 鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫・接合痕・工具 撫・研磨様撫。内横撫・接合痕。	県内・外産か不 明瞭。
同図11 写183	土師器 甕	住124掘 埋 22、住137他	胴径(25.4)。 下半の1/3。	鉱物含・軽質、軟、弱酸化黒 色斑。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗大。外面荒撫。内面指圧 撫横撫。外面黒斑2次被熱か不明。	
同図12 写183	土師器 長胴甕	住124床31	口径15.0。 2/3。	鉱物含、軟、酸化。明褐7. 5YR5/6。	器面消耗大。外面横撫・荒削。内面 横撫・工具横撫・接合痕。	被熱弱吸炭あり
第356図13 写183	土師器 長胴甕	住124カ 床 40・39他	口径20.4。 小破あり。	鉱物含、並、弱酸化被熱吸 炭。淡黄2.5Y8/3。	割口少消耗。外面横撫・接合痕・叩 様・削。内面横撫・工具撫他。	叩様唯一　。外 面被熱剥落吸炭
同図14 写183	土師器 甕	住124D 掘 埋・貯5他	口径18.6。 高30.5＋α。	鉱物含・並・酸化、吸炭。鈍 黄橙10YR7/3。	肩部以下吸炭、被熱色変。口縁内 外横撫。内面工具撫・縦作痕。	
同図15 写183	土師器 甕	住124カ 床 43・41	口径(19.8)。 最大径(19.8)。 下半1/2。	鉱物少、並、酸化被熱弱爆 鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗。外接合痕・弱い工具撫・ 被熱剥落。内工具横撫。	
第357図16 写184	土師器 長胴甕	住124カ 床 41・40・42他	口径20.0。 小破あり。	鉱物含、並、弱酸化被熱吸 炭。淡黄2.5YR8/3。	割口器面消耗少。外面横撫・荒 削。内面横撫・工具撫・接合痕。	外面被熱吸炭。
同図17 写184	須恵器 坏	住124床1	径10.4。 高3.0。	白色鉱物多。硬、還元。灰 N6/。	外面体部下半、轆轤右回転痕跡。 その中央に置記号様あり。消耗微	太田窯跡群製。
同図18 写183	須恵器 高坏か	住124A埋	坏部片。	鉱物少、硬、還元。灰N4/。	割口消耗少。外細い沈線2条・櫛原 目。内回転撫。回転方向不明。	観音山。
同図19 写183	須恵器 高坏か	住124	口径(15.8)。 口～体部片。	鉱物少・軽質、軟、弱還元。 灰白5YR8/1。	割口器消耗少。外右回転撫・沈線・ 轆轤目。内回転撫。	非陶土質。観音 山か。
同図20 写184	石製 製作台石	住124床30 他	長21.5。 1/2。	割口は旧欠。裏面刃個条痕多くあり。摩耗は全体的であるが。		出土時床に据られたかのよう。
第360図1 写184	土師器 高坏	住125埋32	脚端径14.6。 1/2。	鉱物少、硬、還元。黄橙7. 5YR7/8。	坏部割口消耗大。外全面研磨。脚 内8＋α条櫛目後撫、坏部接合痕。	透明彩1段4方 向。
同図2 写184	土師器 高坏	住125埋36・ 34	脚端径14.8。 1/2。	鉱物少、硬、還元。酸化。 橙5Y6/8。	古割口再用消耗。新同消耗少。外 研磨、内8＋α条櫛目。	透明彩1段3方 向。
同図3 写184	土師器 壺	住125埋 下 28・24他	脚径(25.5)。 1/2。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐 5YR5/4。	割口消耗少。表荒削・ハゲ・工具撫。 内工具撫・接合痕。	

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
周図4 写184	土師器 甕台付か	住125埋99・ Nトレ	口径24.2。 2/3。	鉱物少、硬、弱酸化色調 半被熱爆。鈍黄橙10YR6/3	割口消耗微。外面横撫・刷毛目下半2回。内面研磨・指圧・接合痕。	
第361図5 写184	土師器 甕	住125埋下15	口径(26.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外横撫・8＋α条刷毛目。内横撫・研磨。	
周図6 写184	土師器 甕台付か	住125埋18・17・10他	口径(10.4)。 1/2。	鉱物少、硬、弱酸化被熱弱爆。浅黄橙10YR8/3。	割口器面消耗。表横撫・12＋α条刷毛目・擦痕。裏横撫・指圧痕。	
周図7 写184	土師器 台付甕か	住125埋99・8他	口径(15.0)。 1/2。	鉱物少、硬、弱酸化被熱弱酸化。鈍黄褐10YR6/4。	割口消耗少。外横撫・13＋α条刷毛目。内横撫・指圧・工具撫。	外下半被熱弱爆
周図8 写184	土師器 甕台付	住125埋16A上層他	口径(15.8)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫・17＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕・工具撫。	
周図9 写184	土師器 甕	住125埋40・17他	口径15.2。 1/2。	鉱物少、硬、弱酸化弱爆吸炭。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫・19＋α条刷毛目施重。内横撫・指痕・工具撫。	外面被熱弱爆・下方吸炭。
周図11 写184	土師器 甕台付か	住125床41	口径(17.6)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。表横撫・11＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕・工具撫。	
第362図10 写184	土師器 甕台付か	住125Nトレ・埋19他	胴径(21.0)。 2/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外横撫・28＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕・工具撫。	
周図12 写184	石製 石斧	住125床45	長20.0。 重686ｇ。	片岩製、川原石原石の表裏を打ち欠き、刃打点部が川原石面。	同小口は旧時欠損。川原石面には摩耗痕あり。	
第364図1 写184	土師器 甕	住126床14・カ埋	口径(19.2)。 口～胴部片。	鉱物含、硬、酸化被熱吸炭	割口消耗少。外沈線・横撫・篦削・工具撫。内接合痕・擦・工具撫。	
周図4 写184	須恵器 椀	住126床 4・埋下5・6	口径12.5。 2/3。	鉱物少、並、弱酸化重焼部黒色。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。表・裏横撫目。底糸切痕。高台貼付。	親音山。
周図3 写184	須恵器 椀	住126貯埋29	口径12.6。 2/3。	鉱物含・軽質、軟、還元小黒斑。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗あり。表・裏横撫回転板。底糸切痕。墨書不明字。	井海土質。
周図4 写185	須恵器 椀	住126床 2・埋下他	口径13.6。 口小欠。	鉱物含、硬、弱酸化弱爆。灰黄褐10YR5/2。	割口消耗微。高台貼接後も使用。表裏右回転横撫目・内面工具。底糸切。	吉井・親音山か
周図5 写185	須恵器 椀	住126床7	台部径6.6。 底部片。	鉱物含、並、還元。黄灰2.5Y6/1。	割口消耗微。内外面に横撫目あり。底右回転糸切痕。内底少摩耗。	親音山。
周図6 写185	灰釉陶器 椀	住126カ埋22他	口径15.5。 2/3。	鉱物微、緻、還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗微。外右回転横撫目。釉は浸漬。内面底・釉面とも摩耗。	東海。釉摩耗は浅い。
周図7 写185	灰釉	住126埋下11	底径6.5。 底部片。	鉱物微、緻、還元。灰白7.5Y7/1。	割口少消耗。表裏とも摩耗痕あり。内面底重焼痕と灰釉あり。	摩耗痕は破損品再用か。東海。
第366図1 写185	土師器 高坏	住127貯底13	脚端径10.9。 坏部欠。	鉱物少、硬、強酸化。赤10R4/8。	割口消耗。外ハゲ・研磨。内部・撫。外と坏部内面赤色塗彩。	透明彩1段3方向、3穴穿孔。
周図2 写185	土師器 高坏	住128床22・埋17他	口径13.2。 坏部4/5。	鉱物少、硬、酸化内小黒斑。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外内研磨。脚部との境は接合面。石英大粒入る。	
周図3 写185	土師器 甕	住128床8	口径約14.6。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化内小黒斑。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外横撫・10＋α条刷毛目。内横撫・指圧痕。	
周図4 写185	土師器 甕	住128床13埋他	口径14.8。 高さ12.2＋α	鉱物含、硬、弱酸化。浅黄橙10YR8/3。	口縁部内外面横撫。外面8条＋α条の刷毛目。内面指撫あり。	
周図5 写185	土師器 台付甕	住127床10・貯埋11他	口径(16.2)。 高さ16.9。	鉱物多、硬、酸化。にぶい黄橙10YR6/3。	口縁部の内・外面横撫。外面9＋α条の刷毛目あり。内面指撫あり。	外面下半煤付着
周図6 写185	土師器 甕	住128埋4	胴部片。	鉱物少、硬、弱酸化。灰褐7.5YR5/2。	割口消耗少。外9＋α条刷毛目。内指など圧痕と撫。	
周図7 写185	土師器 円形加工	住128-25	長径2.5。 胴部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。台付甕の胴部片。外4＋α条刷毛目。内撫。	打欠き面の消耗ほとんどなし。
第370図1 写185	土師器 鉢か	住129床7	口径16cm前後。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	口縁外面に荒目刷毛撫。下半に刷。内面横撫・篦撫、内面整形痕。	
周図2 写185	土師器 高坏	住129A埋・埋2他	脚端径(13.4)。 脚部片。	鉱物少、硬、弱酸化部分爆斑。鈍橙7.5YR6/4。	円形3穴3単位の透。外面研磨。内面撫・接合痕。割口消耗少。	
周図3 写185	土師器 高坏か	住129埋11	脚端径(17.0)。 脚部1/3。	鉱物含、硬、酸化。明赤褐5YS/6。	透し孔3方向2段円形。外面研磨。内面撫。割口消耗少。	
周図4 写185	土師器 短頸壺	住129掘埋39	口径(9.8)。 口縁部片。	雲母粒含・シルト質、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外面口縁付近研磨、筋撫、刷毛目。内面横撫・研磨。	勝岡。
周図5 写185	土師器 甕	住129床41・上層他	胴径(19.5)。 胴部片。	鉱物少、硬、弱酸化。浅黄5Y7/3。	外面に10＋α条刷毛目。内面工具撫・指撫目。割口消耗少。	
周図6 写185	土師器 台付甕か	住129埋7・4・3他	口径19.0。 脚部欠。	鉱物少・硬、弱酸化下半吸炭。鈍橙7.5Y7/3。	口縁内外横撫。外面18＋α条刷毛目。内面撫・指撫・接合痕あり。	下半吸炭の煤付着。器面消耗微
周図7 写185	土師器 台付甕	住129埋下5・6他	脚部径8.2。	鉱物含、硬、弱酸化被熱色変。鈍黄橙10YR7/4。	脚端内外横撫。外面上方刷毛目。内面指撫・接合痕。底内外砂含。	脚部外面二次被熱。器面消耗。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	最目〔cm〕 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第372図1 写185	須恵器 坏	住130貯埋11	底径(5.4)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、中性火襷痕。	割口消耗大。外内横轆目。底面に糸切痕あり。	非陶土質。
同図2 写185	須恵器 椀	住130カ埋下14	台端径(5.4)。 1/3。	鉱物少・軽質、並、酸化少・燻。	割口消耗少。外内に右回転の轆轤目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図3 写185	須恵器 椀	床130カ床16	口縁径3.4。 3/5。	鉱物少・軽質、並、酸化。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底回転糸。	非陶土質。
同図4 写185	須恵器 短頸壺	住130埋下9・埋2	口径(15.4)。 口1/3。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外右回転轆。内左回転糸。	非陶土質・眺音山。
同図5 写185	須恵器 羽釜	住130カ袖外13	口径(18.8)。 口2/5。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化。浅黄2.5YR7/3。	割口消耗少。外右回転轆・接合痕・削。内右回転轆轤目。	非陶土質。
同図6 写185	須恵器 羽釜	住130床7・貯埋24他	口径(19.8)。 口1/2。	鉱物少、並、弱酸化弱燻。鈍黄橙10YR6/4。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。内口付近左回転。	眺音山。
第374図1 写186	土師器 甕か	住131床10	最大幅約29・6。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外研磨、接合痕。内工具撫・接合痕。	非陶土質。
同図2 写186	須恵器 椀	住131床1	口径11.8。 完存。	鉱物少・軽質、軟、還元焼成色変・燻。	口縁摩耗大。外轆轤目。内底工具挽条痕。底轆轤右回転糸切。	非陶土質。
同図3 写186	須恵器 椀	住131カ袖右25	口径11.6。 完存。	鉱物微・軽質、並、還元色変。灰白2.5Y8/1。	口縁摩耗微。外轆轤目。内回転撫条痕。底轆轤右回転糸切、付高台。	非陶土質。
同図4 写186	須恵器 椀	住131カ袖右13	口径(12.2)。 3/5。	鉱物少・軽質、弱酸化外弱燻。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外内右回転撫。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図5 写186	須恵器 椀	住131埋5・埋	口径13.8。 2/3。	雲母粒・軽質、軟、還元弱燻。黄灰2.5Y5/1。	割口部間消耗大。外調整轆目。底面切離し不明。高台貼付。	眺音山。
同図6 写186	須恵器 瓶か	住131床22	胴径(16.0)。 胴部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外撫・刷毛・櫛目様工具撫。内轆轤右回転轆轤目。	眺音山。
同図7 写186	須恵器 羽釜	住131カ振埋25	口径(22.0)。 口～胴1/5。	鉱物少、軟、酸化被熱燻。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外内右回転轆轤目・接合痕。被熱状態に破片色変あり。	眺音山。
同図8 写186	須恵器 羽釜か	住131床7・床8他	底径7.5。 胴～底部片。	鉱物含、軟、弱酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。表撫削・工具撫。裏轆轤目。底撫用。	眺音山か。
同図9 写186	灰釉陶器 皿	住131Ｓトレ	口径約(12.4)。 小片。	鉱物微、緻、還元。灰白10Y8/1。	割口消耗微。外灰釉・右回転撫削。内灰釉・回転撫。	東海。
同図10 写186	灰釉陶器 皿	住131埋上層	台端径(7.0)。	鉱物微、緻、弱還元。灰白5Y7/1。	割口消耗微。外回転撫削・回転撫。内面摩耗光沢。底右回転撫。	東海。
第377図1 写186	土師器 坏	住132床1	底部片。	鉱物少、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗。外撫削・工具撫。内横撫。	6～8Ｃか。
同図2 写186	土師器 坏	住132床5	口縁部片。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗大。外内横撫であるが消耗大のため砂粒移動見えず。	藤岡。８Ｃか。
同図3 写186	須恵器 坏	住132口振埋	底径(6.0)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化弱燻。灰白5Y7/1。	割口消耗。外内右回転轆轤目。底糸切らしいが不明瞭。	非陶土質。
同図4 写186	須恵器 椀	住131坑底34	口径13.0。 3/4。	鉱物微・軽質、軟、弱酸化浅黄橙10YR8/3。	割口消耗少。外轆轤目。高台貼損。付高台。	非陶土質。
同図5 写186	石製 紡垂状	住132床2	長18.6。 528ｇ。	自然川原石。全体的に後ち摩耗痕。	両小口に敲打痕あり。平面上方と中央右寄りに被熱爆痕あり。	非陶土質。
第380図1 写186	須恵器 坏	住133貯・貯底17	口径(10.8)。 3/5。	鉱物少・軽質、還元弱黒褐10YR3/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図2 写187	須恵器 坏	住133Ｂ埋	底径5.6。 2/3。	鉱物少・軽質、弱酸化～中性。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗少。外内横撫目。底右回転糸切痕、肉厚。	非陶土質。
同図3 写187	須恵器 小椀か	住133床5	口径10.4。 4/5。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化～中性。鈍黄橙10YR7/2。	割口消耗。外轆轤目。内油煙・その下に暗褐色漆付着。高台削丸底。	椀を丸底に加工
同図4 写187	須恵器 椀	住133貯埋18	口径(13.6)。 1/2。	鉱物少・軽質、並、弱酸化灰黄褐10YR5/2。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底切離し不明。	非陶土質。
同図5 写187	須恵器 椀	住133貯・埋15・16他	口径(14.4)。 1/2。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化。鈍黄橙10YR7/3。	器面消耗少。内外面右回転轆轤目。高台貼付。内面弱横撫痕残かゝ。	非陶土質。
同図6 写187	須恵器 羽釜	住133床2	口径(21.4)。 口1/6。	鉱物少、並、弱還元。灰黄褐10YR6/2。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。接合面。	眺音山。
同図7 写187	須恵器 羽釜か	住133貯埋14	底径4.8。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、弱酸化弱燻。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外削。内右回転轆轤目、内底摩耗あり。底糸切痕。	非陶土質。
同図8 写187	灰釉陶器 椀か	住133Ｂ埋	底径約８cm。 底部片。	鉱物少、緻、弱還元。灰白2.5Y7/1。	割口消耗微。外内回転撫。施釉カ所におよばず。	東海。
同図9 写187	須恵器 甕	住133Ｄ埋	胴部片	鉱物少、硬、還元。灰5Y5/1。	割口消耗。外内右回転撫。外平行沈線２条。	眺音山。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	概　要	備　考
同図10 写187	土製 羽口か	住133B埋	径(8.0)。 破片	鉱物微・軽質、軟、弱酸化部分燻。淺黄2.5Y7/4。	割口消耗少。外内撫痕。羽口にしては大口径のため内側接合剥落か	スサ入らず。
第383図1 写187	土師器 坏	住135床17・B掘埋他	口径(11.6)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・製作痕・荒削。内横撫・撫。	
同図2 写187	土師器 坏	住135カ 芯・B掘埋他	口径12.5。 3/5。	鉱物少、硬、酸化。明黄褐10YR6/6。	割口消耗。外横撫・型肌・荒削。内横撫2段。	
同図3 写187	土師器 坏	住135床 2 -10・Sトレ	口径(12.6)。 2/5。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍褐7.5YR5/4。	割口消耗。外横撫・製作肌・荒削。内横撫・撫。	
同図4 写187	土師器 坏	住135堀19	口径(13.0)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・製作肌・荒削。内横撫。	
同図5 写187	土師器 坏	住135床 3・4。	口径13.6。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少・器面大。外横撫・荒削。内横撫・放射状研磨。藤岡かゝ。	外底内刻は成形時、被覆剥落か底外ハゲ剝落多い。
同図6 写187	土師器 坏	住135床15・16他	口径(13.8)。 1/3。	鉱物少、軟、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口器面消耗大。外横撫・製作肌・荒削。内横撫・放射状研磨。	
同図7 写187	土師器 甕	住135床14・カ芯29他	口径(20.8)。 口1/3。	鉱物少、硬、酸化破片色差。鈍黄褐2.5YR4/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒傷・荒削。内横撫・工具撫。	
同図8 写187	土師器 甕	住135床 2 -35他	口径(20.8)。 口2/5。	鉱物少、硬、酸化弱燻。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕・荒傷・荒削。内横撫・工具撫。	
同図9 写187	須恵器 坏	住135床12	口径(12.4)。 1/2。	鉱物少、緻、還元。灰5Y6/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底糸切後右回転荒削。	秋間。底周辺回転荒削。
同図10 写187	須恵器 坏	住135床 2 -45	底径(6.8)。 底1/2。	鉱物少、硬、還元。明オリーブ灰5GY4/1。	割口消耗少。外工具撫右回転轆轤目。底右回転荒削。	観音山。
同図11 写187	須恵器 坏	住135埋25	口径13.6。 2/3。	鉱物少、軟、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗。外内右回転轆轤目。底糸切後右回転荒削。	観音山。底周辺回転荒削。
同図12 写187	須恵器 坏	住135埋下39	口径(15.6)。 1/4。	鉱物少、緻、還元。灰5Y7/1。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底際回転荒削。底手持荒、溜着痕。	切離し荒切か。秋間。
同図13 写187	石製 臼状	住135カ掘	長25.0。 3728g。	旧質が明瞭なのは、表と左側面で、奥小口・右側面はやや不明瞭。	表面は微化気味。表と左側面には削目あり。	軟質。凝灰岩。
第387図1 写187	土師器 坏	住137床33他	口径(12.6)。 1/2。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・成形肌・荒削・荒削。工具撫。内横撫。	
同図2 写187	土師器	住137床 2 -37・床31	口径(19.0)。 口縁部1/4。	鉱物少、並、酸化雲母。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫・接合痕。荒削。内横撫工具撫。	
同図3 写187	土師器 甑	住137掘 埋・埋22	底径(7.0)。 底部片。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐5YR5/6。	割口消耗少。外荒削。内撫。底の穿小穴は外からの焼成前穿孔。	
同図4 写187	須恵器 蓋	住137埋下18	口径13.2。 完存。	鉱物少、硬、還元弱燻。灰5Y5/1。	使用消耗少。内外面轆轤目。外右回転荒削。内面底摩耗あり。	吉井・観音山。白鉱物多。
同図5 写187	須恵器 坏	住137埋下29	口径11.4。 4/5。	鉱物含、硬、還元。灰N5/。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。底右回転糸切痕。	吉井。
同図6 写187	須恵器 坏	住137埋10他	口径(12.2)。 1/3。	鉱物少・軽質、軟、弱還元。灰白2.5Y8/2。	割口消耗少。外口右回転轆轤目。底糸切痕。内底摩耗少しあり。	観音山。
同図7 写187	須恵器 坏	住137床25	口径(12.6)。 1/2。	鉱物少、並、中性重焼色差。灰白5Y7/1。	割口消耗少。内外右回転轆轤目あり、内底少摩耗。底右回転糸切痕。	観音山。
同図8 写187	石製 紡錘車	住137床 4	長7.3。 165g。完存	使用は6面。上方裏面に下紐穴両側穿孔あり。穿孔失敗下方にあり。前小口・左側部に刃なりし傷あり。	中紐級。手持紐流紋岩。紐穴紐	雲母粒。藤岡。
第390図1 写188	土師器 坏	住138カ 床23・30	口径11.0。 小欠あり。	鉱物少、並、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外布様の横撫・荒削。内布様の横撫。	雲母粒。吉井・藤岡。
同図2 写188	土師器 坏	住138カ 床30・25	口径11.4。 小欠あり。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外布様の横撫・荒削。内布様の横撫・撫。	
同図3 写188	土師器 坏	住138掘底38	口径11.7。 完存。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/6。	器面消耗強。外布様横撫・荒削。内横撫・撫。	
同図4 写188	土師器 坏	住138カ 床29・30他	口径11.6。 小破あり。	鉱物少・雲母粒、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。外布様横撫・荒削。内横撫・接合痕。	吉井・藤岡。
同図5 写188	土師器 坏	住138床10	口径12.4。 小欠あり。	鉱物少、硬、酸化強燻。鈍橙7.5YR6/4。	消耗微。外横撫・型肌・荒削。内横撫・撫。	
同図6 写188	土師器 坏	住138内の坑215紙4	口径11.8。 4/5。	鉱物少、並、酸化弱燻。鈍橙5YR6/4。	割口消耗大。外横撫・ハゲ・型肌・荒削。内横撫・工具撫。	弱燻は焼成時か被熱か不明
同図7 写188	土師器 坏	住138掘 埋・カ埋	口径11.6。 4/5。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗微。外横撫・荒削。内面横撫・接合痕。	
同図8 写188	土師器 坏	住138床26・カ埋19	口径12.2。 3/4。	鉱物微・シルト質、並、酸化小黒斑。橙5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。	藤岡。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
同図9 写188	土師器 坏	住138床9・他	口径12.4。 2/3。	鉱物含、硬、酸化淡橙。	割口消耗少。外横撫・荒削。内横撫。 内外面弱磨。	接合派、図不正確。
同図10 写188	土師器 坏	住138床215 底2	口径(12.8)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化淡橙。	割口消耗少。外横撫・荒撫法縁・荒削。内横撫。	内面黒。
同図11 写188	土師器 鉢	住138柱埋17	最大径8.6。 胴部1/2。	鉱物微・経質、ち密、並、酸化。	外面注口・研磨。内面研磨・絞目・接合痕・横撫。割口消耗少。	黒外搬入。外面小黒斑。
同図12 写188	土師器 坩	住138床7	最大径14.0。 1/2。	鉱物少、硬、弱酸化。	割口消耗。外荒撫前・研磨少・ハゲ少。内工具撫・ハゲ少。	石回転。
同図13 写188	土師器 壺	住138	口径カ床24	鉱物含、硬、酸化小黒斑。	器面消耗少。外横撫・荒削・撫。内横撫。底平ら製作肌目。	石回転。
第391図14 写188	土師器 甕	溝9ヵ埋・掘方底37他	口径(19.0)。 高さ21.25。	鉱物含・並・弱酸化。浅黄橙10YR8/3。	破片相互に熱色変差あり。外面は熱剥落多。内面工具撫・撫痕あり。	消耗微。外面横撫・荒削。内面横撫・研磨・接合痕・荒撫。
同図15 写188	土師器 甑	住138貯底坑215底5	口径24.6。 小破あり。	白鉱物含、硬、弱酸化黒斑黄橙10YR6/4。	割口消耗。外横撫・荒削・撫。内面横撫・研磨・接合痕・荒撫。	底部木葉圧痕。下平被熱色変様
同図16 写188	土師器 長胴甕	住138ヵ埋27・床33他	口径19.0。 小破あり。	鉱物少、並、弱酸化下半被熱爆。浅黄2.5Y7/3。	割口消耗あり。外横撫・荒削・接合痕。内横撫・工具撫・接合痕。	底部木葉圧痕。
同図18 写188	須恵器 坏	住138ヵ埋28	口径(16.0)。 1/2。	鉱物少、緻、還元。灰白7.5Y7/2。	割口消耗少。外白熱釉多・右回転轆轤目。内轆轤目・底摩耗大。	秋間。底面籾痕不明不。
第392図17 写188	土師器 長胴甕	住138床31	口径19.8。 小欠あり。	鉱物含、並、中性・被熱軟脆。鈍黄橙10YR7/2。	外面沈線一条・横撫・荒削。内面横撫・工具撫。底平ら。	内外被熱痕跡。外面若干剥落。右回転。太田か。
同図19 写188	須恵器 蓋	住138内 灰215埋	口径14.1。 完存。	鉱物含、硬、還元。灰N6/。	器面消耗微。外回転荒削・撫。内轆轤目・摩耗微。	右回転。太田か。
同図20 写188	石製 加工石材	住138ヵ底36 加工石材	長21.3。幅11 重量1430。	加工は図正・周側面に削目あり。両小口は川原石面。上小口はわずか敲化。	割面は図示。	電用材か。
同図21 写188	石製 加工石材	住138埋35	長20.6＋α。 幅11.6＋α。	図表・左側部が日来の成形跡。	整形に工具削目。表・左側部は被熱爆化。割口は調査時以降。	軟質凝灰岩。電用材。
第394図1 写189	土師器 甕	住139埋1・カ5他	口径18.9。 高さ20.2＋α。	鉱物含、硬、酸化。橙5Y7/6。	口縁部の内外横撫。体部外面荒削・荒撫。周内面工具撫・接合痕。	外面部以下煤付着。
同図2 写189	土師器 甕	住139ヵ埋下7他	口径20.6。 小欠損。	鉱物少、硬、酸化被熱弱爆。鈍橙7.5YR6/4。	消耗微。外接合痕・指圧痕・横撫・荒削。内横撫・工具撫・指圧痕。	被熱洞穴。
同図3 写189	土師器 甕	住139ヵ底13・ヵ埋下9	口径20.8。 高さ24.3。	鉱物含、硬、酸化。にぶい橙5YR7/4。	口縁部の内・外面横撫。外面荒削ササラ状。内面接合面あり。	外面部分的に吸炭あり。
同図4 写189	須恵器 椀	住139ヵ埋	口径(12.6)。 1/2。	鉱物少・経質、軟、還元。鈍黄橙(10YR6/4)。	消耗大。破片周被熱色変。外面轆轤目。底面糸切痕。高台剥落。	非陶土質。
同図5 写189	灰釉陶器 皿	住139Aトレ第1層	口径(14.0)。 口縁部片。	鉱物微、緻、還元。灰オリーブ5Y6/2。	割口消耗無。内外刷毛目状灰釉あり。釉部底は外面明瞭、内横撫。	東海。
第395図6 写189	石製 電支脚	住139ヵ16	長18.8。 重1648。近完	被覆5～6面円錐形。削目わずかに残されるが、凹凸多く不明瞭。全体被熱脆化。頂部もほぼ消滅。	被部は外面明瞭、内横撫。	軟質。やや重。凝灰岩。
同図7 写189	石製 カマド材	住139ヵ床10 カマド材	長30.4。 重2620。	加工面は図正面と左側面、也は被熱剥落。加工部は削目あり。厚さからカマド天井材か。	小口・右側部は旧欠。	軟質・経質。凝灰岩。
第397図1 写189	土師器 甕	住140上層		鉱物少、並、酸化。にぶい橙10Y R7/4。	割口消耗大。外荒撫前。内面工具条痕。割口に接合痕。	6・7C前。
同図2 写189	須恵器 坏	住140底1	口径(13.2)。 2/3。	鉱物少・経質、並、還元。褐灰10YR6/1。	割口消耗少。外内面轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。
第399図1 写189	土師器 高坏	住141床3	脚部径(19.8)。 1/2。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗大・器面ハゲ・消耗。外研磨全面。内研磨・荒削・工具撫。	透円形同軸2段3方向、5穴残
同図2 写189	土師器 高坏	住141埋下1・B埋上	脚部片。	鉱物少、硬、酸化。明褐7.5YR5/6。	割口消耗大・坏部ハゲ剥落大。外研磨。内荒撫。粘土円板坏接合か。	透円形1段3方向3穴残存。
同図3 写189	土師器 器台	住142埋上層21	脚端径11.2。 1/2。	鉱物含、硬、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外横撫・研磨。内坏部研磨痕、脚内細擦目・横撫。	
同図4 写189	土師器 直口壺	住141床8	口径12.6。 上半1/2。	鉱物含、並、弱酸化黒斑。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。器面ハゲ、消耗大。外横撫・研磨。内ハゲ・指圧痕。	回転台左。
同図5 写189	土師器 壺	住141埋下壺2・11	口径(20.0)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。橙5YR6/8。	割口器面消耗。外口縁結付文、横撫、櫛の列点刺突文、内横撫。	撫は回転台右回転。
同図6 写189	土師器 壺台付か	住141ヵ埋	口径(11.4)。 口1/3。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外横撫、17＋α条刷毛目。内横撫・指撫。被熱不明。	回転台左。
同図7 写189	土師器 壺台付か	住141床5・住142埋上	口径(13.8)。 口～肩1/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱脆変。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外横撫・19＋α条刷毛目。内横撫・指撫。	回転台左回転。
同図8 写189	土師器 台付甕	住141埋下・6	脚端径8.6。 脚1/2。	鉱物少、硬、弱酸化被熱色変。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。表14＋α条刷毛目・撫。内工具撫・指撫。底内外砂付。	

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
第401図1 写190	土師器 壺	住142カ埋9・ 埋上層	底4.3。 底～胴下半片	鉱物少、硬、弱酸化被熱強燻・煤。黒褐10YR3/2。	割口消耗少。外置煤。内工具撫・接合痕。底外砂付着。	
同図2 写190	須恵器 坏	住142床3	底径(6.0)。 底部片。	鉱物少、並、酸化。純黄橙10YR6/4。	割口少消耗。内底少摩耗・轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。	観音山。
同図3 写190	須恵器 碗	住142カトレ・埋	口径(11.6)。 3/5。	鉱物含・軽質、並、弱酸化弱燻。純黄橙10YR7/3。	割口消耗少。内外轆轤目。底轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。
同図4 写190	須恵器 羽釜	住142上層	口径24内外。 口縁部片。	鉱物少、軽質、並、弱酸化弱燻。黄灰2.5YR4/1。	割口消耗少。内外右回転轆轤目。鍔端摩耗少。	非陶土質。
同図5 写190	灰釉陶器 瓶	住142床 11・ユ埋	底径(14.0)。 底部片。	鉱物微、細、並、酸化。灰白5YR8/1。	割口消耗微。外側色捻目と釉喰・轆轤右回転痕。内轆轤目。釉調喰	底生産後回転間目あり。寒海。
第403図1 写190	土師器 坏	住143H6・7	口径(14.0)。 1/4。	鉱物含、硬、酸化部分燻炭褐10YR4/4。	口縁部内外面横撫。外面体部指圧痕・荒削。内面横撫。割口消耗微	
同図2上 写190	土師器 甕	住143坑 44・45他	口径(13.0)。 口～胴1/3。	鉱物少、硬、酸化部分燻。灰褐7.5YR4/2。	外面撫・荒削。内面撫・横撫・接合痕。割口少消耗。	
同図2下 写190	土師器 台付甕か	住143坑埋43	残6.7残4.4。 脚部片。	鉱物少、硬、酸化。純赤褐5YR4/4。	胴外面荒撫後横撫。内面横撫。脚部貼付。割口消耗少。	
同図3 写190	土師器 壺	住143床34・ 23他	口径(19.4)。 1/2。	鉱物少、硬、酸化。明褐7.5YR5/8。	割口消耗少。表指圧痕・横撫・貼土端・荒削。裏横撫・工具撫。	被熱痕見えず。
同図4上 写190	土師器 壺	住143埋下・ 21、埋13	口径(19.8)。 口縁部1/2。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐5YR5/6。	外面指圧痕・横撫・荒削・接合痕内面工具撫・横撫。割口少消耗。	釉は刷毛。
同図4下 写190	土師器 壺	住143埋下・ 6・床23他	口径(23.6)。 胴底1/2。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐5YR5/6。	外面指圧痕・荒削。内面刷毛・荒撫・接合痕。割口消耗多。	
同図5 写190	須恵器 碗	住143床26	台部径(6.2)。 底部片。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰黄褐10YR6/2。	割口消耗多。内外轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。	非陶土質。
同図6 写190	須恵器 碗	住143B 掘・埋	口径(14.0)。 1/2。	鉱物微・軽質・軟・還元部分燻炭。褐灰10YR6/1。	割口少消耗。内外轆轤目。底面糸切痕。付高台。	非陶土質。
同図7 写190	灰釉陶器 皿	住143床27・ B掘埋	口径(14.0)。 1/3。	黒粒鉱・鉄・還元。淺黄2.5Y8/3。	外面轆轤右回転糸痕。体部下半回転荒削。内面重焼痕。使用消耗微。	釉は刷毛。
同図8 写190	石製品 砥錘車	住143床37	径4.6・4.75 55.4g、完存。	流紋岩(福沢石)。側部製作時整形削条痕。表・裏も同。表面「国」力の刻字あり。	使用消耗・擦痕微。	
第405図1 写190	土師器 坏	住144床12・ 力埋他	口径(12.4)。 4/5。	黒鉱物含、並、酸化。橙7.5YR6/8。	口縁部内外面横撫。外面底荒削。割口消耗少。	
同図2 写190	土師器 坏	住145W トレ・埋	口径(12.5)。 4/5。	鉱物含・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	器面消耗大。口縁部外面から内面に横撫。底面外荒削。	
同図3 写190	土師器 坏	住144力埋8・ 力掘埋他	口径(12.4)。 1/4。	鉱物含、並、酸。橙7.5YR6/6。	口縁部の内外面横撫。外面下半撫削。割口消耗少。	
同図4 写190	土師器 坏	住144ヨ 7・10	口径(13.0)。 2/3。	鉱物少、硬、酸化被熱色変褐7.5YR4/4。	口縁部内外面横撫。外底面荒削。割口消耗少。	
同図5 写190	土師器 坏	住144A埋他	口径(14.2)。 1/2。	鉱物含・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	口縁内外横撫。端部下に各々浅い凹み。外面荒削。割口消耗。	藤岡。
第407図1 写190	須恵器 碗	住145床5	口径(12.8)。 無欠。	鉱物多・軽質・軟・酸化被熱色変。橙7.5YR6/6。	消耗微。内外面轆轤撫。内面底工具轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕	非陶土質。
同図2 写190	須恵器 碗	住145床11・ 15・3他	胴径(19.7)。 3/5。	鉱物多・軽質・軟・弱酸化。純橙5YR6/3。	外面沈線2・同陽似1条・下半不定方向荒削。内面轆轤目。消耗多	非陶土質。
同図3 写190	須恵器 瓶か	住145床2	口径(20.4)。 口～頸部片。	鉱物少、並、還元。純黄2.5Y6/3。	割口消耗・器表ハゲ剥落。外面轆轤目。内面轆轤目。	
同図4 写190	須恵器 羽釜か	住145R22	鍔部片。	鉱物含・軽質、軟、還元内面黒燻。灰黄2.5YR7/2。	割口消耗少。内外面轆轤目と条痕。鍔部貼付痕・割口に接合痕。	非陶土質。
第409図1 写191	須恵器 坏	住146埋1	口径(12.2)。 2/3。	白鉱物少・硬・還元。褐灰10YR5/1。	外轆轤目・回転撫削。底面轆轤右回転糸切痕。内面底磨耗。	火鉢・ケイ酸質。観音山・吉井。
同図2 写191	石製 長楕円形	住146床19	長9.2。 重138。	全体に浅く磨耗より、小口面に敲打痕目立ず。両側部中央に擦痕あり。こも編石時の結び目痕かも。	安山岩質のため、全体に小穴あり。磨耗は浅く、全体におよぶ。中央付近に横軸方向に擦痕あり。こも編結び付け痕か。	こも編石か？。
同図3 写191	石製 長楕円形	住146床15	長8.7。 重138。	全体に浅く磨耗あり。小口面の敲打痕見えず。	全体に浅く磨耗あるが、硬質石材のため未発達。小口面の敲打痕見えず。	こも編石か。
同図4 写191	石製 長楕円形	住146埋下・ 17	長9.4。 重160。	全体に浅く磨耗より。両小口はさらに磨耗。小口の敲打痕目立ず。側部中央部側に擦痕あり。こも編の結び目擦痕か。	こも編石か？。片岩。	こも編石か？。
同図5 写191	石製 長楕円形	住146埋下29	長10.2。 重205。	全体に浅く磨耗あり。もともと硬質材の川原石のため磨耗目立ず。		こも編石か不明
同図6 写191	石製 長楕円形	住146床5	長10.3。 重138。	全体に浅い磨耗あるが、硬質石材のため未発達。小口面の敲打痕見えず。		こも編石か。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘 要	備 考
図版7 写191	石製 長橋円形	住146埋下16	長10.5。 重123。	全体に浅く磨耗あり。両小口はさらに消耗あるものの敲打痕見えず。	割口消耗あり。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版8 写191	石製 長橋円形	住146埋12	長10.5。 重202。	全体に浅く磨耗あり。下方節理に沿う旧欠あり。隅消耗があるため旧欠後も使用。	割口消耗少。表横擦・接合痕。裏横擦。	こも編石か。片岩。
図版9 写191	石製 長橋円形	住146床3	長11.2+α。 重160+α。	全体に浅く磨耗あり。両小口は旧時欠損であるが石材硬質のため磨耗目立たず。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版10 写191	石製 長橋円形	住146埋下4	長12.0+α。 重299+α。	全体に浅く磨耗あり。奥小口面さらに消耗。前小口は割れ口新鮮で調査時欠損らしい。	割口消耗少。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版11 写191	石製 長橋円形	住146床22	長12.2。 重367。	全体に浅く磨耗あり。平面下方は旧時欠損ながら打点部1ヶ所あり。旧欠損後も使用されていたらしく、少磨耗入る。	割口消耗少。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。
図版12 写191	石製 長橋円形	住146埋下7	長12.8。 重115。	全体に浅く磨耗あり。両小口さらに磨耗。小口面の敲打は目立ず。側部の磨耗は中央より小口側がより磨耗。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
第410図13 写191	石製 長橋円形	住146床8	長11.0。 重237。	全体に浅く消耗。下小口は旧欠で隅消耗大のため旧欠後も使用。上小口は消耗多い。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版14 写191	石製 長橋円形	住146埋側26	長11.3。 重160。	全体に浅く磨耗あり。奥小口はさらに消耗。小口面に敲打痕目立ず。側部は左側部の稜部消耗。	割口消耗少。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版15 写191	石製 長橋円形	住146埋下16	長11.6。 重297。	全体に浅く磨耗あり。両小口・右側部はさらに磨耗。小口面の敲打痕は見えず。	割口消耗少。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。
図版16 写191	石製 長橋円形	住146埋下18	長12.5。 重161。	全体に浅く磨耗あり、上端部特に磨耗。下方旧欠ながら欠損後も使用か。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。
図版17 写191	石製 長橋円形	住146埋下11	長12.8。 重163。	全体に浅く磨耗あり。奥小口面さらに消耗あり。両側部は外面に張出した方所がより多く磨耗。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版18 写191	石製 長橋円形	住146埋下21	長13.2。 重162。	全体に浅く磨く磨耗あり。下方敲打痕あり。上方と表下半に旧欠あるものの欠損後も使用されたらしく、少磨耗入る。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版19 写191	石製 長橋円形	住146埋下19	長13.8。 重118。	全体に浅く消耗あり。平面下方小口消耗やや大。裏面全面平欠、旧損後も使用されたらしく、少磨耗入る。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版20 写191	石製 長橋円形	住146床6	長13.6。 重145。	全体に浅く磨耗あり。両小口はさらに磨耗。この一群の中では磨耗大。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版21 写191	石製 長橋円形	住146床13	長13.9。 重111。	全体に浅く磨耗。両小口磨耗、消耗あり。左半分を欠損するが旧欠後も使用されていたらしく、少磨耗入る。	割口消耗少。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版22 写191	石製 長橋円形	住146埋下9	長13.6。 重190。	全体に浅く磨耗あり。両小口はさらに消耗。稜部は全体的に消耗大。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版23 写191	石製 長橋円形	住146掘埋24	長14.8。 重293。	全体に少し磨耗あり。隅部の消耗大。この類の中では消耗大きい。小口敲打痕、ほとんど見えず。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
第411図24 写191	石製 長橋円形	住146掘方埋25	長16.2。 重196。	全体に浅く消耗あり。下半小口は磨耗目立つ。裏面は旧欠ながら磨耗痕、隅割れあり、旧損後も使用。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
図版25 写191	石製 長橋円形	住146床23	長18.5。 重369。	全体に浅く消耗あり。側部両中央部は人為による打ち欠きなされるが旧欠・調欠不明。	割口消耗少。表横擦・工具擦。	こも編石か。片岩。
第414図1 写191	土師器 甕	住147掘埋8	口径(13.2)。 口縁部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗あり。表横擦・接合痕・置削。裏横擦・工具擦。	外面弱爆は被熱のためか。
図版2 写191	土師器 甕	住147カA埋11	口径22cm内外 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化爆。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。表沈線・横擦・接合痕。裏横擦。	外面弱爆は被熱のためか。
図版3 写191	須恵器 羽釜	住147掘埋10	口径13cm内外 口縁部片。	鉱物含、並、還元。灰黄2.5Y6/2。	割口消耗少。表横擦目あり。裏横擦右回転の撫痕あり。	外面弱爆は被熱のためか。
図版4 写191	須恵器 椀	住147床1	台端径5.8。	鉱物含・粗質、軟、還元内外黒。オリーブ黒5Y3/1。	割口器面少消耗・合部端大。表横擦目。裏回転撫。底横擦右糸切痕	外面弱爆は被熱のためか。
図版6 写191	土師器 土乗	住147D掘埋	長4.5。 重6.96。	鉱物少・やや重、硬、酸化。鈍黄橙10YR6/3。	器面消耗少。外研磨様の光沢あり。土師器の寓より重い。	表横擦横撫左・横撫目右回転。
第415図5 写192	須恵器 坏	住147床3・カ埋12他	口径(19.8)。 口～胴部片。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR7/6。	割口消耗少。表横擦・工具撫横目。裏横撫横撫・接合痕。	表横擦横撫左・横撫目右回転。
図版9 写192	石製 カマド材	住147掘埋5	長32+α。 3813g。	前小口は旧損。それを除く各面に削痕かすかにあり。カマド材としての削込み部あり。被熱痕不明瞭。	割口消耗少。外荒消。内横撫。	軟質。凝灰岩。
第417図1 写192	土師器 坏	住148埋埋1	底径(7.4)。 底部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外荒消。内横撫。	8～9C前。
図版2 写192	土師器 甕	住148C埋	口縁部片。	鉱物少、並、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕。内横撫。	9C中。
図版3 写192	土師器 甕	住148D埋	口縁部片。	鉱物含、並、還元。黄灰2.5Y5/1。	割口消耗少。外内横撫。外左回転。器表に酸化膜あり。	古式土師か。
第419図1 写192	土師器 小形盤か	住149D掘埋	底径3.4。 1/3か。	鉱物少、硬、還元爆無。黒10YR2/1。	割口消耗。外工具撫・横撫。内工具撫。底複数の擦痕らしき圧痕。	粗製品。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　要	備　考
図版2 写192	土師器 高坏	住149C 掘 埋・床他	脚端径(14.8) 脚部1/2。	鉱物少、硬、酸化。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗。外円形透3方向2段・研磨。坏内ハギ剥落。脚内筮撫。	
図版3 写192	土師器 甕台付か	住149東1	口径(13.8)。 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化。鈍黄橙10YR6/4。	割口消耗少。外横撫。内横撫。	右回転。
図版4 写192	土師器 甕	住149東4	胴部片。	鉱物少、硬、弱酸化弱燻。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗。外12＋α条刷毛目。内撫。	
図版5 写192	土師器 甕	住159床 3・C床	胴部片。	鉱物少、硬、弱酸化被熱弱燻。鈍黄橙10YR4/7。	割口消耗少。外12＋α条刷毛目。内工具個・指痕・接合痕。	
第421図1 写192	土師器 坏	住150床9	口径(14.0)。 1/4。	鉱物少、硬、酸化。純赤褐5YR5/4。	割口消耗。外横撫・成形肌・筮用。内横撫・ハギ剥落。	
図版2 写192	土師器 坏	住150床10	口径(15.0)。 口1/5。	鉱物少、硬、酸化。純赤褐5YR4/4。	割口消耗大。外横撫・横撫帯直下以下筮用。内横撫。	藤岡。
図版3 写192	土師器 坏	住150カ埋17	口径(13.8)。 口縁部片。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗大。外横撫・横撫帯直下以下筮用。内横撫。	古井・藤岡。
図版4 写192	土師器 坏	住150床10	口径(12.0)。 1/3。	鉱物少・シルト質、軟、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗大。器面小ハゼ。外横撫・筮用。内横撫後・暗文。	古井・藤岡。
図版5 写192	須恵器 壷	住150埋7	口径14.5。 小損あり。	鉱物少、緻、還元。灰白2.5Y7/1。	割口消耗無。外自然釉・神物付着・回転筮用後撫。内指・工具撫。	秋間。
図版6 写192	石製 電材	住150カ床15	長37.6＋α。 6004g。	下方は旧時欠損。奥小口は消耗欠損で旧時。	加工面は表・裏・両側部に板跡あり。各面とも消耗大。	軟質、凝灰岩。
第423図1 写192	土師器 高坏	住150埋下2他	脚端径11.6。 脚1/3。	鉱物少、硬、酸化小黒斑。橙5YR6/6。	割口消耗大。坏部ハギ剥落。外工具撫・研磨。内工具撫。	脚内貼土小塊。透2段3方6穴
図版2 写192	土師器 甕	住151床7	口径(14.8)。 口1/4。	鉱物少、硬、酸化。明褐7.5YR5/8。	割口消耗少。外筮撫様の削・筮撫。内工具撫。	
第426図1 写192	土師器 高坏	住153埋・住166埋他	脚くびれ部径5.2。脚部片。	鉱物微・シルト質、並、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗少。表筮撫。裏工具撫・撫。	
図版2 写192	須恵器 椀か	住153床12	口径11.1。 1/5欠。	鉱物微・シルト質・軽、軟、中性。褐灰10YR5/1。	内外面轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。割口消耗少。	非陶土質。
図版3 写192	須恵器 椀か	住153床6	口径(11.6)。 口縁部片。	鉱物含・やや軽、並、還元。灰白10YR8/1。	外面に轆轤右回転の轆轤目あり。割口消耗無。	
図版4 写192	須恵器 坏	住153カ埋34他	口径12.2。 2/3。	鉱物微・シルト質・軽、軟、中性。鈍黄橙10YR7/3。	内外面轆轤目。底面糸切後撫消。内外面無釉目。割口消耗少。	非陶土質。
図版5 写192	須恵器 坏	住153カ床39	口径12.2。 近完存。	鉱物微・シルト質・軽、軟、中性。鈍黄橙10YR7/4。	内外面轆轤目。底面糸切後撫消。内灯火芯痕様を伴なう油痕付着。	非陶土質。
図版6 写192	須恵器 坏	住153埋B	口径(13.2)。 2/3。	鉱物微・シルト質・軽、軟、中性。鈍黄橙10YR7/3。	内外面轆轤目。底面轆轤右回転糸切痕。割口消耗少。	非陶土質。
図版7 写192	須恵器 椀か	住153床17	口径(13.2)。 1/4。	鉱物含・軽、並、還元。鈍橙7.5YR7/3。	内外面回転無。割口・器面消耗微。轆轤右回転の糸痕あり。	非陶土質。
図版8 写192	須恵器 椀	住153カ埋既43	口径(13.4)。 口～体部片。	鉱物少・軽、軟、弱酸化。鈍橙7.5YR7/4。	割口消耗少。	非陶土質。
図版9 写193	須恵器 脚部	住153床12	脚端径(11.4)。 脚部1/5。	鉱物含・軽、硬、還元燻。褐灰10YR5/1。	外面に工具による轆轤目あり。内面回転痕。割口消耗無。	非陶土質。
図版10 写193	須恵器 台付瓶	住153床3	台端径(12.6)。 底部高台半欠	白鉱物含、硬、還元弱燻内弱酸化。暗青灰5B3/1。	底板圧痕（回転の台か）、高台貼、内面工具轆轤目。轆轤右回転。	観音山。
図版11 写193	須恵器 瓶	住153カ埋下44	体部片。	白鉱物多、軽、並、還元。暗オリーブ灰5GY4/1。	外面に浅い平行凹。内面当目不明瞭。胎土中石英多。割口消耗微。	吉井か。
図版12 写193	須恵器 羽釜か	住153床19	体部片。	鉱物少・軽、軟、酸化。鈍橙5YR7/4。	外面荒削・撫。内面轆轤目。割口・器面消耗大。	非陶土質。
図版13 写193	須恵器 羽釜	住153床8・7他	口径(21.2)。 上半1/4。	鉱物含、並、酸化。鈍橙5YR7/4。	外上半・内面轆轤目。口縁部内外横撫。外下半筮撫。割口紐痕。	割口消耗微。
図版14 写193	須恵器 羽釜か	住153床16・住160埋42	胴径(26.6)。 胴部片。	白鉱物含、並、酸化。鈍橙5YR6/6。	内外面に轆轤右回転の轆轤目あり。外面被熱不明瞭。割口消耗少。	
第427図15 写193	須恵器 短頸壷	住153床5	口径(25.5)。 口縁部片。	鉱物多・軽、並、酸化弱燻。鈍橙7.5YR6/3。	頸付近外横撫、内面横撫。割口紐痕、消耗微。	非陶土質。
図版16 写193	須恵器 瓶大形	住153カ 埋24・27他	口径(29.8)。 口縁・胴部片。	鉱物多・軽、並、還元・二次酸化。橙7.5YR7/6。	内面上方被熱剥落。外面叩不明、内面索文。頸以上の内外横撫。	図は合成復元。非陶土質。西毛
第428図17 写193	須恵器 大甕	住153NO21住160NO 2	最大径(68.0)	白鉱物含、硬、灰白(10YR7/1)。	外面平行叩、内面同心円当目。底部に大接合面。外面少凍ハゼ。	吉井・藤岡。8・9世紀。
図版18 写193	石製 カマド材	住153カ掘底	長33.6。 幅12.0。	凝灰岩、軟質でローム層起源。	図表面・両側面酸化、表・奥小口面吸炭。前小口弱酸化。旧欠損。	電材。軟質。凝灰岩。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目(cm) 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
同図19 写193	石製 支脚	住153ヵ支脚 42	長さ29.1。 幅10.6。	自然転石。上・下端吸湿せず、ハゼ部剥離化。	中央寄り上方被熱剥落。上・下端を除き吸炭。旧欠あり。	
第431図1 写194	土師器 坏	住154堀埋11	口径(10.8)。 1/3。	鉱物少、軟、酸化。橙5YR6/8。	割口消耗。外横撫・荒削。内横撫。	
同図2 写194	土師器 甕	住154床5・10他	口径(21.2)。 上半部1/2。	鉱物少、軟、酸化。橙7.5YR6/8。	器面消耗大。外横撫・斜角条単位の荒撫。内横撫・工具撫・撫。	
同図3 写194	土師器 甕	住154カ 埋下・Bトレ	胴部片。	鉱物少、並、酸化被熱弱爆。橙7.5YR6/6。	割口削耗少。外ヤサラ状荒削・工具撫。内撫。	
同図4 写194	土師器 器台	住154堀埋	坏部1/3。	鉱物少、軟、酸化。明赤褐5YR5/8。	割口消耗大。外内磨耗。	
同図5 写真なし	鉄製 不明	住154ヒトレ	長4.0＋α。	上下は調査時欠損。	割口に芯まで鉄質がおよんでいるように見えず、全体が早くから錆ぶくれか。断面左側部が灰部状に炭る。	利器刃器か。
第433図1 写194	須恵器 皿	住155カ底13	口径(12.6)。 1/3。	鉱物少・軽質、軟、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗大。外回転回転櫛雑目。底糸切痕潜耗。	片岩粒。吉井。
同図2 写194	須恵器 坏	住155カ堀埋12・17他	口径(13.8)。 口1/3。	鉱物少、硬、還元。灰白5Y7/1。	割口消耗。外内右回転櫛雑目。内磨耗気味。	やや重いが非陶土質か。
同図3 写194	須恵器 羽釜	住155床6	口径(20.8)。 口径部片。	鉱物含、硬、酸化。鈍黄橙7/4。	割口消耗少。外右回転櫛雑目。内左回転櫛雑目。被熱煤見えず。	吉井・脇音山。
同図4 写194	須恵器 羽釜	住155床5	口径(21.8)。 口1/4。	鉱物少、硬、還元。弱酸化。鈍黄橙10YR7/3。	割口消耗少。外内右回転櫛雑目。内接合痕。被熱煤不明瞭。	吉井・脇音山。
同図5 写194	須恵器 羽釜か	住155床10	胴部片。	鉱物含、硬、酸化。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外内櫛雑目あり。被熱煤不明。	吉井。
同図6 写194	土製 羽口	住155堀埋	径約7.0。長9.2＋α。	鉱物少・軽質、軟、酸化被熱色変。灰白7.5YR8/2。	割口消耗少。外先端に砒化発泡。端オリーブ7.5Y4/3。接合痕。	付着滓は銅か。穴に棒状圧痕か
第435図1 写194	土師器 高坏	住156床3・4他	口径(20.6)。 3/5。	鉱物含、硬、酸化。橙5YR6/6。	割口消耗あり。器面消耗微。外研磨・工具撫。内13＋α横目・荒削。	逃内形1段3方向、3穴残存。
第438図1 写194	須恵器 坏	住157床 2-13	口径(12.2)。 1/3。	鉱物少・軽質、並、酸化爆灰褐7.5YR5/2。	割口消耗少。外内右回転櫛雑目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図2 写194	須恵器 椀	住157埋下4他	口径(13.8)。 1/3。	鉱物少・軽質、硬、弱酸化爆。鈍黄褐10YR5/3。	割口消耗少。外内右回転櫛雑目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図3 写194	須恵器 椀	住157埋下3	口径14.0。 4/5。	鉱物少・軽、軟、弱酸化黒爆斑。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外右回転櫛雑目。内渦巻目(粘土剥落後か)。	底切離し不明。
同図4 写194	須恵器 椀	住157床2	台端径6.6。 2/5。	鉱物少・雲母粒、並、弱酸爆。鈍黄橙10YR6/4。	割口消耗。外内右回転櫛雑目。底面糸切痕。	吉井・藤岡。
同図5 写194	須恵器 坏・椀か	住157堀埋・CD土層	口縁部片。	鉱物含・軽、軟、還元爆。灰5Y5/1。	割口器面消耗大。外横撫目。内回転撫。	10C後半。非陶土質。
同図6 写194	須恵器 羽釜	住157埋1・B土層	口径(21.0)。 口縁部片。	鉱物含、硬、弱酸化～弱還元。鈍黄2.5Y6/4。	割口消耗少。外内右回転櫛雑目・接合痕あり。	吉井。
第440図1 写194	土師器 甕	住120カ 埋・A堀他	胴部片。	鉱物少、硬、酸化。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外荒削。内工具撫・接合痕。	非陶土質。
同図2 写194	須恵器 椀	住158カ上	口径(12.2)。 1/4。	鉱物少、軽質、軟、還元内黒斑。灰白5Y8/1。	割口消耗。外右回転櫛雑目。内回転撫、黒斑は重焼か。	非陶土質。
同図3 写194	須恵器 椀	住120上2	台端径(6.0)。 底付近2/3。	鉱物少、軽、軟、還元内爆。灰白5Y7/2。	割口消耗。外右回転櫛雑目。内回転撫。底糸切痕。	非陶土質。
同図4 写194	須恵器 瓶か	住158カ上	胴部片。	鉱物少、軽質、軟、還元。灰オリーブ5Y2/5。	割口消耗少。外回転撫。内面の大半はハゼ剥落。	非陶土質。
同図5 写194	須恵器 甕	住158カ上	胴部片。	鉱物少、硬、還元。灰N4/。	割口消耗少。外内回転右櫛雑条痕。内接合痕。頸部接合痕。	鍛音山。
第442図1 写194	須恵器 椀	住159床1	口径12.6。 完存。	鉱物少、軽質、軟、弱酸化爆成色変。鈍黄橙7/3。	口縁摩耗微。内外櫛雑目。底櫛雑右回転糸切痕、高台抉くびれ。	非陶土質。内面工具撫痕。
同図2 写194	須恵器 椀	住159床5	口径(12.6)。 2/3。	鉱物少、硬、還元黒色爆。黒10YR2/1。	割口消耗少。外内右回転櫛雑目。底右回転糸切痕。	吉井・脇音山。
同図3 写194	須恵器 椀	住159床7	底部径(7.6)。 2/3。	鉱物含、軟、酸化爆斑。鈍橙7.5YR6/4。	割口消耗少。外工具回転撫、内回転撫。底使用時高台剥落・櫛雑目。	吉井か。右回転。
同図4 写194	須恵器 甕	住159床2	胴部片。	鉱物少、硬、還元弱爆。灰N6/。	割口消耗少。外浅い平行叩。内同心円と掌文当目併用、掌痕にあらず	脇音山。
同図5 写194	灰釉陶器 椀	住159床3	口径約(14.8)。 口縁部片。	鉱物微、緻。弱還元。灰白5Y1/8。	割口消耗微。外内灰釉、櫛雑目。釉表面摩耗のため釉気泡破れる。	東海。
第444図1 写195	土師器 甕	住160貯 埋23、堀堀他	口径(19.0)。 上半2/5。	鉱物少、硬、酸化被熱爆。鈍赤褐5YR5/4。	割口消耗少。外沈線、横撫、絞目、接合痕、削、横撫、工具撫。	

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
同図２ 写195	土師器 壁大形	住160床24	口径(22.8)。 上半1/5。	鉱物少、硬、酸化。鈍褐7.5YR5/4。	割口消耗少。外沈線・横撫、撫開。内横撫、接合面、工具撫。	成形時凹みあり。
同図３ 写195	須恵器 皿	住160床12・A 埋地	口径(13.2)。 3/5。	鉱物少、軟質、硬。灰白7.5Y7/2。	割口消耗少。外内輪轆目。底右回転糸切離。	片岩粒、非陶土質。吉井。
同図４ 写195	須恵器 椀	住160床35	口径(11.8)。 2/5。	鉱物含、軟質、軟、弱酸化。浅黄橙10YR8/3。	割口消耗。外内右回転轆轤目。底糸切離し不明。	非陶土質。
同図５ 写195	須恵器 椀	住160埋４	口径(13.0)。 2/3。	鉱物少、硬、弱還元重焼燻。浅黄2.5Y7/3。	割口消耗。高台剥落後の使用不明。外内右回転轆轤目。底右回転糸切。	瓦質山。
同図６ 写195	須恵器 羽釜	住160埋下５	口径(23.0)。 口縁部片。	鉱物少、並、酸化。橙7.5YR6/6。	割口消耗少。外横撫、右回転轆轤目。内輪轆目、横撫、接合面。	吉井、瓦質山。
同図７ 写195	須恵器 羽釜か甑	住160床46	口径(26.6)。 口1/4。	鉱物少、並、酸化。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外内輪轆目、横撫。内接合面。	瓦質山。
同図８ 写195	須恵器 釜か鍋	住160埋 38、39、41焦	底径(12.4)。 底部付近2/5。	鉱物少、並、酸化。鈍赤褐5YR4/4。	割口消耗少。外被熱剥落、脆弱。内右回転轆轤目。	吉井。
同図９ 写195	須恵器 甕	住160床33	口端径(23.0)。 台部1/3。	鉱物少、並、弱還元。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗少。外内右回転轆轤目。内撫保持凹み箆刷突、接合痕。	吉井、瓦質山。砥沢石。
第445図10 写195	石製 砥石	住160埋９	長15.3、 536g。完存。	小穴は旧掘。使用は表、裏、両側部。岡小口と裏面の一部に原扶面を残し、岡小口は浅く成形痕。手持、置砥、中砥級。	割口消耗少。外内輪轆目。内面接合痕。破片別二次被熱色淀。割口消耗少。	泥岩質。砥沢石。
同図11 写195	石製 砥石	住160埋	長15.9、 1670g	前小口は旧掘。使用は表、裏全面８～９面棒状の砥面。奥小口は旧扶面。表上部に刃傷。置砥。荒砥級。	内外口縁部付近施熱。割口消耗少。外面轆轤目。内外口縁部付近施熱。割口消耗少。	多孔質安山岩。粗粒安山岩。
第447図１ 写195	須恵器 ？	住161床４ ？	口径11.9 小欠。	白鉱物含、硬、還元強燻。灰黄褐4/2。	器面割口消耗強。内外面轆轤目あり。底右回転糸切痕。高台貼付。	吉井か。
同図２ 写195	須恵器 椀	住161埋１	口径(13.6) 1/5。	白鉱物含、硬、還元。灰5Y6/1。	内外面轆轤目。内面重焼高台底。高台貼付。割口消耗少。	瓦質山か。
同図３ 写195	須恵器 甕	住161床２、21	頸部径(8.2)。 頸部片。	鉱物少、軟質、並、還元被熱色変。灰黄2.5Y7/2。	内外面轆轤目。内面接合痕。破片別二次被熱色淀。割口消耗少。	多孔質安山岩。粗粒安山岩。
同図４ 写195	灰釉陶器 皿台付	住161床３	口径(12.8) 1/4。	鉱物無、硬、還元。灰白10YR7/1。	内外口縁部付近施熱。外面轆轤目と回転箆削。高台。割口消耗強。	釉上使用擦痕あり。東海。
第450図１ 写195	須恵器 坏か椀	住163埋	口縁部片	鉱物微、軟質、硬。鈍黄化被熱色変。鈍橙5YR6/4。	割口消耗あり。内外面轆轤目。二次被熱吸炭あり。	非陶土質。
同図２ 写195	須恵器 坏か椀	住163埋	口縁部片	鉱物微、軟質、硬、酸化被熱色変。鈍5YR7/4。	割口消耗少。外面轆轤目。二次被熱色変の吸炭あり。	非陶土質。
同図３ 写195	土師器 甕	住163埋	口縁部片	鉱物少、シルト質、並、酸化。鈍橙5YR6/4。	内外面燻焦。外面、割口接合痕。割口消耗あり。	雲母粒入る。藤岡。
同図４ 写195	土師器 甕	住163埋	胴部片。	鉱物少、硬、酸化。明赤褐5YR5/6。	割口消耗強。外面箆刷。内面燃焦。接合痕。	右回転。
第454図１ 写195	土師器 台付甕	住166埋	口径(16.4) 口縁部片。	鉱物少、硬、弱酸化強。鈍黄橙10YR6/3。	割口消耗少。外横撫、12＋α条刷毛目。内横撫。	右回転。
同図２ 写195	土師器 台付甕	住166埋１	台端径8.0 台部2/3。	鉱物少、硬、弱酸化被熱色変。鈍黄橙10YR7/4。	割口消耗。外15＋α条刷毛目。内砂痕、指撫、指圧痕。	非陶土質。
第456図１ 写195	土師器 甕	住167床２	口径(17.8)。	鉱物少・硬・酸化弱燻焦。褐7.5Y4/4。	割口消耗少。外横撫・指圧痕・箆削。内横撫・接合痕・工具撫。	非陶土質。
同図２ 写195	須恵器 坏	住167ヵ床１・埋	口径12.4。 2/3。	鉱物少・軟質・硬・還元被熱色変。鈍橙7.5YR7/4。	割口器面消耗大。外内輪轆目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図３ 写196	須恵器 坏	住167ヵ床４	口径12.6。 近完存。	雲母・片岩粒・軟・還元黒燻。灰白５Y7/2。	器面消耗。外内輪轆目。底右回転糸切痕。	吉井・藤岡。須大。
同図４ 写196	須恵器 椀	住167ヵ埋４	口径(13.4)。 1/2。	鉱物少・軟質・硬・還元。灰白2.5Y7/1。	割口消耗少。外内左回転轆轤目。底竹管刺突１単位あり。	左回転希少。非陶土質。
同図５ 写196	須恵器 椀	住167ヵ袖芯７	口径(15.0)。 1/2。	鉱物少・珪質・軟・還元被熱色変。鈍黄2.5Y6/3。	割口消耗。外内輪轆目。底右回転糸切痕。	非陶土質。
同図６ 写196	須恵器 椀か	住167掘埋７	台端径7.2。 底部片。	鉱物少・軟質・硬・中性。浅黄橙10YR8/3。	割口消耗大。外内右回転椀。底糸切後貼付高台。	10末～11C初。非陶土質。
同図７ 写196	土製 羽口	住167上層	長11.0。 径7.4。	鉱物少・軟・弱酸化。浅黄橙10YR8/3。	割口消耗少。外延化・還元・弱酸化・還元。図上延化端は最終面。	孔直線的。スサ不明瞭。
第458図１ 写196	須恵器 椀	住168A埋	台 端 径(16.0) 底1/3。	鉱物少・軟質・硬・還元黒燻。黒褐2.5Y3/1。	割口消耗。外内輪轆目。回転箆。底糸切痕。貼付高台。	非陶土質。
第461図１ 写196	土師器 高坏	住169床	口径9.6。 完存。	鉱物少・硬・酸化。橙2.5YR6/6。	器面消耗少。外横撫・研磨・最撫後研磨。内研磨・ハゼ・紋目・撫。	脚端・坏部底ハゼ。
同図２ 写196	土師器 器台	住169	脚112底５	脚端径13.8。 完存。	鉱物少・硬・酸化小黒斑。橙５YR6/6。	器面消耗強。外横撫・研磨。内研磨・横撫・接合痕・撫開。

図番号 写真番号	種別 器種	出土位置	量目（cm） 残存状態	胎土・焼成・色調	摘　　要	備　考
図版3 写196	土師器 甕	住169(調112 底4)	口径17.8。 小欠あり。	鉱物少・硬・弱酸化被熱燻色変。橙7.5YR6/6。	割口小消耗。外面横撫・工具撫・紋目。内横撫・工具撫・回傷。	
図版4 写196	土師器 甕	住169床	口径14.0。 4/5。	鉱物少・硬・酸化小黒斑。鈍赤褐5 Y5/4。	割口消耗少。口縁部荒削。外撫削・工具撫・篦削。内10＋α条櫛目。	底焼成前穿孔1。
図版8 写196	土師器 台付甕	住169床9他	口径10.6。 3/4。	鉱物少・並・弱酸被熱色変。鈍橙 5 YR6/4。	被熱消耗大。外横撫・刷毛目。内面横撫・接合痕・砂付着・指圧痕。	内面底内外砂混はゴ砂多い粘土。
図版9 写196	土師器 台付甕	住169床10・11他	口径(12.2)。 3/5。	鉱物少・硬・弱酸化被熱赤色。赤褐2.5YR5/6。	器面消耗。外面横撫・刷毛目。内面横撫・工具撫。底内外砂付着。	実測図刷毛目やや不正確。
図版10 写196	土師器 台付甕	調112底3	口径11.8。 口縁1/3欠。	鉱物少・硬・弱酸化・外面燻吸炭。浅黄橙10YR8/4。	口縁内外横撫。外面11＋α条刷毛目・被熱吸炭。内面指撫・撫。	底内外砂付着。
第462図5 写196	土師器 甕	住169床2・埋土	径(13.6)。 1/3。	鉱物含。軟・弱酸化弱燻。鈍黄橙10YR6/3。	割口器面消耗大。外面横撫・工具撫・回傷。内面横撫・撫。	
図版6 写196	土師器 壺	住169床12B埋	最大径22.2。 胴部3/4。	鉱物少・並酸化下半被熱弱燻。橙 5 YR6/6。	割口器面消耗。外面無撫・ハゲ・胡麻。内面工具撫・刷毛撫。	下半被熱小黒斑・燻あり。
図版7 写196	土師器 大壺	住169床64・12他	口径18.7。 小損あり。	鉱物含・硬・酸化小黒斑。橙 5 YR6/6。	器面消耗・口縁目潰・ハゲ剥落。外面研磨。内面研磨・接合痕。	底面板状圧痕。
第463図11 写197	土師器 台付甕	調112底8・9・埋	径12.4。 胴部に小欠。	鉱物含・並・酸化被熱色変焦。鈍橙2.5YR6/4。	割口消耗微。器面消耗少。外横撫・14＋α条櫛目。内撫・指圧痕。	底内外砂付着見えず。
図版12 写197	土師器 台付甕	住169床11・B埋	口径13.0。 2/3。	鉱物少・硬・弱酸化被熱色変吸炭。鈍褐7.5YR5/3。	割口消耗少。外横撫・刷毛目。内横撫・指圧痕・接合痕。	被熱色変と吸炭。底砂粘付着。
第465図1 写197	土師器 甕	住171埋19・D上層	口径(19.6)。 口～胴部片	鉱物少・硬・酸化。鈍赤褐 5 YR5/4。	割口消耗少。外横撫・接合痕。篦削。内横撫・接合痕・工具撫。	
図版2 写197	須恵器 坏	住171床15	口径12.2。 小欠あり。	鉱物少・軽質・軟・酸化。鈍黄橙10YR7/2。	割口消耗少。外内右回転櫛目。底損じキガ・ボジ糸切と糸切痕。	非陶土質。
図版3 写197	須恵器 坏	住171床1・埋40	口径(11.8)。 1/2。	鉱物少・軽質・軟・弱還元。灰 5 Y6/1。	割口消耗少。外内右回転櫛目。底糸切痕。	非陶土質。
図版4 写197	須恵器 坏片口か	住171カ 底28・29	口径(11.8)。 3/5。	鉱物少・並・弾酸化。橙 5 YR6/6。	割口器面消耗少。外横撫・櫛目目。内右回転櫛目・指圧痕・糸切。	土師器製作技法加わる。
図版5 写197	須恵器 坏	住171床8	口径12.0。 完存。	鉱物少・軽質・軟・弱酸化。被熱色変。鈍黄橙10YR7/2。	器面消耗大。外内右回転櫛目。底糸切痕。口２カ所に凹みあり。	２カ所凹により歪。非陶土質。
図版6 写197	須恵器 坏	住171カ底32	口径(13.0)。 3/5。	鉱物少・軽質・軟・弱還元。黒斑。灰黄2.5Y7/2。	割口器面消耗。外内凹凸少ない。底右回転糸切痕。	非陶土質。
図版7 写197	須恵器 椀片口か	住171床23	口径13.2。 小欠あり。	鉱物少・軽質・軟・弱酸化。黒斑。灰黄2.5Y7/2。	割口消耗微。外内面右回転櫛目目。内面工具撫。底糸切痕。	片口は棒状工具おさえ。被熱。
図版8 写197	須恵器 椀	住171埋4	口径11.8。 完存。	鉱物少・硬・弱還元。灰黄2.5Y7/2。	器面消耗微。外内右回転櫛目目。底右回転糸切痕。	糊音山。
図版9 写197	須恵器 椀	住171埋41	口径(11.0)3/5。	鉱物少・軽質・軟・弱還元。黒斑。灰黄2.5Y7/2。	器面消耗。外内右回転櫛目目。内右回転撫。底糸切痕。	非陶土質。
図版10 写197	須恵器 羽釜	住171埋3・床10他	口径(20.2)。	鉱物少・軽質・軟・弱酸化。鈍橙7.5YR7/4。	器面消耗。外右回転櫛目目・接合痕・篦削。内右回転櫛目・接合。	縦音山。
図版11 写197	灰釉陶器 坏小形	住171埋42	口径(11.6)。 1/2。	鉱物微・緻・還元。灰白10YR7/1。	割口消耗少。外右回転篦削。内外浸漬を含む施釉２回。底回転撫。	東海。釉上面擦痕あり。
図版12 写197	灰釉陶器 椀	住171床1	台陶径(8.0)。 底1/2。	鉱物微・緻・還元。灰白 3 Y7/1。	割口消耗少。外右回転篦削。内回転撫・磨耗。底右回転撫。釉部欠。	東海。
第467図1 写197	土師器 壺	住172カ 袖67・60他	口径(20.0)。	鉱物含・硬・酸化。橙 5 YR6/6。	口縁内外横撫。外面指圧痕・横撫・篦削。内面篦撫・撫。	外面部分吸炭斑。割口少消耗。
図版2 写197	土師器 壺	住172埋65他	口径(19.0)。 口縁1/3。	鉱物含・硬・酸化小吸炭斑。鈍橙2.5YR6/6。	口縁内外横撫。外面横撫・接合痕・篦削。内面横撫・接合痕・篦撫。	割口消耗少。
図版3 写197	土師器 壺	住172埋9他	口径(22.0)。 口縁1/3。	鉱物含・硬・酸化小弱燻。褐7.5YR4/4。	口縁内外横撫。外面横撫・篦削・指圧痕。内面接合痕・篦撫・撫。	破片別色差。割口少消耗。
図版4 写197	土師器 壺	住172カ上層・カ埋他	底径(4.2)。 1/5。	鉱物含・硬・酸化。褐7.5YR4/4。	外面篦削。内面篦撫・撫・接合痕。	底外面篦削・砂付着。消耗少。
図版5 写197	須恵器 坏	住172カ底57他	径11.8。 2/3。	鉱物微・軽質・軟・弱酸化弱燻。黄褐2.5Y5/3。	底面糸切方向不明瞭。内外面横撫。	非陶土質。
図版6 写197	須恵器 坏小椀	住172土 坑302埋他	径(14.4)。 1/4。	鉱物微・軽質・軟・還元。灰黄2.5Y6/2。	外面横撫目。割口・器面消耗あり。部分吸炭。	非陶土質。
図版7 写197	須恵器 坏片口付	住172埋下52他	口径(12.8)。 1/2。	鉱物少・並・酸化二次吸炭。鈍黄橙10YR6/3。	底面糸切方向不明瞭。内外面横撫目。割口消耗少。	縦音山か。
図版8 写197	須恵器 椀	住172カ袖上56・62他	口径(13.6)。 2/3。	鉱物含・並・酸化弱燻。鈍黄橙10YR6/3。	底面糸切方向不明瞭。内外面横撫目。割口消耗少。	古井・縦音山。